

ねんじりのまゝ合歡木。木の名。ねんじりにたなじ。①
 ねんじりめ目睡目。ねんじりなる目つき。②
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。③
 ねんじり目睡部屋。舌のまきにてたなじ。なめる。④
 ねんじり目睡部屋。俗に、ねんじり。眠りたるまき、俄かに起きて迷ふ。ねんじり。⑤
 ねんじり根堀葉堀。少しももらさずに。こころまかに。⑥
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑦
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑧
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑨
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑩
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑪
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑫
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑬
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑭
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑮
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑯
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑰
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑱
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑲
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑳

ねんじりがみ目睡。ねんじりがみにたなじ。①
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。②
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。③
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。④
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑤
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑥
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑦
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑧
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑨
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑩
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑪
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑫
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑬
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑭
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑮
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑯
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑰
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑱
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑲
 ねんじり目睡。ねんじりにたなじ。⑳

のねにた めてつちた そせすしき こけくきか たえういあ

ねんじり粘液。ねんじりける汁。①
 ねんじり年賀。年始の祝賀。新年の慶賀。賀正。②
 ねんじり年賀。せうかうにたなじ。③
 ねんじり年賀。年に名づくる稱號。昔は、日本、支那も帝王の即位、瑞瑞、災異等に會へる時、又は辛酉、甲子の年に至ればこれを改めしが、今上院下に至り我が國は、天皇一代に、一號を定めらる。④
 ねんじり年賀。一年の要事を記したる書。⑤
 ねんじり年賀。一としたて。年代。二としたて。ころ。とし。よはひ。年賀。⑥
 ねんじり年賀。叔婢、丁惟なごの、主人に召し使はるる約。⑦
 ねんじり年賀。ねんじりにたなじ。⑧
 ねんじり年賀。田島を振當りし、その一年の收穫を利として、或る年限の間、金を借ること。約束の年季に至れば、借したる金を返し、田島を請け戻すこと。徳川時代の語。⑨
 ねんじり年賀。一年の給料。⑩
 ねんじり年賀。叔婢、丁惟なごの、年季を定めて奉行すること。⑪
 ねんじり年賀。年季給はる恩給金。⑫
 ねんじり年賀。年賀本錢返。借金に、利子をつけて、返済すること。鎌倉時代の語。⑬
 ねんじり年賀。年賀の行事。年賀の役人。⑭
 ねんじり年賀。その生れたる年の内に死ぬる魚。二魚の名。あゆにたなじ。⑮

ねんじり年切。一年季の終ること。二としきりに同じ。①
 ねんじり年賀。毎年のみつきもの。②
 ねんじり年賀。年貢として上納する米。③
 ねんじり年賀。人の死にたる後、年年、回り来る、その年の忌日。年賀。④
 ねんじり年賀。とし。年賀。⑤
 ねんじり年賀。花を粘ること。⑥
 ねんじり年賀。歳暮の祝儀。⑦
 ねんじり年賀。としつき。歳月。⑧
 ねんじり年賀。ある定めたる年の間。⑨
 ねんじり年賀。一年來の骨折。多年の功績。二多年の要領。三しのころ。⑩
 ねんじり年賀。賛ある人。官員。役人。⑪
 ねんじり年賀。一ねんじりにたなじ。二私通せる男女の間。⑫
 ねんじり年賀。親切に思ふ。⑬
 ねんじり年賀。ねんじりにたなじ。⑭
 ねんじり年賀。正、五、九の三箇月に佛事を行ひ、齋戒。⑮
 ねんじり年賀。よはひ。とし。年賀。⑯
 ねんじり年賀。一としのはじめ。年頭。年甫。年初。年首。二ねんじりにたなじ。⑰
 ねんじり年賀。ねんじりにたなじ。⑱
 ねんじり年賀。深くたもひ入る。⑲

なをかわ ろれるりら よゆや もめんねみま ほへふひは

ねんき

ねんき 念者。一物事に、念を入るる人。よく注意する人。二心にかけて愛するもの。
ねんき 念者。男色にて、寵愛を得たるもの、年長けて、なほ、その人につき居るもの。徳川時代の大阪の語。
ねんき 念珠。のろふこと。
ねんき 念誦。念誦にたなじ。
ねんき 念誦。念誦に誦經。
ねんき 念誦。念誦に誦經。
ねんき 念誦。念誦に誦經。
ねんき 念誦。念誦に誦經。
ねんき 念誦。念誦に誦經。
ねんき 念誦。念誦に誦經。
ねんき 念誦。念誦に誦經。

ねんげん

ねんげん 年中。一年の間。圓 明けても暮れても。しじゅう。いづれ。
ねんげん 年中行事。一箇年の中に行ふべき事の定まりたる儀式。歳時。
ねんげん 粘土。ねはりけの強き赤土。
ねんげん 年度。その年の某月より、翌年の某月までの十二箇月を一年として、事業上の一くきりとすること。
ねんげん 念頭。心の上。おもひ。心頭。
ねんげん 無念。思の外に。意外に。足利時代の語。
ねんげん 念人。御弓場始の時。射手の世話をやくもの。
ねんげん 年預。一院の廳の次官。二執事に次ぎて、評定なるを勤むる武家の役。
ねんげん 一箇の年。ねんねにたなじ。見供の時。二赤子を背負ひて眠りつかしむること。
ねんげん 赤子を背負ふこと。上にはねるもの。
ねんげん 年。ねんねに。年。毎。毎年。
ねんげん 年配。そのころ。年か。年。年紀。年。
ねんげん 年報。一箇年の間のことからの報告。
ねんげん 年番。一年つづ代り合ひて、勤めにあつた。

ねんげん

ねんげん 年中。一年の間。圓 明けても暮れても。しじゅう。いづれ。

ねんげん 念時。疑をはらすこと。
ねんげん 年尾。歳のくれ。
ねんげん 年譜。一人代の履歴を、年月の順序に従ひて、表につづりたるもの。
ねんげん 年賦。借金などの全額を、若干に割りて、年毎に拂ふこと。
ねんげん 念佛。佛を念じ、六字の名號を誦すること。
ねんげん 念佛講。ねんぶつをする人さの講中。
ねんげん 念佛堂。寺院の中に、信者の、念佛を唱へて誦するたけ設けたること。
ねんげん 年分。一箇年だけの分。一年分。
ねんげん 年稔。聞き及ぶこと。
ねんげん 年表。ねんたいきにたなじ。
ねんげん 年暮。ねんまつにたなじ。
ねんげん 年甫。一歳のはじめ。
ねんげん 年俸。一箇年の給料。年給。
ねんげん 粘膜。身體の機體を、又は腹の内面にある、薄き皮。常に、粘液を分泌するもの。
ねんげん 年末。このすえ。くれ。歳暮。
ねんげん 年來。數年以來。としころ。
ねんげん 念力。一念込めたる力。思ひ込めたる力。
ねんげん 念慮。たもんばかり。たもひより。そんじよ。
ねんげん 年禮。年賀の禮。
ねんげん 年輪。よはひ。とし。としころ。年。年。

ねんげん 年歴。數年の來歴。
ねんげん 入念。俗に、ねんをいれる。深く注意す。
ねんげん 眠掛。俗に、ねめかける。にらみつくにたなじ。
ねんげん 眠付。俗に、ねめつける。にらみつくにたなじ。
ねんげん 練貫。生糸を練らし、練糸を替へして、つくれる織物。
ねんげん 根元。一根本も。ねきは。ねん。二事の基。
ねんげん 寝物語。夜寝ながら談し合ふこと。
ねんげん 寝聞。夜寝るために設けた部屋。ねま。
ねんげん 寝事。ねまにたなじ。
ねんげん 粘絹。打ち練りなして、やはらかにしたねん。
ねんげん 直安。直段の安きこと。さすね。廉價。
ねんげん 練りなして、織物を柔かにす。
ねんげん 寝易。俗に、ねやすい。腹心よ。よく眠。
ねんげん 根山。近きころにある山。
ねんげん 粘。ねはるにたなじ。
ねんげん 寝好。寝ねよきさまに。
ねんげん 子四。子の刻を、四つに分ちたる中の、第四にあたる時。

ねんげん 年中。一年の間。圓 明けても暮れても。しじゅう。いづれ。

のうらば 能催。人を親みて呼びかくる聲。
 のうらば 濃雲。あつき雲。密雲。
 のうらば 農家。ひなや。百姓家。田家。
 のうらば 農耕。田畠をたがへすこと。耕作。
 のうらば 農書。農のききを著したるもの。
 のうらば 農學。農業に関する學問。
 のうらば 農樂。能を演ずること。奏する音楽。
 のうらば 農具。農業に用いる道具。
 のうらば 農會。農事を獎勵するために立てたる協會。
 のうらば 農蹟。植物、たのしみからつづれ、
 のうらば 農濃。農家の師。師の師。二人を教化する。
 のうらば 農能。農事のひま。農事のであきたるべき。
 のうらば 農業。農民のなりはひ。百姓のしごと。耕作
 のうらば 農務。農事に用いる道具。
 のうらば 農會。農事を獎勵するために立てたる協會。
 のうらば 農蹟。植物、たのしみからつづれ、
 のうらば 農濃。農家の師。師の師。二人を教化する。
 のうらば 農能。農事のひま。農事のであきたるべき。
 のうらば 農業。農民のなりはひ。百姓のしごと。耕作
 のうらば 農務。農事に用いる道具。
 のうらば 農會。農事を獎勵するために立てたる協會。
 のうらば 農蹟。植物、たのしみからつづれ、
 のうらば 農濃。農家の師。師の師。二人を教化する。
 のうらば 農能。農事のひま。農事のであきたるべき。
 のうらば 農業。農民のなりはひ。百姓のしごと。耕作
 のうらば 農務。農事に用いる道具。

のうらば 農産。田畠に生じたるもの。たなつもの。
 のうらば 野牛。原野に放ちがひにせる牛。
 のうらば 能士。物事をよくする人。
 のうらば 農時。農民のしごと。耕作のわざ。農務。農務。
 のうらば 農事。農事に忙しきこと。
 のうらば 農能。効能のある事業。
 のうらば 農汁。うみしる。うみ。
 のうらば 能者。働きたる人。物をよくする人。◎
 のうらば 濃情。こまかなさげ。
 のうらば 農務省。農、工、商の事業、及
 のうらば 能書。手習のたくみなること。また、その人
 のうらば 紫威。木の名。のうぜんかつらに似た。◎
 のうらば 紫威。木の名。夏生にして、葉、對生
 のうらば 紫威。木の名。夏生にして、葉、對生
 のうらば 紫威。木の名。夏生にして、葉、對生
 のうらば 紫威。木の名。夏生にして、葉、對生
 のうらば 紫威。木の名。夏生にして、葉、對生
 のうらば 紫威。木の名。夏生にして、葉、對生
 のうらば 紫威。木の名。夏生にして、葉、對生
 のうらば 紫威。木の名。夏生にして、葉、對生
 のうらば 紫威。木の名。夏生にして、葉、對生
 のうらば 紫威。木の名。夏生にして、葉、對生
 のうらば 紫威。木の名。夏生にして、葉、對生
 のうらば 紫威。木の名。夏生にして、葉、對生
 のうらば 紫威。木の名。夏生にして、葉、對生
 のうらば 紫威。木の名。夏生にして、葉、對生

のうらば 能催。人を親みて呼びかくる聲。
 のうらば 濃雲。あつき雲。密雲。
 のうらば 農家。ひなや。百姓家。田家。
 のうらば 農耕。田畠をたがへすこと。耕作。
 のうらば 農書。農のききを著したるもの。
 のうらば 農學。農業に関する學問。
 のうらば 農樂。能を演ずること。奏する音楽。
 のうらば 農具。農業に用いる道具。
 のうらば 農會。農事を獎勵するために立てたる協會。
 のうらば 農蹟。植物、たのしみからつづれ、
 のうらば 農濃。農家の師。師の師。二人を教化する。
 のうらば 農能。農事のひま。農事のであきたるべき。
 のうらば 農業。農民のなりはひ。百姓のしごと。耕作
 のうらば 農務。農事に用いる道具。
 のうらば 農會。農事を獎勵するために立てたる協會。
 のうらば 農蹟。植物、たのしみからつづれ、
 のうらば 農濃。農家の師。師の師。二人を教化する。
 のうらば 農能。農事のひま。農事のであきたるべき。
 のうらば 農業。農民のなりはひ。百姓のしごと。耕作
 のうらば 農務。農事に用いる道具。
 のうらば 農會。農事を獎勵するために立てたる協會。
 のうらば 農蹟。植物、たのしみからつづれ、
 のうらば 農濃。農家の師。師の師。二人を教化する。
 のうらば 農能。農事のひま。農事のであきたるべき。
 のうらば 農業。農民のなりはひ。百姓のしごと。耕作
 のうらば 農務。農事に用いる道具。

のうらば 能催。人を親みて呼びかくる聲。
 のうらば 濃雲。あつき雲。密雲。
 のうらば 農家。ひなや。百姓家。田家。
 のうらば 農耕。田畠をたがへすこと。耕作。
 のうらば 農書。農のききを著したるもの。
 のうらば 農學。農業に関する學問。
 のうらば 農樂。能を演ずること。奏する音楽。
 のうらば 農具。農業に用いる道具。
 のうらば 農會。農事を獎勵するために立てたる協會。
 のうらば 農蹟。植物、たのしみからつづれ、
 のうらば 農濃。農家の師。師の師。二人を教化する。
 のうらば 農能。農事のひま。農事のであきたるべき。
 のうらば 農業。農民のなりはひ。百姓のしごと。耕作
 のうらば 農務。農事に用いる道具。
 のうらば 農會。農事を獎勵するために立てたる協會。
 のうらば 農蹟。植物、たのしみからつづれ、
 のうらば 農濃。農家の師。師の師。二人を教化する。
 のうらば 農能。農事のひま。農事のであきたるべき。
 のうらば 農業。農民のなりはひ。百姓のしごと。耕作
 のうらば 農務。農事に用いる道具。
 のうらば 農會。農事を獎勵するために立てたる協會。
 のうらば 農蹟。植物、たのしみからつづれ、
 のうらば 農濃。農家の師。師の師。二人を教化する。
 のうらば 農能。農事のひま。農事のであきたるべき。
 のうらば 農業。農民のなりはひ。百姓のしごと。耕作
 のうらば 農務。農事に用いる道具。
 のうらば 農會。農事を獎勵するために立てたる協會。
 のうらば 農蹟。植物、たのしみからつづれ、
 のうらば 農濃。農家の師。師の師。二人を教化する。
 のうらば 農能。農事のひま。農事のであきたるべき。
 のうらば 農業。農民のなりはひ。百姓のしごと。耕作
 のうらば 農務。農事に用いる道具。

のきりね 野付。軒のはし。のきは。
 のきりね 野狐。人なれぬ狐。
 のきりね 野並。かさなみ。比原。
 のきりね 野玉水。雨垂り異名。
 のきりね 野端。軒のはし。のきりね。
 のきりね 野羽撃。鷹が、主をはなれて、それゆ
 のきりね 野木偏。漢字の私、科、紗、秘などの字の左傍に
 のきりね 野目。雨、露、雪などの外面にあらず。
 のきりね 野行幸。鷹狩の行幸。
 のきりね 野退。しりぞく。さる。さく。こぼる。二血統
 のきりね 野除。俗に、のける。退かしむ。去らしむ。のそ
 のきりね 野草。野に生じた草。
 のきりね 野山。のやまにたなじ。夫木抄の
 のきりね 野退兜。兜をいたたかすに、頸元につりたる
 のきりね 野退頭。衣服の襟をは、頸元よりたしはなして

のきりね 野鶴頭。草の名。春の末、一椀に、一草を
 のきりね 野紅鳥。鳥の名。形、よしはらすすめに似て、
 のきりね 野拭。白路の、すすく染りたるもの。
 のきりね 野駒。のうまにたなじ。
 のきりね 野不残。のこりの弁使。のこんの雪。
 のきりね 野不残。のこりの。後に止まる。のこりたる物。
 のきりね 野多。俗に、のこりたは。残念なり。
 のきりね 野金。あまりたる金。
 のきりね 野枯。春きたる頃の、未だ潰れざるもの。
 のきりね 野無残。のこりにたなじ。のこる。
 のきりね 野残菊。重陽以後まで、咲き残るある菊。
 のきりね 野残年。豊後のよはひ。のこりのよはひ。
 のきりね 野残路。行き廻したる路。なほ行くべき路。
 のきりね 野残久。末、なほ久し。前途、なほ遠し。

のねにな きてつらた せせずしき こけくきか ねえういあ

のきりね 野退。しりぞく。さる。さく。こぼる。二血統
 のきりね 野除。俗に、のける。退かしむ。去らしむ。のそ
 のきりね 野草。野に生じた草。
 のきりね 野山。のやまにたなじ。夫木抄の
 のきりね 野退兜。兜をいたたかすに、頸元につりたる
 のきりね 野退頭。衣服の襟をは、頸元よりたしはなして

のきりね 野鶴頭。草の名。春の末、一椀に、一草を
 のきりね 野紅鳥。鳥の名。形、よしはらすすめに似て、
 のきりね 野拭。白路の、すすく染りたるもの。
 のきりね 野駒。のうまにたなじ。
 のきりね 野不残。のこりの弁使。のこんの雪。
 のきりね 野不残。のこりの。後に止まる。のこりたる物。
 のきりね 野多。俗に、のこりたは。残念なり。
 のきりね 野金。あまりたる金。
 のきりね 野枯。春きたる頃の、未だ潰れざるもの。
 のきりね 野無残。のこりにたなじ。のこる。
 のきりね 野残菊。重陽以後まで、咲き残るある菊。
 のきりね 野残年。豊後のよはひ。のこりのよはひ。
 のきりね 野残路。行き廻したる路。なほ行くべき路。
 のきりね 野残久。末、なほ久し。前途、なほ遠し。

のねにな きてつらた せせずしき こけくきか ねえういあ

のせう 野鴨。鳥の名。形、あなじに似たり。頭は、青く、また背は、暗、脚、共に淡黄色をなし、翅に赤き斑あり。

のせう 野猪。野の名。あしにたなじ。

のせう 野稻。草の名。稻の一類。をかほし、粒大きくして、その色潔白なるもの。

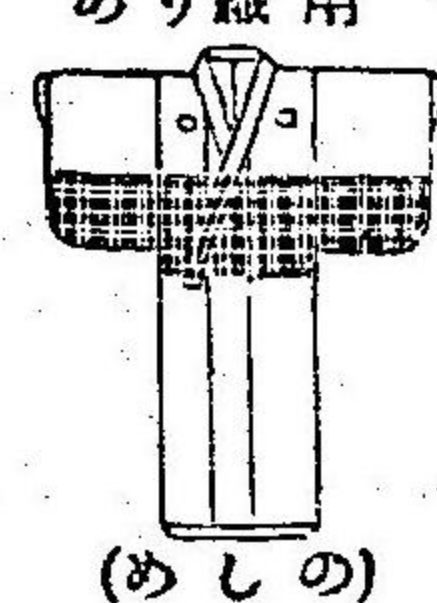
のせう 野餅。のしたるつはき。

のせう 野宿。野に宿るい。露臥。

のせう 野代塗。羽後國山本郡野代塗より製出する漆。漆の色淡くして、黄ばみあり。

のせう 野伸。のしたるつはき。

のせう 野載。俗にのせむ。一乗のし。二たます。た



(めし)

のせう 紫威。草の名。のうぜんかづらにたなじ。

のせう 野芥。野澤ならにたひいづる芥。二草の名。葉の形細長く、秋、莖の頭に、黄色の小さな花を咲く。根は、薬用とする。花胡。

のせう 野規。規、機關の響。

のせう 野不。さかづきをいふ。陸奥國の方言。

のせう 野規機關。眼の中の後面に、種種の畫をぶける板を重ねたきて、前面なる眼鏡より、人人に規かして、その板につなげる糸を引きて、畫々替へて見する、見世物のとき。からくり。

のせう 野規鼻。鼻の形、肉食鳥の嘴の如くして、孔の下方に向へるもの。陸奥。

のせう 野規眼鏡。のせうからくりにたなじ。

のせう 野規。一より下を見たり。二物かげより弱かに見る。うかがふ。三國語の語。わが石を、相手の石を、石との間より、その領分の内へ入りし。

のせう 野田。野の中にある田。

のせう 野太鼓。遊樂なるの一種への地の外にあるた

のせう 野宣。のたまふにたなじ。

のせう 野立。のたてにたなじ。

のせう 野太刀。野にいづる時に佩く、墨式の刀。

のせう 野立。伸びて、高くなる。成長す。そだつ。

のせう 野立。貴人なるの旅行するさま、野に、駕籠なる俵めて、小憩するい。

のせう 野宣。のたまはくにたなじ。

のせう 野宣。のたまふの能「のたまふやうは。

のせう 野宣。いひ給ふ。のりたまふ。語らせらる。

のせう 野鏡。矢竹のそりをためなほすい。

のせう 野鏡。のだめをなすに用ゐる具。

のせう 野鏡。はひまはる。あざりまはる。

のせう 野倒死。路傍ならに、行き倒れになりたるま

のせう 野倒死。路傍ならに、行き倒れになりたるま

のせう 野倒死。路傍ならに、行き倒れになりたるま

のせう 野倒死。路傍ならに、行き倒れになりたるま

をるわわ ろれるりら よゆや もめんむみま ほへふのは

のちのつきみ後月見。陰曆九月十三夜の月見。(八月十五日の対して)
 のちのもの 後物。のちさんに木なじ。
 のちのよ 後世。一後に来るべき年月。二死にたる後の世。三佛敎の語。死にて後、再び生れ出づる世。あひよ。
 のちのわざ 後業。入死にたる後に、法事を營むこと。
 のちびと 後人。後の世の人。
 のちほろ 後程。のちかた。のちの時。
 のちまき 後時。木をまきに木なじ。
 のちん 野陣。野原に陣を構ふこと。野宿の陣屋。露。
 のこかし 野草。野中にある。小高きところ。のなかのなか。
 のつかる 國國乗。のつかに木なじ。
 のつがる 國國乗切。のりきる。のりなく。
 のつむに 國 はじめに。最初に。
 のつむら 國 載。のつむらに木なじ。
 のつむす 國 乗越。のつむす。
 のつむつむ 國 縁海なるまにに木なじ。
 のつむつむ 國 野植蛇。虫の名。蛇の一種。頭、尾、ひらしてして、尾のさきま、常の蛇の如くがらす。
 のつむつむ 國 祝詞。のつむの音便。
 のつむつむ 國 節。英語 Knot、尺度を示すに用むる。わが國の十六町五十九間四尺一寸ほりにあたると。理。
 のつむつむ 國 野鳥。つむつむりに木なじ。

のつむら 國 則。のりきるの音便。
 のつむら 國 乘取。のりきるの音便。
 のつむら 國 引くことも、逃むことも出来ず。避くるをえず。
 のつむら 國 油揚。胡蘿蔔、大根、里芋などを切り交へ、汁に煮て、葛粉を、少し加へたる料理。
 のつむら 國 ひらたくして、長きまに木なじ。
 のつむら 國 身の丈の高きに過ぎたる人。
 のつむら 國 野面。一野のわもて。野のつら。二石を、山より切り出だしたまはの石工の呼。三踏しらぬ顔。あつかまじき顔。鐵面皮。
 のつむら 國 野鐵砲。うそ。うつはら。
 のつむら 國 野天。屋をこ。露天。
 のつむら 國 野寺。野中にある寺。
 のつむら 國 祝詞。のつむの音便。
 のつむら 國 咽喉。のつむに木なじ。
 のつむら 國 長閑。一天氣、ただやかに。空晴れて、しづかに。二心しづかに。ゆたりして。悠然然。
 のつむら 國 喉嚨。のつむ、くびのあたり。くびづら。
 のつむら 國 喉氣。喉の内側はれて、食物の、喉につかふるが如き心地のする病。喉痺。
 のつむら 國 長閑。のさかなり。ただやかなり。靜かな。
 のつむら 國 野床人。替人の異名。
 のつむら 國 のつむの音便。

のつむら 國 喉留。のつむに留めを刺すこと。
 のつむら 國 長閑。のつむに木なじ。
 のつむら 國 のつむに。修徳の。
 のつむら 國 懸蓮華。喉の上方より垂れてある、鍾形の花。
 のつむら 國 喉吭。のつむの音便。
 のつむら 國 喉佛。喉の中間に、長肉の、凸く差し出でたるもの。
 のつむら 國 喉骨。のつむに木なじ。
 のつむら 國 和。のつむに木なじ。① 源氏物語。② 和。わが音便。
 のつむら 國 和。のつむに木なじ。① のつむら。② のつむら。
 のつむら 國 長閑。のつむに木なじ。
 のつむら 國 長閑。のつむに木なじ。
 のつむら 國 野取駒。後より、始めて入来る駒。
 のつむら 國 則。のつむに木なじ。
 のつむら 國 長閑。のつむに木なじ。
 のつむら 國 延びて。つむらに木なじ。はつむらなく。つむら。
 のつむら 國 喉輪。瘰癧の具。瘰癧を、つむら、半月形にして、喉の邊につむら。

のつむら 國 野中。野のなか。のつむら。
 のつむら 國 野猫。山野にすむ猫。昔のより大なり。のつむら。



のつむら

のつむら 國 延。のつむらに木なじ。① 延。のつむらに木なじ。② 延。のつむらに木なじ。③ 延。のつむらに木なじ。④ 延。のつむらに木なじ。⑤ 延。のつむらに木なじ。⑥ 延。のつむらに木なじ。⑦ 延。のつむらに木なじ。⑧ 延。のつむらに木なじ。⑨ 延。のつむらに木なじ。⑩ 延。のつむらに木なじ。

のつむら 國 野原。樹木ななき原。平地。平原。郊原。のつむら。① のつむら。② のつむら。③ のつむら。④ のつむら。⑤ のつむら。⑥ のつむら。⑦ のつむら。⑧ のつむら。⑨ のつむら。⑩ のつむら。

のびのび野火。野火の火のやき。
のびのび野上。足を爪だて、背を高くのはすのしめがら。
のびのび野引。やむひきにたなじ。
のびのび野伸立。のびて、高くなる。成長す。
のびのび野悠悠。ゆるやかに。のうのう。
のびのび野悠悠。のびのびにたなじ。
のびのび野悠悠。のびのびにたなじ。
のびのび野藤。草の名。藤の一種。野生す。根に、白き珠あり。果熟たかし。春、酢物又は煮てして食ふ。口ひら。
のびのび野納。宿のきき、ついでに衣。
のびのび野延。長くなる。ながびく。高くなる。廣くなる。二多きかになる。國語。俗に、のびる。「前條の」にたなじ。「二」にひく。たすのび。國語。俗に、のびる。入のびにたなじ。
のびのび野風俗。野風なる姿。いやしき風俗。
のびのび野服。背割羽織を着、野袴をはきたること。昔、遠足、旅行などのとき、武士着用せり。
のびのび野伏。「山野に隠伏して、佛道を修行する人。やまびし。二野にひく。たなじ。
のびのび野武士。「主領なく。山野を横行して、盜をなす武士。のびせり。

のびのび野襖。小鳥の、胸を交へて、料理したる料理。
のびのび野伏。「のびしにたなじ。二やきだち。山賊。
のびのび野豚。豚の名。山野にすむ。猪の如く、牙あれ。二やきだちの豚。
のびのび野葡萄。草の名。えびづるの一種。葉の形、葡萄に似て、野は、秋熟す。色は、紫、紫、紅、白、緑など交りて美しければ、食ふにたなす。
のびのび野太。俗に、のびる。うぶにたなじ。
のびのび野柄製袋。のびにたなじ。
のびのび野風爐。野遊などの時、携帯に便利なるやうにつくりたる火爐。
のびのび野邊。「のびる。のびる。野。二野邊送の略。
のびのび野延。ひきのへて長くなすに、また、そのもの。
のびのび野邊送。はうせり。野送。
のびのび野伸金。「平たくのへへたたるかね。二かたにたなじ。
のびのび野延紙。杉原紙の小さきもの。
のびのび野伸棹。三味線の棹の、つなき棹ならぬもの。
のびのび野伸縮。のびる。しむる。かけひき。やうり。進退。
のびのび野たな。たまなじに。きりなく。のびに。
のびのび野延拂。日限をのへて、代價を仕拂ふこと。現金に仕拂はる。かき。
のびのび野上。「上の方へ行く。高き方へ進む。登。昇。二田舎より。郡へ行く。上京す。三源へさかのぼる。もたかへる。四血、腫入のぼる。逆上す。
のびのび野馬。動物。のうまの馬。
のびのび野豆。豆の名。山野に野生す。葉は、ふせまめに似て小さく、夏、藤紫色なる、穂状の花を明く。莢の長さ、四五分。實は、圓くして黒し。やぶまめ。鹿糞。
のびのび野眞麻。草の名。野生のからむし。
のびのび野鑿。材木に、穴を穿つため、大工の用ある道具。
のびのび野蚤。虫の名。夏の頃、濕地に生じ、人畜の肌にこりつき、血を吸ふ。體は、褐色にして、圓く平たし。六足ありて、飛びはる。こじ。極めて疾し。
のびのび野飲。飲みたる風味。くちあたり。二「に用る。三「みくち野飲口。物事の、これ限りにて、二「こなきを添す。みかひ野飲殘。飲みて、途中にやめたる残り。半は飲みて餘したるもの。
のびのび野飲樂。内用の略。内服藥。
のびのび野飲口。「飲みたる風味。(主)酒、煎草など(に)二「のびて。大酒家。
のびのび野呑口。樽に、穴を穿ちて、その穴にはめ、中の酒、醤油などを注ぎ出す木の筒。管口注。
のびのび野飲食。のむ。くふ。酒をのみ、飯をくふ。
のびのび野蟹食。蟹に刺されて、肌につきたる痕。「へす。
のびのび野野飲食。酒をのみ、飲をくふ。いんしよ

のねにな ごとつらた せせすしき こけくきか ねえういあ

のびのび野架。古、門口に架を立てかけてしもの。
のびのび野登。俗に、のぼせる。のぼらしむ。上へす。
のびのび野逆上。俗に、のぼせる。「逆、上」のぼる。二「登り上る。三「登り上る。
のびのび野逆上。「熱の、腫のぼる病。頭痛、腰痛、又は大便の秘結などを發す。上氣。二「腹心せる人。正氣ならぬ人。
のびのび野幟。旗の類。布の上を、横に、多くの乳をつけ、竿に通して立つるもの。多くは、幅狭く、丈長し。
のびのび野登。「のぼる。あがり。二上の方。かみ。三山路などの、上の方へ行く。のぼりみち。四田舎より。郡へ行く。上京。
のびのび野登口。あがりへんにたなじ。
のびのび野登坂。のぼりゆく坂路。
のびのび野幟色。「形幟を立てたるに似たるより名づく。漢字の略。二「たなじにたなじ。
のびのび野幟竿。のぼりを立つる竿。
のびのび野上羽。鳥の、空に飛びあがる時のさま。
のびのび野上船。上流にさかのぼる船。
のびのび野上魚梁。若鮎の、川に翻るを追ひ下し、梁に入れてするもの。
のびのび野上龍。龍の、空中へ上らんことをさまを遊ける状態。

のびのび野上。「上の方へ行く。高き方へ進む。登。昇。二田舎より。郡へ行く。上京す。三源へさかのぼる。もたかへる。四血、腫入のぼる。逆上す。
のびのび野馬。動物。のうまの馬。
のびのび野豆。豆の名。山野に野生す。葉は、ふせまめに似て小さく、夏、藤紫色なる、穂状の花を明く。莢の長さ、四五分。實は、圓くして黒し。やぶまめ。鹿糞。
のびのび野眞麻。草の名。野生のからむし。
のびのび野鑿。材木に、穴を穿つため、大工の用ある道具。
のびのび野蚤。虫の名。夏の頃、濕地に生じ、人畜の肌にこりつき、血を吸ふ。體は、褐色にして、圓く平たし。六足ありて、飛びはる。こじ。極めて疾し。
のびのび野飲。飲みたる風味。くちあたり。二「に用る。三「みくち野飲口。物事の、これ限りにて、二「こなきを添す。みかひ野飲殘。飲みて、途中にやめたる残り。半は飲みて餘したるもの。
のびのび野飲樂。内用の略。内服藥。
のびのび野飲口。「飲みたる風味。(主)酒、煎草など(に)二「のびて。大酒家。
のびのび野呑口。樽に、穴を穿ちて、その穴にはめ、中の酒、醤油などを注ぎ出す木の筒。管口注。
のびのび野飲食。のむ。くふ。酒をのみ、飯をくふ。
のびのび野蟹食。蟹に刺されて、肌につきたる痕。「へす。
のびのび野野飲食。酒をのみ、飲をくふ。いんしよ

をえあわ りれるり の よゆや めめんむみま ほ へふひは

のみこむ 國國呑込。一呑みて、喉へ下す。嘔ますして、喉へ通す。嘔下。二合舞す。了解す。●
のみさし 國飲殘。のみかけにたなじ。●
のみま 國飲師。のみてにたなじ。●
のみち 國野路。野なかにある路。路徑。一「いん」。●
のみつ 國飲競。酒量の名。又は飲酒の速速を競ふ。●
のみつす 國酒。一酒を飲みて、空しく、日をくらす。二飲酒のために、財産をなくす。●
のみて 國飲手。好みて、酒を飲む人。酒客。上戸。●
のみで 國。二多くして、長き間、飲むに足さじ。●
のみせ 國咽喉。一香門の替りんにたなじ。●
のみざり 國蛋取。蛋を捕ふる道具。又はその藥。●
のみざりす 國蛋取草。草の名。ありのたんにたなじ。●
のみざりま 國蛋取眼。蛋を捕ふる時の如く、眼を見張りて、さがし求むる。●
のみぬ 國飲拔。大酒する人をあざけりていふ。●
のみほす 國飲乾。少しも殘さず飲みはたす。●
のみまは 國飲廻。一つの杯に盛りたるものを、一口ずつ飲み、順次に、居並みたる人に廻り送ること。●
のみみつ 國飲水。のみものに用ゐる水。飲料水。●
のみもの 國飲物。のみもの。酒の類。●
のみれら 國飲料。一酒を香代價。二自用に供する酒。●
のみ國國 一嘔ますして、喉へ下す。口中に吸ひこむ。呑。二ないがしろにする。嘔る。●

のみ國國 請。ひたすらに希ふ。らるる。祈。●
のみこ 國蠶。虫の名。まぐひむむにたなじ。●
のみせ 國咽喉。のみさの轉。●
のみぢ 國。のみぢにたなじ。●
のみぢ 國。ある器の下に添へて發する器。越後國の方言。「うてのたし」●
のみぢ 國。虫の名。こすくすむむにたなじ。●
のみだれ 國泥醉漢。たほぎけのみ。よほらひ。●
のみたら 國飲太郎。のんだくれにたなじ。●
のみせ 國咽喉。口の奥の方より、食道につづける。●
のみせ 國。飲食物の胃へ下るくちまの。●
のみびり 國悠然。のびのびにたなじ。●
のみん 國飲兵衛。のんだくれをいふ。東北地方の方言。●
のみ船 國船。まじにたなじ。●
のみす 國國。のめらしむ。つきまはす。國國。動詞に添へて、體氣を強むるに用ゐる。●「打ちのめす」●
のみすり 國國國。のめりて、す入り陥る。●
のみめ 國國國。あつかましく。本めため。●
のみら 國。平面なること。模様なきこと。●
のみり 國。前のめりたる駒下駄。男子のはくもの。●

のねにな てつちた そせすしき こけくきか たえういあ

のみる 國國。前の方へたりにて倒る。●
のみせ 國野面。ののたもて。のはら。●
のみせに 國野狭。野も狭きまで。●
のもり 國野守。野を守る人。野の番人。●
のもりさ 國野守草。植物。萩の異名。●
のもりかみ 國野守鏡。野中のたまり水を、鏡に譬へていふ。●
のや 國野矢。遊獵に用ゐる矢。ししや。●
のやき 國野焼。春になりて、草を、よく生ぜしめんために、冬の間、野を焼くこと。●
のやま 國野山。のやま。●
のら 國野。のらにたなじ。●
のらぬ 國野犬。飼主のなき犬。●
のらかせ 國野風。のかぜにたなじ。●
のららもの 國懶惰者。なまけもの。●
のらら 國野聲。農夫の野にて發する如き大きな聲。●
のらぬ 國請駒。野の名。ひみすにたなじ。●
のらぬ 國野猫。飼主なき猫。ひらわ。●
のらぬ 國野豆。あんさうにたなじ。● 二そらめをいふ。尾張國の方言。●
のらもの 國懶惰者。のららものにたなじ。●
のらや 國野藪。野の草の生ひしげたること。●
のり 國海苔。水草の名。多くは、磯邊の石につきて住す。●

のり 國糊。米の粉、又は葛の粉なさを煮て、つくる。粘着力強し。●
のり 國血。ちしほ。ち。刀のりを拭ふ。●
のり 國則。一模範としてならふべきもの。二たまた。はつこ。法。儀式。典禮。教令。●
のり 國法。佛のみち。●
のり 國籠入。矢數を示すに用ゐる。● 日本紀「千のりのゆきをたひ」●
のり 國國 乗上。俗に、のりあげる。船を渡瀨にのす。乗りかへ。●
のり 國 乗合。一舟、車なかに、衆人と共に乗ること。同乗。二互に金を出し合ひて、物を買ふこと。●
のり 國 乗合船。衆人と共に乗る船。共同船。●
のり 國 乗合。こもに乗る。一つに乗る。●
のり 國 糊板。そくひを製するに用ゐる板。●
のり 國 乗入。馬に乗りて、物の中に攻め入ること。●
のり 國 國國。俗に、のりいれる。わが乗れる馬を進めて、中に入らしむ。●
のり 國 糊入。一糊を盛りて貯へたく器。糊斗。二すきはらみの一。種。判大きくして、のりけ多し。●
のり 國 乗打。馬車、又は駕籠なかに乗りたるまま、障かへかへりも障かへ通らすこと。●
のり 國 乗移。一よりかへて乗る。乗り替ふ。二障、死國なやが、人にたたる。●

ををわ られるり によや もめんむみま へ〜ふひは

のりあま 乗馬。乗用のために飼ひて置く馬。
 のりたり 乗下。のりこたたること。
 のりかか 乗掛。一乗りはじむ。まさに乗らんこと。二なしはじむ。のりかか。三物の上に乗るがら。
 のりかへ 乗替。俗に、のりかへる。乗りながら上る。
 のりかひ 乗掛。一驛の駄馬の荷を、二十貫目として、一人、それに乗りよ。二、
 のりかふ 乗替。俗に、のりかへる。のりかへて乗る。乗りうつる。
 のりか入 乗替。一乗りかふること。二乗りかふる料に備へた馬、また車。三武家にて、大将の乗替の馬を預かりて乗る人。
 のりき 乗氣。心のはづみに乗ること。
 のりまる 乗切。一乗りこぼす。乗りこむ。二馬を止めず乗り過ぐ。三騎りすすみて、事にあたる。爲しこぐ。
 のりみ 乗具。のりあふにたなじ。
 のりみ 乗組。船に乗り合ひたる人。
 のりみ 乗組。船に乗り合ふ。のりこむ。
 のりみ 乗越。一のりたるままたすきこく。二人より上にする。
 のりみ 宣言。たほす。いひつく。
 のりみ 宣言。いひ聞かせ給ふ御ことば。
 のりみ 乗込。一のりくむにたなじ。二のりこたたること。

のりこむ 乗越。俗に、のりこたたるのりこすにたなじ。
 のりこむ 乗尻。騎馬のこきの乗手をいふか。若開業「騎馬のりじりは、その身は殊にものいみをして」
 のりこむ 乗捨。俗に、のりこす。乗りおし物より下りて、その物を、その儘に棄てたく。
 のりこむ 乗初。新調の物に乗り、又は新年になりて、始めて乗ること。
 のりこむ 乗出。一乗りて出でかく。二先へ出づ。三「城の外に出づ」
 のりこむ 乗地。のりきにたなじ。
 のりこむ 乗地。糊の、強くひきてあること。
 のりこむ 乗附。俗に、のりつける。一馬に乗りて馳せ至る。二常に乗りて馴れる。
 のりこむ 乗付。常に乗り馴れたること、また、そのもの。
 のりこむ 乗手。一乗る人。二乗ることの巧みなる人。
 のりこむ 祝詞。のりこむ。神に告げ申す詞。
 のりこむ 乗則。のりこむ。模範なす。てはんにす。
 のりこむ 乗取。攻め入りて、敵の城、又は軍艦などを奪ひ取る。
 のりこむ 乗血。はかりを見よ。
 のりこむ 乗海。佛の遺の廣きを、海に響へていふ。
 のりこむ 乗法衣。法師の着る衣。
 のりこむ 乗法聲。經をよむ聲。
 のりこむ 乗法師。ほふしたなじ。

のねにた ことつちた せせすしき こけくきか ねえういあ

のりこむ 乗法皇。ほふわうにたなじ。
 のりこむ 乗式部省。しきぶしやうにたなじ。
 のりこむ 乗法燈。佛に供ふる燈火。
 のりこむ 乗佛道。ほこけの道。
 のりこむ 乗法廷。佛を拜むところ。佛教を説き聞かせるところ。
 のりこむ 乗糊刷毛。糊をぬるはけ。
 のりこむ 乗拍子。馬に乗る調子。
 のりこむ 乗海舌。海舌にて、煮飯、又は酢飯を巻きつつみて、輪切、又は筒切にしたるもの。
 のりこむ 乗廻。乗りながら、あちこちへ行き廻るもの。
 のりこむ 乗物。一人の歩むにかへて乗るもの。二特にかこにたなじ。
 のりこむ 乗賭物。勝負事の勝ちたる方へ與ふるもの。かけるもの。
 のりこむ 乗賭物。勝負事の勝ちたる方へ與ふるもの。かけるもの。
 のりこむ 乗賭物。表には賭子、裏には車を着けたる賭。古、正月十八日に、天皇、弓場殿に臨御せられて、左右の近衛、四府の舍人さむもの月射るを御覽せられたる事。
 のりこむ 乗宣。言葉にて告ぐ。いふ。語る。
 のりこむ 乗馬。ののしるにたなじ。
 のりこむ 乗。一上へのける。あがる。二書き載せらる。三機につける。乗す。四歌がる。たまさる。五短す。盛んになる。六「氣がのる」その事の骨向に加はる。

のりこむ 乗伸。せいびす。
 のりこむ 乗暖簾。のうれんの簾。
 のりこむ 乗暖簾師。善きものを見せかけて、悪きものを賣る、不正なる商人。みせかけたほじ。東京の語。
 のりこむ 乗暖簾。自家にて、本店の家號をしるすこと。許されたる支店。
 のりこむ 乗野。のりの野。
 のりこむ 乗遅。俗に、のりこむ。たくれがらなり。二にぶし。てぬるし。たろかなり。遅鈍なり。三色巻にたはれ易き性質なり。
 のりこむ 乗遅。にぶけなり。たろかめきたり。
 のりこむ 乗遅。一のうく。ゆるく。そろそろこ。二にぶく。たろかめきたり。
 のりこむ 乗呪。のろこむ。
 のりこむ 乗呪。のろひていふ言葉。
 のりこむ 乗呪。他に神を蒙らせんとて、神佛に祈る。
 のりこむ 乗野呂松。野呂松人形の器。
 のりこむ 乗野呂松。たるかなる人。氣轉の鈍き人。ぐつ。遅鈍。器。のりこむ 乗野呂松遣。くぐりまはしにたなじ。

ををわ ろれるりら よゆや もめんむみま ほへふひは

はらきん 肺氣腫。つりがねを伏せたる如き機械。呼吸を妨げて、中の空気を排出し、真空をつくるに用ゐる。

はらきん 榎氣井。石油を出だす井戸。「もの。」

はらきん 拜金。金ををのみ、上なきものにして、ほしがらう。吝嗇。

はらきん 拜吟。悲しく吟誦すること。

はらきん 齋菌。肉眠には見えぬほどの、極めて細微なる下等植物。病の原因なきもの。

はらきん 排菌衣。看護婦の、衣服の上に被ひ着る、白色のきもの。

はらきん 肺衝。肺に熱を發して痛む病。肺を穿つて、膿を出だす。

はらきん 悖逆。國法にさからひもつること。謀叛。

はらきん 賣却。うりかすこと。

はらきん 賣去。すてらるること。やむを得ず。

はらきん 配偶。一途に合はざること。二つたあひのめをいふ。

はらきん 配偶者。夫婦のうち、いづれか、一方の軍に服すること。まけりか。

はらきん 梅花。うりかすの一種。

はらきん 買貨。商ふべき品。うりかす。

はらきん 買禍。わざはひを被ること。

はらきん 併訴。たがひはなし。たがひはなし。書評。

はらきん 併潰。たがひはなし。

はらきん 併徇。あてなきなく、歩まばはるること。

はらきん 梅花腦。りうなうにたなじ。

はらきん 肺患。肺病にかかれるもの。

はらきん 拜觀。貴重物を見ること。

はらきん 神官。一世上の風説、評判なるを著せしむる。二つくりものがたり。小説。

はらきん 廢官。一廢絶したる官職。二官職を止むること。

はらきん 拜啓。謹みて申すこと。書状の書き始めに用ゐる語。

はらきん 背教。教法に背くこと。

はらきん 排撃。攻めてたしのこと。非難すること。

はらきん 梅月。陰曆四月の異稱。

はらきん 廢業。家業を止むること。

はらきん 佩劍。腰に帶ぶる劍。こしがたな。

はらきん 拜見。一禮みて見ること。二見せしむること。跡目をつぐ人なくして、一家を潰すこと。

はらきん 廢戸。家名廢絶。

はらきん 廢痼。かたは。

はらきん 廢錮。世に出ださずして、押し込め置くこと。

はらきん 背後。うしろ。あごの方。しりへ。

はらきん 廢興。すたるとたると。盛衰。興廢。

はらきん 賣國。自己の利益のために、國の利益をたぶらるること。

おのれに於て までつらた せせすしき こけくきか 本たういお

はらこのかは 敗鼓皮。敗れ大鼓の皮。益に立たぬ、又は全く用途なきもの。「まはすもの。」

はらこ 陀螺。はいの殻を獨樂の如く、紐をからけて遊ぶ。

はらこ 配劑。藥を調合すること。

はらこ 肺臟。五臟の一。肋骨の内部に圍まれ、左右に二箇づつありて、各、弾力性ある小葉の、無數に集合して成れるもの。

はらこ 配札。ふたはり。くはりふた。

はらこ 廢札。今は通用せぬ紙幣。

はらこ 煤山。石炭の出づる山。

はらこ 配祀。他の神と合せ祀ること。

はらこ 廢止。やむを得ずすること。見合せ。取消し。

はらこ 敗紙。すたれたる紙。用に立たぬ紙。

はらこ 神史。世間はなし。風説なるを著きたるもの。

はらこ 背子。古、婦人の着用したる短衣。からぎぬ。

はらこ 拜辭。一禮みて服をすることを。二禮みて辭退すること。

はらこ 廢寺。すたれたる寺。あきでら。

はらこ 倍徒。倍すること。倍加。

はらこ 貝子。貝の名。こやすがひにたなじ。

はらこ 拜式。禮拜のしかた。をかみかた。

はらこ 廢疾。かたは。不具。

はらこ 背進。あごじさり。退くこと。

はらこ 拜神。神を崇拜すること。

はらこ 廢人。不具にして、世に、用をなさぬ人。かたはもの。「講師。」

はらこ 併人。俳諧を作る人。俳諧に巧みなる人。俳諧の家臣。徳川時代に、諸侯の家來の稱。またもの。またげら。

はらこ 陪審。裁判の立ち合ひをするもの。二陪審官。裁判に立ち合ひをする判事。

はらこ 陪審官。裁判に立ち合ひをする判事。

はらこ 齒醫者。齒の病を療治する醫師。齒醫師。

はらこ 廢舍。あはち。くつたて。「野。」

はらこ 拜謝。禮みて、禮をいふこと。若しく、謝禮を述べること。

はらこ 賠償。失ひ、又は害ひたるものの代りを償ふこと。つぐなひ。

はらこ 杯酌。杯のやりとり。さかどり。酒宴。

はらこ 拜借。禮みて借り受くること。恩借。

はらこ 媒妁。なかたち。なかうち。

はらこ 胚珠。種子となるべき原體。雌蕊の子房の内部にありて、球形をなす。

はらこ 拜受。謹みて受け納むること。頂戴。

はらこ 拜誦。謹みて讀むこと。

はらこ 酌酒。酒の、未だ濾さざるもの。もろみぢり。

はらこ 陪從。二つし後。いひかへて出づるもの。陪從。二つし後。いひかへて出づるもの。

はらこ 輩出。廣き出づるもの。いひかへて出づるもの。

をるわわ るれるり ぶゆや もめんむみ ぼへふひは

はら

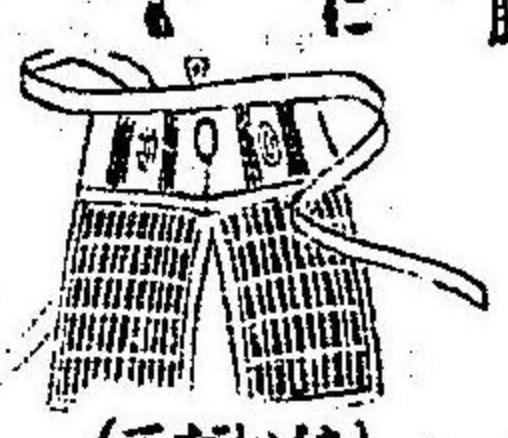
はら

はら 排出。推したすこと。
はら 配所。流罪の地。配所。
はら 煤助。なかだちをすること。シラも。
はら 拜助。了たすけをすること。
はら 拜誦。讀みて讀むこと。
はら 拜承。讀みてうけたはること。敬承。
はら 陪乘。貴人の馬車などに同乗すること。
はら 賣色。娼妓のわざ。色を賣ること。
はら 陪食。貴人の食事を相伴すること。
はら 陪殖。植物をつちかひふやすこと。
はら 陪廢。やむ。すつ。よしたす。取り消す。
はら 拜趨。つき従ふ。
はら 拜趨。まりのはら。奉仕すること。
はら 倍數。數の倍。甲の數が、乙の數を數除し
はら 倍數。倍數の倍。
はら 持墨。油煙を掃き落して取りたるもの。墨を
はら 排水。水を押し分け開くこと。水く。紙を
はら 字星。はきはきにわたぬ。
はら 排擠。たしのけわたすこと。
はら 陪星。えいせい(衛星)にわたぬ。
はら 排斥。一押し退くること。のく。二推

はら 敗績。軍に負くること。まけい。敗軍。
はら 陪席。貴人の席の傍にすわること。
はら 排池。體內より、體外にもどすこと。
はら 敗折。やぶれくじること。まけつ。敗折。
はら 廢絶。たやすこと。
はら 盃洗。杯を洗ふたりの水を盛る器。
はら 陪膳。膳部をくはること。
はら 陪膳。あきんさぶね。商人のもちよね。
はら 陪膳。天子に、供御を奉る時、さむらふ人。
はら 沛然。廣大なるさまにいらふ。二雨なるの
はら 敗訴。訴訟に負くること。
はら 敗走。軍に負けて逃ぐること。
はら 拜送。目上の人の歸り行くを見送ること。
はら 賣囑。金錢を出したることをいふ。
はら 配胎。一うむること。子をすくこと。
はら 廢頰。物のすたれたらふこと。
はら 拜戴。たしだたこと。
はら 廢刀。帶刀を止むること。
はら 配當。くはりあつること。わりわたす。わり

のねにな ことつちた そせしる こけくきか ちえうい

はら 佩刀。一腰に帶ぶる刀。二刀を佩ること。
はら 配當金。株式組織にて、株券の利益金を、
はら 配當するもの。
はら 鶴。鳥の名。はしたかの音聲。
はら 廢宅。荒れはてたる家宅。あはら。
はら 配誦。遠方の地へ追放すること。
はら 配達。一くはりまぐること。二配達人の琴。
はら 佩楯。腰より垂れて、腹、膝
はら 齒痛。齧齒、又は道土ならに
はら 廢炭。石炭の屑よりなるもの。
はら 煤炭。せきたん。
はら 俳談。たごしはなし、しやれなりの調。
はら 貝多羅。貝多羅葉の琴。
はら 貝多羅葉。印度の多種樹の葉。厚くし
はら 貝多羅。て。葉の如き光澤あり。印度にては、紙に代用し、針にて、
はら 配置。くまひら。てんはら。
はら 背馳。物事の、あひひらるるをいふこと。
はら 敗紐。腰に負くこと。敗紐の音。
はら 拜聽。讀みて聽すること。



はら 蠅帳。はらやらの帳。
はら 廢嫡。長子を、相続人せむこと。細無除き。
はら 賣女。色をひさぐ女。遊女。女歌。娼妓。
はら 廢帝。皇位を廢せられ給ふる天皇。
はら 拜呈。一讀みて、物を贈ること。進上。二
はら 廢朝。天皇の御機、又は故障なすのために朝
はら 敗兆。軍に負くる前兆。
はら 廢鳥。をどり。わたぬ。
はら 廢典。廢れたるたきて。
はら 拜殿。神社の前庭にして、拜禮を行ふこと。
はら 梅天。さみたれのそら。つゆのそら。
はら 賣店。一物をうるみせ。二賣りわたすみせ。
はら 煤田。石炭の出づる土場。
はら 單人。一はまの體。古、年毎に、廢廢、大樽より、
はら 單人。京部に來りて、常には、禁中の外門を守り、行幸の時、歩
はら 單人。行にて、先驅をつとも、大體の時、伏せ、後を勤めしもの。年
はら 單人。入司に屬す。はやび。二後世、廢廢武士の調。
はら 拜讀。讀みて讀むこと。讀讀。
はら 拜讀。讀讀に侍ること。讀讀。讀讀。
はら 毒。毒部の病。毒部。かさ。毒部。
はら 賣得金。賣り上げ高より、元金をひき去
はら 賣得金。りたる利分の金。

をえむわ るるり のや もめんむみま へふひは

はら

はら

はらひのつかき 留 隼人司。古、兵部省に属して、隼人の事を司りしもの。
 はらひの背囊。らんせせるにたなじ。
 はらひの拜納。一、謹みて受け納むること。恭し。受納すること。二、ほうふにたなじ。
 はらひの廢肉。くされたる肉。
 はらひの賣人。一、うりて。商賣人。二、物事に慣れ熟したる人。くろく。三、はいぢよにたなじ。
 はらひの賣買。うりかひ。しやうばい。あきなひ。
 はらひの敗報。戦にまけたるしらせ。
 はらひの敗亡。軍敗れて滅亡すること。
 はらひの廢藩。大名の藩屏を廢止すること。
 はらひの背叛。うらがへること。そむくこと。
 はらひの杯盤。さかづき。血鉢。
 はらひの拜披。謹みて開封すること。
 はらひの敗筆。毛の捺り切れたる筆。ちびよ。
 はらひの排擯。わししりぞくこと。たごのへんか。
 はらひの肺病。肺に起る病。
 はらひの肺腑。一、肺の腑。二、こころの底。
 はらひの配符。わりふにたなじ。
 はらひの配賦。わりつけ。わりわたし。
 はらひの拜舞。物を賜はりたるさきの悦びまひ。
 はらひの英題。E. P. E. 巻煙草をすし時に用ゐるすひくち。

はらひの唾壺。つはきを吐き入るための器。
 はらひの拜伏。ひれふすること。「しん」
 はらひの佩服。一身に佩ぶること。佩用。二、心服すること。やくに立たぬもの。すたれもの。
 はらひの敗聞。負け軍のしらせ。敗報。
 はらひの配分。ぶんばいにたなじ。
 はらひの敗兵。軍に負けたる兵。
 はらひの配兵。兵を、それぞれの方面へ配ること。
 はらひの敗北。戦に負けて逃ぐること。まけいくさ。
 はらひの賣下。手數料を受けて、身の上の吉凶なさをばいばいする賣下者。賣下をする人。「占ふこと」
 はらひの驛馬。はゆまの驛。
 はらひの倍増。數の二倍に増すること。
 はらひの驛路。はゆまぢの驛。一、から用ゐる名。
 はらひの併命。わが性命を記す時などに限りて、自らはらひの驛務。國勢の時などに、天皇の、廢朝し給ふのみならず、諸司も、すべて政務をせざること。
 はらひの拜命。官職に任ぜらるること。
 はらひの廢滅。すたり絶ゆること。
 はらひの拜面。はいがんにたなじ。「うしろ」
 はらひの背面。うしろむき。さび。二、うしろの方。

のねにな きてつちた そせすしき こけくきか ねえういあ

はらひの貝母。草の名。ははくりにたなじ。
 はらひの拜聞。謹みて聞くこと。
 はらひの培養。つちかひやしなごこと。
 はらひの賣藥。調劑したる藥を賣ること。
 はらひの佩用。たぶること。體につくこと。
 はらひの胎孕。肺に、腫物の發する病。
 はらひの胎孕。子をやすすること。はらひ。
 はらひの拜禮。はいれいにたなじ。
 はらひの蓓蕾。花のつぼみ。
 はらひの悖亂。國を亂すこと。謀叛を起すこと。
 はらひの拜覽。恭しく見ること。拜見。
 はらひの悖理。道理にそむけること。
 はらひの賣利。賣りあけの利分。まうけ。
 はらひの配流。島ながし。
 はらひの排律。詩の律體の一。五七言の對句を、六句以上、偶數に聯れたるもの。
 はらひの廢立。古きを廢して、新しきを立つこと。
 はらひの廢立。はいりつにたなじ。
 はらひの梅霖。つゆの雨。
 はらひの拜領。長上より物を賜はること。恩賜。
 はらひの配慮。心を配ること。こころづかひ。心配。
 はらひの配流。流罪に行ふこと。島ながし。遠島。
 はらひの團圓這入。いりこむ。はいいる。

はらひの齒入。下駄の齒を入れかふること。
 はらひの拜禮。頭を低れて、禮をすること。をかみ。
 はらひの悖戻。そむきもごること。たがふこと。
 はらひの陪練。ごもの人。ごもの。從者。從僕。
 はらひの排列。つらなること。ならぶこと。
 はらひの敗屋。荒れ果てたる家屋。あはらや。
 はらひの敗莖。莖を保護する機關として、生じた。一種の葉。
 はらひの方位。一、むき。かた。方位。方角。二、物を造り、又は事を行ふ仕方。てだて。三四角なる形。圓圖。平方形なる面の一邊の數を示すに用ゐる。「二はう四はう」
 はらひの報。一、前になせる事のむくい。應報。二、しらせ。通知。報知。報道。
 はらひの袍。昔、正禮束帯の時に用ゐたる上衣。
 はらひの砲。つつ。たはつつ。
 はらひの暴。らんばうにたなじ。
 はらひの坊。一、東宮坊の寮。二、東宮。皇太子。三、僧の居ること。俗房。四、單に、俗侶。はうす。五、平安の京の市の區劃の一。五十二戸を、一坊とせり。一見供を親みての稱。
 はらひの帽。かぶりのもの。
 はらひの房。一、へや。ねや。二、中間のたぐひ。
 はらひの望。一、もちつき。滿月。二、轉じて、陰曆にて、八月十五日の稱。
 はらひの亡。死にたること又その人。故。

をえわ るれるりら 上ゆや ちめんむみま へへふひは

はらあつ 芭鞋。わらんぢにたなじ。
 はらあつ 暴悪。手あらなること。無道。
 はらあつ 防遏。ふせぎをせむること。
 はらあつ 方案。たくらみ。しくみ。
 はらあつ 芳意。他人の好意。
 はらあつ 胞衣。えなにななじ。
 はらあつ 胞有。つつみもつこ。つつむこ。
 はらあつ 忘憂。うさをわするること。
 はらあつ 放逸。ほしいままなること。放佚。
 はらあつ 暴飲。度をすこして、酒を飲むこと。
 はらあつ 暴雨。あらあらしくふる雨。
 はらあつ 泡影。この世のはかなきことを、水の泡の、物の影に譬していふ。
 はらあつ 砲煙。砲撃する時に出づる火薬の煙。つつの「けぶり」
 はらあつ 報恩。恩を返すこと。恩返し。
 はらあつ 芳音。たより。
 はらあつ 放歌。大勢を發して、詩歌をうたふこと。
 はらあつ 放下。放下僧の号。一團團圓なげすてたく。
 はらあつ 萌芽。めざし。めばえ。「つちすてたく」
 はらあつ 寶蓋。てんがいにななじ。
 はらあつ 妨害。さまたげをなすこと。じやま。
 はらあつ 方解石。礫物。長石の一種、炭酸石灰の化合物したるもの。

はらあつ 方向。むき。めあて。目途。
 はらあつ 芳香。よきにほひ。かうほしさをり。
 はらあつ 暴行。手あらきたこと。亂暴なる暴行。
 はらあつ 方書。藥劑の、配劑方をしるしたるもの。
 はらあつ 方角。一東西南北のむき。日の出づる方を、東日の入る方を、西、東に向ひて、その右を、南、左を、北といふ。また、その四隅には、東南、西南、西北、東北の名あり。これに、十二支を配當すれば、北は子、東は卯、南は午、西は酉、東北は丑寅、東南は辰、西南は未申、西北は戌亥。二事をなさんとするあてを、手段。
 はらあつ 暴客。亂暴なる客人。
 はらあつ 放下師。はらあつにななじ。
 はらあつ 防鴨河使。古、霖雨なるにて、鴨河の洪水のとき、臨時に補せられたる官。
 はらあつ 放下僧。出家にて、歌ひ、舞ひ、さまざまのたはれたるもの。
 はらあつ 抱合。一だきあふこと。二依歸の語。ある異種類の物が、物質上の變化なくして、一つにならること。
 はらあつ 砲艦。敵門の大砲を備へて、陸地の砲艦を主とする、輕快なる軍艦。
 はらあつ 芳翰。他人の書狀の敬稱。貴給。芳箋。
 はらあつ 寶鑑。よきかがみ。貴きてほん。
 はらあつ 芳顔。うつくしきかほ。
 はらあつ 抱舍。ふくむこと。含蓋。抱括。
 はらあつ 砲眼。大砲を打ち出す口。

はらあつ 坊間。まちなか。市中。
 はらあつ 暴漢。あはれもの。亂暴人。
 はらあつ 暴悍。わるくたくまじき心。「暴、種種あり」
 はらあつ 邦畿。「はきの背便」原若を掃ふに用ゐる具。そのはらあつ 邦畿。天皇の直轄し給ふ地。御料地。
 はらあつ 寶器。貴き器物。
 はらあつ 芳紀。ごころ。まじ。
 はらあつ 放氣。さまざまにすること。さまかせ。
 はらあつ 抛棄。なげだすこと。放棄。
 はらあつ 方技。げいじゆつ。わざじゆつ。
 はらあつ 畫期。八九十歳になりたる時。たいはれむき。
 はらあつ 箒草。草の名。ははきぐさにななじ。
 はらあつ 箒鞘。毛皮にて造り、槍も箒の如きさまをなせる、刀の鞘。
 はらあつ 箒星。星の一種。その軌道は、他星と異なるが故に、常には見ゆることなく、時ありてあらはる。その状態種あれども、皆、箒の如し。彗星。
 はらあつ 包莖。露頭に、皮を被りて、明けぬ除草。かはかぢり。
 はらあつ 方形。建築の語。屋根の四方を、等分に割りて、下棟を、腰の四隅まで下げたるものは、はらあつ 方形。實行。



(うやぎうは)

はらあつ 抱莖葉。莖を巻きだきて生ずる葉。
 はらあつ 忘却。わするること。失念。
 はらあつ 暴虐。手ひやく、人を扱ふこと。
 はらあつ 鮑魚。ほしうを。ひもの。
 はらあつ 方魚。建築の語。はらあつにななじ。
 はらあつ 暴舉。不法なる振舞。暴行。
 はらあつ 防禦。ふせぎまゐること。
 はらあつ 寶玉。價貴き石。
 はらあつ 罔極。かぎりなきこと。
 はらあつ 暴君。暴虐なる君。無道の君。
 はらあつ 傍訓。漢文の傍に施せる訓點。ふりがな。
 はらあつ 亡君。世になききみ、先君。
 はらあつ 半靴。淺き靴。
 はらあつ 放火。火を放ちて、家などを焼くこと。つけひ。
 はらあつ 旁臥。ねころぶこと。よこたふこと。
 はらあつ 方外。「なみはつれ。輪外。二世間の外に身をたくこと。世外の身。三かごひのそと。外國」
 はらあつ 彷徨。ゆきまじりまじりすること。さまよふこと。徘徊。
 はらあつ 放曠。しまりのなきこと。ゆるはなじ。
 はらあつ 膀胱。腹中にありて、小便を流す臓器。
 はらあつ 包括。ひきくまらふこと。くわいり。

はろくわん

はろくわん 抱關 門を守る人。門番。
はろくわん 砲丸 大砲のたま。彈丸。
はろくわん 判官 一四部官の一。次官の次。主典の上
にあり。二檢非違使の尉。
はろくわん 傍官 同じ役所に勤むる人。同僚。傍警。
はろくわん 傍觀 傍より見て居ることをかめ。
はろくわん 坊官 一皇太子に奉仕する人。二僧して、
門跡の家司。法體にて帶刀す。
はろくわん 寶冠章 勲一等より五等まであり
て、婦人の功勞あるものに賜ふ勲章の一。
はろくわん 妨礙 さまたげ。じやま。はつがら。
はろくわん 方計 はうりやくにたなじ。
はろくわん 方形 相對する兩邊、兩角の相等しき四角形。
はろくわん 方珪 茶の異名。
はろくわん 旁系 系圖の分れす。
はろくわん 砲擊 大砲を撃ちかへることをいふ。
はろくわん 放下僧 はうかそうにたなじ。
はろくわん 放血 血を出だすこと。刺絡。
はろくわん 茅關 太上天皇を申す。
はろくわん 邦靈 國のたまて。國の靈法。
はろくわん 寶劍 貴き太刀。
はろくわん 放言 思ひのままなる事をいひ散らすこと。
はろくわん 方言 出放題なる物いひ。
その土地に限りて通用する語。くにな

はろくわん

はろくわん 冒險 成功の見込は確かならねども、萬一の
僥倖を得んがために、危険を冒して、事業を企つること。一六
「勝算」
はろくわん 妄言 みだりなる言詞。いづはりに。
はろくわん 謗言 他人の前にて、體よく應答すること。
はろくわん 母子草 草の名。はつじ。⑤
はろくわん 保護 災害を防ぎ守ること。ほご。
はろくわん 旁午 いりみだるること。よこたてにたなじ。
はろくわん 放語 きままなることば。
はろくわん 暴虎 ある虎。怒れる虎。
はろくわん 妄語 いづはりに。
はろくわん 砲工 鐵砲なをづくる工人。
はろくわん 傍卷 よこまぢ。こみぢ。
はろくわん 報告 告げ知らせること。報知。通知。
はろくわん 報國 國恩に報ゆること。
はろくわん 邦國 くに。國土。
はろくわん 亡國 亡びたる國。
はろくわん 母子草 草の名。はつじ。⑤
はろくわん 報強 果報よきもの。⑤
はろくわん 暴虎馮河 むかうみず。
はろくわん 方今 今のとき。現今。目下。當節。
はろくわん 暴根 根性の強しきこと。よこまぢ。

のねかにな じてつちた そせすしき こけくきか たえういあ

はろくわん 亡魂 一死人の靈魂。なきたま。二亡き人の
形。現に見ゆるやうに思はるるもの。幽魂。
はろくわん 病者 びやうじやの約。⑤
はろくわん 保善 ミリで。たいは。
はろくわん 報賽 禮まゐり。ぐわんぼさき。遠願。
はろくわん 泡劑 ふりだしぐすりにたなじ。
はろくわん 方劑 一合せ薬。二藥の調合。藥方。處方。
はろくわん 亡妻 死にたる妻。
はろくわん 防材 敵艦の侵入を防ぐための障礙物。鐵鎖、
鋼索などにて、大なる木材を聯結し、港口等の水路に設けた
もの。めかけ。
はろくわん 泡瘡 皮膚に、形、大豆の如き瘡の生ずる病。
瘡。①く。
はろくわん 包裝 荷造すること。つひむら。
はろくわん 寶藏 寶物を藏むる倉。
はろくわん 包藏 つつみかんすこと。たぐはふのり。
はろくわん 方策 はうりやくにたなじ。
はろくわん 芳札 たてがみ。責務。
はろくわん 榜札 あまねく、衆人に示さんかために設け
たるたてがみ。
はろくわん 寶算 天皇の御年輪。聖算。
はろくわん 放散 四方へ放ち散らすこと。
はろくわん 傍三位 華嚴なるやうして、三位になること。
はろくわん 放恣 ほしさまなること。放肆。

はろくわん 芳志 深切なる他人の心。厚意。芳情。
はろくわん 方士 方術を行ふ人。魔法つかひ。
はろくわん 拍子 一ひやうしの約。⑤ 二特に、笏拍子の界。
はろくわん 寶璽 天皇の御印。御璽。 三り物の總稱。
はろくわん 帽子 布帛、羅紗、又は麥藁などにて製したる被
屋根を葺きたる茅の端。苧茨。
はろくわん 房子 一へや。二味の巢。
はろくわん 亡子 死にたる子。なきこ。
はろくわん 榜示 境界のしるしの杖、又は道の辻なごに立
つ。指示札又は杖。
はろくわん 房事 男女のまじはり。いろこ。交合。
はろくわん 庖仕 水を汲み、飯を炊きなごして、飲食の世話
する人。膳方。水火夫。
はろくわん 報酬 むくい。あいさつ。謝儀。返禮。
はろくわん 舫舟 もやひね。併舟。
はろくわん 放囚 囚人をゆるしやること。放免。
はろくわん 報讎 仇を返すこと。いしゆがへし。かたき
つ。復讐。
はろくわん 房州砂 みがき砂の一種。安房より産す
るもの。
はろくわん 拍子木 ひやうじきの約。
はろくわん 寶子銀 寶永三年六月に鑄たる銀貨。背
に「寶子」の極印二つあり。
はろくわん 榜示杖 はうじ(榜示)にたなじ。
はろくわん 傍室 そはめ。

はろくわん

はろくわん

をえのわ るれるりら よゆや めんむみま ほへふは

ばらばら 望日。陰曆にて、その月の十五日の稱。
 ばらばら 芳心。なまけ。親切。
 ばらばら 方針。一方位を指し示す針。二心に定むるこころの方向。主義。
 ばらばら 放心。「うかして居る」。はんやり。失心。二心をこり亂したる。亂心。
 ばらばら 芳信。花の開きたるしらせ。花信。
 ばらばら 庖人。くりや人。料理人。
 ばらばら 邦人。同國の人だち。くにびこ。
 ばらばら 亡親。死にたる親。なまけや。
 ばらばら 傍人。そばに居る人。
 ばらばら 亡人。かけもちしたる人。
 ばらばら 暴人。亂暴なる行の人。あはれもの。
 ばらばら 砲車。大砲を載せて引く車。大砲車。
 ばらばら 紡車。いごりぐるまにたなじ。
 ばらばら 報謝。「むくひ。たれい。二佛事を修しけれたる花鉢僧。巡禮ならに、物を贈すこと。
 ばらばら 礪砂。礪物。はうさにたなじ。
 ばらばら 暴瀉。劇しく下痢すること。たてくたし。
 ばらばら 茅舍。くさぶきの家。くさぶき。
 ばらばら 坊舍。俗の住むところ。俗屋。
 ばらばら 亡者。まうじやにたなじ。
 ばらばら 褒賞。ほめること。褒美。

ばらばら 芳情。あつきなまけ。かたじけなき心。
 ばらばら 放生。捕へたきたる生物を放ち遣ること。
 ばらばら 褒状。人の善行、技術なきを褒むるしること。褒状。書付。
 ばらばら 帽章。帽子のめじるし。
 ばらばら 亡狀。亂暴なるたごなひ。無禮なる舉動。
 ばらばら 實生流。能樂の一派。觀世の支族にて、世阿彌より創まる。保生流。一家をなせるもの。
 ばらばら 放生會。陰曆八月十五日、八幡宮の祭日に、捕へ置きたる魚鳥を放つこと。
 ばらばら 傍若無人。他人の傍にあるも、更に顧みせず、己が思ふままに振るまふこと。
 ばらばら 報謝米。花鉢僧、巡禮ならに報謝する米。
 ばらばら 報謝宿。神佛へ、報恩のため、旅人を、無料にてこまらしむる宿。
 ばらばら 寶珠。一寶とする珠。畫には、三方に、火焰あるさまを描く。
 ばらばら 砲手。大砲のうちて。
 ばらばら 防守。ふせぎまもること。
 ばらばら 芒種。二十四氣の一。陰曆五月の節。
 ばらばら 寶珠頭。ぎはしゆにたなじ。
 ばらばら 砲術。大砲、小砲を運用する術。
 ばらばら 方術。しかた。
 ばらばら 寶珠玉。はうじゆにたなじ。

ばらばら 芳春。百花の咲き出す春。春三個月間の稱。
 ばらばら 芳醇。うまさ酒。よき酒。
 ばらばら 尙書。「しやうしゆき。わうしゆき。二非理に、人に物を贈る。贈答。
 ばらばら 芳書。なてがみ。芳翰。
 ばらばら 方所。東、西、南、北の方位にあまひこと。
 ばらばら 放縱。やりはなし。
 ばらばら 保證。ほしよりの音便。
 ばらばら 飽食。飽くまで食ふこと。腹一杯に食ふこと。
 ばらばら 望蜀。「蜀を得てまた蜀を望むこと。支那の故事による。一つの望みを遂げれば、更にその上の望を起すこと。
 ばらばら 暴食。あらかひ。たほぐひ。大食。
 ばらばら 暴勢。あまけりまじ。◎
 ばらばら 報。俗に、はうじゆ。一むくひ。かへす。二告げ知らせ。通知す。
 ばらばら 焙。俗に、はうじゆ。ほいろにかけたあまひの穂。三頭を刺したる人。四音、武家に仕へて、雑用を扱ひし身分。五草木の生えてあらぬこと。
 ばらばら 忘。わするにたなじ。
 ばらばら 坊主落。選俗したる僧。反初僧。
 ばらばら 坊主禿。徳川時代、遊女に使はれたる禿。多くは、頭を剃りたり。

ばらばら 坊主臭。俗に、はうやくき。一何んなく、僧侶にゆかりありけりなり。◎二むくひにたなじ。◎
 ばらばら 坊主筆。さきの切れたる筆。秃筆。
 ばらばら 坊主麥。草の名。麥の一體。芒のなきもの。◎
 ばらばら 方寸。一一寸四方。二ところ。かたがへ。胸。
 ばらばら 坊主持。同行者の共同の手荷物、代り代りに持つため、坊主頭の人に引き違ふ毎に、甲より、乙に移し、乙より、丙に移すこと。◎
 ばらばら 方錘。糸をぐるに用ゐる具。
 ばらばら 方錐。四つ目の錐。四角なるまきり。
 ばらばら 砲聲。大砲の音。
 ばらばら 芳聲。ほまれの名。芳名。◎「正聲。端正。
 ばらばら 方正。ましかく。心、又は行狀の正しきこと。
 ばらばら 邦制。國の建て方。國の制度。
 ばらばら 暴政。民を虐ぐる政事。苛政。虐政。
 ばらばら 芒硝。硝物。さびつむの硫酸化合物。海水より、食鹽を蒸りたる渣液の中に存す。◎「石英の類。
 ばらばら 寶石。貴き石。わうちある石。「金剛石。綠玉。
 ばらばら 紡績。糸をつむぐこと。
 ばらばら 紡績嬢。動物。蠶の異名。
 ばらばら 妄説。みだりなる説。虚説。
 ばらばら 舫船。二葉の船をならび浮ぶること。◎「舟。

をるわ るれるり りゆや りめんむま ほへひは

のねぬにな ざてつらた そせすしき こけくきか ねえういあ

はらせん 寶前。神佛の前。ひろまへ。
 はらせん 保全。安全に保つこと。保存。
 はらせん 防戦。ふせきたたかふこと。「られてはらせん」
 はらせん 茫然。心を失ひたるさまにいふ。あつげに「はらせん」
 はらせん 寶祚。天子のみくらゐ。あまつひつぎ。
 はらせん 寶柞。木の名。ははその音便。④
 はらせん 飽足。あきたること。十分なること。満足。
 はらせん 放俗。本来の品位をそこなふこと。「一説に、凡俗の轉音にて、世の常ただ人なみの俗なり」といふ。④
 はらせん 望族。貴き家がら。門閥家。
 はらせん 暴卒。にはかに。ただちに。
 はらせん 端唄。俗間にて詠ふ、今様風の唄。こつた。
 はらせん 湧池。涙の流るる状にいふ。
 はらせん 縋帯。疵つけたるころを縋帯ならにたまきしもの。④
 はらせん 砲臺。海岸の要所に築きて、大砲をすまつけたるもの。だいばい。
 はらせん 傍題。和歌に題の詠にあらざる事を詠むこと。また、そを詠みたる歌。
 はらせん 放題。思ふがままに振るまふ事を示すに用ゐる。「出はうたう」取りはうたう。
 はらせん 望臺。ものみのうたな。ものみだい。

はらせん 放蕩。遊樂に耽りて、身の修らぬこと。はらつらつ。遊樂。
 はらせん 饅頭。糰子をわろし、米の粉に合せ、めん棒にて押しひらめ、さうめんのかく細くしたるもの。ゆでて、食す。「ふ」
 はらせん 報立。しらせ。
 はらせん 方立。「しくみ。組みたて。二四の兩傍に立てて、扉を着くる柱。ほこたち」
 はらせん 湧池。大雨、又は涙なみの降り着つる様にいふ。④
 はらせん 砲塔。艦首、艦尾にありて、各一門、又は二門の大砲を包圍せること。④
 はらせん 報答。むくゆること。こたふること。返報。寺に建ててある塔。
 はらせん 寶塔。そらごころ。わなしごころ。うそ。
 はらせん 報知。つげ知らすこと。通知。報達。
 はらせん 報知艦。軍令を傳達し、又は敵の動靜を報知するために、速力の迅速なるを、目的とする軍艦。
 はらせん 放逐。追ひ拂ふこと。追ひだすこと。
 はらせん 方竹。竹の一種。幹の形四角なり。陸前松島に産す。
 はらせん 羽團扇。一鳥の羽にてつくりたる團扇。二羽團扇の形を模したる紋所。
 はらせん 庖丁。料理すること。また、その人。二庖丁の号。
 はらせん 方丈。一丈四方。二寺の住持の居ること。二轉じて、住職。住持。長老。

はらせん 傍聴。會議、又は演説などを傍にて聽聞すること。わら。
 はらせん 暴漲。俄かにみなぎること。
 はらせん 膨脹。容積の増すこと。
 はらせん 庖丁。料理に用ゐる刀。
 はらせん 庖師。料理をする人。はらちやう。
 はらせん 寶鐸。形風鈴に似て、大きく、寺院などの軒先にかくるもの。
 はらせん 方柱。四角なる柱。かくはしら。四方柱。
 はらせん 庖厨。飲食物の製法すること。臺所。勝手。
 はらせん 羽撃。はたきす。うちまはる。「手」
 はらせん 方圖。きはまり。かぎり。陰限。
 はらせん 場壓。その場の有様によりて、力を盡すこと。なげうつこと。やりはなしにすること。
 はらせん 寶殿。神殿の前の、禮拜をするところ。拜殿。
 はらせん 報土。佛教の語。極樂淨土の稱。
 はらせん 暴徒。暴動をなす人の一むれ。暴民の一揆。陰曆十月の異稱。
 はらせん 方冬。陰曆十月の異稱。
 はらせん 冒頭。文章の書き始め。前提。
 はらせん 暴動。暴行をなして、安寧を害すること。騒をかしげがすこと。「亂。一揆」
 はらせん 冒認。まけてみまむること。
 はらせん 放任。物事に干渉せずして、その成り行きに

任すること。
 はらせん 傍若無人。はらじやくじんになはらぬ。氣に掛けぬこと。辨はすに置ること。
 はらせん 傍輩。なかま。ともたち。同志。
 はらせん 澎湃。河水の漲り激しくさまにいふ。道ふはかりにして、ヤッヤ逃げ去るさまにいふ。
 はらせん 方方。あちらこちら。そこそこ。諸方。諸處。
 はらせん 寶坊。てらにたなじ。「花」
 はらせん 茫茫。際涯なく廣きさまにいふ。茫々。渺渺。辛くして免れたるありさま。
 はらせん 忘八。「人の入徳を忘るるいふ義」でげん(女はらつ)にたなじ。
 はらせん 報發。はらつにたなじ。
 はらせん 暴發。「あれたつこと。あはるるいふ」にたなじ。
 はらせん 方法。しかた。てだて。手段。
 はらせん 放飯汁。こたにじしたる汁。
 はらせん 芳菲。にほひのよきこと。
 はらせん 放屁。へをひること。「屁」
 はらせん 褒美。「褒むること。二褒めて與ふる物。賞與」
 はらせん 旁批。かたはらめ。はたための批評。
 はらせん 抱負。もちまへ。器量。

はらふ 亡父。死にたる父。なき父。先父。先人。
はらふ 亡夫。死にたる夫。なき夫。
はらふ 暴雷。雷かに、雷轟になること。にはかぶげん。
はらふ 防風。物の腐るを防ぎこむること。
はらふ 防風。その功、中風を防ぐこと。藜草の名。一根に葉生して、高さ三尺ばかり、葉は、并に似、夏秋の候、白き小花を開き、根は、牛蒡に似て、薬用となる。防風風、伊吹防風などの種類あり。はまにがな。
はらふ 暴風。吹き荒るる風。はげしきかぜ。
はらふ 暴風雨。はげしき風雨。あらし。
はらふ 方物。その國の物産。國産。
はらふ 方物。よく似たるさまにいふ。それかあらぬか。二ほのかに見えて分明ならぬさまにいふ。彷彿。
はらふ 葬。はらふること。
はらふ 葬。はらふるの音便。死骸を埋む。埋葬。はらふ。
はらふ 砲兵。大砲を運用する兵士。
はらふ 褒貶。褒むること。貶すこと。褒獎。
はらふ 放免。はらふにたなじ。
はらふ 方便。一「隨方便入の義」佛教の語。人を導く假りの手段。二時にこりて、止むを得ぬいひのがれ。
はらふ 保母。幼稚園なごにて、見供を訓導する女。女。
はらふ 亡母。死にたる女親。なきはは。
はらふ 鮎鱈。魚の名。形も、色も、かながしらに似て

細長く、味、しつこひき。竹筴魚。
はらふ 芳墨。わてがみ。尊貴。貴翰。
はらふ 咆勃。いかりたけること。
はらふ 泡沫。水のあわ。あわつぷ。
はらふ 葬。はらふること。
はらふ 葬。はらふるの輓。
はらふ 芳名。一人の名の尊稱。雷名。二ほまれある聞え。よきな。美名。
はらふ 亡命。かけをち。
はらふ 保命酒。備後國鞆津より製出する酒の名。味、酔に似て、精氣の強きもの。
はらふ 放免。一罪人を釋し放つこと。二元、放免せられたる罪人を以て、之に任じたるよりいふ。檢非違使の廳に廢はれて、監獄の役をつこむる者。
はらふ 方面。その方のむき。
はらふ のつもの方面着物。古、表茂祭に出づる放免の、肩につけたる錦褄。
はらふ 寶物。たからもの。たから。
はらふ 砲門。大砲の、彈丸を打ち出す口。
はらふ 訪問。こひたづねること。見舞ふこと。「類」
はらふ 坊門。京都の坊路の側、桃辻坊、南院坊などの寺の番人。二一向宗の僧侶の妻。
はらふ 坊守。たかがりにたなじ。
はらふ 放鷹。はらふこと。
はらふ 保養。はらふこと。

はら 洋。ひろびろとして、日あての定めがたきこと。
はら 羽裏。鳥の裏のうら。
はら 暴雷。烈しきかみなり。雷雷。
はら 放浪。煮のままに遊びまわること。
はら 放樂。ほらくにたなじ。
はら 包絡。心臓を包める薄皮。心臓膜。
はら 放埒。身持の悪きこと。放蕩。
はら 方里。土地の面積を計るに用ゐる。一里四方の面積を、一方里とす。
はら 方領。一素袍ならのえりの方形に仕立てたるもの。(まゐるえりに對して) 二堂上家に仕ふるもの、家領の外にあてがはるる知行。
はら 方略。はかりごと。てだて。方策。
はら 放流。しまながし。
はら 亡靈。死にたる人の魂。なきたま。
はら 暴戻。そむきもてること。よこしま。
はら 芳禮綿。はふれわたにたなじ。
はら 坊寮。俗の住む家。僧房。
はら 蒹葭。草の名。葉、たんばに似て、根元は、赤色を帯ぶ。ひたしものにして食ふ。
はら 望樓。ものみの高きもの。觀樓。
はら 焙烙。一素焼のひらたき土鍋。物を炒るに用ゐるもの。焙烙。焙烙。二いりなべをいふ。大和國の方言。

はら 焙烙調練。焙烙を、頭に敷せて行ふ調練。竹刀にて、その焙烙を打ち破り、破られたる者を死者と見做して、勝敗を争ふ。徳川時代に流行せり。
はら 焙烙火矢。今の破製彈の如きもの。その製、銅の空丸に、火薬を詰め、導火をさして、布に包み、漆にて塗り、火に照じて、敵中に投ず。團扇。
はら 焙烙蒸。焙烙の中に、鹽を敷き、魚などを入れて、蓋をなし、蒸し焼きにしたる料理。「じ」。
はら 焙烙焼。料理の名。はらうくむしに同。
はら 寶位。天子のみくらみ。
はら 暴威。あらあらしきまほひ。
はら 防衛。ふせまもるること。
はら 芳園。はなぞり。
はら 望遠鏡。こぼりがねにたなじ。
はら 茅屋。わらぶきの家。かやや。
はら 鱈。魚の名。形、鮎に似て、大さ四五寸、背は、うす黒くして、背はみ淡水に産す。はや。
はら 映。一見え。二ほひ。三つり。二かひ。はりあひ。
はら 南風。「梵語。婆娑、即ち風神の義」南風をいふ。四國、中國の方言。また琉球の語。
はら 暗礁。かくれいし。
はら 生際。頭額なごの、髪のはえたる際。髮際。
はら 生拔。現在の地にて生れたるもの。

はえはえし

はえはえし 映映。色のうつりよし。見はえあり。その用あり。
はえもの 生物。土地に生ずるもの。
はたご 羽音。鳥の、兩翼をうちたたく音。
はたご 羽織。衣の上に着る衣より短きもの。胸の邊に紐ありて左右より結ぶ。
はたる 羽織。羽織を着る。衣の上に被ひ着る。
はか 墓。人の死骸を葬りし處。
はか 果。仕事の出来あがり命令。拵。
はか 目的。あてさ。めあて。かぎり。
はか 田。田地のある區劃を數ふるに用ゐる。
はか 馬鹿。〔梵語の蔡何、又は摩訶羅(共に、無智の意)より轉ず。〕一なるか。ちゑたらす。二神樂にて、下僕に出で立ちて、滑稽をなすもの。三貝の名。馬鹿貝の譽。
はか 破戒。佛敎の語。佛敎の戒を破ること。
はか 入講。佛敎の語。法華經を、八人の俗にて讀むこと。入講會。
はか 齒淨。一齒のゆるぎが如く感ず。二またらし。てゐるし。
はか 馬鹿貝。貝の名。はしらの味、美にして、肉は、味劣り、淡褐色なり。
はか 回果行。はかざるにたなじ。
はか 端書。一紙きれの端なきにしろす。雙書。葉書。二郵便端書の譽。

はか

はか 回羽利。羽よりよくなる。
はか 破格。なみはづれ。法に合はぬこと。出格。例外。
はか 葉隠。木、自らかけ損ず。
はか 馬鹿氣。はからしく思ふ。くだらなく感ず。
はか 佩刀。佩かすの意。かたな。たち。す。
はか 博士。はかせにたなじ。
はか 葉柏。かしはにたなじ。
はか 墓所。はかは。
はか 墓標。墓の上に建てたらし。
はか 齒洋。はくそにたなじ。
はか 魅。歎きたはかる。はかす。
はか 羽數。鳥のはたたく數。
はか 葉數。草木の葉のかす。
はか 割。へがす。へぐ。
はか 魅。はかすの譽。
はか 齒巫。はくそにたなじ。
はか 佩刀。はかにたなじ。
はか 博士。一古の大聖賢の官人。二文部大臣より、文、法、醫、理、工、農の内、一に專達したるもの、又は大學院の課程を卒へたる、専門學者に授くる學位。三その道に達したる人。
はか 羽風。鳥、又は虫の羽はたきより生ずる風。

はかせ 葉風。草木の葉を吹き鳴らす風。
はかた 博多。博多織の譽。
はかた 齒形。齒にて噛みたる痕。
はかた 博多織。筑前の博多より織り出たす織物。絹も、木綿もあり。その木綿なるは、小倉織ともいふ。また唐織ともいふ。
はかた 博多織。博多織の、織ある織物。
はかた 齒不立。力たよはず。手にのらず。
はかた 齒固。古、元三の日に、齒を固むる意にて、猪馬の肉等の如き堅き物を食ひし儀式。後には、餅を貼したるをも用ひたり。
はかた もも 齒固餅。正月の三日目に食ふ雜糈餅。古の齒固めの遺制なり。
はかた ゆり 天香。草の名。百合の一種。花は、黄白色にて、葉に赤色の斑點あるもの。
はかち 西北風。西北より吹く風。東京の語。
はかち 墓地。はかにたなじ。
はかち 割。はかにたなじ。
はかち 墓所。はかにたなじ。
はかち 抄取。はかざること。
はかち 信天翁。鳥の名。あはうぎりにたなじ。
はかち 抄。仕事か、次第にしろがる。仕事のかさがあがる。はかが行く。

はかな なる 回。この世を去る。死ぬ。
はかな 無果事。はかにたなじ。
はかな 無果。俗に、はかない。長く保つことなし。たしかならずあり。もろく、かりそめなり。
はかな 無果事。はかにたなじ。かひなきこと。
はかな 無果立。はかなさうになる。
はかな 無果。はかなく。もろく。かりそめに。
はかな 無果。はかにたなじ。
はかな 無果。はかなく思ふ。
はかな 無果物。よわきもの。役に立たぬもの。
はかな 鋼鐵。〔刃金の義〕鑛物。生鐵の鍛へたるもの。鑛物よりも、炭素多し。灰白色にして、弾力あり。外物の刃などに用ゐるもの。
はか 馬鹿念。確かなることにも、念をたすこと。
はか 墓場。墓のあるところ。はかはら。
はか 墓。たのもし。きつしてあり。しかしてあり。
はか 馬鹿馬鹿。俗に、はかかしい。たうからし。はかしてあり。
はか 馬鹿。馬鹿隨に合はするはやし。鉦笛、太鼓、鼓などを用ゐる。
はか 墓原。はかにたなじ。
はか 齒貝。貝の名。たからがひにたなじ。
はか 羽交。鳥の、兩翼を打ち交へたること。

はか

はか

はがひあめ

はがひあめ 羽交締。鳥の羽がひの如く、強く組み合せて抱きしむること。
はがへ 羽替。鳥なごの、毛の抜けかはること。
はがへ 葉替。草木の葉の、枯れて、生ひかはること。
はがへ 袴。一上古、陰部に覆ふに用ひしもの。今の襦袢引の如きものといふ。二衣の上にはきて、衣の裾の邊に至るもの。三酒の瓶を入れる、方形。又は圓形の小さき罎。四植物の莖や幹を皮。五花、又は種子の薄皮。
はがへ 齒釜。縁につはのある釜。茶釜の類。
はがへ 袴着。昔、男の子の、五歳になりたる年の十一月十五日に、初めて、袴をはく時。
はがへ 袴腰。袴の、腰にあたる部分の、襷き板、又は厚紙を入れたること。
はがへ 袴地。袴に仕立つべき織物。こくら織。仙臺ひらな織。
はがへ 墓祭。墓に、香花をささげて祀を祭ること。
はがへ 袴行跡。神事のなり、大迫物、笠懸、やぶさめなどを射る時に穿つもの。袴の、わかほきの裾の白毛の角を、すぢかひに切りたるもの。
はがへ 齒齧。一寝て居る時、又は怒り、苦みなどする時に、齒を噛み合はすこと。齒を噛み合はしはること。はがへしり。
はがへ 破顔。わらひ顔。をがほ。
はがへ 馬蹄。三蹄の一。百蹄の蹄。
はがへ 無果。はがへしにたなじ。

はがひあめ

はがひあめ 馬鹿者。たろかなる人。はが。
はがひあめ 墓守。墓の番をする人。
はがひあめ 齒齧。俗にはがゆい。思ふままにならずあり。ちがかし。じれったい。
はがひあめ 不圖。はがらすにたなじ。
はがひあめ 馬鹿。俗にはがらしい。「たろかめきてあり。二はがはかしにたなじ。
はがひあめ 不圖。思ひがけなく。不意に。ふつ。
はがひあめ 計。はがらふこと。
はがひあめ 計。はがらふの態。わが心に考へ定め。分別す。
はがひあめ 秤。物の輕重をはかるに用ゐる器械。衡。
はがひあめ 計。一かぎり。あてま。めあて。二計り。計り。見つること。三秤にて計りたるかさ。量。
はがひあめ 血蹤。血の流れたるあざ。のりのあざ。(量なかにいふ)。
はがひあめ 計。のみにたなじ。圖。大方に見つりたる高を示すに用ゐる。ぐらひ。ほや。だけ。ころ。斗。
はがひあめ 量限。秤にて、量りたる外に、少しもこへること。
はがひあめ 秦瓦。瓦の名。高さ五六寸にて、葉に、つらに似、紫色の花を開く。藥用す。つがやくさ。
はがひあめ 圖。謀。たます。あややく。
はがひあめ 圖。謀。一心にたくむ手段。工夫。計。謀。二たますこと。

のほかに... せすしき... こけくきか... ねえういあ

はがひあめ

はがひあめ 秤座。徳川時代に、免許を得て、秤を專賣せしこと。
はがひあめ 秤皿。量るべき品物を盛るために、秤の一端につるしたる平皿。天秤盤。
はがひあめ 秤杆。銜、分、厘等の度を盛りて、秤に用ゐる竿。
はがひあめ 秤師。秤を造る人。
はがひあめ 量耗。初め、餘分にはかりこみたるため、終りに至りて、量の足らなむこと。半耗。
はがひあめ 計虫。虫の名。しゃくじりむしにたなじ。
はがひあめ 秤目。一物の目方。二衡に盛りたる量、分、厘等の数。
はがひあめ 秤匠。秤を造り、又は賣る人。
はがひあめ 計。一つも。はがらふ。二物の重さを、秤にかけて試む。權。秤。三物のかさな、辨にて試む。秤。四物の長さを、物さしにて試む。さす。度。測。五如何にせはや。他にたつ。協。相。六款。くた。たま。たがらす。
はがひあめ 割。俗にはがれる。はげまつ。
はがひあめ 馬鹿笑。大聲にて、妄りに笑ふこと。痴笑。
はがひあめ 馬鹿踊。馬鹿舞につれて行ふ舞。
はがひあめ 吐。胃中の物をもち出すこと。吐く。嘔。嘔。
はがひあめ 鬪氣。やぶさめ。野心。
はがひあめ 破葉。シラサグ。シラサグ。シラサグ。
はがひあめ 破毀。はがらす。はがらす。

はがひあめ

はがひあめ 腰。足の、膝と、腰との間の部分。むかうすね。
はがひあめ 様。木の名。はりのきにたなじ。
はがひあめ 接。接ぎ合せたること。つぎ。
はがひあめ 萩。木の名。山野に自生す。葉は、根より發生し、葉は、葉のに似たり。秋、紅葉色、又は白色の小さき花をむらがり開く。胡枝子。
はがひあめ 萩遊。萩の花を見て樂みあそぶこと。はがひあめ 羽利。勢力のあること。はがひあめ 吐。吐き氣を催さしむるための藥。
はがひあめ 吐瀉。はくこと。くだすこと。
はがひあめ 疏通口。水を流し出した口。
はがひあめ 吐氣。吐を催る感じ。
はがひあめ 接子。衣服のはぎ合せたるもの。
はがひあめ 齒軋。齒咬みをする。こ。齧。齧。
はがひあめ 齒割。はくせにたなじ。
はがひあめ 齒割。わきまにたなじ。
はがひあめ 掃初。新年に、始めて、塵の掃除をなすこと。
はがひあめ 佩初。下駄、草鞋の履ひ、新しきものを、始めてはき用ひること。
はがひあめ 掃出窓。塵の面を掃して、穿ちたる窓。室内の塵を、戸外へ掃き出だすに似す。
はがひあめ 吐出。一口中にあるものを口外に出だす。吐きたす。二胃中にあるものを吐く。ハななつ。三腹中にある品物を吐く。

をるわ... ろれるり... よゆ... もめんむみ... ほへよひは

はくせん 白雪。 じょうき。
はくせん 白雲。 雲の裏を加へたる朧雲子。春風
 正似て、味淡泊なり。
はくせん 白扇。 しらほりの扇子。しらちよき。
はくせん 白蕩然。 はくこにたなじ。
はくせん 白漠然。 はくこ。 ぼんやり。
はくせん 白蕩然。 まんじやう。
はくせん 白蕩然。 蕩にたまるかす。 はかす。
はくせん 白打。 くみうちになじ。
はくせん 白薄待。 待遇のよくなきこと。 よあしり。
はくせん 白帯。 女の病。 こしや。
はくせん 白帯下。 はくたになじ。
はくせん 白帯。 はなはた大きく。 ちまき。
はくせん 白湯。 「たのゆ。 さゆ。 二番の湯。 藥湯。
 湯なみに對して」
はくせん 白銅。 小麥粉にて製せし菓子の名。 はくせん。
はくせん 白濁。 病の名。 りんびやうになじ。
はくせん 白刺奪。 はくせん。
はくせん 白箔彩。 金箔なみに塗つたるもの。
はくせん 白團。 團那の異名。
はくせん 白團。 擲擲の器。
はくせん 白雉。 鳥の名。 雉の一。 羽毛白くして、光彩
 美麗なり。

はくせん 白痴。 からげか。 たはけ。
はくせん 白博打。 「けんりの博」 銀物を賭けて、勝負を
 争ふ。 かうりやう。 かげり。 博。 二けんくすになじ。
はくせん 白書。 ひるなか。 まひるま。 日中。 白日。
はくせん 白博徒。 博奕を行ふ人。
はくせん 白爆竹。 「左義長の火。 こんの火。 二支那人
 の、祝なみに掛ぐる花火。
はくせん 白葉朽肥。 樹木の葉の、落ち朽ちて、肥料と
 なるもの。
はくせん 白地蔵。 かくれんになじ。
はくせん 白博打汁。 豆湯を、博打に用ゐる米の如き形
 に切りて、調理したる汁。
はくせん 白博打場。 博奕を行ふ場所。
はくせん 白張。 「しらほりの音」 「公卿の奴僕。 二
 神樂を擔ぎ、又は神舞に、その柁を擔ぎながらする人夫の服。 白
 丁。
はくせん 白博打宿。 博徒をかくまひ、また博打を行ふ
はくせん 白伯仲。 「兄弟。 弟。 二優りませず、劣りも
 せぬこと。 甲乙なきこと」
はくせん 白鳥。 「鳥の名。 秋、冬の聲、多く、田澤に棲む。
 形、鷓鴣に似て、全身白く、喉のところに、黄赤色の縞あり。 く
 ひ。 二白破の、口長く、圓圓き頸子の名。 〇
はくせん 白鐵。 はくえふてつになじ。
はくせん 白田。 はたけ。

のねにな、こつちた、そせすし、こけきか、たえうい

はくせん 白薄田。 みりあしき田地。
はくせん 白博徒。 はくちやうになじ。
はくせん 白麥奴。 麥の穂に寄生する菌。 群棲して、遂に麥
 の穂を黒くす。 くろふになじ。
はくせん 白銅。 鐵物。 銅と、にけつごの合金。
はくせん 白頭翁。 白髮の老人。 「補助貨幣」
はくせん 白銅貨。 白銅にて造れる、貨幣。 五錢の
はくせん 白薄徳。 徳の少きこと。 非徳。
はくせん 白麥鏡。 漢字の偏の名。 ぎんになじ。
はくせん 白綿。 細き糸にてたつたる、白き綿織物。 〇
はくせん 白綿繩。 不動尊の持たる繩。 摩訶のもの。 繩
 のためなり。
はくせん 白猿札。 寶珠の類。
はくせん 白波。 白くあつたつたみ。
はくせん 白馬。 毛色のしろきうま。 あをうま。
はくせん 白馬。 またらうま。 はせうま。
はくせん 白梅。 白き花を開く梅。
はくせん 白漠漠。 はくこにたなじ。
はくせん 白冥冥。 昏昧なること。 ぼんやり。
はくせん 白口。 空しく、口を廣く開くさま。 〇
はくせん 白髪。 白くしたる髪。 〇
はくせん 白爆發。 しろくになじ。
はくせん 白爆發。 はくせんになじ。

はくせん 白馬節會。 おをうまのせちにな
 じ。
はくせん 白飯。 肴をそへた飯。 きめし。 すめし。
はくせん 白拍板。 拍子木。 また、びんざらなるもの。 〇
はくせん 白麥飯。 むぎめしになじ。
はくせん 白眉。 鐵物。 山谷の向より産じ、その
 状、麥飯をまらめたるが如し。
はくせん 白眉。 衆に抽する。 透達。
はくせん 白伯父。 父の兄。 をぢ。
はくせん 白布。 しるわの。 さしわの。
はくせん 白幕府。 「一將軍の居所。 將軍の隨從。 二武家の政
 事を執るること。 幕府」
はくせん 白博物學。 動物、植物、礦物等につきて講
 究する學問。
はくせん 白博物館。 天産、人造、古今、中外、百般
 の物を集めて、衆人に覽覽せしむる館。
はくせん 白粉。 一白き色の粉。 二たけになじ。
はくせん 白文。 「漢籍の、本文のみを掲げて、送り假名、
 又はかたり點なきもの。 二はくになじ。
はくせん 白博聞。 ものしり。
はくせん 白描。 すまがき。

をえわわ、るれるり、よゆや、もめんむみ、はくせん

白

博

一五五七

はつと 白壁。一白カワのから。二白か。三白。可成。
 はつと 紫萼。草の名。はつとにたなじ。④
 はつと 伯母。父母の姉をば。
 はつと 薄暮。ゆふぐれ。たそがれ。日のくれ。
 はつと 薄俸。俸給の少きこと。小給。薄給。
 はつと 白墨。一しらすみ。字けしらすみ。二白墨にてつくくり。黒板に書くに用ゐるもの。
 はつと 白熊。一犖牛の尾。馬の尾よりも細く、白く、常に掃子などに造る。また、その黒きを、くままじりの赤きを、しやまじりの。二草の名。幽谷に生じ、一棧一葉にして、高さ一尺ばかり、その頂上に、八九枚の葉、輪生す。秋、葉に白き穂状の花を開く。鬼格都。
 はつと 白米。つき積けたる米。つきこめ。
 はつと 鬼督郵。草の名。はつとにたなじ。
 はつと 宿蠱。虫の名。しみにしにたなじ。
 はつと 破軍星。北斗の第七にあたる星。風の形をなすもの。陰陽家は、この星の指せる方位を、軍事に凶なりとする。
 はつと 薄命。ふしあはせなること。不運。不幸。
 はつと 薄明。明けがた。あけほの。
 はつと 麥飯。むぎめし。舊、代國の方言。
 はつと 白面。一すがにたなじ。二年若くして、經歴なき人。黃吻。
 はつと 白木蓮。木の名。こぶしの一種。春、白色の香気ある花を開く。

はつと 麥門冬。草の名。葉は、細く、叢生して、花の如し。夏、四五寸の莖を出だして、種紫色なる六瓣の花を開き、實を結ぶ。根は、薬用に供せらる。また葉の大きなものを、やぶらんにいふ。やますげ。
 はつと 箔屋。金、銀、銅などの箔を打ちのはし、また賣る業に事する家。
 はつと 鑊鄒。支那の名劍の名「かたなかぎに同じ。
 はつと 薄夜。よひのうぢ。
 はつと 馬具屋。はつとにたなじ。
 はつと 白楊。木の名。はつとにたなじ。
 はつと 博奕。「字の異音」はつとにたなじ。④
 はつと 白楡。木の名。はつとにたなじ。
 はつと 舶來。外國より輸入し來るもの。舶載。
 はつと 博勢。「支那の馬の相者」馬を賣買するを業とする人。馬城。
 はつと 國圖令逸。「はつとにたなじ。④ 二人の間に答へずして、その外の事を語る。④
 はつと 伯樂。「支那の馬の相者」よく、馬の駿駑を相する人。二馬の病を療治する人。馬醫。
 はつと 剝落。はつとにたなじ。
 はつと 白蠟。びやくらふにたなじ。
 はつと 博覽。諸書を見わたしたること。博覧。
 はつと 博覽會。博く、農、工、商、及び學術に係る物品を集めて、公衆に陳列せしむる會。

おはつとにたなじつらた そせすしき こりくきか たえういあ

はつと 獨頭蘭。草の名。蘭の一種。山に生じ、葉は、三角形にして、霧の如きすち通れり。葉も、花も、蘭に似て、花には、香氣あり。
 はつと 薄利。一儷かなる利益。二儷かなる利益。
 はつと 幕吏。幕府の官吏。
 はつと 一突き拵。音の形容に。④ 二口を、廣く開きて、物をくはんとするさまに。④
 はつと 撥。剣き取る。まぐる。④
 はつと 俗に、はつとにたなじ。つれの人を見失ひて迷ふ。
 はつと 齒車。輪の周りに、刺みある車。諸機械を運轉するに用ゐる。
 はつと 爆裂。火氣によりて破裂すること。
 はつと 爆裂彈。火薬などを詰め、爆てば、熱を發して、破裂するやうに造りたる丸。はつとにたなじ。
 はつと 白蓮。白き花を開く蓮。
 はつと 莫連。女のすれからしもの。④
 はつと 白露。一しらすみ。つゆのため。三二十四氣の一。三陰曆八月の異稱。
 はつと 鐵漿。鐵を、酒に漬けて造れる液。鐵を、煮くそぎるに用ゐる。木はつとにたなじ。
 はつと 暴露。一陰謀、悪事などのあらはるること。露見。二雨降りに、體をさらすこと。野宿すること。
 はつと 博勢。はつとにたなじ。
 はつと 麥脯。麥を植まつけてある葉。むぎはたけ。
 はつと 鐵漿。はつとにたなじ。

はつと 薄陸。「支那前漢の靈光の博陸侯に對せられし故事よりいふ」開白の異稱。
 はつと 薄祿。爵高の少なきこと。
 はつと 鐵漿。はつとにたなじ。④
 はつと 破瓜。女子、十五六歳に至り、初めて、經水を見ること。
 はつと 白話。むだはなし。空談。
 はつと 破壞。うぢやぶること。はつとにたなじ。④
 はつと 破潰。つぶれつひひること。やぶること。
 はつと 白猿。老いたる猿の、毛色の白くなれるもの。
 はつと 流通。潮らぬこと。さはけ。④
 はつと 刷毛。一獸の毛を束ねて、藤板二枚の間に植ゑ並べて、物を塗り、また版などを掃ふに用ゐるもの。ぶらし。二つ、よんまげの先の、細く長くなりたるもの。
 はつと 禿。髪が抜け落ちたる痕。
 はつと 禿頭。髪が抜け落ちたる頭。禿頭。
 はつと 葉鶏頭。草の名。けいけいしりし一種。秋に、その葉、色づきて美し。かまつか。雁來紅。
 はつと 剃方。さげかたにたなじ。
 はつと 禿髮。髪が抜け落ちたる髪。二はつとにたなじ。
 はつと 剃口。はつとにたなじ。

はつとにたなじつらた そせすしき こりくきか たえういあ

はしげた 橋桁。橋板を受け支ふる橋梁。
 はしむね 橋脚。客又は荷物をのせて、陸と、本船との間を往來するに用ふる小舟。脚船。
 はしむね豆 豆。えんどう、又は、そのまめなどの、炒らねてはじけたもの。
 はしむね愛蔵。はしむねの類。
 はしむね解。一端の方より、むしろつり取り取る。その下を、二階の本船との間を、小舟にて、乗客、又は荷物を、つりつり送迎す。
 はしむね端。はしむねなり。
 はしむね梯子。一車道のより、高きところに登るための具。通例、二本の長き木、又は竹に、数本の横木をつけて、足掛りする。二だんはしむね木なり。
 はしむね端。はしむねなり。
 はしむね敏。俗に、はしむね。はたらき鋭し。すはやし。
 はしむね梯子立。はしむねをよせかける。
 はしむね梯子段。段の梯子の足がかりするところ。
 はしむね端辭。書物、又は諸歌の初めに、そのゆゑを、しなむを著しする文。はしがき。
 はしむね梯子飲。一箇所ならず、二箇所も、三箇所も、家を登りて、酒を飲みあくること。
 はしむね梯子乗。梯子を、開口にて、一人、梯子の上のほうへ、種種の藝を行ふこと。消防夫などの出まなすの時行ふもの。

はしむね梯子持。火事の際、梯子を携ぎ行く消防夫。
 はしむね肉。はしむねにたなじ。
 はしむね端島。はしむねにある島。
 はしむね箸揃。くひのめ、はしむねにたなじ。
 はしむね半。一物事の、いつれもつかぬ中間。二数の不足、又は餘分なること。はんば。はしたもののにたなじ。
 はしむね半色。一表、裏、ともに、うすい色の濃きか、さねの色目。二種、鉄、共にうすむらさき色なる顔色。
 はしむね箸鷹。鷹の名。鷹の一種。常のより小さくして、腹に赤白、又は黄黒の斑あり。めだか。鷹。鷹。
 はしむね端金。はしたなる金。不足なる金銭。
 はしむね端鏡。はしたがるにたなじ。
 はしむね箸立。箸を立て置く器。
 はしむね階梯。はしたるにたなじ。
 はしむね。俗に、はしたる。何れもつかずあり。よるべなし。さうつくすべなし。つらし。二身分いやし。三不足なし。十分なり。
 はしたる。はしたる。困らす。情なくもてなす。
 はしたる半女。卑しき身分の女。みづしめ。下女。
 はしたる半者。卑しき身分のもの。めしつかひの類。
 はしたる半物。數の揃はぬ物。はんばの物。
 はしたる半童。中間のわらは。はしたる。わらは。はしむね端近。家の端近きところ。あがりはな。

あけういお かしきりき せせすしき ちつちつた なぬぬは

はしむね端近。俗に、はしむね。家の端近し。出入り口のあたりなり。
 はしむね橋賃。橋をわたるについて、掛ふ錢。
 はしむね端女郎。西京島原の、下等なる遊女。
 はしむね端方。はしむねの方。
 はしむね端作。書狀の書き初めに、察駭起居などを、はしむね。橋を造る人。「昔くこと」
 はしむね箸筒。箸を差し入れ置く筒。
 はしむね橋局。はしむねにたなじ。
 はしむね愛妻。はしむね。かほゆき妻。
 はしむね橋詰。橋のそば。橋のたもと。はしむね。
 はしむね橋殿。河、谷などの上に、橋の如く掛け直し、造りたる架。
 はしむね半菰。常の菰の、半分はひななるもの。
 はしむね無端。はからず。ふき。ゆくりなく。われしらす。そぞろに。
 はしむね半。はしたる。何れもつかで。
 はしむね端繩。はしむねにたなじ。
 はしむね梯子。きざはしの段。
 はしむね巴字蓋。曲水の宴に用ふる蓋。
 はしむね端乗。一もの、はしむねに乘ること。二かりぞめ。乗ること。
 はしむね箸箱。箸を入れるための、狭く長き箱。
 はしむね端端。こなた、かなたのはし。

はしむね。はしたる。何れもつかで。
 はしむね橋柱。橋を支ふる柱。
 はしむね端食。板をやらせぬために、両端の切り口へ細き板を、横に詰め込むこと、また、その詰めたる板。本箱、重箱などの蓋には、必ず、この法を用ふる。
 はしむね橋姫。一山城の宇治川の橋の下に、いて、その橋を守れる姫神。二轉じて、ただ、姫君の稱。
 はしむね端太。動物。猪大鴉の器。
 はしむね端舟。鳥の名。普通のより、嘴のふはしむね。舟の義。はしむね。艇。
 はしむね端。齒の裏に、着きたる食物の鹽分。
 はしむね端。鳥島の義「水中の小洲」。
 はしむね端。はじまること。たこ。發端。初。
 はしむね端。新に起る。
 はしむね波臣。あぶれもの。浪人。
 はしむね波心。波の真中。
 はしむね破身。處女の、始めて、男子と交接すること。
 はしむね始。はじむること。はじまり。はじめ。前つ方。
 はしむね始方。はじめのころ。〇「初」
 はしむね始。一あつたに、新規に、二それを始めて、はじめること。
 はしむね初老。年齢四十歳の稱。
 はしむね初年。一物事を始むる年。二年號の改まりたる最初の年。元年。

はしむねの ぶね くれりり ろ せせすしき ちつちつた なぬぬは

はじろをばり 圖 始終。物事の始めと終りのこと。あたま。
 はじろをばり 圖 橋本。はじろめにたなじ。一頭末。
 はじろをばり 圖 櫛紅葉。一はじろの葉の、霜にあひて、赤く色づきたるもの。二表紙の葉はみたるに、葉の黄色なるかたの色の月。
 はじろをばり 圖 橋守。橋を守る人。橋の番人。
 はじろをばり 圖 破邪。邪業をたこしたる人。
 はじろをばり 圖 馬車。馬に乗かする車。
 はじろをばり 圖 八省。たじろくでんにたなじ。①
 はじろをばり 圖 馬上。馬に乗れること。
 はじろをばり 圖 馬上。青馬に乗る時に用ゐたる香。なめし草にて造り、黒漆にて塗りたるもの。爪先に、十二のひだあり。
 はじろをばり 圖 馬上蓋。旗立のまき、馬に乗り居て、酒を酌み交はし、別れを告ぐるもの。
 はじろをばり 圖 馬上提灯。馬に乗るとき、腰にさす提灯。形圓く、鯨の鱗にて作れる長き柄ありて動搖するを防ぐ。
 はじろをばり 圖 馬上銃。馬上にて用ゐる短銃。
 はじろをばり 圖 破傷風。傷口より、風の犯し入りて、皮肉に、烈しき激衝を起す病。ために、生命をなげすに至るものあり。
 はじろをばり 圖 馬車馬。馬車につけて走らす馬。一頭。
 はじろをばり 圖 把酌。くみりのこと。
 はじろをばり 圖 圖 燥。一かりく。ひる。乾燥す。②乾燥す。

はじろをばり 圖 馬借。一良馬を借りて、馬を貸すこと。うまかし。二うまかたにたなじ。
 はじろをばり 圖 管休。食事の際、飯の外に、物を食ふこと。
 はじろをばり 圖 厄酒。さかづきに注ぎたる酒。
 はじろをばり 圖 播種。種子を蒔くこと。
 はじろをばり 圖 派出。手分けして出だし遣ふこと。出張。
 はじろをばり 圖 馬術。馬を乗りまはす術。
 はじろをばり 圖 馬術師。馬術にたけたる人。
 はじろをばり 圖 派出所。本部より、諸所に派出せられて、事務をこころみる。出張所。
 はじろをばり 圖 櫛弓。はじろの木にてつくられたる弓。①
 はじろをばり 圖 波旬。佛教の講。あくまにたなじ。一場所。
 はじろをばり 圖 播種。種を蒔き植ふること。
 はじろをばり 圖 蕃殖。しげること。よめること。
 はじろをばり 圖 端折。はじろの歌。
 はじろをばり 圖 柱。一土臺の上に直立して、荷を受け支ふる長き材。二凡て、物を支ふる長き木材。三大事を任せて、頼みのある人。いしする。四支柱の畧。②圖 神佛又は貴き人を数ふるに用ゐる。
 はじろをばり 圖 柱隠。柱を同じほひの柱の隠。根。又は隠蔽なむにて造り、多くは、香蓋を背けり。
 はじろをばり 圖 柱隠。はじろの隠。

のねにた ごとつちた そせすしき こけくさか たえういあ

はじろをばり 圖 柱懸。はじろかきにたなじ。
 はじろをばり 圖 圖 走。はじろしむ。①
 はじろをばり 圖 米をぎきたるあこの水。しろみづ。
 はじろをばり 圖 走。走らしむ。
 はじろをばり 圖 柱基。さだにたなじ。
 はじろをばり 圖 柱臺。さだにたなじ。
 はじろをばり 圖 柱炬火。燈籠流火寺、燈籠堂の前にて、大炬二つを建て、巻に及びて、火を照じ、諸人炬をめぐり、燈籠の巻を指へ、師を導きて踊る式。
 はじろをばり 圖 柱建。家を建てんとして、先づ、その柱を立てて、要式を行ふこと。
 はじろをばり 圖 梳棚。櫛の帆柱の横木。
 はじろをばり 圖 柱時計。柱、壁などに懸け置く時計。かけ時計。
 はじろをばり 圖 柱貫。柱の上部に通す横木。櫛額。櫛。
 はじろをばり 圖 柱引。帆柱をひき立つる綱。
 はじろをばり 圖 櫛懸。はじろの櫛の實よりつりたる櫛。
 はじろをばり 圖 柱線。鞍籠などのために、柱にほりたる線。
 はじろをばり 圖 柱寄。はじろかきにたなじ。
 はじろをばり 圖 走。一はじろのこと。二場所の、水を流し捨てること。ながし。京都、大阪の講。三つ、なま。四にげかくるもの。
 はじろをばり 圖 斬新。野菜、魚などの新しいもの。一の事。
 はじろをばり 圖 圖 菌毒器 Ungentum, bacillum, なじりか

はじろをばり 圖 走遊。はじろ廻りてあそぶこと。
 はじろをばり 圖 走出。門に近きところ。はじろで。門口。
 はじろをばり 圖 走馬。一疾く走る馬。二はなれこま。それうま。逸馬。三遊馬に用ゐる馬。②三はやうまにたなじ。
 はじろをばり 圖 蠟膏。吸ひだしに用ゐる膏藥。猪脂。松脂にて製す。
 はじろをばり 圖 走書。文字を連續して、走る如く書くこと。はやがき。
 はじろをばり 圖 走笠。はじろかきに書く。①
 はじろをばり 圖 走笠。走り乗のかぶる笠。一来る。
 はじろをばり 圖 走重。多くの人が、機重にも走り
 はじろをばり 圖 丹遊瘡。病の名。たんざくにたなじ。
 はじろをばり 圖 走蜘蛛。虫の名。くさぐまにたなじ。
 はじろをばり 圖 競走。はじろくらへ。かけっこ。①
 はじろをばり 圖 競走。一走りて、その速さを競ふこと。かけっこ。かけっこ。二轉じて、凡て、負けじと競ふこと。競争すること。
 はじろをばり 圖 走下部。はじろかきにたなじ。
 はじろをばり 圖 物事。はきはきと所置すること。①
 はじろをばり 圖 走衆。將軍家の御成の時、その道路を警固する武家の衆。
 はじろをばり 圖 走炭。はなすみにたなじ。
 はじろをばり 圖 血痔。病の名。患部より出血する痔疾。
 はじろをばり 圖 走使。馳せまはりにつかはるる奴。

をえあわ るれるりり よゆや もめんびみま はーふひは

はじりて出走。一はしりいで。門口。二魚野菜などの季節の初に、市場に出づるもの。はじりもの。三敵の外に走り出て生じたる節。

はじりのちゆうら出走。はしりしゆに同じ。

はじりびね出走火。はねびにたなじ。

はじりぶね出走船。疾く行く舟。走る舟。

はじりもも出走元。臺所のながしもの。

はじりゆ出走湯。伊豆國にある温泉。

はじりわら出走孀。舊宮にさらふ女のわらは。御車なかに従ひて走りゆくもの。

はじり出走。一馳せ行く。かく。ひしる。隠。二送ぐ。のがる。かけわたす。三疾く流れ出づ。所をひしる。四はたし出端城。でじりにたなじ。「はやる。」

はじりわたり出橋渡。一なかつたする。二ひらき。三二人の來るまで、代りてその事をあつかふこと。

はじりお出端居。家のしちかく出て居ること。

はじりをる出端折。一衣の裾を揚げて、帯に挟む。はしり。二詰めて短く穿ます。はぶく。雀穿す。

はじりわたす出波橋。なかつたす。

はじり出蓮。草の名。はぢすの翠。

はじり出斜。ななめ。すぢかひ。

はじり出魚。魚の名。一餅に似て大きく、色は白く、尾は赤し。多く近江國琵琶湖に産す。味美ならず。この魚、よくはなれて、鰓をもこゆる事あり。二はぢにたなじ。

はじり出馬。俗に、はせる。はしる。かける。出馬。出馬。出馬。俗に、はせる。はしる。かける。

俗に、はせる。はしらす。ははす。

はぢり出管。一目の兩端の、弦をかくる。二弓の、弦を受くる。三事の當然なること。

はぢりひ出蓮池。はぢすを植ゑたる池。

はぢりひ出蓮芋。草の名。莖は、色白く、中に孔あるさま、つや澤の如く、食用す。白芋。

はぢり出端敷。はんばの敷。はした。

はぢりかひに出馳交。ななめに。うちちがひて。

はぢりかひに出蓮葉。運を植うる。蓮葉。

はぢりかひに出葉少。葉のすくなくなるまで。

はぢりかひに出管刺。矢管を刺す小刀。はんざし。「り。」

はぢりかひに出管溜。弓弦の矢の管を受くる。さぐ。

はぢりかひに出蓮痔。肛門のめぐり腫みて、孔のあく痔疾。あなぢ。

はぢりかひに出蓮茶。煮えたちたる濃き煎茶を、蓮の花の中につぎこみ、これを、別に盛りたるうすき茶の中に、少しづつ入れて、香氣をよくして飲ぶもの。

はぢりかひに出斜掛。ななめに。すぢかひ。

はぢりかひに出蓮繩。海中に生ずる浮草の類。葉のうちは、小さき貝なつつけり。ふ。

はぢりかひに出蓮根。れんこんにたなじ。

はぢりかひに出蓮飯。はぢすにたなじ。

はぢりかひに出蓮臺。佛敎の器。くらくにたなじ。

はぢりかひに出密。蓮の莖の、泥中にありて、根に近き部分。

おえういあ こけくきか そせすしき こてつちた のねにた

はすのはがき出蓮葉蓋。はすのはの形したるかさなり。

はすのはがき出蓮葉貝。貝の名。たこのまくらに同じ。

はすのはがき出蓮葉者。うはきなる人。

はすのはがき出蓮飯。はすめしたなじ。

はすのはがき出蓮葉。一はぢすの葉。二蓮女などの、行狀の修まらぬもの。たてんは。三旅人宿の下女。京都、大阪の町。

はすのはがき出蓮葉娘。たてんはをすめ。うはきをすめ。しりがるむすめ。

はすのはがき出蓮葉女。あそびめ。うかれめ。蓮女。

はすのはがき出蓮葉者。はすのはのものにたなじ。

はすのはがき出蓮葉女。つつしみのなき女。うはきをんな。はすめすめ。

はすのはがき出反跳。一はぢかへる。二よきあひ。三蓮會。三蓮の、こめやなく走る。初利。

はすのはがき出反跳。一彈力のために、はぢかへる。二どきだはしくなる。あへや。三勢にのる。機會に乘す。

はすのはがき出蓮飯。一蓮の葉にて、飯を包み、蒸籠に入れて蒸したるもの。多くは、精進に供ふるもの。二蓮の卷葉を、細く割みて、熱湯をかけ、鹽を和して、飯にまじへたるもの。

はすのはがき出葉末。葉のすゑ。葉のよぎ。

はすのはがき出場末。都のはしの、邊に近きあたり。

はすのはがき出管緒。帆柱の下につくる。紐。

はすのはがき出玉莖。いんぎやうにたなじ。

はすのはがき出綠。糯米を炒りて、糠を眼らせたるもの。菓子種又

はすのはがき出沙魚。魚の名。形、こちに似て小さく、口ひろく、腹大きく、身は淡黒くして斑點あり。淡水にも、鹹水にも共に産す。鰻魚。

はすのはがき出黄櫨。木の名。はぢすにたなじ。

はすのはがき出芭蕉。草の名。はぢすにたなじ。

はすのはがき出芭蕉布。はぢすにたなじ。

はすのはがき出白膠木。木の名。はぢすにたなじ。

はすのはがき出撥反。後の方にそる。そりかへる。

はすのはがき出撥席。一はぢすの。場所。二はあひ。をり。三。はぢすの。はぢすの。はぢすの。

はすのはがき出殺精草。草の名。菘田の中に生ず。高さ四五寸。莖の末に、白き花を開く。みづたま。

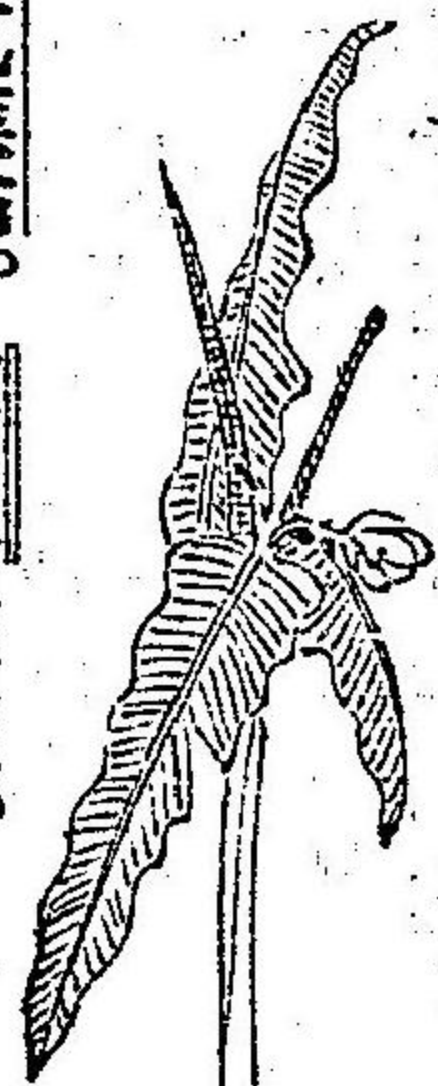
はすのはがき出爆口。さくみぐちにたなじ。

はすのはがき出魚の名。さんせつをにたなじ。

はすのはがき出越。俗に、はせこえる。馬をはせてこ。

はすのはがき出爆彈。はれつたまにたなじ。

はすのはがき出馳遠。各方面より向ひさまに、數多の者走り。身我物語。目手勝手より出て來り、中をたててはせしがへる。



(うせは)

はへふひは もめんむみま よゆや りるりら ををわ

はせはな 綵花。木の名。このめくらをさる。京都大

はせはな 馳引。馬を走らせ、目をひく。

はせはな 馳廻。馬を馳せてまはる。はせめぐる。

はせはな 馳向。馬を馳せて、敵陣に向ふ。

はせはな 波線。波の動けるが如くうねりたる線。

はせはな 破船。船の暴風雨に遇ひ、又は暗礁に觸れな

はせはな 馬駈。鞍の上に被るもの。くらしき。鞍駈。

はせはな 馳廻。はせまはるにたなじ。

はせはな 挾物。物と、物との間に挟みたるもの。はさ

はせはな 芭蕉。草の名。葉の長さ七八尺。葉は、一丈に

はせはな 芭蕉葉。芭蕉の葉。葉の葉の葉にて織りたる、丈

はせはな 芭蕉布。はせをたりにたなじ。

はせはな 芭蕉布。はせをたりにたなじ。

はせはな 魚の形。たな二に似て大きく、廣くして、鱗

はせはな 魚の形。たな二に似て大きく、廣くして、鱗

はたき 羽類。かたよるもの。たなになるもの。

はたき 羽種。羽を袖になぞらしてたな。

はたき 葉斑。葉の葉に、斑點の生ずる病。

はたき 破損。やぶれたたな。たなはたな。

はたき 端反。はしのそりたる形。

はたき 旗。年の端に、高くかかげ

はたき 紙鷹。たな、たな、たな。九州の方言。「鷹」

はたき 旗。布帛を織る器械。

はたき 旗。ひた(龍田)の葉「野菜、麥などをつくるために

はたき 旗。はたけ。陸田。京。

はたき 旗。はたけ。わき。あたり。ふち。うら。

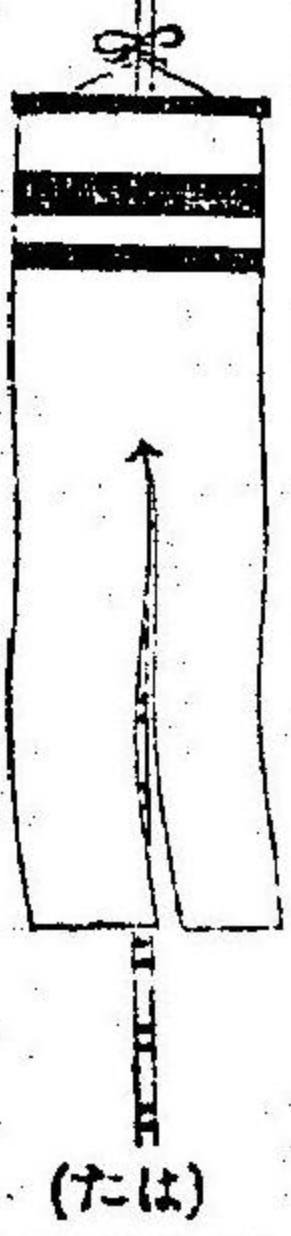
はたき 旗。はたけ。わき。あたり。ふち。うら。

はたき 旗。はたけ。わき。あたり。ふち。うら。

はたき 旗。はたけ。わき。あたり。ふち。うら。

はたき 旗。はたけ。わき。あたり。ふち。うら。

はたき 旗。はたけ。わき。あたり。ふち。うら。



はたき 旗の形。たな、たな、たな。九州の方言。「鷹」

はたき 肌合。きふう。こころもち。

はたき 齒代。人力車などの借用賃。

はたき 破題。詩文などの始めのいひだし。

はたき 馬代。一馬に代へて贈る金圓。黄金一片を、大

はたき 馬代。一馬に代へて贈る金圓。黄金一片を、大

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 旗色。戦場にて、旗の動きをたよりて、軍の

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 裸身。はたかからたな。

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたき 機織女。一機にて、布帛を織る女。織女。二

はたつり 図合法。木の名。リョウゴにたなじ。①
 はたつもの 図烟津物。烟に植えてつりたるもの。はたけもの。烟作物。②
 はたつり 図旗柱。はたぎをたなじ。③
 はたて 図盡。かきり。はて。④
 はたて 図鱗。ひたにたなじ。⑤
 はたて 図鱗。くはたて始。⑥
 はたて 図鱗。合點ならしたる時、手を打つ音の形容にいふ。二物の響つる音の形容にいふ。つたり。三物事の、しせまるまじい。⑦
 はたて 図二十歳。はたぎの二にたなじ。⑧
 はたて 図機殿。衣を脱ぎぬ。⑨
 はたて 図肌脱。はたぎぬ。肉袒。⑩
 はたて 図肌脱。一衣の上部を脱ぎ、肩をあらはす。かたむく。二他人の危きを見て、助勢す。⑪
 はたて 図肌帯。ふんじにたなじ。⑫
 はたて 図鱗狭物。ひれのせはき。小きき魚の鱗。はたのひろものに對して。⑬
 はたて 図波多野大根。大根の一種。相模國波多野といふ。地より産する大根。⑭
 はたて 図機杼。機をたると時、糸を巻けるくたを卷るるに用ゐるもの。⑮
 はたて 図鱗廣物。ひれの廣き。大なる魚の鱗。はたのひろものに對して。⑯

はたの 図入 図馬機。機織るごまに、踏みて、機を上するに用ゐる板。①
 はたの 図機棧。細き竹を列ねて、櫛の齒の如くしたる機の一具。②
 はたの 図肌袴。股引の類なるべし。③
 はたの 図雷魚。はたがみの時、多く群がるよりいふ魚の名。銀色にして、大さ七八寸ばかり。多くは、青森、秋田の近海にて、冬季取るもの。④
 はたの 図蟬蛻。虫の名。蟬に似て細長く、大さ三四寸ほかにて。田畑を飛らすもの。飛ぶまき、羽より、聲を發す。はた。はた。⑤
 はたの 図 につづけて、物をはたく音の形容にいふ。⑥
 はたの 図 二草履ならきて、人の走るごまの音の形容にいふ。⑦
 はたの 図 物の、つづけて倒るるまじい。⑧
 はたの 図 鱗の尾の上端の鱗。まごほのひれ。⑨
 はたの 図 布巾の幅。⑩
 はたの 図 幅張。幅廣くなる。ひろがる。⑪
 はたの 図 旗日。國旗を掲ぐべき大祭旗日。⑫
 はたの 図 旗奉行。大將の旗をつかさどる職。戰時には、特に武者奉行にも次ぐ重役とす。⑬
 はたの 図 肌。人蓋の裏面を被へる皮。はだ。かは。⑭
 はたの 図 小きき旗をつけたる鐘。祭禮の時建ててあるもの。⑮
 はたの 図 種。ふんじにたなじ。⑯
 はたの 図 將又。或は又。但しは。若くは。漢文の翻譯にいふ。⑰

のねにた きてつちた そせすしき こけくきか ねえういあ

はたの 図 肌身。からだ。身體。①
 はたの 図 破綻。やれほころぶ。こぼ。②
 はたの 図 破膽。きたちのすまじ。かたりする。③
 はたの 図 破談。相談のまごまらぬこと。④
 はたの 図 巴旦杏。木の名。杏の類。木の形、あんずに似て、葉は小さく厚くして、色赤なり。春、單葉の小白花あつまり開き、實は、林檎に似て發生し、熟すれば、黄赤色なる。朝鮮桃。平心字。⑤
 はたの 図 一物の、相あたる音の形容にいふ。⑥
 はたの 図 二物の、倒るる音の形容にいふ。⑦
 はたの 図 一物の、はたはた響く。⑧
 はたの 図 旗本。一將の本陣。麾下。二大將の本陣を守る兵。大將の下にありて、その號命を受ける士。三旗本衆の愛する兵。大將の下にありて、その號命を受ける士。⑨
 はたの 図 旗本衆。徳川時代の將軍直參の士。石未滿、百俵以上の薪を食みて、將軍の目見えを得るもの。目見え以上の士。⑩
 はたの 図 機物。はたたるに用ゐる道具。⑪
 はたの 図 三極世の、はたつつけの類ならんごまじい。⑫
 はたの 図 十字架に、はたかけて殺しけり。⑬
 はたの 図 機屋。はたを織るごまじい。⑭
 はたの 図 將將。またもやまたも。⑮
 はたの 図 斑。またらにたなじ。⑯
 はたの 図 斑。はたらかしむ。⑰

はたの 図 勤。はたらくこと。勉めて、事をなすこと。骨折して仕事すること。勞働。①
 はたの 図 勤。三世をわたる方につきての才智。②
 はたの 図 勤。三使役せらるるもの。③
 はたの 図 勤。勤きまき。しるし。④
 はたの 図 勤。勤の類。活用。⑤
 はたの 図 勤。人に、動作を仕掛くること。他に、向ひて、動作を起すに用ゐること。發動詞。⑥
 はたの 図 勤。まじにたなじ。⑦
 はたの 図 勤。虫の名。一蜂の蜜蜂のうちにて、蜜を吸ふこと。可るもの。⑧
 はたの 図 勤。一動く。勉めて、事をなす。骨折して仕事す。勞働。⑨
 はたの 図 勤。二用ゐたるしるしを現はす。用をなす。⑩
 はたの 図 勤。三交法上の語。諸尾の變化をなす。⑪
 はたの 図 馬盥。一馬を洗ふに用ゐる大なる器。⑫
 はたの 図 花を、はたはたに用ゐる。⑬
 はたの 図 花を、はたはたに用ゐる。⑭
 はたの 図 花を、はたはたに用ゐる。⑮
 はたの 図 花を、はたはたに用ゐる。⑯
 はたの 図 花を、はたはたに用ゐる。⑰

をるあわ るるりり よゆや もめんむみま ほよひは

はち 図鉢。「梵語鉢多羅の聲。應器の器」一天竺の食器。一
上は開き、下は窄みて、皿よりも深き器。多くは、陶製にして、
木製なるは、特に、木鉢と云ふ。ゆんぶり。三種木鉢の器。四
草木を掘るべき、根を土に一塊にたりたる器。五、臍を掘
へる骨。臍蓋骨。六、兜の頭上を覆ふ部分。蓋。
はち 図恥。過ちなかりて、心中に痛み感ずること。面目
を失ふこと。恥辱。

はち 図罰。神佛の通力にて、人の罪を罰すること。
はち 図撥。琵琶、三味線などの緒を弾き鳴らす具。「梅」
はち 図桴。太鼓、又は銅鑼なるを打ち鳴らす圓き槌。ぶち。
はち あたり 罰當。思ふ、業も知らぬたこなひ、また、そ
の人。

はち ちせ 図鉢合。「心づかず行き合ひて、己の額と、他
の額と、相打つこと。二、凡て、衝突すること。」
はち ちせ 図撥合。琵琶なるを弾き始むる時、先づ、調子
を試むること。

はち あり 有恥。恥づべきことを知り、良心あり。
はち むん 八音。八種の樂器、即ち金、石、糸、竹、匏、土、
革、木より發する音。

はち むる 圓圖 恥入。深く恥づ。
はち ちせ 鉢植。粗木鉢に植るたる草木。盆栽。
はち ちせ 八葉。「八葉の蓮華に象りたる紋所。二富士
山の絶頂を形容して云ふ。
はち ちせ 八葉車。天子の召し給ふ御車。
はち ちせ 八音。はちのひびき。

はち じの ひげ 八字鬚。八の字の如く、兩方に別れて
たひたるくちひげ。
はち じの 女 八字眉。憂愁、又は憤恨して、額をしか
むる時の眉毛のさま。うれへのまゆ。八眉。
はち じの 八十八夜。歴の節。立春より、第八
十八夜にあたる日。大抵、太陽暦の五月二日にあたる。この
頃、農家にては、種時をなす。

はち ちせ 八恥不知。恥を、はちちもたぬもの。
はち ちせ 八圖 差。はちらふにたなじ。
はち ちせ 八木槿。木の名。きはちすにたなじ。東國の方言。
はち ちせ 八蓮。草の名。池沼などに生じ、春、莖根より、新葉
を出だし、漸く長じて、水面を出でたる様は、傘を張りたるが
如し。夏、花茎を生じて、美しき紅、又は白の花を開く。

はち ちせ 八介。八人の介。出羽國に秋田城介、相模國
に三浦介、下總國に千葉介、上總國に上總介、伊豆國に狩野介、
加賀國に富樫介、周防國に大内介、遠江國に井伊介、これを、八
介といふ。
はち ちせ 八蓮臺。「蓮の花の上。二、佛敎の謂。極
樂淨土。

はち ちせ 八蓮臺。佛敎の謂。はちすのうてたにたな
はち ちせ 八のつゆのねがひ 八蓮上露願。佛敎の謂。
極樂淨土にのつかんことをねがふこと。
はち ちせ 八のつゆのねがひ 八蓮上露願。佛敎の謂。
果はちすはのひにぞ人はたもふらん」

はち ちせ 八蓮葉。蓮の葉。はす。
はち ちせ 八鉢臺。植木鉢なるのする臺。

はち かい 八戒。佛敎の謂。八のいましめ、則ち不殺生、
不偷盜、不行淫、不妄語、不酤酒、不坐高廣大牀、不塗脂粉、不飲
舞作樂及住綺靡。

はち かがや 八圖 羞。顔の赤くなるほさ、はぢいる。
はち かがや 八撥革。三味線の革の、撥のあたるべき部分に、
貼りたる他の小き皮。小犬の皮を用ゐる。
はち かがや 八圖 恥交。互にはぢあふ。

はち かがや 八圖 恥。いかにも、はぢこなるべき様なり。
はち かがや 八圖 逆。古律の八つの大罪、即ち謀反、謀大逆、
惡虐、不道、大不敬、不孝、不義、謀叛。

はち 八 淡竹。竹の一種。節の間、眞竹より短く、能く、
成長して、長きものは、三丈に及ぶといふ。筍は味よし。
はち 八 破竹。「竹をわること。二、竹を割るに、その一
端に、刃を加ふれば、數節立ちまごころに、裂くるよりいふ」勢
の烈しくして、止の難きに譬へて云ふ。

はち 八 圖 薺。草の名。なつたにたなじ。
はち 八 八間。大きく平たき屏行燈。燈所なるにつる
して、四方を照らすやうにせるもの。
はち 八 八間。はちこくりたなじ。

はち 八 八座。「八人あるよりいふ」參詣の稱。
はち 八 八鉢着。皿の外に、また鉢に盛りたる肴。
はち 八 八恥曝。わが身の恥なることを、他人の前
にて示すこと。

はち 八 八字。八の字の如きさまに。

はち ちせ 八代龍王。佛敎の謂。八つの龍
王、即ち難陀、跋難陀、婆伽羅、和修吉、德叉迦、阿那婆、達摩那
斯、摩鉢羅。

はち ちせ 八道。わが國の畿内以外の地を、八つに區分
したるもの、即ち東海道、東山道、北陸道、北海道、山陽道、山陰
道、南海道、西海道。

はち ちせ 八陣。兵法の謂。八様の陣立。通例は天地、
風、雲、龍、虎、鳥、蛇の八物にかたされども、兵法家によりて、
その形同じからず。即ち孔明の網ふるものは、洞窟、中黄、龍
騰、鳥翔、連衡、握奇、虎翼、折衝、また吳起のは、車箱、車輪、曲
陣、陣陣、直陣、封陣、衝陣、驚駭陣、また孫子のは、方、圓、牝、牡、
牡、衝方、累置、車輪、雁行、また大江維時、唐より傳へ來れり
ことふは、魚鱗、鶴翼、雁行、彎月、鋒尖、衝銳、長蛇、方圓。

はち ちせ 八丈。八丈絹の器。
はち ちせ 八丈貝。貝の名。にしきがひに同じ。
はち ちせ 八丈絹。絹布の上等なる織物。八丈
島より織り出だす。黄八丈、黒八丈の二種あり。黄八丈は、島
人は、丹後織といふ。

はち ちせ 八丈桑。木の名。桑の一種。八丈島よ
り産するもの。その葉は、眞質にして、最も養蠶に適すとい
ふ。「丈島に産す。」

はち ちせ 八丈繭。草の名。したの一種。八
丈島より産す。きはちちやうにたなじ。黄八
丈を眞似て織りたる布匹。

はち ちせ 八丈繭。八丈島より織り出だす繭。

はっけ

はっけ 卦 八卦。一易の語。八種の卦、即ち乾、兌、離、震、巽、坎、艮、坤。二つらなひ。ト占。
はっけ 卦 末家。ぶんけにたなじ。
はっけ 卦 入刑。周禮にいふ、入つの刑罰、即ち不孝、不睦、不嫺、不任、不恤、造言、亂民。
はっけ 卦 入景。名所につきての、八種の佳景。わが國にては、近江八景、金澤八景、南都八景などあり。昔、漢土瀟湘の八景、即ち江天暮雪、瀟湘夜雨、山市晴嵐、遠浦歸帆、遠寺晚鐘、平沙落雁、漁村夕照、洞庭秋月に擬へたるもの。
はっけ 卦 發見。既に、世にありながら、人に知られざりしものを見出したすこと。
はっけ 卦 法眷。佛敎の語。僧家の弟子。
はっけ 卦 發遣。はげんにたなじ。
はっけ 卦 發言。はつごんにたなじ。
はっけ 卦 初子。始めて生れたる子。
はっけ 卦 發語。はつごんにたなじ。
はっけ 卦 跋扈。一をさりはるること。二わがままに振舞ふこと。はひんごう。
はっけ 卦 入穀。八種の穀物、即ち黍、稷、稻、粟、禾、麻、蕎麥。
はっけ 卦 初氷。その年の冬、初めて張れる氷。
はっけ 卦 初聲。はじめて鳴く聲。
はっけ 卦 未座。一座のはし。一座のする。
はっけ 卦 入災。佛敎の語。入つの災、即ち憂、苦、喜、

はつち

はつち 卦 伐採。樹木などをきり取ること。
はつち 卦 入相。佛敎の語。羅迦の生涯の、八度の還相、即ち任胎、嬰孩、愛欲、樂行、降魔、成道、轉法輪、入滅。
はつち 卦 入草。八種の草、即ち菖蒲、艾葉、車前、荷葉、蒼耳、忍冬、馬鞭、薔薇。
はつち 卦 入朔。陰曆八月一日の朔。この日、農家にて、その年の穀を收め、田實の節として、これを祝ふ。二徳川氏の制にて、節日の一。家康、天正十八年の八朔に、始めて、江戸城に移りしにより、この日を、關東入朔の日と稱し、大小名及び直参の諸臣は、白帷子を著て登城し、祝詞を、將軍に奉れりといふ。
はつち 卦 初櫻。さきてより、時をへぬ櫻の花。
はつち 卦 罰札。罪狀をしるしたる札。
はつち 卦 入算。數算の語。和算の術。單位、即ち二桁の掛算、割算をいふことの日安。十位以上を見いといふ。
はつち 卦 初申。二月の初めの申の日。この日、春日社に、御祭、御利刀を以て奉き物を切り倒したるさまにいふ。の祭典あり。
はつち 卦 入史。左大史、右大史、左少史、右少史、たのたの、二人あり。
はつち 卦 末子。すそご。たごご。季子。
はつち 卦 入洲。一關東八箇國、即ち武蔵、相模、安房、上總、下總、上野、下野、常陸。二關八州の地方を巡廻する捕吏。徳川時代の語。

のねにた きてつらた そせすしき こけくきか たえういあ

はつち 卦 入時雨。冬になりて、初めてふるしぐれ。
はつち 卦 初矢。飛び來て、つき立つさまにいふ。
はつち 卦 初入。色を染むる時、まづ初めて、染ること。
はつち 卦 初潮。最初にくむ潮。
はつち 卦 初入染。はつしほの染物。うすき色の染物。
はつち 卦 發信。書狀なごにて、拜信を出だしやること。(受信に對して)
はつち 卦 發疹。腫物の生ずること。
はつち 卦 發軌。車にて、たびだちすること。
はつち 卦 發信人。拜信を出だしやる人。(受信人に對して)
はつち 卦 初霜。その年、初めてたく霜。
はつち 卦 初霜月。陰曆十月の異稱。
はつち 卦 發車。車の出づること。(多くは、汽車にいふ)
はつち 卦 發射。弓を射ること。
はつち 卦 入省。古の入つの官省、即ち中務、式部、兵部、治部、刑部、民部、大藏、宮内。
はつち 卦 代商。材木あきんご。
はつち 卦 入將神。陰陽家の語。吉凶の方位を司る、入つの神、即ち太歳神、太陰神、歲破神、黃幡神、大將軍、歲刑神、歲殺神、約尾神。

はつち 卦 入省院。古、内裏にありて、八省の百官が、政務を執りし役所。その正殿を、太極殿といふ。朝堂院。
はつち 卦 罰酒。はつちにいふ。
はつち 卦 入宗。佛敎の語。佛敎の八つの宗派、即ち律、俱舍、成實、法相、三論、天台、華嚴、眞言。
はつち 卦 發出。發し出づること。
はつち 卦 拔出。擇り抜くこと。
はつち 卦 入升豆。草の名。豆の一種。葉は、なた豆より大きく、花は、淡紫色にして美し。
はつち 卦 法嗣。佛家の宗を傳へ嗣ぐ僧。
はつち 卦 圓解。はつちるやうになす。ほぐす。はつち。
はつち 卦 圓外。一ミリ去る。さりのく。二担ひを違ふ。あて担ふ。三つしなふ。機に接る。圓さけ退く。
はつち 卦 入寸。足の高さ八寸ほごの脚。
はつち 卦 拔萃。一衆に抽づること。抜群。二用あること。をきぬこと。抄録。
はつち 卦 初瀨。名香の名。せんの一體。
はつち 卦 初香。馬に、始めて、荷を負はしむること。一説に、はだせの脚なりともいふ。
はつち 卦 入姓。古の入つの姓氏、即ち真人、朝臣、宿禰、忌寸、道師、臣、連、稻置。
はつち 卦 發聲。はえいづること。
はつち 卦 發聲。一聲を出だすこと。二宮中の御歌合の時、諸人の詠歌を讀み上げる後日。
はつち 卦 入政。飲食、衣服、事務、異別、度、量、數、制の

をるわ るれるりら よゆや もめんむみま ほへふひは

はつち

はつち 卦 入省院。古、内裏にありて、八省の百官が、政務を執りし役所。その正殿を、太極殿といふ。朝堂院。
はつち 卦 罰酒。はつちにいふ。
はつち 卦 入宗。佛敎の語。佛敎の八つの宗派、即ち律、俱舍、成實、法相、三論、天台、華嚴、眞言。
はつち 卦 發出。發し出づること。
はつち 卦 拔出。擇り抜くこと。
はつち 卦 入升豆。草の名。豆の一種。葉は、なた豆より大きく、花は、淡紫色にして美し。
はつち 卦 法嗣。佛家の宗を傳へ嗣ぐ僧。
はつち 卦 圓解。はつちるやうになす。ほぐす。はつち。
はつち 卦 圓外。一ミリ去る。さりのく。二担ひを違ふ。あて担ふ。三つしなふ。機に接る。圓さけ退く。
はつち 卦 入寸。足の高さ八寸ほごの脚。
はつち 卦 拔萃。一衆に抽づること。抜群。二用あること。をきぬこと。抄録。
はつち 卦 初瀨。名香の名。せんの一體。
はつち 卦 初香。馬に、始めて、荷を負はしむること。一説に、はだせの脚なりともいふ。
はつち 卦 入姓。古の入つの姓氏、即ち真人、朝臣、宿禰、忌寸、道師、臣、連、稻置。
はつち 卦 發聲。はえいづること。
はつち 卦 發聲。一聲を出だすこと。二宮中の御歌合の時、諸人の詠歌を讀み上げる後日。
はつち 卦 入政。飲食、衣服、事務、異別、度、量、數、制の

はつち

はつち 卦 入省院。古、内裏にありて、八省の百官が、政務を執りし役所。その正殿を、太極殿といふ。朝堂院。
はつち 卦 罰酒。はつちにいふ。
はつち 卦 入宗。佛敎の語。佛敎の八つの宗派、即ち律、俱舍、成實、法相、三論、天台、華嚴、眞言。
はつち 卦 發出。發し出づること。
はつち 卦 拔出。擇り抜くこと。
はつち 卦 入升豆。草の名。豆の一種。葉は、なた豆より大きく、花は、淡紫色にして美し。
はつち 卦 法嗣。佛家の宗を傳へ嗣ぐ僧。
はつち 卦 圓解。はつちるやうになす。ほぐす。はつち。
はつち 卦 圓外。一ミリ去る。さりのく。二担ひを違ふ。あて担ふ。三つしなふ。機に接る。圓さけ退く。
はつち 卦 入寸。足の高さ八寸ほごの脚。
はつち 卦 拔萃。一衆に抽づること。抜群。二用あること。をきぬこと。抄録。
はつち 卦 初瀨。名香の名。せんの一體。
はつち 卦 初香。馬に、始めて、荷を負はしむること。一説に、はだせの脚なりともいふ。
はつち 卦 入姓。古の入つの姓氏、即ち真人、朝臣、宿禰、忌寸、道師、臣、連、稻置。
はつち 卦 發聲。はえいづること。
はつち 卦 發聲。一聲を出だすこと。二宮中の御歌合の時、諸人の詠歌を讀み上げる後日。
はつち 卦 入政。飲食、衣服、事務、異別、度、量、數、制の

はつば 煙草。たばこをいふ。見供の辭。
 はつば 罰杯。酒席にて、勝負ごとなきに、負けたる人に、酒を強ふること。
 はつば 四方。四方を、四隅を。やたも。二周。四方。三はちけんになじ。
 はつば 八方美人。一人人が、いつかたより見ても、美人に見ゆるもの。二人人よりも悪まれやうに、振舞ふ人。
 はつば 初秋。初めて花さける秋。「すぢ」。
 はつば 魚の躍り。魚の躍りはぬるさまにいふ。ひびきはつばに端端。わづかに。かすかに。仄かに。
 はつば 飛びはぬるさまにいふ。二閃くさまにいふ。三物を、借しけもなく費すさまにいふ。
 はつば 初花。その年、始めて咲く花。二若木に、始めて咲く花。「物の色」。
 はつば 初花月。古への初花にて染めたる者。陰曆正月の異稱。
 はつば 初春。春の初め、即ち陰曆の新年。
 はつば 初春月。陰曆正月の異稱。
 はつば 半被。武家にて、中向、小者なさに、着する羽織の如きもの。その家の紋なきをつく。二凡て、隠しき人の着る羽織の如きもの。法被。

はつば 初日出。正月元日の朝日。
 はつば 髪病。病の起ること。
 はつば 髪膚。髪の手と皮膚を。
 はつば 八風。天下へ觸れ示すこと。
 はつば 八福田。佛敎の辭。入つ功德、即ち賤賤の義井、水路の橋梁、險路の平治、父母に孝順、沙門の供養、病人の給事、危厄の救助、無邊會の設立。
 はつば 初舞臺。舞臺に出でて、初めて、技を演ずること。二舞臺に、今までに、無邊のなきしむ。
 はつば 八分。漢字の書體の一。小篆二分、隸書八分を雜したるものなりといふ。
 はつば 跋文。ふんはつすること。氣をひきたつこと。はつにたなじ。
 はつば 半頭。頭を、半分づつたはふよりいふ。かぶりにつきたる額金。
 はつば 發表。公衆に示すこと。發布。
 はつば 拔鎗。鎗を上げて、敵の港を出づること。
 はつば 初穂。結び初めたる稻の穂。二古、初穂は、まつ、神に捧ぐる習なりしよりいふ。神、又は貴人に奉るはつもの。
 はつば 發泡。肌に貼りて、水泡を發せしめて癩す膏藥。
 はつば 發墨。硯にて磨りたる、墨の磨れ方。



あいうえお かきくけこ しせすじゆ てつちた なねのね

はつば 伐木。熊夫なまの、樹木を伐ること。
 はつば 初穂薄。初めて、穂の出でたる薄。
 はつば 初馬。はつばの馬。
 はつば 初孫。初めて生れたる孫。うひまこ。
 はつば 初見草。秋の異名なりとも、冬菊なりとも、卵の花なりとも云ふ。
 はつば 初見月。陰曆正月の異稱。
 はつば 初雪。はつゆきにたなじ。
 はつば 初音。上等の煎茶、又は抹茶の名。
 はつば 發明。初めて、物事を考へ出だすこと。新工夫。二新に、物をおみ出だすこと。三さかして、さかすこと。利口。伶俐。
 はつば 發明人。新に、物事を工夫したる人。
 はつば 初藻。初めてかる藻。
 はつば 初元結。昔、元服のとき、紫の紐にて、髪を結びしこと。二轉じて、元服の稱。
 はつば 初物。果穀、蔬菜なまの、その年初めて出でたるもの。二昔て見附し、又は味ひたることなき物。
 はつば 初山。その年になりて、初めて登出。二つまたてより、はじめての登山。
 はつば 初槍。戰場にて、第一に敵の槍を交ふること。二つまたてより。
 はつば 初湯。はじめて用ゐる湯。あたらしき湯。うたご。

はつば 巴豆油。巴豆よりとりたる油。
 はつば 初雪。その年の冬になりて、初めて降る雪。二表は白にて、裏は、白のすこしうるみたるかさねの色目。
 はつば 初雪見參。初雪の降る日、群臣の參内する古の公事。相武天皇延暦十一年十一月よりはじまる。
 はつば 初夢。その年になりて、初めて見る夢。二二月二日の夜、初めて見る夢。江戸の習俗に、この夜、置敷にて、七福神の一組に乗り居る輪を、枕の下に挟み置かれ、吉夢を見よといふ。
 はつば 初夢漬。茄子の小ききものを、芥子で、鹽にて漬けたる漬物。
 はつば 初夜。はじめての夜。
 はつば 初代草。植物。松の異名。
 はつば 撥亂反正。世の亂を平けて、太平にかへすこと。
 はつば 未流。しそん。はつそん。末業。二流儀のわかれ。
 はつば 國圖斫。一端を、少しへぎ、又は削りて、さへつる。手斧で材木を、はつる。
 はつば 國圖純。俗に、はつれる。編みたる糸なまが、片はしより解けはなる。はつる。ほぐる。
 はつば 國圖斫。はつるの聲。
 はつば 國圖脱。俗に、はつれる。一揃まりたるものが、脱げはなる。二中ら。たがふ。

はづれ 図端。「はづれ」は、つまりのをはり。二穂外の畝。
 はづれ 図外。あたらしいこと。
 はづれん 図發聲。天皇の御出立遊はさるること。
 はづれゆき 図。またたりに、少しふりたる雲。
 はづれ 図發露。露しことのあらはるること。露頭。露腹。
 はづれ 図發話。はなしを初むること。話しかくること。
 はづれ 図羽杖。鷹の羽をひろげて、こぶしを仰ぶるが如くするこぶしなりこと。
 はづれ 図極尾。鳥の尾の中にて、最も長きもの。したりはづれを 図初索。秤の第一の紐。目方の軽きものを秤るときに用ふる。
 はづれ 図果。「はづれ」す。しまひ。かぎり。極。二人の延にたる時の四十九日、又は一周年。忌の終り。
 はづれ 図入手。「指を掛けて乾すもの。這の如くにて、柱を、入れ交へに立てたるものなりこと。はづれ。はづれ。
 はづれ 図華美。華やかに粧ふこと。立派。
 はづれ 図波底。なみのそと。うみのそと。
 はづれ 図馬丁。「小荷駄馬の口取。うまかた。まご。二乗馬の口取。マッたう。
 はづれ 図馬蹄。「馬の蹄。二穂の異名。
 はづれ 図馬蹄石。踏物。青藍色にして、表面に、馬蹄の如き形ある石。庭の置石ならに用ふる。
 はづれ 図巴調。落俗なる調子といふ義にて、自作の詩歌、文章に用ふる。

はづれ 図破潮鱗。魚類の腹面にある鱗。
 はづれ 図果方。事の終らんことを時。
 はづれ 図果。「はづれ」にたなじ。「はづれ」して「二番幕の末、江戸藩研堀の盛者の盛。房事の異名。
 はづれ 図艶容。はづれに粧ひたる姿。
 はづれ 図果方。「はづれ」にたなじ。
 はづれ 図。「はづれ」してはす。蓋月。
 はづれ 図果月。「事の終はる月。二年の終はりの月。
 はづれ 図果日。「事の終はる日。二月の末の日。みまか。蓋日。
 はづれ 図果業。四十九日、又は一周年ならに行ふ佛はづれのを 図果緒。毎の事の端にかくる終、即ち市の綱。
 はづれ 図果果。はづれのはづれ。すゑのすゑ。ささのつまみ。終極。
 はづれ 図破天荒。いきなりに、未だ嘗てあらざりし破れたるもの現はるること。
 はづれ 図天連。「葡萄牙語 Padre の訛」横田信長時代に來れる耶穌宣教師の汎稱。
 はづれ 図鳩。鳥の名。むく鳥より、やや大なり。家鳩。山鳩。數珠掛鳩なき種類多し。
 はづれ 図法度。「はづれ」にたなじ。
 はづれ 図波戸。陸より、海の中に突出して繋ける、土石の堤。波よけ又は荷物の揚げ卸しの便に供す。

はづれ 図 笑ふ聲の形容にいふ。
 はづれ 圖 馬奴。うまかた。まご。
 はづれ 圖 波動。うまかたつら。まごまごつら。
 はづれ 圖 波頭。つらみのほじり。
 はづれ 圖 馬頭観世音。六観音の一。三面入聲あるもの。
 はづれ 圖 馬頭瘡。病の名。ふれきにたなじ。
 はづれ 圖 馬桐油。旅人の、荷物と共に、馬上にて、身を被ふにもちる大なる桐油合劑。
 はづれ 圖 大青。草の名。たてあひの一種。高さ二三尺。莖の節ごとに、長き葉、對生す。秋、葉に似て、赤はめる小き花を開く。くさくさ。
 はづれ 圖 鳩酒。鳩の肉を、よくたたくて、酒に和し、味噌を加へて煮たるもの。
 はづれ 圖 鳩染。黄ばみたる頑黄、即ち麩麩の色。
 はづれ 圖 鳩杖。はづれにつらにたなじ。
 はづれ 圖 鳩車。木にて、鳩の形を刻み、車輪をつけ、糸なごをつけて、後きゆくやうに作りたる子供の玩具。
 はづれ 圖 鳩杖。頭に、鳩の形を刻みつけた杖。老人のつくもの。
 はづれ 圖 波月場。波戸のあるところ。埠頭。馬頭。
 はづれ 圖 ねみ 圖 鳩羽鼠。ねすみいろの、紫がかりたる染色。色。
 はづれ 圖 鳩吹。秋の頃、獵人が、鹿を呼び寄するたゞに、二つの手を合せ、口にて吹き、鳩の鳴くまねをなす。

はづれ 圖 鳩麥。草の名。やだまに似たるもの。
 はづれ 圖 鳩胸。「前方に張り出でたる胸。二穂の名。こゝ。前部の屈曲して、高くなりたること。
 はづれ 圖 鳩目。煙草入なごにつくる環状の金物。
 はづれ 圖 鳩止。車輪の運轉をさむる仕掛。廻輪。
 はづれ 圖 執鞭。朝賀の時、御帳をかかぐる女房。
 はづれ 圖 織部。「はたりの約」機を織ること。又は、その人。
 はづれ 圖 火藥包。「和蘭語 Patroon」は「はた」にたなじ。
 はづれ 圖 鳩尾。左の綿上につけて、高紐を被ふ袋。
 はづれ 圖 花。「植物の枝、又は莖に生じて、生殖作用をなす機關。二専ら花の調。一説に、古は、梅の花をいへりこといふ。三説しきこと。美しきこと。花やかなること。華美。四は、まはえ。五後者、角力、藝者、茶屋女なごに、心づけとして與ふるもの。後者は、衣服、金銀を與ふるもの。古は、眞の老を與へたり。祝儀。廻頭。六莖前に手向くる際、又は神なご。實は、草木の花を用ふるべきもの。
 はづれ 圖 鼻。顔の中央に、高く突き出でたる部分。鼻をかぎ、及び呼吸を司るもの。
 はづれ 圖 涕。鼻の中より分泌する粘液。はなしろ。
 はづれ 圖 端。一物事の始め。まごまご。二はづれ。はし。
 はづれ 圖 花合。「昔、櫻花を、左右に分ちて、優劣を争ひたる遊戯。二花がたを、二人、若くは、三人にて合せりて、その勝敗を判すること。岡花牌。
 はづれ 圖 花虹。虹の名。色黄にして明なく、よく花の蓋を吸ふ。

はなあぶひ

はながた

はなあぶひ 花葉。草の名。葉は、普通のよりも大きくして、葉の高さ一丈ばかり。花は、葉の間に開き、單瓣なるも、重瓣なるもあり、その色も紅、白、紫等さまざまあり。からあぶひ。たちあぶひ。獨坐。

はなあぶひ 花鼻脂。鼻のほりに分泌する油の如き汗。はなあぶひ 花舊蒲。草の名。あやめの一種。山籾なみに生じ、夏の初め、濃き紫色の花を開く。漢語は「表は白にて、裏の萌芽色なるかざの魚月」。

はなあぶひ 花鼻風。馬なりの鼻息を、強くすること。はなあぶひ 花竹。一花の枝を置き添へたる竹。二花の、散りて、水面に浮び流るるを、筏にならしていふ。三たしろいしたに用ゐる香料。

はなあぶひ 花鼻息。鼻にて呼吸する氣息。駒。

はなあぶひ 花車。一標の花の板にて、互にうちあふ遊藝。二はなあぶひに木なし。

はなあぶひ 花瓶。草木の花を活ける器。はなだてくわびん。

はなあぶひ 花色。一花の色あひ。二濃きをいふ。はなだいろ。(多く衣服の裏地などに用ゐる)

はなあぶひ 花色裏。花色の粗の裏をつけたる着物。女の着もの。

はなあぶひ 花色衣。その花の色あひの衣。

はなあぶひ 花鼻。鼻、少し加く。(笑はんとしてこらふ時のさまじい)

はなあぶひ 花鼻。一端なさを、鼻にかけて、小聲に聞くこと。また、その小聲。二八言な言も入れて、己が思

ふまに、事を行ふさま。

はなあぶひ 花空穂。輦に花を挿したるもの。

はなあぶひ 花寶。花を賣りある人。はなや。

はなあぶひ 花落。薄紙にて、塗したる漆。

はなあぶひ 花落。胡瓜、茄子などの、花落ちてより同もの、取りたる。

はなあぶひ 花香。茶などの、にはひひの、かうはしきもの。

はなあぶひ 花鼻明。あてがはづる。失望す。

はなあぶひ 花鼻繩。牛の鼻に通す繩。

はなあぶひ 花香。佛前に供ふる花。

はなあぶひ 花柑子。未だ實のらで、花咲ける頃の柑子。

はなあぶひ 花垣。花の咲きたる草木にて造れる垣。

はなあぶひ 花鼻欠。微毒なことに、鼻のかけたる人。

はなあぶひ 花籠。草木の花の枝を盛りたる籠。はなご。はながたみ。

はなあぶひ 花笠。造花なごにて装ひたる笠。祭禮の時な

はなあぶひ 花鼻風邪。腹痛の一種。鼻の粘膜、かわきて、閉塞し、鼻汁を出だす病。鼻加答見。

はなあぶひ 花鼻風。はなあらしに木なし。

はなあぶひ 花風。陰曆三月頃、即ち花のさく頃に吹く風。もがさのあて。あはた。

はなあぶひ 花痘痕。膿物、染物などの模様に、種種の花の形を畫けるもの。花文。二「草に、葉の花をつくるよりいふ」號の異名。婦人の髷。三俳優なごの、花やかに扮したる若年のもの。

はなあぶひ 花瓶。自慢なり。高よりあり。

はなあぶひ 花籠。花をつみいる籠。はなご。

はなあぶひ 花勝負。植物。かまやまあやめなりとも、また、まこも、なりとも、たのじも、なりともいふ。

はなあぶひ 花蔓。草の名。さみせんかづらをいふ。西國の方言。

はなあぶひ 花鬘。一舞人の、時の花をさりて、かざしにするもの。二花にて飾りたる鬘。三かづら。

はなあぶひ 花簪。花びらの如く見ゆるよりいふ、髪飾を、細かく細くかき削りたるもの。

はなあぶひ 花鼻革。馬の鼻に着くる革ひも。韃靼。

はなあぶひ 花貝。貝の名。さくらがひに木なし。

はなあぶひ 花楓。木の名。ウリのきに木なし。

はなあぶひ 花返。はながへること。

はなあぶひ 花返。はないろに染めたる物の、色がさめかへる。

はなあぶひ 花鼻紙。鼻をかむに用ゐる紙。多くは、ちり紙。

はなあぶひ 花鼻紙入。はながまどくりに木なし。

はなあぶひ 花香實梅。木の名。梅の一種。花屋しく、香高く、實も、また善し。

はなあぶひ 花鼻紙袋。鼻紙、金銭、藥品、小鏡、名札、その他、外出するとき、入用なる物品を入るる袋物。紙入。懐中物。夾袋。

はなあぶひ 花鼻紙袋。はなしろをいふ。はなご。

はなあぶひ 花鼻紙袋。造り花をさして飾れる。小女の

はなあぶひ 花瓶。はなごに木なし。

はなあぶひ 花加留多。花合せに用ゐる札。凡て、四十八枚あり。四季の花又は、松なごを四枚づつ、異なりたるさまに置く。

はなあぶひ 花殼。一活花に用ゐるはりて、捨てたるもの。

はなあぶひ 花鼻木。牛の鼻に、孔を通す木片。

はなあぶひ 花鼻木。切りすたる木のはし。

はなあぶひ 花鼻木。箱地に、唐草なごを畫きたるもの。きり。

はなあぶひ 花鼻釘。頭に、花がたの飾ある釘。

はなあぶひ 花鼻。はなすぢ。はなすね。

はなあぶひ 花鼻餅。しんごを、固く固くし、中をくほめて、餡をのせたもの。灌佛會の時用ゐる。いたたき。

はなあぶひ 花鼻。額母子にて、當りの外に、多少の金錢を得たるべき。

はなあぶひ 花鼻。一まひなひ。二見供の泣きなごするを感ずるために興ふる粟子。

はなあぶひ 花鼻。鼻の孔の中に、はなしろの固まりたる

はなあぶひ 花鼻。微毒なごにて、鼻を傷へるもの。

はなあぶひ 花鼻。櫻の花の開く頃、空の、霞みこめて盛り勝ちなること。

はなあぶひ 花栗。女色をいふ。羽後國秋田の方言。

はなあぶひ 花會。職人なごの、金錢を賣り集めんがために、出入先へ、手紙を配りなごして催す會。

はなごけ

はなごけの目花慈姑。草の名。たまたかにたなご。
 はなごけの目花毛。鼻の孔の中に生ずる毛。
 はなごけの目花鼻毛長。女色に深くたはる。
 はなごけの目花鼻毛。たしなぐ。誰かしら。
 はなごけの目花鼻毛。女にたはる。
 はなごけの目花籠。はなごけにたなご。
 はなごけの目花昔。草の名。しらにけにたなご。
 はなごけの目花心。あたる心。うはきこころ。いろこころ。事情。
 はなごけの目花御座。はなごけにたなご。
 はなごけの目花込。花のつきたるままはなごけにたなご。
 はなごけの目花衣。はなごけの衣。さくらがさねの衣。
 はなごけの目花鼻聲。一せび泣きながら、濁りて出づる鼻。二涙にむせびて、鼻のつまたるこきり。
 はなごけの目花柳。木の名。しきみをいふ。伊勢國の方言。
 はなごけの目花不咲身。世にあらはれぬ身。こきり。
 はなごけの目花盛。花の盛りに咲き掛る頃。満開。
 はなごけの目花前。はなごけにたなご。
 はなごけの目花詐欺。花合せにこごけ、共謀して、金銭をあせむること。また、その人。
 はなごけの目花櫻。一うすくねなる美しき八重櫻。二表は白色にて、裏の青なるかさねの色目。
 はなごけの目花皿。佛家にて、供養の花を盛る器。

はなごけ

はなごけの目話。一話すこと。語ること。ものがたり。二事のさま。事情。
 はなごけの目放。そのままにすてたきを示すに用ゆる。
 はなごけの目話合。相方が合意の上にて事を計ること。
 はなごけの目話相手。話をすあひて。こけがたき。
 はなごけの目話合。一相談す。互にはなす。二かたらふ。共謀す。
 はなごけの目話家。席亭に出でて、昔話、又は落語なすする人。しか。落語家。
 はなごけの目放飼。一牛馬などを、山野などに放ちて畜ふこと。はなごけの放牧。二はうじやうを同じ。
 はなごけの目鼻聲。鼻かき、物事を考へ出だしたる言。鼻の左右に鼻をよす。
 はなごけの目話口。話し出だす口。話し口より。話頭。
 はなごけの目話上手。話を、巧にすること。又は、その人。能辨。
 はなごけの目話好。対話を好むこと。また、その人。
 はなごけの目花下陸。花のしたかげ。
 はなごけの目鎮花祭。鎮花祭の器。
 はなごけの目鎮花祭。古来の末、花の散る頃、疫病神の分散して、人を癒ますこと、それを鎮めんがため、神祇官にて執行せし祭。
 はなごけの目話伽。長者の氣を盛るために、そのはなしあひてをすること。

のねにた こつちた そせすしき こけくきか たたういあ

はなごけ

はなごけの目放鳥。死者の冥福のために、籠の鳥を放ちやうこと。はなごけ。
 はなごけの目花稻。米を紙に包みて、木の枝に掛け、幣の如くして、神に奉るもの。
 はなごけの目花薬。しらにたなご。
 はなごけの目花鹽。種種の花形に製したる燒鹽。播磨國赤穂の名産。
 はなごけの目花絞。花形を絞りにしたるもの。
 はなごけの目花菖蒲。草の名。はなごけに同じ。
 はなごけの目花栢榴。木の名。栢榴の一種。花赤又は赤白の絞りの八重にて、實を結ばぬもの。
 はなごけの目花蓴菜。草の名。あまにたなご。
 はなごけの目鼻液。鼻の孔より出づる粘液。はなごけ。はなごけの鼻白。鼻の孔の白きもの。「なご」。
 はなごけの目鼻白。心後れす。はなごけ。
 はなごけの目鼻放。はなごけにたなご。「の」。
 はなごけの目花昔。こけを聞かす。話をす。かたる。かひ。
 はなごけの目花昔。草の名。ちもにたなご。
 はなごけの目花薄。穂に出でたる穂。をばな。
 はなごけの目鼻聲。物事の、心にこみわたる時、鼻をすすりあげてなくこと。すすりなせ。
 はなごけの目鼻筋。鼻のさきより、兩眼の間までの高さ部分。はなごけの筋。

はなごけ

はなごけの目花蘇芳。木の名。春、こきむらさき色の小花むらがり開く。實は、葉の内を生じて、豆より小さし。花開きて、後、葉生ず。すはうき。
 はなごけの目花吸。鳥の名。めじろをいふ。陸奥國の方言。
 はなごけの目花相撲。一年に二度、東京本所區元町回向院にて興行する本相撲の外、各地にて、三日以上、八日以内興行する相撲。
 はなごけの目花摺。萩、又は露草の花を摺りつけて、衣に、その花の色を染むること。
 はなごけの目花摺衣。花すりの衣。「同じ」。
 はなごけの目花石菖。草の名。いせさしやうに。
 はなごけの目花鹿。はなごけにたなご。
 はなごけの目話。話しあひてをすること。
 はなごけの目花園。花の咲く草木を植ゑ込みたる園。花舟を培養する庭。
 はなごけの目花染。一櫻の花の色に染めたるもの。二露草の花にて染めたるもの。
 はなごけの目動物。なまごにたなご。
 はなごけの目線。一線色の略。二表も、裏も、はなごけなるかさねの色目。
 はなごけの目線色。はなごけの染色。こきむらさき色。あまごけ。
 はなごけの目鼻高。一鼻の高きこと。陸奥。二天狗をいふ。東國の方言。三古、僧のはき高。ひかり。
 はなごけの目鼻高。はなごけ。はなごけ。

をさむわ るれりら 上あや もめんせみま はへふひは

はなだかた

はなだかた 鼻高。得意顔に。高慢に。
はなだかめん 鼻高面。鼻を高くつくれる後面。
はなだかき 鼻高草。植物。うきうきの異名。
はなだけ 鼻茸。鼻の肉部に發する腫物。
はなだき 鼻叩。小さきまゆはき。鼻の上の白粉を、なすに用ふるもの。
はなだちはな 花橋。一未だ實のらで、花さける頃の橋。二木の名。なつみかんになじ。三まんりやうになじ。四表は行葉にして、葉の青なる、かさねの色目。葉は黄にして、葉の紅なる植物。
はなだつ 花立。花ひらく。
はなだて 花立。佛前に供ふる花。又は盛なごを立つる。
はなだはて 花烟草。かきたはてになじ。
はなだらし 涕垂。一常に、鼻汁をたらしめること。二意地なき人を嘲りての詞。
はなだりやまひ 鼻垂病。はなはかみ出づる病。かぜの。
はなだる 鼻垂。鼻汁の流れること。二はなだらし。
はなぢ 鼻血。鼻より出づる血。鼻。一になじ。
はなぢあふ 鼻血。鼻をよりあふ。
はなぢひる 放出。屋の棟の、母屋よりひき放れて流り出だしたること。
はなぢあふ 放馬。つながずにわく馬。野邊などにながしあひにせる馬。
はなぢがき 放書。文字を、一字づつきれぎれに書くこと。

はなぢ

はなぢがひ 放飼。はなしがひになじ。
はなぢがま 放駒。はなちうまになじ。
はなぢがま 放十徳。袴をはかず、中帯のみにて、十徳をつくること。
はなぢあぢ 放狀。ゆつりしやうになじ。
はなぢたぢ 放髻。ちやせんまげになじ。
はなぢぢ 放出。はなちいでの略。
はなぢぢり 放鳥。一放し飼にして置く鳥。二はなしぢりになじ。
はなぢのかみ 放髮。ふりわけがみになじ。
はなぢぢぢ 放花丁子。木の名。木にしはりになじ。
はなぢぢぢ 放花散里。名香の名。ぢんの一種。
はなぢ 放。一離れ行かじせ。身を自由にせしむるはなす。二出だす。起す。發す。三流罪に處す。追放す。發す。四火を掛く。家などに火をつく。五矢射砲などを飛ばす。六る。うつ。
はなぢ 放除。こりのく。のけ物だす。さしたく。
はなぢぢぢ 放鼻衝。鼻を、鼻を突きあはするはかりに、接近して。であひがしら。
はなぢぢぢ 放鼻衝。かんだうせらる。
はなぢぢり 放花造。一花弁を培養するを業とする人。うきまや。花師。二造花をつくるを業とする人。造花師。
はなぢぢぢ 放花机。はなごをのせ置く机。また脚に、花形を彫りたる机に、經文、佛具などをのせて、佛前にたくものなりともいふ。

のねねにた だてつちた。そせすしき。こけくきか。おえういあ

はなづつ 花筒。花けけに用ふる筒。
はなづつ 花網。はながいにたなじ。
はなづつ 花角。鼻の上の角。一。
はなづつ 花張。うははかり強くして、實は弱き。
はなづつ 花妻。一花を、観みての稱。二花の妻。例へば、秋を、花妻といふ類。
はなづつ 鼻摘。他人に鼻を摘はるる人。
はなづつ 鼻面。一鼻の尖端。二目の前。まのあたりに。鼻端。三物の端。はじ。
はなづつ 牛際。鼻の義。はながいにたなじ。
はなぢあふ 鼻。不親切に待遇す。冷遇す。
はなぢぢ 花時。花の、盛りに咲く時。即ち三月の頃。
はなぢぢり 花鳥。花の、鳥。
はなぢぢり 花鳥。鳥の、花に宿ること。
はなぢぢり 花椰菜。草の名。ははたんの類。食用す。
はなぢぢり 鼻繩。はながいにたなじ。
はなぢぢり 鼻掛。俗に、はなにかける。自慢す。ほこ。
はなぢぢり 花捻。はね馬なごを解むるために、その鼻を。
はなぢぢり 花野。花のさける野邊。一ねぢぢり馬。二あさはかなること。
はなぢぢり 花兄。梅の花の異名。
はなぢぢり 花主。はなもりにたなじ。
はなぢぢり 花壺。はちすのうてなになじ。一壺。
はなぢぢり 花宴。花を観ながら酒宴を催すこと。観花

はなぢぢぢ 花弟。菊の花の異名。
はなぢぢぢ 花影。はなのいろ。はなのひかり。
はなぢぢぢ 花顔。一花の形。花のあるさま。二はなぢぢぢにたなじ。
はなぢぢぢ 花顔。花の如き美しき顔。即ち美人の。
はなぢぢぢ 花場。花を植るこみたること。
はなぢぢぢ 花雪。梅の花の盛りを雲に譬へていふ。
はなぢぢぢ 花會。はなのえんにたなじ。
はなぢぢぢ 花心。花にも、心ありと思ひなしていふ。
はなぢぢぢ 花語。花も、物いふものとしていふ。
はなぢぢぢ 花残月。陰曆四月の異稱。
はなぢぢぢ 花衣。はなはなしき衣服。
はなぢぢぢ 花空相。植物。芍薬の異名。
はなぢぢぢ 花杯。うつくしき杯を、形容していふ。
はなぢぢぢ 花盛。一はなごかりになじ。二轉じて、時世、又は人の勢の盛りなる頃。三轉じて、人の若さかり、即ち十七八歳の時分。
はなぢぢぢ 鼻尖。一極めて近くあること。はなごかり。二あさはかなること。
はなぢぢぢ 鼻先。不親切なるさまに。つんとして。
はなぢぢぢ 鼻下長。たろからし。あまい。まねけなり。
はなぢぢぢ 花風捲。花を吹きさらす風。

はなぢ

はなぢ

をるわ ろれるりり よや もんむみま はへふひは

はなのちやちやぎ 鼻障子。鼻の穴の間のへだてとなる肉。
 はなのすがた 花姿。一はなのけしき。二花の如くうらはしきすがた。
 はなのそび 花袖。はなぞめに染めたるそび。花いろ。はなのたもと 花袂。はなのそびにたなじ。
 はなのつゆ 花露。一花の上にとけるつゆ。二露の花を蒸らしにし、蒸餾して製したるもの。女の、白粉を滑く用ゆるもの。
 はなのきき 花扇。櫻の花の咲きめぐる中に、開まられたる葉。
 はなのほろほろ 花樞。はなのききにたなじ。
 はなのひらき 花火。花をもちやす火。
 はなのふき 花吹雪。花の散り亂るさまの、恰も吹雪の如くあること。
 はなのほぞわた 花胎衣。はなはかまにたなじ。
 はなのみやこ 花都。花の如く美しき都、即ち天皇の仕まはせ給ふこと。首都。
 はなのももりのかき 花下好士。連歌師の異稱。
 はなのゆき 花雪。一名香の名。ちんの一種。花を空にみたてていふ。
 はなのわら 花王。牡丹の花の異名。「るる」
 はなは 花。山の上に出でたる處。土の、高くもありあがれはなばら 鼻坊。たはむれに、己を自讃しての詞。このはなさま。花坊。

はなはかま 花挾。花の下部をつつめる皮。
 はなばこ 花管。花をつめているるはこ。
 はなはき 花鋏。草木の枝をきるに用ゆる剪刀。
 はなはしら 鼻柱。鼻の穴の間のへだてとなる肉。鼻の障子。
 はなはた 甚。たほいに。いたく。いみじく。太。酷。
 はなはたけ 花島。草花を指すところ。花園。花壇。
 はなはたし 甚。俗に、はなはたしい。いたし。いみじ。非常なり。
 はなはず 花連。花のさけるはず。
 はなはなし 花花。俗に、はなはなしい。はなやかなり。見事なり。立派なり。
 はなはなせ 花花。はなやかに。見事に。立派に。
 はなはなはな 花花。花ごころに。
 はなび 花火。種類の花を調合し、竹管に盛りて、火を照し、空中に打ち揚げて、種種の色、及び形を現はさるもの。
 はなびし 花菱。四瓣の花を、菱形にたしひらめたる形の紋所。
 はなびせ 寒鼻。鼻の孔のふさがりて、鼻液の通せぬ病。
 はなびら 花片。花の美しき部分、即ち花冠を組み立つる片。花弁。
 はなびらもち 花片餅。はなびらに似たる形の餅。
 はなびらゆき 花瓣雪。はなびらに似たる雪。
 はなびる 花自慢。くさめす。

あいつたつて なかぬの

はなはな 鼻笛。うそよきにたなじ。「ち」
 はなはな 鼻拭。鼻をかむに用ゆる、小さき手巾。はなげ
 はなはな 花吹秋。「九月九日、菊酒を飲むとき、花をふくことあるよりいふ」陰曆九月の異稱。
 はなはな 花袋。はなはなごころにたなじ。
 はなはな 花房。一花のうてな。二あまた簇り開きて穂の如き花。
 はなはな 鼻塞。鼻の孔のつまること。はなはな。鼻
 はなはな 花毛毳。花形なひありて、美麗なる毛毳。
 はなはな 鼻。鼻をうごめかすこと。たもてには人に道徳しながら、内心にて、あざむくこと。
 はなはな 花見。一花を見て楽しむこと。花を賞する。二櫻の花を見ること。
 はなはな 齒並。口中の齒のならびかた。はなはなび。
 はなはな 葉並。葉のならびかた。はなはなび。
 はなはな 花寶。花ごころに。
 はなはな 花實咲。榮花を待。時めく。
 はなはな 花見草。植物。冬菊の異名。
 はなはな 花見酒。花を見つつ飲む酒。
 はなはな 花見稿。こよみ、梅の花などの形を畫げける衣服の模様。
 はなはな 鼻溝。鼻の下、上唇の上の中央の窪みたること。
 はなはな 花道。芝居なまにて、演者の舞臺まで通ふ、長き板張の道。

はなはな 鼻涕。はなはなごころにたなじ。
 はなはな 花水。佛前に、花を活けて手向くる水。
 はなはな 花見月。「陰曆三月の異稱。二ある花を見る月」
 はなはな 花見鳥。動物。鶯の異名。
 はなはな 鼻梁。はなはなごころにたなじ。
 はなはな 花鏡。族立つ人を見送り、又は、その人に、物を贈ること。また、その贈る物。鏡別。贈。
 はなはな 花簪。新しく、髪を迎へたる人。にひむこ。新花形のある簪。はなはなごころ。
 はなはな 花結。花を束ね合すること。
 はなはな 花娘。顔の麗しき女子。美女。
 はなはな 花。はなはなごころにたなじ。
 はなはな 鼻持。鼻にほひを我慢すること。
 はなはな 花没薬。熱帯地方に産する樹の皮より出る毒。熱地。
 はなはな 花元結。美しく、彩色したるもゆひ。
 はなはな 花紅葉。花ごころに。
 はなはな 花守。花園の番をする人。
 はなはな 花屋。花物、又は、器、燗などを賣る家。また、これを賣る人。はなはなごころ。
 はなはな 花美。一きらびやかに、はなはなしく。はなはなごころに。二たごころに。はなはなごころに。はなはなごころに。

はなはなごころにたなじ

はひのる 團圓 這乗。はらばやうにして乗る。

はひやくしん 團 矮檜。木の名。びやくしんの一種。地上にはふもの。

はひきり 團 灰吹。烟草の吸ひから吹き落す筒。多くは竹筒につくる。

はひきり 團 這臥。身を安樂にせんがために、はらばはひきり。

はひきり 團 灰飾。櫛のへぎ板をわがねたるを織りし、底を金網にて張りたるもの。灰を篩ひて、中にまじれる石などを去るに用ゐる具。

はひきり 團 灰部屋。灰を貯へ置く所。

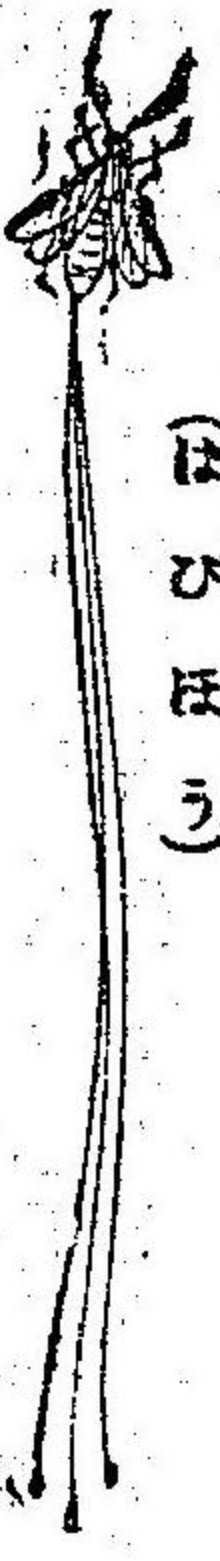
はひきり 團 馬尾蜂。虫の名。蜂の一種。形、あかほちにて似て、黄赤色なり。楯の中に生じ、雄は、長さ六七寸の馬の尾の如き尾一條ありて、死ぬる時は、その末分れて、三條となる。雌には、尾なし。

はひきり 團 這粉。俗に、はひまきれる。いりこむ。たぢまじる。

はひきり 團 這松。高山に多く生ず。風雪に、多くあふたり、その幹、目らひふすが如し。

はひきり 團 蔓累。からみつく。からまる。

はひきり 團 杜仲。木の名。まさきにたなじ。



はひきり 團 法學。法律の學問。
はひきり 團 法規。のり。たきて。さだめ。規則。
はひきり 團 法義。たきてのすぢ。法律の道理。
はひきり 團 羽輔。鳥をよびよるふたご。はたなき。
はひきり 團 羽振。鳥をよびよるふたご。はたなき。
はひきり 團 放。はらばすにたなじ。
はひきり 團 別刀。彫刻師の用ゐる小刀。
はひきり 團 法貨。法律上にて、物品の買、賣の價額なるに用ゐることを許したる貨幣。
はひきり 團 法外。道理にはづれて。なみはづれに。
はひきり 團 法官。訴訟を裁判する官吏。判官。
はひきり 團 這兒。見供の通ふ状に造れる玩具。たごきはひきり。
はひきり 團 法語。一正しく述べたる語。二專ら法律上に用ゐる語。
はひきり 團 羽飾。つばにたなじ。
はひきり 團 羽節。鳥の羽のさきはさま。翼。
はひきり 團 法式。のり。たきて。儀式。
はひきり 團 羽節酒。雄子の羽節の内、酒を造りて造れる酒。

はひ

は

一六〇五

はひみづ 團 灰水。灰に、水を入れてこしたる物。あく水。

はひもほる 團 偽筒。竹の根の傍に出でて、竹も筒に似たるもの。

はひもほる 團 這廻。はひめぐる。はひまはる。

はひり 團 這入。門を入りて、支間に至る間の庭。家。門この間の庭。後棟集、棟が家は、いりたたる青柳に、まやなくらん家の壁。

はひり 團 這入口。家のいりぐも。

はひり 團 這入。いりたなじ。

はひり 團 葉廣。葉の廣きこと。

はひり 團 葉廣柏。葉のひろきかしは。

はひり 團 蔓延。はひひろがる。はひこる。

はひり 團 法。のり。たきて。法律。法度。二たて。みぢ。方法。三数学の語。算術にて、算の数をひくる數。

はひり 團 破風。屋根の切棟の端の、山形をなすところ。掃風。

はひり 團 延。のびてゆく。はひこりゆく。わたる。延。長く延ばす。ひきはす。

はひり 團 波布。虫の名。琉球諸島及び八丈島等に産する劇毒ある蝶。飯絶情。

はひり 團 馬夫。まご。うまかた。

はひり 團 養。うはよの養。

はひり 團 法實。數學の語。除算にたける法。買。わ。

はひり 團 羽節。魚の腹のものにある鱗。

はひり 團 法人。法律の語。法律の強制によりて、一個人に見なすもの。

はひり 團 法制。法律の制度。たきて。

はひり 團 法則。のり。たきて。さだめ。法度。

はひり 團 葉二。青菜の苗の一名。

はひり 團 羽二重。薄く破窓にして、滑かに、光澤ある絹布の織物。光組。

はひり 團 破風造。棟を山形に造りて左右に、破風を設けたる屋根。

はひり 團 法廷。罪人を吟味する所。裁判所。

はひり 團 法條。たきて。のり。法則。法例。

はひり 團 法帖。古人の筆跡を掲りこり、手本としたるもの。石版手本。

はひり 團 法度。はんにたなじ。

はひり 團 白粉。たごりたなじ。

はひり 團 這道。はが如くに辛うじて、逃ぐるさまにたなじ。酒類。たごりたなじ。たごりたなじ。たごりたなじ。たごりたなじ。

はひり 團 這道體。辛うじて、這か如くに逃げゆく。

はぶろ 目 法文。法律の文章。
 はぶろ 目 法網。法律の罪人をしてのがれしめぬを、網にて物を捕ふるに譬へていふ。
 はぶろ 目 肥土。はひあゆむ虫の糞。
 はぶろ 目 馬糞。うまのくそ。まぐそ。
 はぶろ 目 馬糞紙。一塵なきのある下等なる唐紙。二黄色の黒はみたあつて紙。
 はぶろ 目 放。うちすてたく。やりはなしにす。うちはらす 目 放。はぶらかすにたなじ。
 はぶろ 目 祝部。かんじの次にたて、神につかふるもの。
 はぶろ 目 法理。法律の理論。
 はぶろ 目 法吏。法律を執行する官吏。刑吏。
 はぶろ 目 葬。はうむりにたなじ。
 はぶろ 目 羽振。一鳥の飛はんとして、羽を振ふる。はぶろ 二人の世にたち交る際の勢力。權勢。
 はぶろ 目 葉形。草木の葉の状。はなろ。
 はぶろ 目 祝子。はぶりにたなじ。
 はぶろ 目 放出。一なげたす。うちすつ。二官を免す。免職す。
 はぶろ 目 法律。政府にて定め、國會の協賛を経たる後、全國に公布して、國民一般に守らしむるたきて。
 はぶろ 目 葬具。はぶりのもの。たなじ。
 はぶろ 目 祝人。「はぶりびこの唇はぶりにたなじ。
 はぶろ 目 祝女。かんなき。みこ。

はぶろ 目 葬具。葬送に用ふる一切の具。
 はぶろ 目 葬。死骸を、こりをさせ。はうむる。
 はぶろ 目 放。散り亂る。さまよふ。うろつく。たちあふ。
 はぶろ 目 羽振。一はぶりにたなじ。
 はぶろ 目 法令。政府の定めたる規則。國の規こす。きふれたる。法令令綱。「昔は、多く、大和國奈良の法令といふ地より、江戸に送り出だしたるよりいふもめんわたのうちたるもの。考證。掃霧。
 はぶろ 目 南風。南より吹く風。西國の方言。
 はぶろ 目 蠅。虫の名。蛆の羽化せるもの。大さ二三分ばかりにして、二つの翅、六の脚あり。夏のころ、食物なほの上に集まり。種類多し。
 はぶろ 目 蠅。えご。かたひいき。へんば。
 はぶろ 目 破。たるきにたなじ。
 はぶろ 目 帳。わくの四面に、紗、又は細き銅線製の網を張りて、風の流通するやうに造りたる。夏、食物を貯へたきて、蠅をよくるに用ふる。
 はぶろ 目 蠅捕。虫の名。蠅捕蜘蛛の翠。
 はぶろ 目 蠅捕草。草の名。山中の湿地に生ず。宿根草にして、葉面に、粘液あり。蠅、これに觸れば、粘着す。芽葉菜。
 はぶろ 目 蠅捕蜘蛛。虫の名。蜘蛛の一種。大さ三四分にして、腹なほの間にひそみ、蠅なほをこらして食ふ。腹。

はぶろ 目 蠅捕花。草の名。はぶりにたなじ。
 はぶろ 目 蠅捕蟲。虫の名。かまきりにたなじ。
 はぶろ 目 蠅子。虫の名。うじにたなじ。
 はぶろ 目 蠅拂。蠅を拂ひ去るに用ふる掃子。
 はぶろ 目 馬鞭草。草の名。原野に生ず。葉は對生し、夏、枝に小さき淡紫色の花を開く。くまつつら。
 はぶろ 目 葉蕨。「はこらの略」草の名。はぶりにたなじ。伊勢國の方言。
 はぶろ 目 蠅捕侍。「貴人の側につきさそひ居り。伺候す。まぶらぶ。はぶりにたなじ。二あります。三あります。
 はぶろ 目 兄をいふ。九州の方言。
 はぶろ 目 姉をいふ。九州の方言。
 はぶろ 目 船をいふ。九州の方言。
 はぶろ 目 木の名。つぐのきにたなじ。
 はぶろ 目 藥牡丹。草の名。高さ一二尺ばかり、葉は、葉はみて、油菜のより厚く大きく、その葉の頂に、重なり生ずるさま、牡丹の花の如し。葉も亦牡丹に似たり。葉は、西洋料理に用ふる。きやべつ。甘蔗。
 はぶろ 目 馬勃。まぐそ。馬糞。
 はぶろ 目 草の名。へんけいさうをいふ。大和國の方言。
 はぶろ 目 景天草。草の名。へんけいさうにたなじ。
 はぶろ 目 端本。冊数不足して、全部をろはね書籍。鉄本。
 はぶろ 目 木の名。こしりまらすをいふ。肥前國の方言。
 はぶろ 目 海、又は湖なほの、陸に昇せるころ。三川の際。かし。三國峯の語。あがりたにたなじ。

はぶろ 目 蛤。貝の名。はまぐりの略。
 はぶろ 目 破。破産の翠。
 はぶろ 目 八。「唐音の轉音をうつつに使用す。はぶりにたなじ。
 はぶろ 目 漬菜。草の名。味、うじに似て、色白し。
 はぶろ 目 漬萬年青。草の名。はまゆみにたなじ。
 はぶろ 目 漬風。弦に吹く風。
 はぶろ 目 葉卷。葉巻煙草の翠。
 はぶろ 目 葉卷煙草。葉巻煙草の翠。
 はぶろ 目 葉卷煙草。葉巻煙草の翠。
 はぶろ 目 蛤。貝の名。「殻、厚く堅く、表面に種種の紋あり。種類多し。肉は、焼き、又は煮ながらして食ふ。味美なり。好。「あまをいふ。加賀國の方言。三女の陸海の隠語。「もの。
 はぶろ 目 蛤。刀の刃を、蛤介の縁の如くひきたる。まはひにたなじ。
 はぶろ 目 大角豆。草の名。實は、ささげよりも短く、葉は、そらまめに似たり。この草、毒ありといふ。
 はぶろ 目 漬山椒。木の名。いそさんせうに同じ。
 はぶろ 目 防風。草の名。はうふうにたなじ。

はすすび 図 濱菅。草の名。海邊に生ず。葉は、香に似て細くして、色黄なり。根は、薬用とす。香附子。

はすせり 図 濱芥。草の名。はまにんじんに木なじ。

はすた 図 濱田。はまへにある田。

はすたかな 図 濱高菜。草の名。高さ六七寸、葉に似て、葉背、根白し。春の末、野菊に似たる花開き、小さき實を結ぶ。魚の名。いなだをいふ。關西の方言。「よ。」

はすぢ 図 濱路。濱邊の路。

はすぢぢり 図 濱千鳥。一箇へにある千鳥。三文字の異稱。上品なる海産物。

はすぢぢり 図 濱躑躅。海邊に生じたるついで。

はすぢぢり 図 濱苞。海産物のみやげもの。

はすぢぢり 図 濱椿。木の名。木は小さくして、海邊に生じ、葉は、山菜花に似て、花は黄色なり。

はすぢぢり 図 破魔矢。はまに用ふる矢。

はすぢぢり 図 濱面。はまへの平かなるころ。はまのうへ。

はすぢぢり 図 濱手。濱に近き方。

はすぢぢり 図 濱菜。草の名。いそなの類。

はすぢぢり 図 濱梨。木の名。いはなしに木なじ。

はすぢぢり 図 濱茄子。草の名。枝に、刺多くして、夏の初め、蒸籠に似て、香氣高く、花を開く。色は、紫白等あり。實の形、なすに似たり。海邊に生ず。

はすぢぢり 図 濱名納豆。遠江國濱松大福寺より傳

りそのたるもの。黒大豆に、小麦粉の類を加へ、生姜、山椒、芥子などの刻みたるをまじへて、蒸したる納豆。

はすぢぢり 図 濱苦菜。植物。一はりふりに木なじ。

はすぢぢり 図 濱人參。草の名。ひるむしみに木なじ。

はすぢぢり 図 濱榆。草の名。しほりに木なじ。

はすぢぢり 図 濱防風。草の名。防風の一種。海邊の砂地に生ず。葉は、形、やや、みじかに似て、葉は、赤はみ、夏、小さき花、傘の如く集まりて開く。香氣あり。贈らんにそへて食ふ。やばはうふう。いせはうふう。「方言。」

はすぢぢり 図 濱萩。草の名。はまに木なじ。出雲國の

はすぢぢり 図 濱芭蕉。草の名。はまに木なじ。

はすぢぢり 図 濱邊。はまに木なじ。

はすぢぢり 図 蔓荊。木の名。水邊の砂中に生ず。枝、葉の形、あちの如く、夏、むくげに似て、淡黄、又は薄赤の花開き、實を結ぶ。葉は、黒くなる。仁は、薬用とす。はましき。

はすぢぢり 図 濱邊。はまに木なじ。

はすぢぢり 図 濱鹿。海邊の家。

はすぢぢり 図 濱菱。草の名。海邊に生ず。夏、五箇の實なる。花を開く。實は、三稜をなす。

はすぢぢり 図 濱人。濱邊にすむ人。

はすぢぢり 図 濱姫。濱邊にすむ女。あま。

はすぢぢり 図 濱脹。草の名。あしのしりやうに木なじ。

はすぢぢり 図 濱船。濱邊を往來する船。

はすぢぢり 図 濱邊。海、又は湖のほとり。はまはた。

はすぢぢり 図 濱棒。草の名。むくげに似て、黄色の花を開く。多く海邊に生ず。きむくげ。

はすぢぢり 図 濱町。濱邊に接したる町。

はすぢぢり 図 濱松。一濱邊にむかひたる松。二黒色なる珊瑚のうら。

はすぢぢり 図 濱藻。海草の名。なりのそに木なじ。

はすぢぢり 図 濱木蓮。木の名。高さ一丈許、葉は、ゆづりには似たり。實は、たらふかに似て、冬に至り、赤くなる。

はすぢぢり 図 濱屋。はまへにある家。

はすぢぢり 図 濱焼。鯛を蒸焼きにしたる料理。

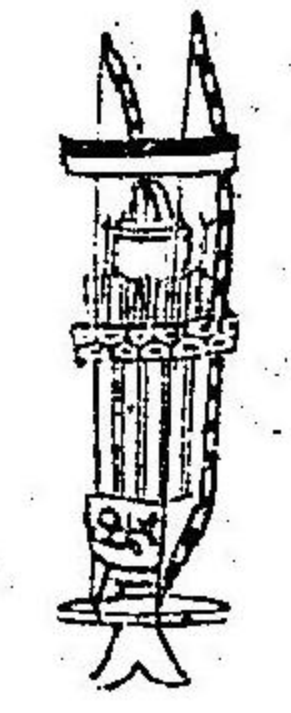
はすぢぢり 図 濱床。帳臺の類。貴人の座床。三尺四方にて、高さ一尺ほどの厚を、四つ列へて、少し高く構へ、その四隅に柱を立てて、帳をかけたるもの。

はすぢぢり 図 濱木綿。草の名。海邊に生ず。葉は、やや、夏、年寄の如く、葉は、淡黒き皮に包まれたり。夏の初め、黄色の花を開く。木綿。

はすぢぢり 図 破魔弓。昔、見供の息災を祈るために、正月、室内に飾りたる小さき弓矢。

はすぢぢり 図 細なさいり。彩色を施し、細なさいり。

はすぢぢり 図 細なさいり。如くに造れる。はまに木なじ。



(みゆまは)

はすぢぢり 図 濱。一中に、ほごよくはまるころ。二會得するころ。三たかがりの時、鹿の落ちたるころ。

はすぢぢり 図 濱役。その人に、よく適當したる役目。

はすぢぢり 図 濱。一中に、ほごよく入る。二かなふ。適當する。三心にさぐる。會得する。四たかがるに木なじ。五木はるに木なじ。

はすぢぢり 図 濱蓮華。草の名。入りけいさりに木なじ。

はすぢぢり 図 濱豌豆。草の名。海邊に生ず。葉は、青みを帯び、花を開き、葉は、らんらんりに似たり。のあんらう。

はすぢぢり 図 濱萩。草の名。一濱邊に生ずる萩。二蘆をいふ。伊勢國の方言。

はすぢぢり 図 濱。ハハの類。虫の名。まむしに木なじ。

はすぢぢり 図 龍頭。草の名。木にのやがりに木なじ。

はすぢぢり 図 馬銜。一馬の名。馬の口中にあたる部分。二馬を馴せんとす。その口にはませ、縛りつけて置くもの。

はすぢぢり 図 齒齧。齒齧につけて、齒をみがくに用ふる粉。

はすぢぢり 図 齒齧。粉が再結す。ヤリかす。

はすぢぢり 図 齒齧。はみだすに木なじ。

はすぢぢり 図 齒齧。はみだす。

はすぢぢり 図 齒齧。物の間に挟まり壓されて、外へ餘り出づ。はみだす。

はすぢぢり 図 齒齧。馬に鉢をかぶ桶。かひはをけ。鉢桶。

はすぢぢり 図 齒齧。魚の名。はもに木なじ。

はすぢぢり 図 火腿。英語 Ham、豚の股を、そのまま燻べて、鹽漬にしたるもの。燻蹄。

はむ 團圓食。一くらぶくぶ。口に入る。二蘇をまく。

はむ 團圓食。はましむ。食はす。

はむ 團圓食。俗に、はめる。はさむ。うすむ。さしむ。たごしむ。

はむ 團圓。様子のはめく様を示すに用ゐる。

はむかぶ 團圓。齒向。かみつかんす。

はむかぶ 團圓。又向。むかひかか。敵對す。抵抗す。

はむひ 團圓。鳥の羽をその方にむくること。

はむひ 團圓。草木の葉を、その方にむくること。

はむひ 團圓。虫の名。疥癬虫の一種。鳥の羽毛の間に寄生するもの。

はむじや 團圓武者。申しき兵。終兵。足輕。

はん 團判。一はんだんにたなじ。二いんはん。いんぎやう。かきはん。花押。一團圓圖。俗に、はんじ。推しはかり考へて判断す。

はん 團半。一なかは。はんはん。二奇數即ち一三五七九の如き數。(丁に對して)「のの稱。

はん 團藩。諸大名の一方を鎮めて、朝廷の藩屏となるもの。

はん 團班。くらゐ。ならび。階位。次序。

はん 團版。版木の器。

はん 團判。紙なごの太さ。

はん 團番。一かはるがはる行ふまもり。二まもり。みはり。三かはるがはる。役目を勤むること。番番。番番。團圓。兼用に供する粗末なるもの名にそへて用ゐる。「はんはん」はん

はん 團半。一なかは。はんはん。二奇數即ち一三五七九の如き數。(丁に對して)「のの稱。

はん 團藩。諸大名の一方を鎮めて、朝廷の藩屏となるもの。

はん 團班。くらゐ。ならび。階位。次序。

はん 團版。版木の器。

はん 團判。紙なごの太さ。

はん 團番。一かはるがはる行ふまもり。二まもり。みはり。三かはるがはる。役目を勤むること。番番。番番。團圓。兼用に供する粗末なるもの名にそへて用ゐる。「はんはん」はん

はん 團半。一なかは。はんはん。二奇數即ち一三五七九の如き數。(丁に對して)「のの稱。

はん 團藩。諸大名の一方を鎮めて、朝廷の藩屏となるもの。

はん 團班。くらゐ。ならび。階位。次序。

はん 團版。版木の器。

はん 團判。紙なごの太さ。

はん 團番。一かはるがはる行ふまもり。二まもり。みはり。三かはるがはる。役目を勤むること。番番。番番。團圓。兼用に供する粗末なるもの名にそへて用ゐる。「はんはん」はん

はん 團半。一なかは。はんはん。二奇數即ち一三五七九の如き數。(丁に對して)「のの稱。

はん 團藩。諸大名の一方を鎮めて、朝廷の藩屏となるもの。

はん 團班。くらゐ。ならび。階位。次序。

はん 團版。版木の器。

はん 團判。紙なごの太さ。

はん 團番。一かはるがはる行ふまもり。二まもり。みはり。三かはるがはる。役目を勤むること。番番。番番。團圓。兼用に供する粗末なるもの名にそへて用ゐる。「はんはん」はん

はん 團半。一なかは。はんはん。二奇數即ち一三五七九の如き數。(丁に對して)「のの稱。

はん 團藩。諸大名の一方を鎮めて、朝廷の藩屏となるもの。

はん 團班。くらゐ。ならび。階位。次序。

はん 團版。版木の器。

はん 團判。紙なごの太さ。

はん 團番。一かはるがはる行ふまもり。二まもり。みはり。三かはるがはる。役目を勤むること。番番。番番。團圓。兼用に供する粗末なるもの名にそへて用ゐる。「はんはん」はん

はん 團半。一なかは。はんはん。二奇數即ち一三五七九の如き數。(丁に對して)「のの稱。

はん 團藩。諸大名の一方を鎮めて、朝廷の藩屏となるもの。

はん 團班。くらゐ。ならび。階位。次序。

はん 團版。版木の器。

はん 團判。紙なごの太さ。

はん 團番。一かはるがはる行ふまもり。二まもり。みはり。三かはるがはる。役目を勤むること。番番。番番。團圓。兼用に供する粗末なるもの名にそへて用ゐる。「はんはん」はん

はん 團半。一なかは。はんはん。二奇數即ち一三五七九の如き數。(丁に對して)「のの稱。

はん 團藩。諸大名の一方を鎮めて、朝廷の藩屏となるもの。

はん 團班。くらゐ。ならび。階位。次序。

はん 團版。版木の器。

はん 團判。紙なごの太さ。

はん 團番。一かはるがはる行ふまもり。二まもり。みはり。三かはるがはる。役目を勤むること。番番。番番。團圓。兼用に供する粗末なるもの名にそへて用ゐる。「はんはん」はん

はん 團半。一なかは。はんはん。二奇數即ち一三五七九の如き數。(丁に對して)「のの稱。

はん 團藩。諸大名の一方を鎮めて、朝廷の藩屏となるもの。

はん 團班。くらゐ。ならび。階位。次序。

はん 團版。版木の器。

はん 團判。紙なごの太さ。

はん 團番。一かはるがはる行ふまもり。二まもり。みはり。三かはるがはる。役目を勤むること。番番。番番。團圓。兼用に供する粗末なるもの名にそへて用ゐる。「はんはん」はん

はん 團半。一なかは。はんはん。二奇數即ち一三五七九の如き數。(丁に對して)「のの稱。

はん 團藩。諸大名の一方を鎮めて、朝廷の藩屏となるもの。

はん 團班。くらゐ。ならび。階位。次序。

はん 團版。版木の器。

はん 團判。紙なごの太さ。

はん 團番。一かはるがはる行ふまもり。二まもり。みはり。三かはるがはる。役目を勤むること。番番。番番。團圓。兼用に供する粗末なるもの名にそへて用ゐる。「はんはん」はん

はん 團半。一なかは。はんはん。二奇數即ち一三五七九の如き數。(丁に對して)「のの稱。

はん 團藩。諸大名の一方を鎮めて、朝廷の藩屏となるもの。

はん 團班。くらゐ。ならび。階位。次序。

はん 團版。版木の器。

はん 團判。紙なごの太さ。

はん 團番。一かはるがはる行ふまもり。二まもり。みはり。三かはるがはる。役目を勤むること。番番。番番。團圓。兼用に供する粗末なるもの名にそへて用ゐる。「はんはん」はん

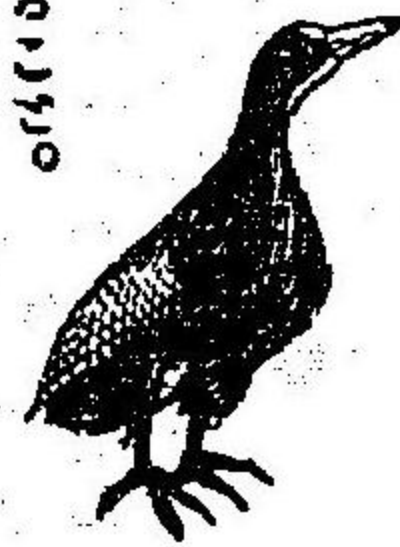
はん 團半。一なかは。はんはん。二奇數即ち一三五七九の如き數。(丁に對して)「のの稱。

はん 團藩。諸大名の一方を鎮めて、朝廷の藩屏となるもの。

はん 團班。くらゐ。ならび。階位。次序。

はん 團版。版木の器。

はん 團判。紙なごの太さ。



はんは

のねにな きてつらた そせすしき こけくきか、たえういあ

をるわ、るるりの よゆや もめんむみま はへふひは

はんえん

はんえん

一六二一

はんきり

はんきり 図 蟠蚪。 わたかまれるみづ。
はんきり 図 半弓。 長さ、大弓のなかにははんきり弓。
はんきり 図 半球。 地理學の語。地球の半面。
はんきり 図 斑鳩。 鳥の名。やすかけははんきり斑鳩。
はんきり 図 煩襟。 胸のわるるしき。氣のふさぐ。
はんきり 図 繁勤。 勤務の忙しき。公用の繁き。
はんきり 図 半金。 その金高の半分。はんがく。
はんきり 図 絆緊。 からみつくこと。
はんきり 図 判金。 古の金貨。即ち大判、小判の通稱。
はんきり 図 軌近。 ちかごろ。近世。近年。近時。
はんきり 図 版木屋。 版木を刻むを業とする人。判刷工。
はんきり 図 反響。 あの物體に衝突したる音響、反射して再び、わが耳に達する。こゝろ。こゝろ。こゝろ。
はんきり 図 判形。 いんさやうにたなじ。
はんきり 図 畔逆。 そむきさからふこと。
はんきり 図 叛逆。 むほんにたなじ。反逆。
はんきり 図 板魚。 魚の名。ひらめにたなじ。
はんきり 図 半玉。 學校の未だ二人前に至らずして、玉代の半額を受くるもの。たしやく。あかえり。
はんきり 図 半切。 半切紙の製。
はんきり 図 判桶。 淺き桶。
はんきり 図 絆切。 冷人の善用する服。

はんきり

はんきり 図 半切紙。 杉原紙を、横に、半分に切り、書翰文を書くに用ゐるもの。後世は、他の紙をも、その形に切り用ゐる。
はんきり 図 半切。 はんきりの轉。
はんきり 図 半工。 職工一人まへの半分の手回賃。
はんきり 図 半句。 一文句の半分。二かたごは。少しのこと。
はんきり 図 半空。 なかぞら。中天。中空。半天。
はんきり 図 半靴。 足首だけ入れて穿つ、西洋風の淺き靴。
はんきり 図 蟠屈。 わたかまること。
はんきり 図 番組。 技藝を演ずる時の、順序の組合せ、またそれを刷りたる紙。
はんきり 図 飯願。 めしつぷ。
はんきり 図 繁華。 一さかえにさはふこと。二繁華する。遊に耽る。遊樂。
はんきり 図 晩花。 たくれさきの花。たをさきの花。
はんきり 図 蠻瓜。 草の名。へちまにたなじ。
はんきり 図 挽回。 もこの如くにひき戻して、善くすること。恢復。
はんきり 図 番外。 會議などにて、議員の定員数の外にはんきりさう 禁噲草。 草の名。高さ二尺ばかり、葉は、形、やや、やぶれすがさにて似て、莖のさきに、白き細かき花を明く。
はんきり 図 半過去。 文法上の語。ある動作の、他の動作に先ち起りたるを示すもの。大過去。小過去。この同。

はんきり

はんきり はんきり はんきり はんきり はんきり

はんきり

はんきり 図 判官。 一はうぐわんにたなじ。二さいはんくわん。法官。
はんきり 図 判官代。 院の廳の判官。朝廷の判官を區別するために、代の子をさへていふ。
はんきり 図 半夏。 草の名。春、芽を出だす。葉は、たまたかに似て、夏、長き莖を生じ、筒の如き形の花を開く。根は、藥とする。ほそぐみ。
はんきり 図 反景。 ゆふがたの景色。
はんきり 図 半頃。 田五十畝をいふ。
はんきり 図 半徑。 圓の中心より、圓周の一點にひける直線。直經の半分。
はんきり 図 晩景。 夕日の影。夕方の景色。二日くれがはんきり 図 萬頃。 地面の廣きをいふ。田百畝を一頃といふ。
はんきり 図 繁劇。 いそがはしきこと。せはしきこと。多はんきり 図 反擊。 敵を撃たんとして、却りて、撃たること。かへりうち。
はんきり 図 日くれがた。 タぐれ。駿河國の方言。
はんきり 図 半夏生。 夏至の後、第十一日にあたる日。太陽の七月二日ころにあたる。農家にては、この日を、田植の終期とす。
はんきり 図 手帕。 英語 Handkerchief, の訳。方形のてふき。
はんきり 図 判決。 事の是非、曲直を判定せむること。さはんきり 図 半月。 一分分断けたる月。片われ月。二月の前立の名。三二箇月の半分。はんつき。圓はにわりに同じ。

はんきり

はんきり 図 版機。 政府の保護を受けて、書誌を摺り出したし、又は寫眞を賣り出す特有の權。版行機。
はんきり 図 半減。 全體のなかには減すること。
はんきり 図 半元服。 一昔、男兒は、鬚髪を大きく剃り、額のすみを剃りぬくこと。二女子は髪を左わけにいひたるもの。
はんきり 図 反語。 語を裏返していふこと。例へば知るを、知らざらんやと云ふ類。
はんきり 図 番子。 はんたらうをいふ。大阪の語。
はんきり 図 萬古。 一ながき世。永久。幾世。二萬古橋の略。
はんきり 図 萬戸。 よろづのいへ。もろもろの家。
はんきり 図 萬頃。 田をいふ。肥前國唐津の方言。
はんきり 図 蕃語。 西洋諸國の言語。徳川時代の語。
はんきり 図 反獄。 牢を破ること。破獄。
はんきり 図 晩刻。 一ゆふかた。夕刻。二よる。夜分。
はんきり 図 萬國。 地球上の各國。萬邦。
はんきり 図 萬國公法。 各國の交際の上に、相通じてまゐるべき法律。國際公法。
はんきり 図 萬戸侯。 一萬石の諸侯。
はんきり 図 萬劫。 際限なき時の間。
はんきり 図 癡痕。 きずあと。創痕。
はんきり 図 盤根。 入りくみて堅き根。
はんきり 図 反魂香。 支那漢の武帝、李夫人この故事よりいふ死者の面影を、烟の中に現すといふ想像の香。

はんきり はんきり はんきり はんきり はんきり

はんきり

はんきり

はんきり はんきり はんきり はんきり はんきり

はんごんぎ 反魂草。草の名。わにのしごにた
 はんごんぎせつ 盤根錯節。世の中の難事
 はんごんぎ 番小屋。番人の居る小屋。
 はんごんぎ 萬古燒。伊勢國朝明郡小向村よりやき出
 だすもの。専ら手づくわにて、茶碗、急須、菓子鉢などに造る。
 揮くして堅く萬古の文字を印す。
 はんごんぎ 煩瑣。こまかに、こたごたせること。
 はんごんぎ 半座。一座の半分。
 はんごんぎ 判者。はんじやの約。
 はんごんぎ 攀躰。よぢのはら。
 はんごんぎ 半齋。禪宗にて、法會の前日の稱。
 はんごんぎ 燔祭。犠牲を焼きて、神に供ふる宗典。猶太國
 なるにて行はる。
 はんごんぎ 犯罪。法律を犯して、刑に處せらるること。
 はんごんぎ 萬歳。はんせいにたなじ。二人を祝ひて唱
 はんごんぎ 犯罪者。罪を犯せる人。「ふる語。
 はんごんぎ 疵屨帶。四位、五位の人の、束帶の時
 に用ふる革帶。
 はんごんぎ 萬歳屠。はんせいはたにたなじ。
 はんごんぎ 癪瘡。はれもののおこ。
 はんごんぎ 番藏。を食をいふ。肥前國の方言。
 はんごんぎ 番匠。はんじやうの約。
 はんごんぎ 絆劍術。鈍目の開かれやうに貼る音聲。

はんごん 半割。魚の名。さんせうをにたなじ。
 はんごん 笄刺。はすさしの音聲。「糞雜。
 はんごん 煩雜。事がら、うるさくいらくみたること。
 はんごん 半挿。「はんごん」の音聲「半挿」の略。
 はんごん 半産。はんごんにたなじ。
 はんごん 晩餐。夕方にくら飯。ゆふめし。
 はんごん 晩齋。夏養ふ齋。なつこ。
 はんごん 藩士。封建時代の大名の家来。陪臣。
 はんごん 半紙。はんごん、のへがみを半切にしたる紙。後
 世は、別に、その大きに製し、最も普通に使用する。種類多し。二
 きがみをいふ。飛騨國、豊後國の方言。
 はんごん 半子。娘の夫。むすこ。
 はんごん 板齒。むかうは。まへは。「なること。半生。
 はんごん 半死。氣息たえだえになりて、殆ど死ななはかり
 はんごん 判事。一古は、刑部省に屬し、さきへの吟味した
 る罪状を案覆して、刑名を定むるなどの事を司りたる官。大、
 中、少の三等あり。二今は、司法省に屬して、民事、刑事の審判
 をなすもの。
 はんごん 半時。一時間のなかは。三十分。はんごん。
 はんごん 挽詩。罪を送る時にうたふ詩。
 はんごん 番士。二一組一組に分けたる兵士。組の卒。隊士。
 二護衛をする兵士。衛士。三徳川氏の世に、各所の守衛を勤
 めたる旗本。その長を番頭といふ。

のねにた てつちた そせすしき こけくきか たえういあ

はんごん 萬死。大危急に出合ひたること。こても助から
 はんごん 萬事。よろづのこと。あらゆること。諸事。
 はんごん 晩秋。秋のすゑ、即ち陰曆の九月。
 はんごん 盤渉調。十二律の一。輕桃なる調子。
 はんごん 版下。版木に貼りて、刻るべき下書。
 はんごん 版下書。版下を書くことを業とする人。
 はんごん 叛臣。叛逆を企てたる臣。叛逆臣。
 はんごん 半身。體軀を、腰より二分したるその上、また
 下の稱。かたみ。
 はんごん 叛心。うらがへる心。叛逆を企つる心。
 はんごん 反身。そりみ。
 はんごん 番新。はんごんしんさうの略。「の。なぞ。
 はんごん 蕃人。えびす。夷國人。「の。なぞ。
 はんごん 判物。推し量り、判じ考へてあてさするも
 はんごん 反射。光、熱などを照りかへすこと。
 はんごん 帆樫。物事の優劣、可否などを定むる人。
 はんごん 反掌。紙のほはしら。
 はんごん 反掌。事をなすに、恰も手のひらを返すが
 如く容易なること。
 はんごん 叛狀。謀叛の様様。
 はんごん 繁昌。さかえ。にぎはひ。繁榮。
 はんごん 番匠。一古、諸國より、京都へ動遊したる木

匠の稱。二轉じて、單に、木匠の稱。だいく。「さま。
 はんごん 萬狀。いろいろのかたち。さまさまのあり
 はんごん 番上。日勤せず、隔日に、出勤する雑仕。
 はんごん 番匠。さむちをいふ。職内の方
 はんごん 番匠鳥。鳥の名。てらつづきをいふ。
 はんごん 反射鏡。光を反射せしむる鏡。
 はんごん 晩酌。夕方、酒を飲むこと。夕方、さか
 はんごん 警石。一大なる岩石。二極めて堅固なるこ
 はんごん 警石糊。糊の一種。生蒸にて製した
 はんごん 反射爐。大砲を撃つ時、反射せしめた
 る熱を集めて、鋼鐵を熱くす方法。
 はんごん 藩主。一藩の主。だいまやう。諸侯。
 はんごん 判授。長官の判官にてたまふ位。古、内位の
 初位、外位の八位との稱。
 はんごん 藩儒。藩主にかへられたる儒者。
 はんごん 晩種。たそまきの種子。(蔬菜などの)
 はんごん 半熱。一食物の、全く煮えきらかないこと。二
 果物の、なかなかならぬこと。
 はんごん 半守護。その國半分を支配する守護。
 はんごん 晩出家。年老いてより、佛道に入りたる
 人。

ををわ るれるりよ よゆや もめんせみま はへふひは

ばんちゆん

ばんちゆん 晩春。春のすゑ、即ち陰曆の三月。
ばんちゆん 番所。一番人の居るところ。二昔、江戸の屋敷町に設けたる辻番所。三徳川時代に、市民の、兩町奉行をさして呼びたる稱。せきしよにたなじ。

ばんせり

ばんせり 判書。ある意味を含めて、判牒を要すさまやうに描きたる語。なぞる。
ばんせり 反。うらはらになる。反対す。二謀反をたす。政府にそむく。君にそむく。
ばんせり 半助。五十錢をいふ。

のねにな ごとつらた そせすしき こりくきか おえういあ

ばんせり ばんちゆん ばんせり ばんちゆん
ばんせり ばんちゆん ばんせり ばんちゆん
ばんせり ばんちゆん ばんせり ばんちゆん
ばんせり ばんちゆん ばんせり ばんちゆん

ばんせり ばんちゆん ばんせり ばんちゆん
ばんせり ばんちゆん ばんせり ばんちゆん
ばんせり ばんちゆん ばんせり ばんちゆん
ばんせり ばんちゆん ばんせり ばんちゆん

ばんたい

をるわ ろれるり ちゆや もめんむみま ほへひは

はんたつ 盤壺面。ひらくして壺き顔。
はんたつ 半太夫節。俗謡の一。江戸半太夫の始めたるもの。貞享、元祿の頃、流行せり。
はんたつ 半島。三方は、水に圍まれて、一方は、陸につ
はんたつ 半道。下等の役者。「つける地」
はんたつ 半濁音。たそくみの音。たそく。たそく。
はんたつ 半疊。大き一疊の半分なる疊。
はんたつ 半田塗。阿波國より産する。一種の漆の塗
はんたつ 半端。物事の言、可否を考へ定むる言。
はんたつ 半端。武家の執事。「
はんたつ 半番太郎。昔、江戸市中の處に設けたる木
はんたつ 半飯頭。寺院にありて、食事を司る人。
はんたつ 半斑竹。支那産の竹。表皮に、あかぐさ斑あ
はんたつ 半藩知事。明治の初年、諸大名の藩を返上せ
はんたつ 半藩鎮。諸大名の、その領地を鎮めて、皇室の藩
はんたつ 半番茶。下等なる茶。一番茶、二番茶と稱した
はんたつ 半反動。ある動作のために、他の反対なる動作
はんたつ 半番頭。商店の主人の長。商家の支配人。二
はんたつ 半坂東。坂東にて造る、一種の打鼓。
はんたつ 半斑銅鏡。鏡物。銅鏡の一種。形、齊整
はんたつ 半番頭新造。遊廓にて、太夫につき
はんたつ 半坂東八州。坂東にあたる八個國、即
はんたつ 半反動力。物につきあたりて、はねかへ
はんたつ 半判取。判取帳の要。
はんたつ 半番鳥。獸の名。むさびをいふ、畿内の方言。
はんたつ 半判取帳。商店にて、金銭、代物などの
はんたつ 半長靴。長靴よりも短く、短靴よりも長

はんたつ 半番長。隨身の長。近衛の中にて、弓馬の術
はんたつ 半板直。文章の變化なくして、面白みの薄き
はんたつ 半番附。一番巻を書きつけて、次第を分つこと。
はんたつ 半手衆。たたみ一疊の半分。
はんたつ 半手衆。番手衆の要。
はんたつ 半藩邸。舊大名の屋敷。
はんたつ 半判定。判断してきまること。
はんたつ 半斑條。衣服などのすじ。
はんたつ 半番手衆。じやうはんにななじ。
はんたつ 半疊。たたみ一疊の半分。
はんたつ 半盤纏。ろきんにたなじ。
はんたつ 半半天。はんくうにななじ。
はんたつ 半半經。一羽織に似て襟の返しなく、半襟を掛
はんたつ 半反轉。一羽織の代りに着るもの。
はんたつ 半番手桶。雑巾をそそぐに用ゐる手桶。常の
はんたつ 半半途。一行く路の中途。半分のみ。
はんたつ 半版圖。一國の政府の領地の圖。また、その領地。

のねににた ことつちた そせすしき こけくきか たまういあ

はんたつ 半叛徒。むはんにな。
はんたつ 半變奴。えびすのやつはら。
はんたつ 半反動。ある動作のために、他の反対なる動作
はんたつ 半番頭。商店の主人の長。商家の支配人。二
はんたつ 半坂東。坂東にて造る、一種の打鼓。
はんたつ 半斑銅鏡。鏡物。銅鏡の一種。形、齊整
はんたつ 半番頭新造。遊廓にて、太夫につき
はんたつ 半坂東八州。坂東にあたる八個國、即
はんたつ 半反動力。物につきあたりて、はねかへ
はんたつ 半判取。判取帳の要。
はんたつ 半番鳥。獸の名。むさびをいふ、畿内の方言。
はんたつ 半判取帳。商店にて、金銭、代物などの
はんたつ 半長靴。長靴よりも短く、短靴よりも長

はんたつ 半半納。半額だけ納むること。
はんたつ 半半日。一日の半分。
はんたつ 半半任。古は、太政官の判官にて、任じたる
はんたつ 半半判人。一判を押して判人となる人。三つげん
はんたつ 半半人。一人前の職人の半分の手回賃。
はんたつ 半半人。多くの人。諸人。
はんたつ 半半番人。番をする人。見はりて守る人。守衛。
はんたつ 半半般若。一光語。智慧の義なるを、照りていふ
はんたつ 半半般若湯。僧家の器。酒の器。
はんたつ 半半般若面。はんにやめんに似たる顔。嫉妬
はんたつ 半半般若面。一能なさに用ゐる鬼女の假面。
はんたつ 半半煩熱。つよきねつ。ほめき。
はんたつ 半半晩年。年老いたる時。老年。
はんたつ 半半木。木の名。葉は、けやきのに似て、花は、栗の
はんたつ 半半日。奇數にあたる日。一日三日、五日などの

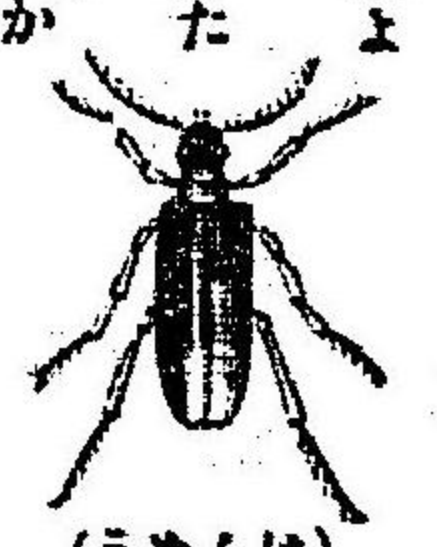
をふあわ ろれるりよ よゆや もめんむみま はんたつはんたつ

はんばつ 半端。数の揃はぬこと。はした。⑥
 はんばつ 販賣。買りまはくこと。あきない。
 はんばつ 販賣所。貨物を賣りまはくところ。
 はんばつ 図 繁忙。用事多くして、忙はしきこと。多忙。
 はんばつ 図 萬望。しきりに願ふこと。熱望。
 はんばつ 図 萬邦。ばんこくにわたる。
 はんばつ 図 萬方。一はうはう。四方八方。二種様さま。まなる方法を用ひること。百方。
 はんばつ 図 半袴。素袍、又は肩衣の下に着用する短き袴を長袴に對していふ稱。常には袴ののみいふ。平袴。
 はんばつ 図 斑白。黒白入りまじれるもの。しらまじり。顔白。
 はんばつ 図 鳥の名。鶴の一種。斑色にして、黄金色を帯へる美しき毛あり。卵を多く産む。
 はんばつ 図 藩閥。藩中の家がら。
 はんばつ 図 半髮。男子の、頭髪を削りて結びたる髮。やちうあたま。
 はんばつ 図 斑髮。しらまじりの頭髮。
 はんばつ 図 半半。半分づつに。
 はんばつ 圖 萬萬。まちがひなく。十分に。必ず。「萬」。はんばつ 圖 萬般。すべての物事。いろいろ。よろづ。はんばつ 圖 半日。はんのひにわたる。
 はんばつ 圖 反比。數學の語。二つの量の反對の比をもて増減すること。例へば、事業をなすに要する人数の多少、日數

の多少は、常に反比なる類。
 はんばつ 圖 煩費。いろいろのなきこと。
 はんばつ 圖 半臂。東帯の時、袖の下に着る、袖の、殆どなきやうなる短き衣。古、樂人なきの着たるもの。
 はんばつ 圖 半開。花の、なかに開くこと。半葉。
 はんばつ 圖 繁蕪。たひしげること。
 はんばつ 圖 頑布。普くわかつくはること。それそれいふれ示すこと。頑布。
 はんばつ 圖 攀附。貴顯なる人につけいること。
 はんばつ 圖 斑布。さらさらになじ。
 はんばつ 圖 晚風。くれがたに吹く風。ゆふかぜ。
 はんばつ 圖 半風子。虫の名。しらまじりになじ。
 はんばつ 圖 牛腹。山の中ほら。中腹。
 はんばつ 圖 反覆。繰り返すこと。たびたびすること。
 はんばつ 圖 叛服。そむくこと。したがふこと。
 はんばつ 圖 萬福。幸福の家きこと。幸福。
 はんばつ 圖 萬物。天地の間にある、一羽の物。あらゆるもの。なんもの。
 はんばつ 圖 萬夫不當。いかなる人も敵對しがたきはんばつ 圖 半分。なかは。ふたつわけ。一半。
 はんばつ 圖 繁文。こみ入りたる文章。
 はんばつ 圖 藩屏。一かき。へい。二伊勢の兩宮の御門の正面にある屏。

はんばつ 圖 半平。一殿河原の人半平といふ者の、造りはじめたるもの。較なみの肉を、よく叩き、薄く、方形、半月形、又は花形なやになして蒸したるもの。かまぼこの類。
 はんばつ 圖 番兵。守衛の兵。はんそつ。守兵。
 はんばつ 圖 判別。明かにわかすこと。さばきわくること。識別。
 はんばつ 圖 半片。一ひらの半分。はんぺら。
 はんばつ 圖 半平。はんぺいの點。東京の點。
 はんばつ 圖 團圓侍。はんりの侍便。⑥
 はんばつ 圖 反哺。子鳥の、成長して後、食物を、親鳥に與へ、恩を報いかへすこと。
 はんばつ 圖 晚餐。一ひくれがた。夕方。暮方。二時様になくものこと。たそがせ。
 はんばつ 圖 藩牧。いひつをいふ。甲斐國、出雲國、伊豫國の方言。一地方の統治者。藩王。
 はんばつ 圖 版本。版木に彫りて、摺りたる書紙。印本。(寫本に對して)
 はんばつ 圖 翻本。原本と同じ別様の本。翻刻本。
 はんばつ 圖 版彫。木版を刻る人。
 はんばつ 圖 半間。前後の揃はぬこと。つじつまのあはぬこと。まなけ。⑥
 はんばつ 圖 飯米。日常、飯にかしぐ米。食用米。
 はんばつ 圖 半道。一里の半分なる道のり。半里。十八町。
 はんばつ 圖 萬民。多くの民。あらゆるたみ。庶民。

はんばつ 圖 蕃民。えびすのたみ。野蠻なる民。
 はんばつ 圖 繁務。多用なること。
 はんばつ 圖 反命。返事を申しあぐること。復命。
 はんばつ 圖 斑猫。虫の名。翅の上に、黒色の線あり。墨黒を帯び、大毒あり。この死體を粉細して、泡盛酒の主眼とする。
 はんばつ 圖 晚飯。ゆふめし。やしよく。晚餐。
 はんばつ 圖 半面。一葉の半分。かためん。かたもて。二事情の片かわ。
 はんばつ 圖 半面識。わづかのしりあひ。少しのしりあひ。
 はんばつ 圖 繁茂。草木のたひしげること。
 はんばつ 圖 反目。にらみあふこと。
 はんばつ 圖 萬物。ばんづつになじ。
 はんばつ 圖 版元。書物、繪紙などを版木にて刷り出す家。出版元。發行所。
 はんばつ 圖 煩悶。もたえくるしむこと。
 はんばつ 圖 反問。問きかへすこと。
 はんばつ 圖 斑文。まだらのもん。ちらふ。
 はんばつ 圖 半股引。膝の上までを被ふはらひの長さの股引。
 はんばつ 圖 半夜。一一夜の半は。二まよなか。夜半。
 はんばつ 圖 版屋。版木屋の略。
 はんばつ 圖 番屋。番人の居ること。番所。



(うめんは)

はんや斑枝花。木の名。熱帯國に産し、葉は、くるみに似て、花は、唇の如しといふ。實は、大さなほかにて、中に、種が如きものあり。種に代用す。

はんや羅摩。草の名。かがみぐさになじ。

はんや板輿。いたしになじ。

はんや繁用。用事の繁きこと。繁多。多用。多忙。繁務。

はんや凡庸。はんようになじ。

はんや晩來。ひくれがた。日暮。

はんや煩勞。心を煩はすこと。骨折。苦勞。

はんや叛亂。むほん。

はんや汎濫。河水の漲り溢るること。洪水の出づる。

はんや斑爛。いろいろの色のまじりて、はてやかなること。

はんや飯粒。めしつぶになじ。

はんや半輪。半は折けたる月。半月。

はんや晩涼。くれがたのすずしさ。ゆふすずみ。

はんや盤領。袍、水干などの、圓く仕立てたる領。まるなり。つんまり。

はんや斑龍。動物。馬の異名。

はんや伴侶。なかも。とも。つれ。

はんや煩慮。たもひわづらふこと。心配。

はんや蟠龍。わだかまりあて、未だ昇天せぬ龍。

はんや煩累。うらさきこと。面倒。

はんや凡例。書物の初に、その書の大要を示せるもの。

はんや半嶺。山の半度。山腹。

はんや煩層。唇を、口中に分ちくはること。

はんや斑列。つらなりならぶ位置。

はんや販路。うりさばくみち。はげくち。

はんや坂路。さかみち。登り路。

はんや絆籠。ほだすこと。つなきて、自由を妨ぐる。

はんや範圍。かこひ。かぎり。區域。

はんや半圓。數學の語。一つの圓形を、二等分したる、その一方。

はんや羽目。一室内に、板を張りて、壁に代へたるもの。板壁。二はりひ。ぐあひ。まびやうし。

はんや馬嘯。馬の鳴き聲。いななき。

はんや羽目板。はめに張りて用ゐる板。

はんや圓嵌込。はめて入れこむ。挿入す。

はんや破滅。やぶれてほろぶること。滅亡。

はんやあざむく人。だまして陥るる人。騙着者。

はんやかかろ。深く、奥に入る。

はんやけ。はせること。はづすこと。

はんや馬面。一馬の面部にかぶらする面。二顔の形の長き人。うまつら。

はんや馬面鏡。馬の面部に著するようひ。

はんや馬。馬に乗りて、度をすること。

のねにな ごとつちた そせすしき こけくきか ねえういあ

はも。魚の名。うなぎに似て大きく、背鰭は、尾と連なり、また肉中に、小さき骨多し。はも。海鰻。

はもち。木葉餅。木の葉につつまたる餅。かしはもちの類。

はもち。歯元。はぐきにたなじ。

はもの。刃物。刃のあるものの類。さきもの。利器。

はもの。端物。敷のそらはねもの。はしたもの。

はもの。双物師。又ものを造る人。

はもん。破門。一人の、門人たるまじき行なふ犯したる時、師弟の業を逃つこと。二信徒の、信徒にあるまじき行なふ犯したる時、宗門を脱せしむること。

はもり。羽盛。鳩鳥を、頭と、兩羽と、兩足を、飛べるとき、の形の如く盛りたる料理。

はもりの。かみ。葉守神。榊木を守る神。また柏の葉を守る神なりこと。

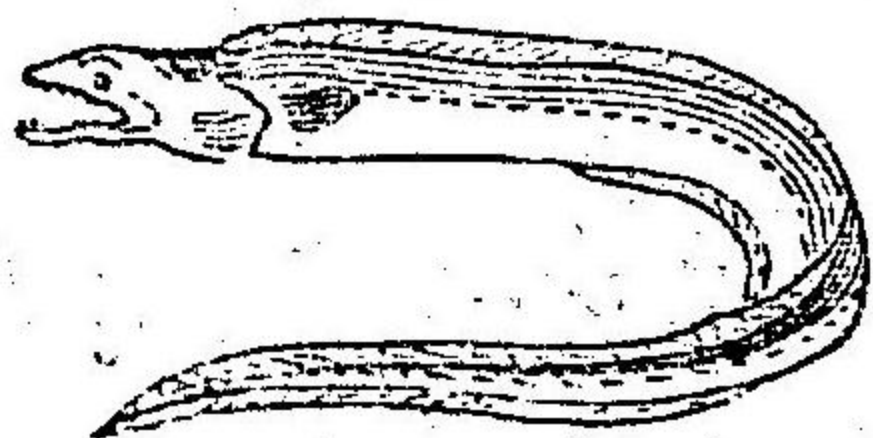
はや。早矢。一手に、二本持ちたる矢の中、第一に射る矢の稱。矢羽の表を、外の方へ向けて射る。

はや。鱈魚。魚の名。はえをいふ。東國の方言。

はや。早追。はやたひの略。

はや。早。一既に、疾くに。もはや。伊勢物語「鬼は、ち、口にくちにくへり」二早く。すみやかに。

はや。欲し願ふ事を示すに用ゐる。



(は) (は)

はや。あし。脚疾足。疾行くこと。速かなること。あしはや。

はや。ち。早糸。糸車より、紡績にかけた糸。はやを。新車註。

はや。また。早歌。神樂歌の體。口疾く詠ふ歌ならんか。

はや。また。早歌謡。早歌をうたふ人。

はや。また。早打。馬を馳せて、急事を報ずること。また、そのつかひの人。

はや。また。急擊肩。腰痛のため、肩の肩所に充血す。

はや。また。早馬。一早打ちの使の乗れる馬。急馬。二よく走る馬。駿馬。逸馬。

はや。また。早起。朝はやく起くること。晨起。「はや」。

はや。また。早追。晝夜、駕籠を飛ばして、急事を報ずる使。

はや。また。早書。文字を急ぎ書くこと。はしりがき。疾書。

はや。また。早合點。事の始末を附きはてはて、早くも我れひかりにて、合點すること。

はや。また。早鐘。出火その他、非常の事を報ずるために、せはしく打ち鳴らす鐘。また、その鐘の聲。警鐘。

はや。また。早川。流れのはやくい川。萬葉集「はやかはにあらひこそきからしほ」こと。

はや。また。早變。いでたを速に變ふること。急變。又は神樂ならにて。

はや。また。破約。約束を破ること。前約を捨つこと。

はや。また。早。すみやかに。いそぎ。はや。二やく。せかし。まへかたより。すて。三者入聚する同義なく。

はや。また。早口。勢ひの疾きこと。はやいこと。

をふみわ るれるりら よや もめんむま はふひは

はやひの早。すまじ。まさの。まへかたの。
はやひの早具。はやひにたなじ。
はやひの早銃包。小さき紙筒に、火薬を包みたるもの。小銃に込むるに用ゐる。火薬石。
はやひの早言。こゝろはづかひの早きこと。はやひ。
はやひの早咲。凡て花の早く咲きたること。
はやひの早急雨。にはかあり。いふたぢ。驟雨。
はやひの早林。「樹木の、早くたひたること。二轉じて、物の、多く集まれること」。
はやひの早難。能く居、長明、又は宗禮の花車ならに用ゐる音なり。
はやひの早。俗に、はやひ。一進みするを、すすみやかなり。速。二進みする。三初めなり。
はやひの早林鐘。陰暦六月の要綱。
はやひの早鞭。むちにたなじ。
はやひの早離子物。凡て、はやひに用ゐる道具。
はやひの早生。生むしむ。のはず。
はやひの早榮。「はえあらしむ。ほりはやす。開揚す。二轉じて、聲を發してあさける。三離子をなす。歌曲の拍子」。
はやひの早醋。粟縮ならに、なしたる醋。こたす。
はやひの早鮓。魚貝なるの鮓を、細かくきりてつくつたる鮓。熟する。こたす。
はやひの早瀨。水の、疾く流るる瀨。急流。
はやひの早紡糸車。はやひにたなじ。

はやひの早立。川の異名。
はやひの早便。「急ぎのすつれ。急便。二定時より早くつきたる信書」。
はやひの早疾風。はやひにたなじ。
はやひの早繼。瀬戸物、その他の器具の類たるものを、進時に進ませたること。また、それに用ゐる類なるもの。
はやひの早附木。すりつけにたなじ。「風」。
はやひの早疾風。「はやちの風」に、はげしく吹く風。兼はやひの早人。はやひの異名。
はやひの早飛。はやひの異名。
はやひの早取寫眞。寫眞の一法。四角に、はやひの早作。以前のままたて。
はやひの早鍋。こりなはにたなじ。
はやひの早鍋。摩き銅鑪にて、造れる小鍋。物を、早く煮るに用ゐるもの。
はやひの早波。あらなみ。たはなみ。急波。激浪。
はやひの早呑込。はやひにたなじ。
はやひの早走。疾く走ること。疾走。
はやひの早早。早くせよ早くせよとせきたてて。
はやひの早早。いさ早く。きはめて早く。
はやひの早早脚。はやひの使。はやひ。急使。
はやひの早単人。はやひにたなじ。
はやひの早旋覆花。草の名。ひるがひにたなじ。

あいうえお かきくけこ させすじゆ こけくきか

はやひの早大戟。草の名。高さ一丈ばかり。花は、黄に、紫色を帯びて、夏夏の間を開き、葉は、細長く葉の中には、乳の如き白汁を含み、根に毒あり。たかひつたじ。
はやひの早舟。「急ぎて進む行く舟。二疾くはしる小舟」。
はやひの早山。はしの山。よまの山。ちやま。
はやひの早丸。動物。鱗鱗の異名。
はやひの早道。「ちかみちにたなじ。二はちあしにたなじ。三急に行はるる手段。早く會得せらるる方法。捷徑」。
はやひの早。俗に、はやひ。はやひ。あせむ。
はやひの早。俗に、はやひ。二催産の器。
はやひの早催産。一出産を促すこと。二催産の器。
はやひの早催産。出産を促すために服する藥。
はやひの早。すみやかに。ただち。
はやひの早流行。はやひの。時めくこと。時様。
はやひの早流行唄。その地方、又は、その時にはやの俗語。
はやひの早。心疾く進みて。前後のわかまへもなく
はやひの早流行神。一時、参詣人の多くある神社。
はやひの早早心。せきたつ心。かるがるしき心。

はやひの早。いらたつ。せく。いそぐ。
はやひの早流行眼。時時、流行する眼病。傳染し易し。
はやひの早流行病。一時流行して、傳染しやすき病の總稱。
はやひの早雄。はやひかな。をのこ。血氣盛りなる若め。雄。雄。
はやひの早流行。「疾く世に行はる。時めく。二急病が流行す。病傳染す」。
はやひの早。心、急みに進む。氣がせく。あせむ。
はやひの早早分。容易にさしやう。はやひにたなじ。
はやひの早早業。巧にして手早き業。
はやひの早早箱。わせにたなじ。
はやひの早早箱。「箱につくる。箱。二はやひにたなじ。大なる箱」。
はやひの早生。俗に、はえ。わひ。芽を出だす。
はやひの早映。俗に、はえ。一光うつる。影りあひて、色せざる。二さかりに見ゆ。さか。
はやひの早映。日月が映す。
はやひの早馬。「はやひの馬の、鞍路をかよふ馬の、鞍をかけたもの。えきま」。
はやひの早驛路。えきまにたなじ。
はやひの早驛使。はゆ馬に乗つてゆく使者。早飛脚。

あいうえお かきくけこ させすじゆ こけくきか

はらゝ腹。一胸の下部の、胃、腸を包める部分の腹。二その人を生みたる女。生母。三心ひうづ。こころはせ。

はらゝ原。平かにして廣き地。野。

はらゝ薔薇。木の名。いはらの薔。

はらゝ零亂。一はらひらひらして、崩はすにあること。二はらせん。

はらゝ國等。仲間の、數多きを示すに用ゐる。たち。やも。

はらゝあか腹赤。魚の名。ますにたなじ。

はらゝあし腹惡。心わるし。腹ぐるし。

はらゝあて腹當。一腹のあたりを被ふ腹の二部。二はらひけ。はらまき。

はらゝあはせ腹合。一凡て、向ひあひて並入ること。二はらあはせのたび腹合帯。裏地、表地の異なる女着。(まはたびに對して)

はらゝせ腹愈。一腹ひすしの養。また腹居せの養にて、むの假名なり。二「腹愈をばらす」こと。三「愈」の假名なり。四「腹愈をばらす」こと。

はらゝいたみ腹痛。大小腸の痛む病。

はらゝらつ杯腹一杯。腹に滿つるほど。食ひあへんか。つ。

はらゝち破牢。賊屋を破りて逃げ出づること。破賊。

はらゝち破浪。なみにたなじ。

はらゝち破浪神。船首に刻みつけたる神像。航行の際、波を破りて、船を護る。いふもの。ふながみ。

はらゝたび腹帶。一人の腹を巻く帶。はらまき。二いはたなびにたなじ。三馬の腹をくぐる帶。はらび。

はらゝか腹赤。魚の名。はらあかの薔。

はらゝきたたき腹北山。飢を感ず。ひもじくなる。

はらゝくたたる腹下。下痢す。

はらゝけ腹掛。胸より、腹までを被ふ短き布片。はらはらがたつ腹立。怒る氣になる。はらたつ。

はらゝのさう腹赤奏。はらかのいへを、天皇にたてまつる公事。

はらゝのたへ腹赤贊。昔、正月の元日の節會に、筑紫より、贈を奉りしこと。

はらゝがはり腹異腹。父同じくして、母の異なること。

はらゝがはる腹脹。腹に滿つ。食に飽く。

はらゝがはる腹膨。一腹大きくなる。二腹にみつ。食に飽く。三「身をす。子を孕む。」

はらゝがはる腹太。一大度なり。きもふ。し。

はらゝがはる腹減。空腹になる。餓う。

はらゝがはる腹同腹。一同腹の兄弟姉妹。二腹に、一般の兄弟、はらゝがはる腹居。腹たしき心しつまる。

はらゝがはる腹腹穢。俗に、はらきたない。心まがりてあり。はらぐるし。

はらゝがり腹切。はらをきること。せつぷく。割腹。屠腹。

はらゝがりたな腹切刀。腹をきるさまに用ゐる短刀。

はらゝきる腹切。たのれを腹を切りて死す。せつぷく。割腹。

のねにた きてつらた そせしき こりくきか なえういあ

はらゝたて腹下。はらくだり。

はらゝたつ腹下。大便ゆるみて、度度下る病。下痢。

はらゝたつ腹黒。はらぐるきこと。

はらゝたつ腹黒。俗に、はらぐるき。心だて善くなし。む。たなじ。

はらゝたつ腹散。はらきてあり。さるさまなり。

はらゝたつ腹子。はららにたなじ。

はらゝたつ腹消化。食物を消化せしむるために運動す。じ。

はらゝたつ腹籠。一孕まれて、未だ胎内にある子。二腹内に遊りこめてあること。三父の死にたる後、生れたる子。遺腹。

はらゝたつ腹晴。はれやかにす。くもりなきやうにす。晴。

はらゝたつ腹一はらひらひら。二「はらひらひら」にたなじ。

はらゝたつ腹筋。一腹のなか。二腹筋をよめること。さかしまにたなじ。

はらゝたつ腹をよめる腹筋。甚しく笑ふ。絶倒す。抱腹す。

はらゝたつ腹爆炭。はねすみにたなじ。

はらゝたつ腹零亂錢。寛永通寶、文久通寶などの、まじに賣きてあらはる。

はらゝたつ腹腹高。はらめるさまなり。

はらゝたつ腹腹立。俗に、はらたなし。しき。

はらゝたつ腹腹立上月。一酒にあひて、怒り

はらゝたつ腹立。いかる。いきまほる。立腹。

はらゝたつ腹鼓腹。一天下太平にて、民の樂み悦ぶさま。二俗に、腹を、手にてうち、太鼓の音に似すること。

はらゝたつ腹取。あんぶくにたなじ。

はらゝたつ腹据。しりふ。握ふ。我慢す。

はらゝたつ腹中。一はらうちの約はらのなか。

はらゝたつ腹原野。ひろき野。のはら。

はらゝたつ腹をひねる腹捻腹皮。はらすをひねるにたなじ。

はらゝたつ腹をよめる腹腹皮。はらすをよめるにたなじ。

はらゝたつ腹大角。戰爭に用ゐる合圍の角。

はらゝたつ腹虫。虫の名。人の小胸に寄生し、形、蜆の如し。殊に、見供にをし。くわいぢゆう。

はらゝたつ腹をよめる腹腹。はらすをよめるにたなじ。

はらゝたつ腹腹這。腹を、下につけ、手足にて行く。はら。

はらゝたつ腹一木の葉、又は薪などの相觸るる音に似。二雨涙、又は果物などの落ちるさまに似。三ほろほろ。三氣つかはしく思ふさまに似。ひやひや。

はらゝたつ腹散散。一雨、又は霞などの降り来て、物にあたる音に似。二「はら」にたなはなれに。ちりちりに。

はらゝたつ腹散散。粒だちたる物の、散布するさまに似。

をよめる りれるり りゆや もめんむみま けへふひは

はり図鍼。一鍼の用ゐる具。金、銀にて造り、形、針の如くして、稍長く、人身の病ある所にさして、瘰癧するに用ゐる。二いしが、いさぎのき。刺。三等なるの尻にある。針の如きもの。腰。四一端尖り、一端にめさありて、そのめさに糸をこぼして、物を縫ふに用ゐる細き銅製の棒。

はり図梁。棟。打ち違ひにさして、屋根を支ふる材。うつはり。

はり図張。一ひき張る力。縮りたるものが伸びんとする力。二いさばり。いさぎ。はりあひ。國圖。一弓、提灯などの数を示すに用ゐる。二弓の強弱を示すに用ゐる。五人はりの強

はり図羽蟻。虫の名。はりの器。

はり図尿。いはり。馬小便。

はり図罵言。悪口を吐くこと。ののしり罵ること。

はり図玻璃。「玻璃」すあしやうにたなじ。二種じて、びいさう。がらす。ぎやま。

はりあひ図張合。「はりあひ」こと。競争。二事をなしたるかひ。せん。しるし。

はりあひ國圖張合。互に勝らんことをせりあふ。競争。

はりあひ洋扇。畳みたる扇子を、紙にて包みたるもの。諸醫師の話をしながら、机をたくに用ゐる。

はりい図鍼醫。鍼を用ゐて内部の病を治する醫術、また、その醫師。

はりいた図張板。洗ひたる布を張りつけて乾す板。

はりいれ図針入。針を入れ置くに用ゐる小さき箱。

はりあち図針打。婦人の髪飾りに用ゐるもの。種種の花形などに製す。唐人まげ、天神まげの模掛に用ゐる。

はりあち図針獨活。獨活を、針の如く細く切りて、つまに用ゐる料理。

はりえひ図鮪魚。魚の名。えひの一種。あかえひに似て、

はりかた図陰相。陰莖の形に造りたる陰具。

はりかね図針金。銅、鐵などを、糸の如く、細く長く延ばしたるもの。針金。

はりかねり図針金賣。江戸市中に、針金を賣りあるきたるもの。明和の頃まで在りし。

はりかねひき図針金引。針金を造る人。線金工。

はりかねむし図針金蟲。虫の名。形、糸の如く細長し。はった。又は鳥などの腹に寄生す。あしまつひ。線虫。

はりかへ図張替。古きを去りて、新しきものを、張ること。

はりかみ図張紙。一物にはりつけたる紙。二らうがきの類。張札。

はりき馬力。木の名。このてがしはをいふ。土佐國の方言。

はりき馬力。一頭の馬の有する力。二一分時間、三萬三千ぼんごの重さの物を、一呎揚ぐる蒸氣の力。

はりきやう図玻璃鏡。がらすの裏に、水銀をひきて造りたる鏡。

はりきり図刺桐。木の名。桐に似て、刺あり。葉は、桐に似て大きく、木質は、固くして色白し。

はりきる國圖張切。十分に張る。さこまでも押し運す。國圖。俗に、はりきれ。はりさくにたなじ。

のねにた きてつらた そせしき こけくきか 木えういあ

はりくすし図鍼醫。はりいにたなじ。

はりくやう図針供養。二月八日、縫ひ針の折れたるを集めて、淡島神社に納め、終日、ぬひ物の業を休むこと。

はりくの図張鞍。なめしがをはを張りて作りたる鞍。

はりけん洋鴨。關語の鴨。鳥の名。あひるの一種。普通より大なり。たらんだあひる。

はりこ図張子。はりぬきにたなじ。

はりこがひ図張子貝。香なごを納るるために、はりこにて、貝の形に、造れるもの。

はりこし図張輿。疊たもてにて、周囲を張りつつみ、押練を打ちたる、疊式の輿。したこの類。

はりこし図張言。互に負けじこいひはること。

はりこみ図張込。頭ごなしに叱りつくること。

はりこし國圖張込。一力を入れる。奮發す。二さばる。たこ。散財す。三見はりをする。番をなす。

はりこし國圖張裂。俗に、はりさける。十分にふくねつ。遂に破る。

はりさし図針刺。針を刺し止めて置くもの。針簾。

はりさし圖針師。針を造ることを業とする人。はりすり。

はりさし圖針仕事。針にて、物をぬふわざ。ぬひはり仕事。

はりさし圖針筋。はりめ。はりぬひ。ぬひさぢ。

はりさし圖針吸石。鏡や。じしやくにたなじ。

はりすり圖針磨。はりしにたなじ。

はりすり図様摺。上古、樺の木皮にて、色を、布に摺りつけたること。

はりせんぼん図針千本。魚の名。河豚の類。佐渡の海に産し、長さ四五寸ばかり、形、しほさみふぐに似て、全身に鋭き刺あり。はりふぐ。魚炭。

はりたけ図墾田。あらたに開墾したる田地。新田。

はりたけみ図張工。表具を業とする人。經師屋。

はりたけみ図針茸。菌の名。長さ二寸ほごにして、一所にむらがりたひ、灰色にして、毛刺あり。しかたけ。うじした。

はりたけし図貼出。ある事項なごを紙にゆきて、衆目に晒るやうに貼り出すこと。

はりたけし圖張出。張りだすこと。

はりたけし國圖貼出。物事を、衆人に示すために、紙なごに書き貼りつく。はりだしをする。

はりたけし國圖張出。狭き場所を擴げ足す。

はりたけし圖針立。はりしにたなじ。

はりたけし圖張魂。いひはりて、負けじとすること。はんぎ。一徹心。

はりつて國圖圖張。はりつけに行ふ。

はりつて國圖圖貼付。俗に、はりつける。糊にて、紙なごを、物に貼る。張付。

はりつて國圖圖張。重罪人を、木に縛りつけ、左右より、槍にて

はりつて圖貼付。糊、又は膠なごに、紙を貼りつけること。又は、その貼りつけたること。

はりつてみ圖貼附紙。貼り附けに用ゐる料の紙。

をるふわ るれるり白 よゆや もめんむみま ぼへふひは

はわかれ 歴遊。遊と遊との間の別れすきであること。
 はわかれ 派分。葉の間に空をわくこと。
 はわかれ 派分。わかれ。支流。
 はわかれ 派分。断にありて、端がうづくやうになる。
 はわかれ 破壊。はぐわいにたなじ。
 はわかれ 破壊。日月、全く蝕す。
 はわかれ 破屋。はぐわいにたなじ。

ひ

ひ 五十音圖中、波行第二の音。響音の一。はよりも、少し狭く口を開き、中部の舌面を高めて發す。

ひの濁音。
 ひの次清音。

ひ 圓日。一太陽界の中央にありて、諸行星に、光を、熱を與ふる。廣大無邊の球體。太陽。日輪。二太陽の光。日光。三地球の、日光を受けてある間。晝間。四地球の、全く一回轉し終る間、即ち二十四時間。一晝夜。五ひかり。日限。六ひだり。七ひかり。八日神の尊。九ひかりの尊。十ひかりの尊。
 ひ 圓火。一物を燃すべき勢力あるもの。燃えて、光を、熱を發するもの。二特に、火打の火。燈火。三ともひび、燈火。四火にて物を煮、又は炙ること。ひが透る。五火のわざひ。六火車。七火色の尊。七たまき。八極めて烈しき情に譬へていふ。
 ひ 圓水。一こぼり。水の凍りたるもの。二あられ。ひさめ。三木の名。ひさきにたなじ。

ひ 圓槍。木の名。ひさきにたなじ。
 一。二。三。

ひの 圓 悲哀。かなしくあはれたること。「やなる。」
 ひの 圓 悲泣。かなしくあはれたること。「やなる。」
 ひの 圓 乾。一全く乾く。かわきき。二活計が立たぬまでの速力。
 ひの 圓 日脚。太陽の東天にあらはれてより、西に没すまでの速力。
 ひの 圓 日富。日の光のさすやみ。
 ひの 圓 火味。香の道具。香爐の火に、灰を被ひて、火の加減を見るもの。
 ひの 圓 洋琴。「英語 Piano」たるがんに似て、音の、一層さやかたの樂器。
 ひの 圓 扇間。家々、茶々の間の、せまくして、日のあすの間の間。
 ひの 圓 扇間。古、樽の扉板をこすりつらねて造られたる扇。公卿のは二十五枚、殿上人は二十三枚、女のは三十九枚にして、槍ななをかき、綴糸のあまりを垂らしたるもの。二校所の名。前狀の槍柄のさまを語れるもの。三草の名。葉も茎も黃菊の似、葉は、小枝いでて、夏秋の頃に、黄赤色にして、深紅の斑ある、五瓣の花を開き、黒色の實をむすぶ。からすあふ。射干。
 ひの 圓 火災。往に焼りつけ、周圍に薪を積みて燒き殺す。徳川幕府時代の刑。
 ひの 圓 火危。古、藥中にて、近衛の官人が、夜間逃行のをりに唱へて、他を驚めたる語。
 ひの 圓 校。ひにたなじ。「たなじ」。
 ひの 圓 最負。力をそつて、人を扶くること。ひきたつ。
 ひの 圓 水池。水をこふる池。
 ひの 圓 梭子。魚の名。ひのこをこたなじ。

ひの 圓 校。櫛の道具。櫛糸を巻きたるくだを巻れ、はりたる細絲の中をくぐらせ、一端より、一端へうちこみ、かまはするもの。
 ひの 圓 械。「ひのくち」にたなじ。二圓の具。實をえくるもの。
 ひの 圓 脾。肉體の一。形、輪圓にして、海綿の如きもの。胃の下にあり。いかなる作用を管むものなるかは明かならず。よ。いし。石に刻みたる文。
 ひの 圓 秘。内密の事。ひめたること。かくしたるもの。
 ひの 圓 緋。濃き朱色。眞紅。
 ひの 圓 非。「しからぬ」こと。二道理なきこと。よこしまなること。三關係は、全く絶えずながら、その間にあらぬこと。
 ひの 圓 妃。きさきにたなじ。
 ひの 圓 婢。はしため。めしつかひの女。
 ひの 圓 比。一たぐひ。ならび。二數學の語。二つの數の一方が、他に對して、倍數なる關係。
 ひの 圓 血槽。刀刃に刻みたる、細ききず。
 ひの 圓 目擊。眼睛の上に、物生じて、明かに見えぬ病。
 ひの 圓 樋。水を導くための、方圓の長き管。竹、又は木にて造る。こひ。
 ひの 圓 凡て、物事の隔て、又は、かさなりたるもの。
 ひの 圓 一。ひつにたなじ。
 ひの 圓 美。うつくしきもの。よきもの。
 ひの 圓 微。よわきこと。かすかなること。ちひかなること。
 ひの 圓 尾。魚の数を示すに用ゐる。

ひの 圓 會祖。ひにたなじ。
 ひの 圓 會祖。一穂いづ。二俗に、ひいでる。ひさかた。ひづ。勝る。
 ひの 圓 硝子。一硝子。Vitreous 石粉を溶して、吹き造るもの。透明無色にして、堅くもちろし。まやま。からす。
 ひの 圓 硝子鏡。はりまやにたなじ。
 ひの 圓 硝子紙。煙なほひきたる、半透明にして光澤ある紙。
 ひの 圓 硝子糸。ひらひらの粉を、飯粒にてねり、塗りつけたる糸。肥前國長崎にて、紙産をさす時用ゐるもの。他の紙産の糸にひさかけて、塵をは、他の紙産の糸を切る。
 ひの 圓 雜。ひにたなじ。
 ひの 圓 會祖母。ひにたなじ。
 ひの 圓 矢。矢を射るときひひきの形容にちよ。
 ひの 圓 被風。「日字の唐音」ひにたなじ。
 ひの 圓 沖。ひひるの音。ひひる。
 ひの 圓 麥酒。「英語 Beer」大麥にて醸造せる酒。はくし。
 ひの 圓 火入。煙草を吸ふための、火を盛る小ききず。
 ひの 圓 火色。一煙は紫に、煙は紅なる顔色。二顔色にさぐる色。茶褐色のつやあるもの。
 ひの 圓 眉宇。眉のあたり。
 ひの 圓 微雨。こさめ。細雨。
 ひの 圓 日向葵。草の名。はなあひにたなじ。

ひらがし

ひらがし 東。ひがしの音便。
ひらがし 日向鳩。鳥の名。あなはらにたなじ。
ひらち 火打。火を打ち出だすもの。
ひらち 火打石。硝物。質細き石英にして、容易に
破砕し、鋭き稜角を生ず。神代は、刀鑿に代用せりといふ。ま
た鋼鑿と打ち合せて、火をさるに用ゐる。燧石。
ひらちがね 火打形。ひらちの形。
ひらちがね 火打金。ひらちがまにたなじ。
ひらちがね 火打鎌。火打石と打ち合せて、火を敲せし
むるもの。鋼鑿にて造る。
ひらちたて 火打道具。火をきりいだすにつきて、必
要なる諸道具。
ひらちば 火打羽。「火打のさまをなせるよりいひこゝ
の末。
ひらちば 火打箱。ひらちの諸道具を入る箱。
ひらちぶくろ 火打袋。火打石、ほくちを蔵めて、
携帯に便する袋。
ひらちり 火移。火の移りつくこと。
ひらちり 日移。一日光のすきゆく影。ひあし。二日光
に照らされたるはえ。日光に映すこと。
ひらちひ 日。「ひひの音便」一日のあひだ。終日、駿河國の
ひらちひ 日。ふしあはせ。つたなき運命。薄命。
ひらちを 乾魚。動物。ひものになじ。
ひえ 冷。ひゆること。あせ。

ひらほひ

ひえ 草ぼうしの類。
ひえ 神。草の名。穂は、粟の如く、實は、黍の如くにして、
食用となる。水陸の二種あり。
ひえ たり 冷中。寒氣にあてられたること。また寒氣
にあたりて起る病。
ひえ いる 冷入。ひえさほるさむさ、身にしみいる。
ひえ いる 秘要。わくぎになじ。
ひえ いる 神益。たすけ。たまひ。
ひえ いる 披閱。開きて、よく見ること。
ひえ いる 鶴鳥。鳥の名。ひらちりにたなじ。
ひえ いる 神時。小さき鉢に、神をまきて、青田のさまに
作りなせるもの。
ひえ いる 飛鷹。殿堂などの簷のさまの、鳥のつはさの如
くなる部分。
ひえ いる 飛燕。「飛ぶつはさ。二羽術なるにて燕のつは
さ、身を離すこと。
ひえ いる 日擇。よき日をえらぶこと。ひいえらひ。
ひえ いる 火熾。ひふきだけをいふ。九州の方言。
ひえ いる 日瘡。毎日たこる瘡。
ひえ いる 曾祖父。たはちの父。ひぢぢ。
ひえ いる 曾祖母。たはちの母。ひはは。ひはは。
ひえ いる 日覆。「太陽の光をふせぐもの。ひよけ。二葉
厨の語。天井の邊の障。

のねにな ことつらた そせすしき こけくきか ねえういあ

ひたん

ひたん 微音。かすかなること。
ひたん 美音。うるはしき音聲。語ひこゝのよきこと。
ひたん 鼻音。氣息の鼻によれて發する音。
ひたん 日面。太陽に向ひたる部分。ひなた。
ひたん 悲加。かなしきねの節。
ひたん 悲歌。かなしい調子の歌。
ひたん 非家。その道の家ならぬこと。
ひたん 飛舸。脚の速き舟。はやぶね。
ひたん 飛蛾。虫の名。ひこりおしにたなじ。
ひたん 彼我。かれこわれ。あれこれ。
ひたん 被害。害をうくること。
ひたん 被害者。害を受けたる人。
ひたん 披講。詩歌の會ひとき、詩歌をよみあぐること。
ひたん 非行。すまじきみち。 「また、その人。
ひたん 鼻高。革にて、鼻を高くせあげて造りたる
沓。僧侶のはくもの。はなたか。
ひたん 僻覺。實事にたがひて覺えをること。
ひたん 引屈。ひさがしらの葉の、窪める部分。
ひたん 火擡。一薪の火をかき出だす具。端の曲りたる
長き金に、木の柄をつけたるもの。たさかき。二じふのうをい
ふ。陸奥國南部の方言。
ひたん 檜垣。檜の葉き板にて、あじろがきの如くに繋

ひたん

ひたん 引微目。やすりなせにて、すりたる目。
ひたん 比較。くらぶること。並べて見あはすること。
ひたん 費額。入費の多寡。いりめ。
ひたん 美學。美といふことに就いて、論究する學。
ひたん 日影。ひたほひにたなじ。
ひたん 日隆。一日の光。ひなた。二ひあしにたなじ。
ひたん 日蔭。日光のささぬところ。日光をさへざる物
の蔭。
ひたん 日蔭。草の名。深山の松などに垂れ下りて生
ずる糸のひげ。葉の末は、枝分れて、糸の如し。ひかげか
つ。ひげをいふ。
ひたん 日掛。毎日、幾許かつつの金錢を出だして、或る
雑定額に満たすこと。
ひたん 水掛。干菓子の種物を、水蜜に浸して、直に乾す
こと。
ひたん 日蔭。ひかげにて作りたるかつら。神
事に、冠の竿の左右にかく。後には、白青の絹糸にて造る。ひ
かげの組。ひかげのいし。
ひたん 日蔭。草の名。ひかげにたなじ。
ひたん 日蔭。草の名。一葉の異名。二ひかげ
にたなじ。
ひたん 火加減。火を用ゐる加減。火氣の強弱の度。
ひたん 日蔭。世に知られぬ者。かくれびこ。
ひたん 日蔭宮。ひかげになりたる宮殿。
ひたん 僻心。ひがみたる心。わざけたる心。

ひがりこ 隠僻事。ひがみたること。あやまり。
ひがき 隠日傘。傘の一種。日光をさくるにのみ用ゐるもの。
ひがき 隠 隠僻様。ひがみたるさま。
ひがき 隠 被引。俗にひかされる。隠にひきよせ
ひがし 隠 東。一本腰の出る方位。ひむかし。ひんがし。
ひがし 隠 東南。東方に向ひたる方。「東風の響。
ひがし 隠 東風。東より吹く風。
ひがし 隠 東北。東北の中間。
ひがし 隠 東山道。さきつらにたなじ。
ひがし 隠 東山道。さきつらにたなじ。
ひがし 隠 東山道。さきつらにたなじ。
ひがし 隠 東山道。さきつらにたなじ。
ひがし 隠 東山道。さきつらにたなじ。
ひがし 隠 東山道。さきつらにたなじ。
ひがし 隠 東山道。さきつらにたなじ。
ひがし 隠 東山道。さきつらにたなじ。
ひがし 隠 東山道。さきつらにたなじ。
ひがし 隠 東山道。さきつらにたなじ。
ひがし 隠 東山道。さきつらにたなじ。
ひがし 隠 東山道。さきつらにたなじ。
ひがし 隠 東山道。さきつらにたなじ。

ひがが 隠 隠僻。ひがみたるさまなり。心ねぢけた
ひがが 隠 閃閃。ひががにたなじ。
ひがが 隠 閃閃。光り輝くさまにたなじ。
ひがが 隠 閃閃。俗にひかふる。「ひががはひま
ひがが 隠 閃閃。俗にひかふる。「ひががはひま
ひがが 隠 閃閃。俗にひかふる。「ひががはひま
ひがが 隠 閃閃。俗にひかふる。「ひががはひま
ひがが 隠 閃閃。俗にひかふる。「ひががはひま
ひがが 隠 閃閃。俗にひかふる。「ひががはひま
ひがが 隠 閃閃。俗にひかふる。「ひががはひま
ひがが 隠 閃閃。俗にひかふる。「ひががはひま
ひがが 隠 閃閃。俗にひかふる。「ひががはひま
ひがが 隠 閃閃。俗にひかふる。「ひががはひま
ひがが 隠 閃閃。俗にひかふる。「ひががはひま
ひがが 隠 閃閃。俗にひかふる。「ひががはひま
ひがが 隠 閃閃。俗にひかふる。「ひががはひま
ひがが 隠 閃閃。俗にひかふる。「ひががはひま

ひがは 隠 彼岸花。草の名。しびこはなをいふ。中国
ひがは 隠 彼岸會。彼岸に行ふ佛事。「一の方言。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。

ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。
ひがは 隠 彼岸目。一睡の正しからざる目。二見あやまり。

をるわわ ろれるりの上や もめんむみま ぼへふひは

のねにば ぞつちた そせすしさ こけくきか たえういあ

ひきかへ 一かかりあり。關係。連累。二買買をこりくむ
 ひきかへ 一商家の語。買買をこりくむ。二
 商家の語。買買して、利益あり。三轉じて、事を行ひて、その
 勢力を衰したる甲斐あり。
 ひきかへ 引綱。ぢあみにたなじ。
 ひきかへ 引板。なるこにたなじ。
 ひきかへ 引出。一種けたるものをこりもさす。
 二誘ひ出だす。たびきだす。
 ひきかへ 引出物。ひきかへたものになじ。
 ひきかへ 引出。ひきかへた。絶息す。ひきかへる。
 國語。俗に、ひきかへれる。しひて、仲間ならしむ。誘ひ
 かせ。ひきかへる。
 ひきかへ 引入。元服のとき、冠をかぶらする人。
 ひきかへ 引入。ひきかへたになじ。
 ひきかへ 引入聲。幽かなる聲。氣息をひき入れ
 る。うくる細工の聲。
 ひきかへ 引入聲。幽かなる聲。氣息をひき入れ
 つやせしきやうに發する聲。
 ひきかへ 引入。俗に、ひきかへける。他人のなし
 たるあひを受けつぐ。負擔す。
 ひきかへ 引入。ひきかへる。
 ひきかへ 引入受人。他人のなしたる跡をひきかへる
 ひきかへ 引入。すりすりしたる石臼。上なる石に柄
 あり、その柄をまはして、穀を磨きつたすもの。いしうす。

ひきかへ 短人。ひきかへこの音便。
 ひきかへ 引馬。飾りにひきかへた馬。
 ひきかへ 引起。草の名。高さ二三尺、莖は方形にて、
 葉は、はくくさに似たり。味苦し。夏秋の頃、穂をいたして、
 小さな花を開く。いっぼんさう。
 ひきかへ 引出。ひきかへたつ。すたれたるをた
 へす。盛んならしむ。二倒れたるを支へたす。
 ひきかへ 引負。番頭、手代などの、主人の物品を、他に
 賣りて、代金帯り、主人に對して、負債なること。
 ひきかへ 引屈。ひきかへたになじ。
 ひきかへ 引たれ。引梯直垂。柿澁をひきたる布に
 て造りたる直垂。
 ひきかへ 引搔。爪をなにてかく。
 ひきかへ 引懸。俗に、ひきかへける。「かけてつる
 す。ぶらさぐ。二物品の代價を拂はす。借りたるものを返さ
 ひきかへ 引撥。かつや。荷か。かたぐ。「や。
 ひきかへ 引被。かぶる。頭よりかぶる。
 ひきかへ 引金。鳥銃の火門にある機。打金を擧げたとき、
 手前にひきは、打金もちて、火を發せしむるもの。撥機。「け。
 ひきかへ 引土器。蓋の酒のしたみを覆つるかはら
 ひきかへ 引替。俗に、ひきかへる。「これこ、か
 れこりかふ。二うらならこなす。
 ひきかへ 引替。ひきかへる。

のねにな てつらた そせしき こけきか たえういあ

ひきかへ 引返。ひきかへること。二芝居の語。く
 りかへしてする事。三女のはれぎ。かはりうらもの。
 ひきかへ 引返。かへす。もさす。くり返す。
 ひきかへ 引蟾蜍。虫の名。ひきかへたになじ。
 ひきかへ 引正絹。ひきかへたになじ。
 ひきかへ 引た。たえず。たてつけて。不斷に。
 ひきかへ 引切。心みじかく。性急に。
 ひきかへ 引切。ひきかへりてき。
 ひきかへ 引具。連れ立つ。携ふ。供ふ。
 ひきかへ 引薬。皮膚にぬるくすり。塗抹劑。
 ひきかへ 引組。しりくも。組みあふ。くみつく。
 ひきかへ 引括。俗に、ひきかへる。一つに
 つかまつる。
 ひきかへ 引越。ひきかへる。ちりり。離れ。
 ひきかへ 引腰。裳の後にひく。帯の如きもの。
 ひきかへ 引越。一人を起す。二家を移す。ちり
 ちり。離れ。
 ひきかへ 引事。事を説明するに當り、ひきかへたになし
 て説く例。
 ひきかへ 引込思案。進んで、物事に當る考なき
 ひきかへ 引込。退く。家に歸る。國語。誘ひて、
 仲間をす。俗に、ひきかへる。列より下にたく、他
 よりも低くす。
 ひきかへ 引下。退出す。下方にさがる。

ひきかへ 引提。ひきかへたになじ。
 ひきかへ 引算。げんはたになじ。
 ひきかへ 引把。くまで、繩をつけたる如きもの。麥
 なを刈りて、かきよする具。
 ひきかへ 引低。ひきかへたになじ。
 ひきかへ 引洩。神の方にひきかへる。香潮。
 ひきかへ 引絞。弓を、十分にひきはる。
 ひきかへ 引合。一互にひきかへる。二ひきかへ
 になじ。
 ひきかへ 引澄。琴などを、心もすむばかりに彈
 ひきかへ 引墨。書狀のうじめに、斜に引くす。一
 ひきかへ 引摺。なまめきたる女。二引摺餅の器。
 ひきかへ 引摺餅。跳へたる家に、餅つき道具を持
 ちかきて、餅をつくこと。
 ひきかへ 引摺。長く、地上をひきかへてゆく。
 ひきかへ 引副。鞍を置きたる馬にそへてひく。副馬。
 ひきかへ 引板。「ひきかへたの置」なるこにたなじ。
 ひきかへ 引出。「ひきかへたす」。二置箱ならにはめ
 込みたる箱。引き出し得るやうに造りたるもの。
 ひきかへ 引出。ひきかへたすの聲。
 ひきかへ 引立。盛んになる。勇しくなる。氣分ち
 はる。俗に、ひきかへる。「ひきかへす。はげます。
 二揃へて連れゆく。三あげ用ゐる。登庸す。

をるわ るれるり よゆ もめんむみま ほへふひは

ひきだす 引立烏帽子。もみをはしの類。冠の時、ひき立てて用ゐるもの。
 ひきだす 碾茶。茶の葉を、臼にて挽きて、細沫をせらるもの。熱湯にかきまぜて飲む。
 ひきだす 引繼。ゆづりつけて、あつたつた。
 ひきだす 引付。俗に、ひきつける。格入る。氣格す。引付。俗に、ひきつける。一そはに來らしむ。二先例にまかせて處分す。
 ひきだす 引繕。つくろふにたなじ。
 ひきだす 引付。一ひきつくらう。二ひきつけしゅうにたなじ。
 ひきだす 引付頭。ひきつけしゅうの類。
 ひきだす 引付衆。評定家の下司にて、時時の日記、刑罰などをかき留むる武家の衆。
 ひきだす 引續。つづくにたなじ。
 ひきだす 引綱。物に結びつけてひきはる綱。
 ひきだす 引撃。筋のひきつれていたむこと。懸撃。
 ひきだす 引撃。ひきよす。上につりあぐ。懸撃。俗に、ひきつれる。筋ちぢみて痛む。
 ひきだす 引連。俗に、ひきつれる。こもなじ。一同じ。
 ひきだす 引杖。杖を、後手に持ちながら歩むこと。
 ひきだす 引手。一障子、唐紙などを開閉する時、手をかくること。二導く人。さそふ人。
 ひきだす 引手。弓術の語。右の手。めて。「する茶屋。」
 ひきだす 引手茶屋。遊廓に附屬して、遊客を案内するもの。

ひきだす 引出物。祝宴、祭應などの折の贈物。
 ひきだす 引戸。敷居、障子の邊にはめて、左右に開閉する戸。やう。
 ひきだす 引取。一退く。退散す。二絶息す。死ぬ。
 ひきだす 引繩。物に結びつけてひきはる繩。
 ひきだす 引直衣。天子などのめさせたまふ直衣。古は、帯をつけてひかれたりしもの。
 ひきだす 引直。ひきまます。元に戻す。
 ひきだす 引布。正にしてある布。「き、ひはき。」
 ひきだす 引刺。旅人の衣服などを奪ひこるもの。たひはひきだす 引橋。はねはしの類。必用に應じて、架けたし、又は引き退け得るやうに造りたる橋。源平盛衰記「三方に橋をばり、東の方にひきはし渡して」
 ひきだす 引裏膚。ちぢみの如き細き皺ある皮。二その皮にて、造れる刀のしりぎや。雨天旅行の時などに用ゐる。
 ひきだす 引挽鉢。きはちをいふ。京都の語。
 ひきだす 引短人。身のたけ短き人。せいひく。矮。
 ひきだす 引札。貨物の名、その價なきをしるしたる紙。商家の賣りぬめなどに、諸方へ配付す。
 ひきだす 引舟。船に綱をつけ、人、岸にありて、曳き行くこと。いたびきにたなじ。
 ひきだす 引倍木。いたびきにたなじ。
 ひきだす 引干。海藻の類を干したるもの。
 ひきだす 引幕。左の方よりひきて明くる幕。たごし幕なみに對して)

おのれにた ごとつちた そせすしき こけくきか たえういあ

ひきだす 延喜草。植物。松の異名。
 ひきだす 引窓。てんまらにたなじ。
 ひきだす 引廻。一徳川時代の、重刑の附加刑の一。罪人を縛して、馬にのせ、その罪状を、紙にしろし、府内、或は犯罪の地、又は犯罪人の住居地などを引廻はして、公衆に示すこと。二罪の一種。長さ七八寸、幅五六分、肉厚くして、齒、粗なり。たほく、圓形に挽き切るに用ゐる。三かつはにたなじ。
 ひきだす 引眉。一正の髪見にて作りたるまゆ。ひきつたもの。
 ひきだす 引眉。眉毛を削りたるあごに、髪にて、眉毛を畫きたるもの。
 ひきだす 引近。てぢかなること。たやすきこと。
 ひきだす 引目。蝶の一種。木製にして、長さ四寸ばかり、圓み五寸ばかり。五つ六つの孔あり。空氣、この孔に入つて、鳴りひびく。
 ひきだす 引目草。黒き草に、赤く、わらび手のやうなる紋をつけたるもの。
 ひきだす 引目刻。ひきめをつくるを業とする工人。
 ひきだす 引不切。たえまなく、ひきつづきて、つづけたもの。
 ひきだす 引餅。こめにて、搗きたる餅。常陸國、下野國の方言。
 ひきだす 引弾物。ひき鳴らす樂器。
 ひきだす 引挽物。ろくろ細工にて、挽き彫りて造りたる器物の總稱。
 ひきだす 引物。一機式のこき、空の機部に、別に添ふる

菓子などの類。空の機へ懸るもの。二ひきだすもの。器。
 ひきだす 引飛行。空を飛びあぐること。
 ひきだす 引飛香舎。後醍醐の右、凝華舎の前にある、露内裏の御殿。蘇臺。
 ひきだす 引飛脚。ひくく。たけひくきさまに。
 ひきだす 引飛脚。急事を報する使。人の音信を遠方へ届くるを業とする人。
 ひきだす 引飛脚船。時日を定めて、飛脚に用ゐる船。
 ひきだす 引短山。ひくきやま。
 ひきだす 引道。たしのく。
 ひきだす 引破。ひきやぶる。ひきさく。
 ひきだす 引非興。たもしろみのなくなること。
 ひきだす 引秘曲。秘して、容易に、人に傳へぬ曲。
 ひきだす 引菌陳蒿。草の名。葉は、艾の葉に似て、葉く小さし。夏秋の頃、黄色の花を開く。花下に、細房ありて、中に、實をたはし。ははこ。
 ひきだす 引低。ひきやかにたなじ。
 ひきだす 引火燧。火をきりいだす具。古代は、槍を用ゐ、後世は、かまこ、ひうちいしを用ゐる。
 ひきだす 引火切。古、近江國より、供御としてたてまつりし、はがためのもちひ。
 ひきだす 引緋桐。木の名。桐の一種。高さ一二尺。葉は、圓く、末尖りて、鋸齒あり。夏、長き梗をいだし、更に小枝分岐して、枝毎に、朱色の花を開く。唐桐。
 ひきだす 引日切。日敷の限り。にちげん。

ををわ ろれるり ぶゆや りめんむみま はへふひは

ひきり出す **火鑽白**。上古に、火をきり出だすに用ゐたる。曰。櫛木にて造る。
ひきりきね **火鑽杵**。上古に、火をきり出だすに用ゐたる杵。櫛木にて造る。
ひきりやう **引兩**。輪の中に、横線二條ある絞所。足利氏の家紋。ふたつひき。二つ引兩。
ひきり **引換入**。ひきりおのぎ。
ひきり **引分**。俗に、ひきりける。ひきはなし。
ひきり **引分**。角力して、勝負の果てひきき、ひきわく。
ひきり **引分駒**。貢の駒を、親王公卿にまらさしむ。
ひきり **引綿**。木綿の上に、薄くひく真綿。
ひきり **引渡**。ひきわたすこと。
ひきり **引渡**。「長くひきはる。一端より、他の一端にはりわたす。二譲りわたす。てはなす。
ひきり **引割**。大麥の、粗くひきわりたるもの。米にまぜて、飯に炊く。
ひきり **引牽**。ひきつる。伴ふ。ひきつれゆく。
ひきり **引**。一わが方によらしむ。わが方に来らしむ。ひきあふ。連れだつ。三長く延べ張る。四ひきをなす。たす。五誘ひ試む。六ひきま。抜き出だす。七引出物を出す。八ひき。九取り来りて、適用す。十ひきめて、探り出だす。十一長く地をすりゆく。十二譲りわたす。十三長きしるしをつく。
ひきり **引挽**。「船にてきる。のこぎりひきにす。二ころろがなにて、挽物を造る。

ひきり **引**。弓弦を張り開く。
ひきり **引**。かなづ。かきならす。彈す。
ひきり **引**。ひきうすを廻して磨る。
ひきり **引**。あぶ。あむ。
ひきり **引**。あぶ。あむ。
ひきり **引**。遅く。まかる。やむ。
ひきり **引**。「比丘屋の裏。
ひきり **引**。「猪語。乞食の義」ほぶし。僧。二譲りて、ひきり。一細にて造れる奇。二魚を入る。竹の籠。
ひきり **引**。俗に、ひくい。一高からすあり。たけみじかし。ひきし。二聲かすかなり。音ひびかす。三位いやし。身分にあり。
ひきり **引**。畏れて歩みのたしかならさまにいふ。こひきち。ひき口。ひのくちになじ。
ひきり **引**。「はこはに。
ひきり **引**。鳥銃の火門。
ひきり **引**。意氣地なきこと。いくぢなきこと。
ひきり **引**。笑にてふるひたる脣。
ひきり **引**。ひくひく。たそれこはがる。
ひきり **引**。「ひく人。誘ふ人。二戸なき開閉する時に、手にてたさるること。ひきて。
ひきり **引**。女の法師。女の僧。
ひきり **引**。比丘尼御所。皇女の、住職となり給ふ寺。大聖寺、養老寺、養華院、光照院なるの類。
ひきり **引**。尻の皮の、反り上りて、腫のかくるるやうに造りたる雪駄。

ひきり **引** **比丘尼舟**。勸進をする比丘尼。又は山伏。祭文讀なをのする舟。勸進船。
ひきり **引**。たえだえに、息つきてうごめく。
ひきり **引**。怪し畏れて。
ひきり **引**。鳥の名。駿鳥の一種。濠州、東甲度諸島に産す。形、白鳥に似て、たけ五六尺。脚には、三指あり。羽黒く細く、頸頭は、毛なくして淺藍なり。頭上に翹あり。こしりつ。かすむる。
ひきり **引**。鳥の名。あかぐひにななじ。
ひきり **引**。藏人になるべき人の、未だ藏人にはならず、昇殿のみ許されたるもの。藏人所の下に居す。
ひきり **引**。虫の名。脚の一種。身の色青黒くして、長さ六分ばかり、羽は、透明にして長し。秋殊によく鳴く。かなかなせみ。
ひきり **引**。木の名。ねぶのきをいふ。同防國の方言。合歡木。圓ひねもす。終日。
ひきり **引**。植物。撫子の異名。
ひきり **引**。草の名。ひまはりをいふ。大和國の方言。
ひきり **引**。ひのくれかかりたる時。ゆふぐれ。たそがれ。
ひきり **引**。夏日光に照らされて、顔の色なきの黒くなりたること。ひやけ。
ひきり **引**。干乾きたる菓子。糖餠。(蒸菓子に對して)

ひきり **引** **被管**。附屬の管にして、古、省の下なる寮司なきの類の稱。
ひきり **引** **被管衆**。すぢむらひ。
ひきり **引**。「ひくこと。たいさん。二まけ。たくれ。」彼れにひきをこるものか。三寶賢に、徳を減すること。四夜の十二時すぎ。東京の遊廓の謂。
ひきり **引**。二唇類の邊に生ずる手。二動物の、口の邊に生ずる長き手。鬚。
ひきり **引**。へりくだること。高ぶること。謙遜。
ひきり **引**。うつくしきけしき。
ひきり **引**。悲しくあはれなるしくみの演劇。
ひきり **引**。機文をふれまはすこと。
ひきり **引**。たひうち。追ひかけて懸つこと。
ひきり **引**。籠をあみたる竹の、端を編み履して、髻のことくしたるもの。「防夫。
ひきり **引**。火災を消防することを、職とするもの。消
ひきり **引**。薪のたまびを密閉して消す事。
ひきり **引**。否なりと定むること。
ひきり **引**。大便のかたくなること。
ひきり **引**。たくのて。あうぎ。
ひきり **引**。髻たほき面。
ひきり **引**。草の名。「人參の類。高さ一二寸ばかり、葉、人參に似て小さく、莖、莖より分れ、地上に蔓りて根を生ず。根は、藥用とす。

ひきり **引** **火鑽白**。上古に、火をきり出だすに用ゐたる。曰。櫛木にて造る。
ひきり **引** **火鑽杵**。上古に、火をきり出だすに用ゐたる杵。櫛木にて造る。
ひきり **引** **引兩**。輪の中に、横線二條ある絞所。足利氏の家紋。ふたつひき。二つ引兩。
ひきり **引** **引換入**。ひきりおのぎ。
ひきり **引** **引分**。俗に、ひきりける。ひきはなし。
ひきり **引** **引分**。角力して、勝負の果てひきき、ひきわく。
ひきり **引** **引分駒**。貢の駒を、親王公卿にまらさしむ。
ひきり **引** **引綿**。木綿の上に、薄くひく真綿。
ひきり **引** **引渡**。ひきわたすこと。
ひきり **引** **引割**。大麥の、粗くひきわりたるもの。米にまぜて、飯に炊く。
ひきり **引** **引牽**。ひきつる。伴ふ。ひきつれゆく。
ひきり **引** **引**。一わが方によらしむ。わが方に来らしむ。ひきあふ。連れだつ。三長く延べ張る。四ひきをなす。たす。五誘ひ試む。六ひきま。抜き出だす。七引出物を出す。八ひき。九取り来りて、適用す。十ひきめて、探り出だす。十一長く地をすりゆく。十二譲りわたす。十三長きしるしをつく。
ひきり **引** **引挽**。「船にてきる。のこぎりひきにす。二ころろがなにて、挽物を造る。

ひきり **引** **引**。弓弦を張り開く。
ひきり **引** **引**。かなづ。かきならす。彈す。
ひきり **引** **引**。ひきうすを廻して磨る。
ひきり **引** **引**。あぶ。あむ。
ひきり **引** **引**。あぶ。あむ。
ひきり **引** **引**。遅く。まかる。やむ。
ひきり **引** **引**。「比丘屋の裏。
ひきり **引** **引**。「猪語。乞食の義」ほぶし。僧。二譲りて、ひきり。一細にて造れる奇。二魚を入る。竹の籠。
ひきり **引** **引**。俗に、ひくい。一高からすあり。たけみじかし。ひきし。二聲かすかなり。音ひびかす。三位いやし。身分にあり。
ひきり **引** **引**。畏れて歩みのたしかならさまにいふ。こひきち。ひき口。ひのくちになじ。
ひきり **引** **引**。「はこはに。
ひきり **引** **引**。鳥銃の火門。
ひきり **引** **引**。意氣地なきこと。いくぢなきこと。
ひきり **引** **引**。笑にてふるひたる脣。
ひきり **引** **引**。ひくひく。たそれこはがる。
ひきり **引** **引**。「ひく人。誘ふ人。二戸なき開閉する時に、手にてたさるること。ひきて。
ひきり **引** **引**。女の法師。女の僧。
ひきり **引** **引**。比丘尼御所。皇女の、住職となり給ふ寺。大聖寺、養老寺、養華院、光照院なるの類。
ひきり **引** **引**。尻の皮の、反り上りて、腫のかくるるやうに造りたる雪駄。

ひげふ 図 専怯。一たくれ。たぐびやう。二心術のやし
 ひげん 図 披見。ひらき見のこころ。
 ひげん 図 鄙見。たのが見入。己の考案。
 ひげん 図 比肩。肩をならぶること。
 ひげん 図 飛言。ねなしのこと。
 ひげもの 図 引物。價の減りたるもの。ひげのたちたる物。
 ひげのかす 図 國圖 街。てらふにたなじ。
 ひげる 図 引。ひかるの靴。一退散す。退く。二腫す。氣
 ひげをたの 図 鬚男。ひげ多き男。「たくれす」。
 ひご 図 孫。子の子。まご。うまご。
 ひご 図 曾孫。「ひごの約」孫の子。ひごまご。
 ひご 図 彦。男子の美稱。(ひめに對して)
 ひご 図 小舌咽。咽喉に垂れさがりたる小舌の肉片。
 ひご 図 籤。極めて細く削れる竹。籠なさをあむに用ゐる。
 ひご 図 詛語。まごひごは。いやしき語。あなごこは。
 ひご 図 飛子。鳥の名。燕をいふ。播磨國の方言。
 ひご 図 孫枝。枝の枝。枝より、更に出でたる枝。
 ひご 図 彦左衛門。法律の語。訴へられたる方の人。
 ひご 図 彦左衛門。朴直なるいなか武士をいふ。
 徳川時代の語。
 ひご 図 引合。ひきぢるの約。
 ひご 図 肥後芋莖。はすいもの莖を乾したるもの。

肥後國より産す。
 ひご 図 平江帶。草の名。葉は、のあきみに似て、刺な
 く厚し。夏、莖を出だし、秋、藍色の小きき花を開く。そのま
 ま、種のかくにして産す。
 ひご 図 彦太郎。夏の盟をいふ。九州の方言。
 ひご 図 彦父。夫の敬稱。
 ひご 図 火事。くわじ。火災。「え。壁」。
 ひご 図 孫生。伐りたる樹の株より生ずる芽。わかば
 ひご 図 孫生。ひごはえを生ず。
 ひご 図 緋鯉。魚の名。鯉の一種。全身、赤く、或は淡
 紅、紫など、種種の色まじれるもの。池などに畜ひててあ
 そぶ。食ふこと稀なり。
 ひご 図 日乞。晴天にならんことを祈ること。「命」。
 ひご 図 非業。佛敎の語。定まりたる報のあらぬこと。非
 ひご 図 彦星。七月七日の夜祭る、織女の夫なりとい
 ふ星。いぬかひはし。牽牛。
 ひご 図 彦御子。天子の、男の御子。皇子。
 ひご 図 比金襖。一表は、青の黄はみたるものにて、
 裏はふたあめなる、かさねの色目。二表、青黒く、黄なる織
 ひご 図 比金鏡。鏡類の織物。「色」。
 ひご 図 擔担。支那の秤目を示すに用ゐる。「ひ」
 ひご 図 日頃。さかころ。四五日以來。
 ひご 図 干聲。音聲のかれていて口病。

のねにた きてつた せせすしき こけくきか ねえういあ

ひご 図 藤。段々、腰のあひだの、背筋の前面。
 ひご 図 微細。こまかなこと。
 ひご 図 皮相。一うはへの考。二體にて、うはにたな
 ひご 図 秘藏。大切に納め置くこと。大切にして養ふこ
 ひご 図 非常。ひじやうの約。
 ひご 図 砒霜石。礦物。一銀、銅などを突き分くる
 時生ずるもの。刺毒あり。二ひせきたなじ。
 ひご 図 美相無。うつくしくなし。みたへ。
 ひご 図 秘藏息子。大切に育つる息子。
 ひご 図 秘藏娘。大切に育つる娘。
 ひご 図 拾。木の名。高さ二三尺。葉は、やや茶に似、
 花は、白くして、微臭あり。葉は、やきて灰となし、染料のあく
 に用ゐる。ひじやかき。ひじやしやけ。あくしは。
 ひご 図 膝掛。一女、又は商人などの、膝のあたりに
 かくるもの。前かけ。前たれ。二人力車などにのる時、膝に
 かくるもの。多くは、毛布を用ゐる。
 ひご 図 膝頭。ひごのさきの高きところ。ひごかぶ。
 ひご 図 乾魚。ほしやかな。魚の乾したるもの。ひご
 ひご 図 膝甲。ひごがしらにたなじ。
 ひご 図 膝株。ひごがしらにたなじ。
 ひご 図 日盛。日の照る最中。
 ひご 図 火先。一火の燃えあがるさま。ほのほ。二火の
 燃えつりゆく路にあたること。
 ひご 図 楸。木の名。梓の類。枝、葉、共に對生にして、幹
 直く、葉は、楸に似て、遠慮なし。夏、穂をなして花を開き、尺

餘の葉を結ぶ。木ささげ。
 ひご 図 久木草。植物。松の異名。
 ひご 図 販人。物を荷ひて賣りある人。
 ひご 図 販婦。物を荷ひて賣りある女。
 ひご 図 杓。ひごの轉訛。ひじやくにたなじ。「色」
 ひご 図 引裂。ひごさくの略。まじりをとりあぐ。
 ひご 図 鬚。うろ。賣りある。あきな。販。
 ひご 図 拉。ひじやくにたなじ。國圖 俗に、ひさ
 ひご 図 提。ひごさく。手にさげ持つ。
 ひご 図 瓢形。塔の九輪の上に置く寶珠。火珠。
 ひご 図 組膝。あぐらかく。足を組む。盤座。
 ひご 図 緋櫻。木の名。櫻の一種。花小さく、葉、長く
 垂れ、花の開かぬ時は、色甚だ紅なり。
 ひご 図 提子。酒を盛りて、盆に注ぐ器。
 ひご 図 瓢。一草の名。ゆふがほ、ふくいななどの總稱。な
 うひら。二ひじやくにたなじ。杓。
 ひご 図 鴉鳩。鳥の名。みさこをいふ。伊豆國の方言。
 ひご 図 瓢瓜。草の名。からすうりにたなじ。
 ひご 図 膝小僧。ひごがしらにたなじ。
 ひご 図 瓢花。一髪を、額の上にあけて、左右へ分け
 て結びたる童子の髪結び方なりといふ。「二」相撲に、左
 の方は、髪をつけ、右の方は、夕顔をつくることあるよりいふ
 右方の相撲。

をるめつ られるり ぶゆや もめんむみま ほへふいほ

ひきき 固久。ひきき。ひきき間。①
 ひきき 固拾。木の名。ひきかきにたなじ。
 ひきき 固膝皿。膝頭の中央にある、皿の如き骨。ひき
 のかはら。膝蓋。
 ひきき 固庇。一古、母屋の四面にありし狭き一間の隅。②
 二後世、家の四方の軒に、前に造り添へて垂れたる簾。
 ひきき 固久。俗に、ひきし。時ながし。時を無^くこ^う
 多し。永久なり。
 ひきき 固日指。窓などに日光のさしこむこと。
 ひきき 固大響。大臣の年年の大祭。初
 めて、大臣になりたる年の大祭は、母屋にて行ひ、年年の大祭
 は、庇にて行ふ。③
 ひきき 固久振。久しく、時日を経過して。めづら
 しく。④
 ひきき 固久田焼。高麗焼に似たる陶器。寛文の頃製
 出す。
 ひきき 固飛札。急ぎの手紙。飛脚にて寄せきたりたる手
 ひきき 固膝突。膝の下にしくむしる。三尺四方ばかり
 のもの。⑤ 徒然草「着陣したまひける時、ひきつきを忘れて」
 ひきき 固久。ひきしく。⑥ 萬葉集「ひきにあらん君を思ふ」
 ひきき 固膝口。ひきさりにたなじ。⑦
 ひきき 固膝口。膝のさき。
 ひきき 固膝聲。膝を打ちて、拍子をこるること。⑧
 ひきき 固膝皿。ひきさりをいふ。中国の方言。

ひきき 固久久。ひきしぶりにて。
 ひきき 固拍子。膝を打ちこる拍子。
 ひきき 固膝骨。ひきさりにたなじ。
 ひきき 固膝枕。膝枕をす。⑨
 ひきき 固膝枕。他人の膝を枕として、臥すこと。
 ひきき 固膝跪。ひきをつきて屈まり居る。
 ひきき 固久見草。植物。松の葉名。⑩
 ひきき 固悲惨。かなしみいたむこと。
 ひきき 固悲惨。かなしみいたむこと。
 ひきき 固飛散。こびちること。
 ひきき 固非参議。一大納言、中納言、参議ならに任ぜ
 られたる人の、現に、その任にあらぬもの。⑪ 二三位、四位に
 て、後に、参議に昇るべき人の總稱。⑫
 ひきき 固非参議四位。四位の非参議。⑬
 ひきき 固氷雨。あられ、雹、また、ひための降にて、大雨な
 らんこといふ。⑭
 ひきき 固販婦。ひきぎめの器。⑮
 ひきき 固密語。ひきめくにたなじ。⑯ 沙石集「京
 中の男女聞き及ぶにたがひて、結縁せんて、こころあつま
 りひきまきて拜まんぞいけ」
 ひきき 固膝下。一ひきのあた。座のほり。二みや
 こ。都府。畿甸。⑰
 ひきき 固毘沙門。ひしやまんの約。
 ひきき 固膝鏡。膝につくるよろひ。はいだての類。

のねにな きてつちた せせすしき こけくきか ねえういあ

ひきき 固火皿。一鳥殺の、火鉢をもちこむこと。二きせせ
 の端の、煎草を盛ること。
 ひきき 固日晒。天日にさらすこと。
 ひきき 固組膝。足を組む。あぐらをかく。臥す。
 ひきき 固回跪。ひきまてくにたなじ。
 ひきき 固菱。一草の名。根を、水底に托して、葉は、水に浮び、
 夏の末に、小白花を開く。實の形、三角、又は四角、堅き刺あ
 りて、鋭く尖り、秋熟す。その「は食ふべし。二菱形の葉。三
 菱の實の如き、刺ある鱗製の武器。
 ひきき 固簞。一兩枝の籬に、長き柄をつけたる武器。二端に、
 鐵の銳利なるをつけ、魚を刺して捕ふるもの。
 ひきき 固非時。午後の食事。俗家の器。
 ひきき 固秘事。人にかくして知らせぬこと。ひきひら。か
 くこと。
 ひきき 固肥辭。豊満なる詞。
 ひきき 固美事。ほむべきこといふ。
 ひきき 固美醜。みよきこといふこと。
 ひきき 固美辭學。しうじがくにたなじ。
 ひきき 固菱形。菱の實の形。四角を、歪めひらたくな
 したる如き形。
 ひきき 固火敷。かうしき。
 ひきき 固鹿尾菜。海草の名。ひききもの器。
 ひきき 固鹿尾菜。「ひききもの器」海草の名。海中の岩
 石に生じ、形、鼠尾の如し。長さ二三寸。色蒼黒なり。

ひきき 固引敷物。しきものになじ。⑱
 ひきき 固鹿尾菜。海草の名。ひききになじ。
 ひきき 固鹿尾拉。俗に、ひしける。たなじつもの。
 ひきき 固雁。鳥の名。雁に似て、雁よりも大なり。背、
 頭、凡て灰色にて、翅くろく、腹しろく。湖邊に集まりて、よ
 く、菱の實を食ふ。たばかり。
 ひきき 固鯉。魚の名。ひしこいわしの器。
 ひきき 固魚。魚の名。鰯に似て小さく、長さ二寸
 はかりなり。多くは、風乾して干す。ひしこ。こ。こ。
 ひきき 固日仕事。晝の間になす仕事。
 ひきき 固美質。よきがら。うつくしきうまれたち。
 ひきき 固鎮祭。鎮火祭の器。
 ひきき 固鎮火祭。火災を防がんとために行ふ
 祭。夏季、冬季の二期に行ふ。
 ひきき 固緊。一きびしくたされて出づる音の形容にいふ。
 二きびしく。はげしく。すきまなく。
 ひきき 固菱形。ひしがたになじ。
 ひきき 固餓死。うるじになじ。
 ひきき 固餓死。うるてしぬ。うるじにす。餓死す。
 ひきき 固菱餅。一菱形にきりたる餅。二ひしもち
 になじ。
 ひきき 固草の名。雄ひしは、雌ひしはの二種あり。雄ひし
 はの葉は、細長く、秋、芽を出す。雌ひしはの葉は、互生にて、
 糸のころぐさの如し。秋、穂を出す。共に細き莖、地上には
 ひひろりて、節々に、根をたぬす。すしはり。すまうり
 ぐさ。かやつりぐさ。

をるわ ろれるりら よゆや もめんむみま ほへひは

ひんばひ 菱灰。菱の實の殻を焼きて、灰とせるもの。香
 煙などの灰に用ゐる。
 ひんばひ 緊緊。一きびしく木されて、いづる音のさ
 まにいふ。ニきびしく。はげしく。すさまじく。
 ひんばひ 旱濕。しつけ。うらまほし。
 ひんばひ 干潮。ひきしほに木なじ。
 ひんばひ 醬。麴に、煮たる鹽水を加へて作る。多く瓜瓞の
 類を漬くるに用ゐる。なめもの。
 ひんばひ 醬酢。ひしほに木なじ。
 ひんばひ 乾。ほす。かわかす。
 ひんばひ 美人。うるはしき女。みめよき女。美女。麗人。
 ひんばひ 美人草。草の名。一高さ二尺、葉、花、こも
 に繁葉に似て、やや小なり。ひなげし。ニさねかつらをいふ。
 大坂の語。
 ひんばひ 美人蕉。草の名。芭蕉に似て小さく、花は、
 朱色にして、鮮映く、左右に互生す。ひめはせう。
 ひんばひ 舞。ひしほに木なじ。「わきま立つ。
 ひんばひ 菱餅。一ひしなりに切りたる餅。三月の節句
 なきに用ゐる。二菱の仁を粉にして製したる餅。
 ひんばひ 飛翔。鳥なきのこびかけること。
 ひんばひ 非常。なみなみならぬこと。常にかはりたる
 こと。ひんばひ。
 ひんばひ 非情。心なきもの。無情なるもの。木石など
 ひんばひ 微傷。すこしの傷。かすり傷。あまご。うす。

ひんばひ 非常救。あらゆる罪を悉皆救ふこと。
 ひんばひ 柄杓。木の名。ひさかきの靴。
 ひんばひ 柄杓。ひさかきの靴。湯水を汲みこむ具。底あ
 る筒の如きものに、長き柄をすげたるもの。ひさか。
 ひんばひ 飛錫。僧の行脚すること。うんすぬ。
 ひんばひ 飛錫。いづちよ(遊女)に木なじ。
 ひんばひ 鳴鳩。鳥の名。みさこをいふ。薩摩國の方言。
 ひんばひ 販婦。ひさめに木なじ。
 ひんばひ 毘沙門。ひしやもんでんに木なじ。
 ひんばひ 毘沙門天。天竺の神。四天王の一。ま
 た七福神の一。夜叉、羅刹を司り、北方を守護すといふ神。常
 に甲冑をつけ、蹄をたづさへたる鬘を戴く。多聞天。
 ひんばひ 秘首。あひくち。懐劍。
 ひんばひ 秘術。ひめて、他人に知らせぬ術。
 ひんばひ 美術。思考をこらして、人の心をなぐさむる
 術。書、畫、彫刻物、などの類。
 ひんばひ 批准。可否を定めて、許可すること。
 ひんばひ 避暑。夏の暑さをさくこと。
 ひんばひ 秘書。ひめて、容易に、他人に見せぬ書。
 ひんばひ 美稱。ほめていふこと。
 ひんばひ 非職。官にちりて、その役を勤めぬもの。非徒。
 ひんばひ 美食。よき食物。うまきくひもの。玉食。
 ひんばひ 美色。うつくしき色。
 ひんばひ 秘書官。大臣に類する書記官。

ひんばひ 菱四目。よつめを、菱形にしたる紋所。
 ひんばひ 菱。濡れそぼたるさまにいふ。
 ひんばひ 聖。日如く知るこいふ義。天泉の尊敬。二徳
 の高き法師。三その道にすべたる人。古今集「柿本の人九
 なん、歌うひじりなりける」國酒の異名。
 ひんばひ 聖。いかるがの嶺の聖。
 ひんばひ 聖心。僧の如き心。
 ひんばひ 聖語。僧の如き語。
 ひんばひ 聖様。僧の如き様子。
 ひんばひ 聖柄。刀の柄、鞍の皮をかけずに、唐木な
 んにて造りたるもの。
 ひんばひ 聖目。せいもくに木なじ。
 ひんばひ 聖世。出家の境界。うき世に對して。
 ひんばひ 聖。聖人、又は僧、佛なるもの。
 ひんばひ 火代。あろりをいふ。甲斐國の方言。
 ひんばひ 火代。伊勢にて、大御神の御神體を藏め奉る器。
 神金にて製す。形は、筒圓にて、飯櫃に似たるものなりといふ。
 ひんばひ 菱輪違。わちがひを、菱形にしたる紋。
 ひんばひ 秘。ひむ。かくして、しらせす。「所。
 ひんばひ 比。くらゐ。なぞいふ。
 ひんばひ 女をいふ。肥前國長崎の方言。
 ひんばひ 心ゆがみて悪し。心ぬすけてあり。
 ひんばひ 心ぬすきたこひ。
 ひんばひ 鹿尾菜。海草の名。ひじきに木なじ。

ひんばひ 乾麵包。英語 Biscuit、固く焼きたるは
 んの如き菓子。
 ひんばひ 短銃。英語 Pistol、短小なる銃。すこなる
 ひんばひ 樋洗。古、禁中なにて、廁の掃除を司りたる
 女。
 ひんばひ 樋洗童。童子のひすまし。
 ひんばひ 盃。ひすまこ。ゆがみ。まがり。ねちけ。いび
 ひんばひ 盃。ひそむに木なじ。
 ひんばひ 盃。ゆがみ。まがり。いびつになる。
 ひんばひ 盃。すれて、薄くなる。うすらぐ。
 ひんばひ 盃。ひすらぐに木なじ。
 ひんばひ 翡翠。一鳥の名。かはせびに木なじ。二鳥の尾
 の上の、長き羽手。三かはせびの翅の色。四黒くつやある
 髪の内容にいふ。
 ひんばひ 火未入。香の煙殻を入るための器。
 ひんばひ 柿殻。かさぶた。かさから。
 ひんばひ 美聲。うるはしき聲。音聲のよきこと。美音。
 ひんばひ 微笑。わづか。すこい。「ほろほろこら。
 ひんばひ 微笑。すこし笑ふこと。ニツツリと笑ふこと。
 ひんばひ 美少年。ひせうねんに木なじ。
 ひんばひ 美少年。容色のすべたる少年。美童。
 ひんばひ 砒石。砒素。砒素、砒素、鐵よりなる。山
 中の岩間より出づ。黒きも、灰色なるもあり。極めて劇烈の
 毒あり。砒霜石。

ひたひたに 常陸帯。常陸國より出づる帯。昔、正月十日、常陸國にて、鹿島の神の祭に、相思ふ男女の名を記して供へ、巫祝の、結びてわかつを受けて、婚を卜定したるもの。
 ひたひた 肥立。一日を経るに従ひて快くなる。二日を逐ひて成育す。
 ひたひたに 直使。専一なる使者。
 ひたひたに 直土。ぢんだ。土の上。
 ひたひたに 直照。ひたすらたること。てうにたること。
 ひたひたに 直道。うごつけに。たてなく。「るこ」
 ひたひたに 直走。ひたすらはしること。はしりにはし
 ひたひたに 直額。一額、肩より上の部分。二冠、烏帽子などの額にあたる部分。三物のさし出でたる部分。「岸のひたひた」
 ひたひたに 干鯛。鯛を、鹽鹽にして乾したる物。鯛のひまの。贈物などに用ゐる。
 ひたひたに 額金。額にあたるところに入れたる銅、鐵などの薄き板。軍用のはちまきこと。題鐵。
 ひたひたに 額髪。額の上の髪。まへがみ。
 ひたひたに 額白。額髪のはえきは。つじじろにたなじ。
 ひたひたに 額付。額のかたち。
 ひたひたに 飛弾人。「古、飛彈國より、毎年、大工を召させられたるよりいふ」大工の異稱。
 ひたひたに 額之波。額の波を、波の寄る様に譬へていふ。

ひたひたに 額烏帽子。額につくる小さき烏帽子。古、童子の着けたるもの。
 ひたひたに 額心。ひたすらなる心。
 ひたひたに 額。ひたすらにたなじ。
 ひたひたに 玉。玉なる石。
 ひたひたに 火玉。一火の玉。玉の如く見ゆる火。二特に、火玉につめて、火をつけたる、煙草の小さきかたまり。「
 ひたひたに 日給簡。殿上人の名を記したる筒。
 ひたひたに 直道。ひたすらにたなじ。
 ひたひたに 悲嘆。なげきかなしむこと。
 ひたひたに 美談。他人の美事を物語ること。名譽の禮。
 ひたひたに 美男子。額かたちのうらはしき男子。優美なる男子。
 ひたひたに 大雨。甚しく降る雨。ひさめ。大雨。
 ひたひたに 積積。ひたにたなじ。
 ひたひたに 直物。その物に纏つるまで。いっはいに。
 ひたひたに 直際。ひたすら、家にこもりあること。
 ひたひたに 干鯛。鯛を、鹽鹽にして干し乾したるもの。ひまの。
 ひたひたに 日足。やしなひそだつ。
 ひたひたに 左。前に向ひて、東にあたる方。右の反對。
 ひたひたに 左勝。ひたりにききたなじ。
 ひたひたに 左假名。漢字の左傍に應ずりかな。
 ひたひたに 左利。「左手の、右手よりも、活用自在なること。二酒のみの懸瓶。」

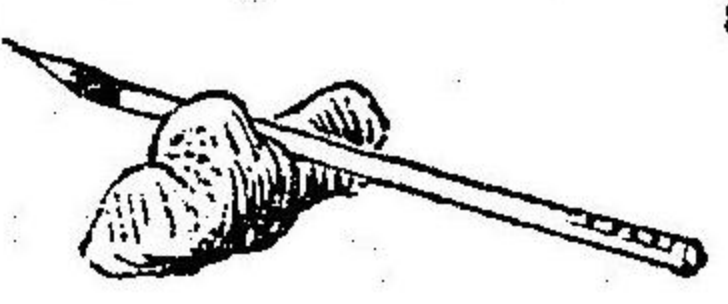
のねにた ことつたた そせすしき こけきか たえういあ

ひたひたに 左利。ひたりにきき。
 ひたひたに 左様。かたよりて正しからぬこと。左道。
 ひたひたに 左袂。「衣服の左の方のつま。上前のつま。二袂の異稱。
 ひたひたに 左繩。左よりになひたる繩。絞に用ゐるもの。
 ひたひたに 左馬寮。うまのつかさを見よ。
 ひたひたに 左京職。左京の事を司りし役所。
 ひたひたに 左前。「衣の右の襟を、左の襟の上に合せて着ること。上古の風俗なり。左衽。二もの、逆になり行くこと。運わるくなり行くこと。
 ひたひたに 左文字。普通に通書きたる文字を、紙の裏より見たる如きさまに書く文字。傳形。
 ひたひたに 左曲。食しき人の、美人を、妻に持つこと。
 ひたひたに 左縫。よりを、左にかくること。左によりたる糸。
 ひたひたに 浸。ぬれらほる。みづにたる。ひつ。漬。
 ひたひたに 餓。俗に、ひたる。うるたう。宗腹なり。ひたれ。餓。あたらじりにたなじ。
 ひたひたに 頓丘。連なりたる陸。
 ひたひたに 肘。腕のなか程の折れ曲む部分。二臂の如く、曲りて突き出でたるもの。
 ひたひたに 肘掛。土の、水にしろけたるもの。さろ。
 ひたひたに 肘掛窓。「坐りて、肘をかけるるほちの窓。」

高きなるよりいふ。一尺ばかり上にある。二肘笠の器。
 ひたひたに 肘笠。「肘を、頭にかけて、雨を被ること。二肘笠の器。
 ひたひたに 肘笠雨。「雨の時、肘をかざして、空に代ふるよりいふ」器の異名。
 ひたひたに 肘金。開き戸につくる、鐵の釘。形、肘の如く曲り、ひたひたに合ひて、くるることなり、戸を開閉するもの。
 ひたひたに 肘木。「柱の上に、肘の如く、端をさし出したて、こがたをうくるもの。うでぎの類。二ひき日の華木。
 ひたひたに 會祖父。ひいぢぢ。たはたはぢ。
 ひたひたに 肘突。机の上に置き、肘を突くに用ゐる、小さき指環の如きもの。ひぢぢ。
 ひたひたに 肘壺。開き戸のくるるに用ゐる、鐵製の蓋の如き器。ひぢぢを押し込みて、戸を開閉するに用ゐる。
 ひたひたに 肘鐵砲。「肘を張りて突き退くること。二色を挑みたるを、はねつくること。
 ひたひたに 肘張。意地を張る。まげじ。腕が。
 ひたひたに 肘蒲團。ひすつきにたなじ。「
 ひたひたに 肘。くしろにたなじ。「
 ひたひたに 肘枕。肘を折り曲げて、枕のかはりにする。
 ひたひたに 肘持。ひぢぢを張りて行くさま。「
 ひたひたに 肘定木。定木に、細長きみぞをほり刻みたる。
 ひたひたに 微衷。微かなる誠。わづかなるまこと。す
 ひたひたに 美女。容色の優れたる女。みめよき女。「志。

をるわ るれるりら よゆや もめんむみま ほへふひぼ

ひつぎがね 図 鉸具。しめがねにたなじ。
 ひつぎの 図 鯉鱈。餅の類。蒸にて作り、中に餡を包める古の菓子なり。
 ひつぎの 図 筆葉。雷に似て、堅に吹く葉。
 ひつぎの 図 泥。うみだれたじ。
 ひつぎの 図 肘折。肘を折りたる如く折れまがる。
 ひつぎの 図 櫃。彈正夏の大官。大、少に分る。
 ひつぎの 図 水頭。鮭、鯉などの頭蓋の骨。煮かして、透明なり。刺みて食ふ。
 ひつぎの 図 漬。ひた。ひたる。水につかる。
 ひつぎの 図 秀。わけいづ。すやう。ひらう。
 ひつぎの 図 筆意。文字の結構の趣。筆づかひ。
 ひつぎの 図 日次。ひなみにたなじ。
 ひつぎの 図 必要。必ず用あること。なくてかなはらじ。
 ひつぎの 図 筆架。筆をもたせかくるもの。
 ひつぎの 図 筆耕。賃金をとりて、物をかきかへる。
 ひつぎの 図 引屈。ひかがみにたなじ。
 ひつぎの 図 筆記。筆にて書きしるすこと。



(か つ ひ)

ひつぎの 図 日嗣。「日の神の天命を受け給ひて、嗣ぎ知るし召す義」天皇の大御位。
 ひつぎの 図 日次。毎日たてまつる供御。みつき。
 ひつぎの 図 棺。「ひつぎの體」屍を納めて葬る具。
 ひつぎの 図 日繼御子。皇太子。春の宮。東京。
 ひつぎの 図 玉門。いんらんにたなじ。
 ひつぎの 図 畢竟。つまるところは。遂には。所詮は。
 ひつぎの 図 挽切。絹の一機。櫛の、細く小さきもの。
 ひつぎの 図 乾付。かわきつく。ひからぶ。こびりつく。
 ひつぎの 図 匹偶。つれあひ。夫婦。
 ひつぎの 図 引括。しほる。束ぬ。
 ひつぎの 図 入す。くつが入すにたなじ。
 ひつぎの 図 火付。竊かに人家に、火をつけて焼くこと。また、その人。
 ひつぎの 図 日付。文書なごに、その事ありし月日をしるしつゝ。
 ひつぎの 図 日着。旅行に、その日の中に、目的の地に達する。
 ひつぎの 図 跛者。ちんぱをいふ。東國の方音。
 ひつぎの 図 引拔。ひきぬく。ひきぬる。
 ひつぎの 図 提。俗に、ひきさげる。手にひきさぐる。ひきさぐる。
 ひつぎの 図 筆算。「物書く。算盤する。算筆。二西洋法の算術。数字を、文字にかきあらはして行ふもの。洋算。珠算に對して」

ひつぎの 図 引摺。つかみこる。奪ひ取る。
 ひつぎの 図 筆紙。「筆紙。紙。二紙に書きしるすこと」。
 ひつぎの 図 必死。力の限りすること。しにものぐるひ。一生懸命。
 ひつぎの 図 羊。獸の名。全身、白、又は黒く、性、頑長にして、毛は、毛布を作るに適す。杜には、角あり、化にはなし。種類たほし。
 ひつぎの 図 未。「今の午後二時にあたる昔の時。二酉の方の方向。三十二支の一」。
 ひつぎの 図 引敷。ひきよのこたなじ。
 ひつぎの 図 羊草。草の名。葉は、糖のつく。夏の初め、淡紫色の花を開く。根は、藥に用ゐる。
 ひつぎの 図 未申。酉、南との間。西南。抽。
 ひつぎの 図 羊歩。屠所に連れ行かざる羊の、一歩毎に、死に近づくと、人の命の、ちやうやく傾くに響いていふ。
 ひつぎの 図 筆者。筆をとりて書きしるす人。かきて。
 ひつぎの 図 勢。はうせ。出家。俗語。
 ひつぎの 図 筆勢。ふてづかひ。文字のいきほひ。筆力。
 ひつぎの 図 筆生。文字をつつしめるもの。
 ひつぎの 図 筆跡。生れてより死ぬるまで。
 ひつぎの 図 筆洗。筆の跡。文字の風。
 ひつぎの 図 筆船。ふてあらし。
 ひつぎの 図 筆船。ふていれにたなじ。
 ひつぎの 図 逼塞。「徳川時代、土分以上の關刑の一。閉門

ひつり 尾懸骨。かめの骨にたなじ。
 ひつり 批點。文章を添削批評なさする時、その傍にう
 つ照。○○なごあり。
 ひつり 飛天。あまつをこめ。天人。天女。
 ひつり 秘傳。秘して、容易に傳へぬもの。奥儀。
 ひつり 悲田院。ものもらひをいふ。京都の語。
 ひつり 悲田院。古、官費にて、病者、弱見なきを
 養ふために設立せる家。二轉じて、廢見、乞食なきの居るこ
 ひつり 早。晴天のみ續きて、雨の降らぬこと。「ろ。
 ひつり 日照雨。日のでりながらふる小雨。狐のよ
 めいり。
 ひつり 早雲。早の兆の雲。
 ひつり 早神。かんはつりの神。日のみを照らす
 る神。
 ひつり 動物中、最上級に位するもの。二しんか。庶
 民(天皇に對して)三をこ。をこ。夫。四ほかの人。他人。
 世人。五たごな。成人。六然るべき人。身分ある人。七人
 なり。性質。○ひこがよい。
 ひつり 費途。つかひみち。
 ひつり 匪徒。わるもの。
 ひつり 一。ひつり。數のけじまり。
 ひつり 商人。良家の子弟を誘ひだし、奴婢と
 して、賣買せるもの。鎌倉時代まで行はれたり。
 ひつり 人足。人の往來。人行。
 ひつり 荒。一しきりふき荒るること。

のねにな せてつらた そせずしき こけきか おえういあ

ひつり 一寢。ひこねり。也。
 ひつり 一息。一度呼吸するほの僅かの間に。一且
 ひつり 一家。家内ぢゆう。全家。
 ひつり 人請。一奉公人なきの身元を保護すること。二
 ひつり 一撃。一度うつこと。「他人のうけ。○
 ひつり 人疎。人に親まやあり。ひこげごほし。○
 ひつり 人撰。人をえらぶこと。人のえらび。○
 ひつり 人音。人のたごなひ。○
 ひつり 一思。思ひこみたるひつり。○
 ひつり 人香。人のにほひ。○
 ひつり 人垣。人の垣の如く立ち並ぶこと。○
 ひつり 人影。人のかげ。○
 ひつり 一嵩。ひこきは。ひこしほ。一段。○
 ひつり 一層。されかうへにたなじ。○
 ひつり 人數。一人の數。人員。二人として數へらる
 ひつり 一層。ひこかさになじ。○
 ひつり 人形。二にんぎやうにたなじ。二被の時の形
 ひつり 人敵。かたきごなる人。○
 ひつり 一刀。一うちに斬ること。「代。○
 ひつり 一方。一通りならず。ななめなら
 ひつり 一塊。一つに集まりたるいけ、また、その
 ひつり 一廉。一つのおし。ひこきは。ごさなる。

ひつり 人勾引。人あきなひの類。
 ひつり 人代。他人のかはり。代人。
 ひつり 人買。人あきなひ。
 ひつり 人顔。人のかほつき。人のすがた。
 ひつり 俗に、ひこがまし。一ひこめかしにたな
 ひつり 人柄。一人の品格。人の品位。二轉じて、人
 品のよきこと。○
 ひつり 人聞。人にきこゆること。外聞。
 ひつり 一際。ひこかさ。ひこしほ。
 ひつり 一段。鷹狩に用ゆる鷹犬を數へるに用ゐる。
 ひつり 一段。ひつりのききみ。一つのくきり。
 ひつり 人切。往來の絶ゆること。○
 ひつり 人切。刀の異名。○
 ひつり 美德。うるはしき徳行。
 ひつり 一種。ひこいろ。一つの品。
 ひつり 人草。たほだから。あをひこごさ。○
 ひつり 一種物。一種の品物。ひこいろのさか
 ひつり 癖。ひこいろのくせ。尋常ならぬこと。なみ
 ひつり 一口。一たび、口をひらきて、物ちかうら
 ひつり 一口。一度に食ふこと。三概にちかうら
 たほがかにちかうら。

をるあわ られるりら よゆや もめんむみま ほへふひは

ひびくち 図 人口。他人のかたりぐち。他人のうはさ。評
 ひびくち 図 人來鳥。動物。鷺の異名。⑤ 「判。
 ひびくち 図 他國。この國の外の國。他國。⑤
 ひびくち 図 人來人來。鷺の鳴く聲。⑤
 ひびくち 図 人隈。人の居らぬところ。⑤
 ひびくち 図 一括。一つに括りて。一つにまとめて。
 ひびくち 図 人氣。人のけはひ。ひびの容子。 「機。
 ひびくち 図 日時計。ひかけを見て、時刻を計る器。日晷
 ひびくち 図 無人氣。人のけはひなし。人がましく
 ひびくち 図 人心地。ひびくちにななじ。「なし。⑤
 ひびくち 図 人心。常に疑ならぬ心持。もりの心。
 ひびくち 図 なる回爲人心。よみがへる。蘇生。氣
 ひびくち 図 人事。他人に關係せること。がら。よそご。
 ひびくち 図 人言。人のいひぐさ。世間の評判。ひびぐさ。
 ひびくち 図 人兄。一群の長。會長。⑤ 「
 ひびくち 図 人込。人の立ちこみたること。群集。
 ひびくち 図 人殺。他人を殺すこと。
 ひびくち 図 人聲。人のこゑ。
 ひびくち 図 一盛。一時、ときめくこと。一度のさかり。
 ひびくち 図 一差。いちさ。一回。(相撲などの勝負事に
 ひびくち 図 人刺草。草の名。むらにななじ。
 ひびくち 図 人立。見物なさせんて、人のむらがり立つこと。
 ひびくち 図 人種。あるほびの人数。二人類の種類。
 ひびくち 図 人頼。他人の力をたのみにすること。
 ひびくち 図 人魂。頼もしく思はせて、さもあらぬこと。⑤
 ひびくち 図 人魂。鬼火の、そらを飛ぶもの。青白き光を
 ひびくち 図 副車。從者にたまひて、乗らしむる車。そ
 ひびくち 図 一もせが。一時もまをこをせず。
 ひびくち 図 人違。我が志したる人と異なること。
 ひびくち 図 一。同じ。かはりなきこと。
 ひびくち 図 東風。ひびくちをさる。北國の方言。
 ひびくち 図 一書。一事にこに、簡條を改めて書くこと。
 ひびくち 図 一束。ひびくちに束ねること。ひびくちめに
 ひびくち 図 人付。人のつきあひ。他人との親む程あひ。
 ひびくち 図 交際。他人との交際。つきあひ。
 ひびくち 図 隔月。一箇月づつ、間をたたくこと。
 ひびくち 図 隔月。ひびくちたきにたなじ。
 ひびくち 図 一口。たなじにたなじ。異口同音。⑤
 ひびくち 図 人子。ひびくち。ひびくち一人通らぬ。⑤
 ひびくち 図 一子。夫婦の間に、まうけたる、たった一人の子。

ひびくち 図 人差指。手の大指と、中指との間の指。
 ひびくち 図 人里。人の住居せる里。
 ひびくち 図 人様。ひびくちにななじ。⑤
 ひびくち 図 均。俗に、ひびくち。たなじはさなり。不同な
 ひびくち 図 甚。俗に、ひびくち。「きびし。つよし。むこし。
 ひびくち 図 一類。ひびくちは。一度しきりて。
 ひびくち 図 人賞。妻子なさを、賞して、敵に送りたくこと。
 ひびくち 図 人静。人が寝て、静かになる。人、ね
 ひびくち 図 人死。人の死にたること。(主に、變死にいふ)
 ひびくち 図 一鹽。魚、菜なさを、淡く、鹽にしたること。
 ひびくち 図 一入。ひびくちを。染汁に一度ひたすこと。
 ひびくち 図 一族。いちやくにななじ。⑤
 ひびくち 図 一十。ひびくちにななじ。⑤
 ひびくち 図 人違。人をみちがふること。人らがへ。
 ひびくち 図 同居。あひすみにたなじ。
 ひびくち 図 人傳。人のつたへ。こまづて。
 ひびくち 図 同寢。二人にて、同じふしさに寝ること。同
 ひびくち 図 一星。北極星をいふ。上總國、下總國の
 ひびくち 図 金星草。草の名。山陰の歐羅等に生ず。「
 ひびくち 図 一橋。まるきはしにななじ。
 ひびくち 図 一話。或る人についての話の數多ある中
 ひびくち 図 一腹。同じ母の生みたる兄弟姉妹。二仲
 ひびくち 図 獨子蒜。草の名。にんにくにたなじ。
 ひびくち 図 一粒鹿子。かのこの、極めて細かな
 ひびくち 図 一粒種。最愛のひびくち子。⑤
 ひびくち 図 一星。一夕方、始めて、一つ見出したる星。
 ひびくち 図 人妻。他人の妻。⑤
 ひびくち 図 一松。一本たひたてる松。孤松。「
 ひびくち 図 一撮。片手にてつまみ得る程の僅かなる
 ひびくち 図 一身。裁縫の調。並み市にて、一丈一尺にて
 ひびくち 図 一席。同じせしる。たなじにたなじ。一席。

のぬにな きてつらた そせすしき こけくきか ねえういあ

ひびくち 図 人立。見物なさせんて、人のむらがり立つこと。
 ひびくち 図 人種。あるほびの人数。二人類の種類。
 ひびくち 図 人頼。他人の力をたのみにすること。
 ひびくち 図 人魂。頼もしく思はせて、さもあらぬこと。⑤
 ひびくち 図 人魂。鬼火の、そらを飛ぶもの。青白き光を
 ひびくち 図 副車。從者にたまひて、乗らしむる車。そ
 ひびくち 図 一もせが。一時もまをこをせず。
 ひびくち 図 人違。我が志したる人と異なること。
 ひびくち 図 一。同じ。かはりなきこと。
 ひびくち 図 東風。ひびくちをさる。北國の方言。
 ひびくち 図 一書。一事にこに、簡條を改めて書くこと。
 ひびくち 図 一束。ひびくちに束ねること。ひびくちめに
 ひびくち 図 人付。人のつきあひ。他人との親む程あひ。
 ひびくち 図 交際。他人との交際。つきあひ。
 ひびくち 図 隔月。一箇月づつ、間をたたくこと。
 ひびくち 図 隔月。ひびくちたきにたなじ。
 ひびくち 図 一口。たなじにたなじ。異口同音。⑤
 ひびくち 図 人子。ひびくち。ひびくち一人通らぬ。⑤
 ひびくち 図 一子。夫婦の間に、まうけたる、たった一人の子。

ひびくち 図 同居。あひすみにたなじ。
 ひびくち 図 人傳。人のつたへ。こまづて。
 ひびくち 図 同寢。二人にて、同じふしさに寝ること。同
 ひびくち 図 一星。北極星をいふ。上總國、下總國の
 ひびくち 図 金星草。草の名。山陰の歐羅等に生ず。「
 ひびくち 図 一橋。まるきはしにななじ。
 ひびくち 図 一話。或る人についての話の數多ある中
 ひびくち 図 一腹。同じ母の生みたる兄弟姉妹。二仲
 ひびくち 図 獨子蒜。草の名。にんにくにたなじ。
 ひびくち 図 一粒鹿子。かのこの、極めて細かな
 ひびくち 図 一粒種。最愛のひびくち子。⑤
 ひびくち 図 一星。一夕方、始めて、一つ見出したる星。
 ひびくち 図 人妻。他人の妻。⑤
 ひびくち 図 一松。一本たひたてる松。孤松。「
 ひびくち 図 一撮。片手にてつまみ得る程の僅かなる
 ひびくち 図 一身。裁縫の調。並み市にて、一丈一尺にて
 ひびくち 図 一席。同じせしる。たなじにたなじ。一席。

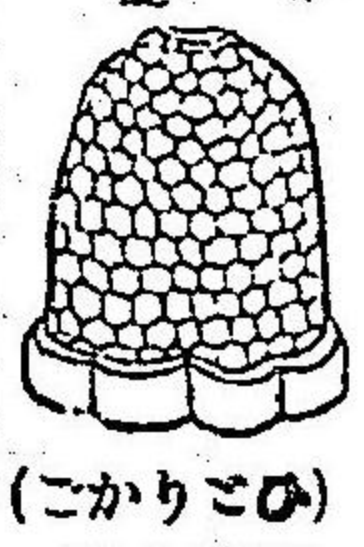
ををわわ りれるりら よゆや もめんむみま へふひは

ひざませ 人雑。他の人を交へ加ふること。
 ひざませ 人待。人の来るを待つこと。
 ひざませ 一先。この度はまづ。何はごもあれ。ちよつと。一旦は。
 ひざませ 一纏。ひきつにまざること。一掃。
 ひざませ 人真似。他人の真似。
 ひざませ 一廻。七日の間。一週間。
 ひざませ 人前。他人の見聞せること。
 ひざませ 人眸。「人見の義」眼の中心。外部より、真黒に見ゆる部分。くろめ。瞳。睛。
 ひざませ 一身。身體のうち残らずの部分。全身。
 ひざませ 人見。他人への見え。他人のみること。
 ひざませ 人身御供。人身を、いけにへんして、神に供ふること。
 ひざませ 人見知。見供なきの、見馴れぬ人を見て、たづねること。
 ひざませ 人見。うはへの見え。外見。「源泉」
 ひざませ 一道。「その事に」一途なること。二よみぢ。
 ひざませ 人皆。昔の人。すべての人。
 ひざませ 一昔。一度の昔。俗に、十年、又は十七年を以て、一昔す。
 ひざませ 一向。ひたすらに。ひきつに。一途に。
 ひざませ 一村薄。一かたまりに生ひたる薄。
 ひざませ 一群。一つの群衆。

ひざませ 人目。他人の見ること。
 ひざませ 一目。「眼中の」こらすの部分。二二度見ること。はつかに見ること。
 ひざませ 人めきてあり。人らし。①
 ひざませ 人めくやうになす。②
 ひざませ 人たる品格をそなへたるさまに見ゆ。③
 ひざませ 一度のめぐり。二人死にて後、一年を経て、その死にたる時になること。
 ひざませ 人目包。人目を覆りて、包みかくすこと。
 ひざませ 人目。人目の、我が妨となること。
 ひざませ 人目。人の名。京都の女の語。
 ひざませ 人目。ひきはしころの語。
 ひざませ 人目。罪人を籠め置く家。牢屋。
 ひざませ 人目。古、刑部省に屬して、罪人をあつかひしころ。④
 ひざませ 人目。一人を、こなたより遠し、又は隔らすること。⑤
 ひざませ 人目。他人よりしかけること。⑥
 ひざませ 人目。わが心から。⑦
 ひざませ 一夜。一夜の數ひつ。二ある日の夜。
 ひざませ 一節切。「竹の一節を以て」造れるよりいふ。尺八に似て短く細き節。
 ひざませ 一夜草。植物。すみの葉名。⑧
 ひざませ 一夜酒。あまざりにたなじ。

のねにた きてつちた そせすしき こけくきか ねえういあ

ひざませ 人寄。人を寄せ集むること。
 ひざませ 人寄太鼓。芝居、寄席なまにて、開場の前前に、人を寄せ集むるためにうつ太鼓。
 ひざませ 一夜妻。「一夜のみあへる女。一夜のみの妻。二遊女の異稱」
 ひざませ 一夜廻。一夜つづ、向をわくこと。①
 ひざませ 一回。一度。②
 ひざませ 一人。俗にひざらしい。ひこめかし。「煙」
 ひざませ 火採。かうろの類。香を焚くに用ゐる火いれ。或ひざませ 獨。友なく、われのみにて。このもの一つにて。
 ひざませ 日取。ある事を、執行する日を決むること。ひこらひ。ひえり。
 ひざませ 獨行。同伴もなく、己れのみにてあること。
 ひざませ 獨身者。ひこりひこの音便。
 ひざませ 獨學問。師に就かずして、自力にて、學問すること。
 ひざませ 火採籠。ひこりに覆ひて、衣なごを乾すに用ゐるかご。
 ひざませ 獨斷。己れひこりの考にて定むること。
 ひざませ 日取草。植物。獨斷の異名。③
 ひざませ 一人。ただ一人のみの子。
 ひざませ 獨語。相手もなく、一人にて、物いふ。ひこりにたなじ。



(こかりごひ)

ひざませ 獨語。相手もなく、己れ一人にて物いふこと。獨言。
 ひざませ 獨相撲。相手なしに、己れ一人にて、すまうのまねをする遊戯。
 ひざませ 獨住。己れ一人のみにて住むこと。
 ひざませ 獨立。己れ一人の力にて、事をなすこと。他人の助力を仰がぬこと。孤立。
 ひざませ 獨寝。妻もなく、己れ一人のみにて臥すること。ひこりにたなじ。
 ひざませ 獨身者。ひこりにたなじ。
 ひざませ 一人一人。ひこりつづ。一人毎に。
 ひざませ 獨臥。ひこりにたなじ。
 ひざませ 獨學。師に就かずして、自身勉學すること。ひこりにたなじ。
 ひざませ 一人前。「一人のこりまへ。二成年なること。大人なること」
 ひざませ 獨身。つまのなき身。ひこりもの。獨身。
 ひざませ 火取蟲。虫の名。形、蠶の蟻の如く、翅は褐色にして、白粉あり。諸木に生ずる毛虫の羽化せるもの。ひこりにたなじ。
 ひざませ 一人武者。隨一に秀ぐれたる武者。
 ひざませ 一人息。兄弟なく、ただ一人ある男子。
 ひざませ 一人娘。姉妹なく、ただ一人ある娘。
 ひざませ 獨者。ひこりにたなじ。

をえわわ ろれるりひ よゆや もめんむみま ほへふひは

ひねり ぎみ 図 捻文。一着状を、ほそながく捲き、その端を拵りて、折りたるもの。たてぎみ。②数枚の紙に事をしるし、拵りて圖にし、これを探りて、古をすらすらと、もみくじ。③ひねる 團圓 拵。ねぢまはす。よつ。ななめにやる。たし。まぐ。たしゆがむ。團圓 世の常に變りたる事を行ふ。片蓋地なる事を行ふ。すねる。④

ひのあし 図 日脚。ひあしにたなじ。

ひのいへ 図 火宅。佛教の語。くわたくにたなじ。

ひのいり 図 日没。日の入る頃ほひ。曉。日夕。

ひのちも 図 日中。日の照る中。朝より夕までの間。晝間。

ひのえ 図 丙。「火の兄の義十千の一。」

ひのたま 図 晝御座。古、主上の、晝にほししころ。清涼殿にあり。

ひのき 図 檜。木の名。幹、長大に、葉は、厚くして、表は緑に、背は、白くして脈あり。春の末、細小なる花を開く。材、堅く美しくして香あり。建築用の良材なり。

ひのき 図 檜茸。菌の名。檜木に生ずるもの。

ひのき 図 樋口。ひはだにてなひ造りたる樋。

ひのち 図 樋口。水を出だし、またせくころ。ひ。い。水門。間。

ひのく 図 火車。一佛教の語。地獄にありて、火の燃えつつある車。悪人を乗せて、地獄にたくるもの。②赤。食なること。③

ひのくれ 図 日暮。ゆふぐれ。たそがれ。ゆふまぐれ。日

ひのこ 図 火粉。火災なきのをりに、火の飛びちるもの。火

ひのこ 図 火輿。火をこはしたる輿。葬禮の時に用ゐる。片。

ひのこ 図 火事。くわじにたなじ。

ひのさ 図 脾臟。五臟の一。胃の下にあるもの。

ひのさ 図 晝装束。晝間の装束。即ち東帯なること。④

ひのさ 図 火騒。くわじにたなじ。

ひのさ 図 火熨斗。銅製にして、底滑かなる柄杓の如きもの。火を入れその底にて、布帛の皺をのほすに用ゐるもの。

ひのさ 図 日下。あめのしたにたなじ。

ひのさ 図 日經。東方より、西方にかよひたる道路。④

ひのさ 図 水様。古、元白宮内省より、禁中に、去年の水を、節會に納めたる所の様を奏聞する公事。その水の厚薄によりて、年の豊凶を占ふ。④

ひのさ 図 氷様奏。ひのためしにたなじ。④

ひのさ 図 日辻。ひる。まひる。

ひのさ 図 火手。火の燃えあがる勢。ほのほさま。

ひのさ 図 日出。早朝、日の、東方にさし出づること。

ひのさ 図 日出勢。旭日の東方よりさし上るが如き盛んなる勢。さきめくこと。

ひのさ 図 丁。「火の弟の義十千の一。」

ひのさ 図 晝殿。晝間をる宮殿。④

ひのさ 図 日緯。南方より、北方に通ずる道。④

ひのさ 図 日鼠。年月の経過すること。④

のねにな ことつらた せせすしき こはくきか ねえういあ

ひのはか 図 緋袴。紅の袴好にて製したる袴。女官の用ゐるもの。

ひのはか 図 日初。初めの日。その當日。④「るもの。」

ひのべ 図 日延。日限を延ばすこと。

ひのまる 図 日丸。日本國の國旗の章。

ひのみ 図 望火樓。出火を見る樓。

ひのみ 図 日御陰。天皇のたはします大宮。④

ひのみ 図 日御門。ひのきにて造りたる門。④

ひのみ 図 日御子。ひのみやにたなじ。④

ひのみ 図 日眞。毎日たてまつるまつぎ。④

ひのみ 図 日宮。皇太子のたはします宮。④

ひのみ 図 望火樓。火災の時に、遠近を望むために設けたる樓。

ひのみ 図 日宮人。たほみやびにたなじ。④

ひのみ 図 日目。日のひかり。日光。④

ひのも 図 日本。たほやま。日本國の美稱。

ひのも 図 火元。火災の源因。ひもと。

ひのも 図 火物。凡て、煮焼きたるもの。食物。

ひのも 図 火物斷。願がけして、煮焼きたるものを食せぬこと。

ひのも 図 日緯。ひのねきにたなじ。

ひのも 図 晝装。ひのさつぎにたなじ。④

ひは 図 檜葉。植物。一檜の木類の總稱。二あすはひの木。

あすは。あすならう。

ひは 図 干葉。大根の莖葉を日に干したるもの。

ひは 図 肥馬。こえたる馬。

ひは 図 琵琶。木製にして、その甲、楕圓形をなし、四柱にして、四絃あり、腰の上に抱きて、撥にて彈する樂器。よつのを。

ひは 図 枇杷。木の名。葉は、細長く、縁にきざみあり、表は深緑、背は褐色にして、毛密生す。冬、五瓣の小白花、開きて、實は、夏に熟す。味美なり。葉は、乾して、薬用す。

ひは 図 非寶品。賣買せぬ品。

ひは 図 飛報。いそぎのしらせ。

ひは 図 秘方。秘して、他人に知らせぬ法。

ひは 図 非望。身分につりあはぬのみ。

ひは 図 誹謗。そしりあざけること。

ひは 図 備忘。わすれぬ用意をすること。

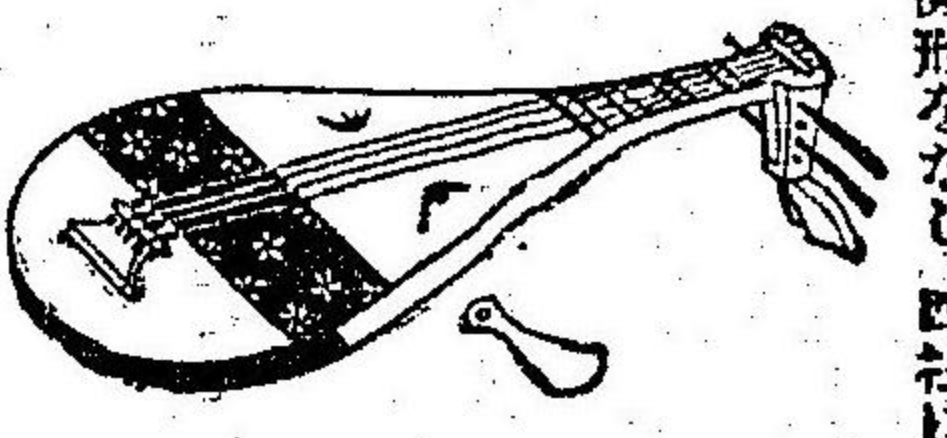
ひは 図 微茫。ほのぐらきこと。ほんやり。

ひは 図 未亡人。一寡婦の、自稱。二眼りて、冥婚を他よりいふ稱。こけ。

ひは 図 日計。虫の名。蛇の一種。まむしの類。毒甚だし、噛まれば、その日中に死すことなり。

ひは 図 引刺。ひきはぎの器。④

ひは 図 飛白。漢字の書體の一。かすれ筆にて書くもの。支那の漢朝の時より創まる。字體はなほは隷書に似たり。



(は び)

をえわわ るれるりら よゆや もめんむみま ほへふひは

ひば 火箱。 爐の底とする箱。
 ひば 絨匣。 かはりの床の孔に填めたるわく。
 ひば 琵琶。 ひばにたなじ。
 ひば 火箸。 火をさむに用ゐる箸。金盃にてつくる。
 ひば 火柱。 時に空中に立ちのぼりて見ゆる、赤き細の如きもの。
 ひば 檜皮。 一檜の内皮。 まいはだ。 二檜皮葺の器。 三黒みがかつたる蘇芳色。
 ひば 檜皮師。 檜皮を以て、屋根を葺くを業とするもの。
 ひば 檜皮葺。 一檜皮にて葺きたる屋根。 二ひばにたなじ。
 ひば 檜皮屋。 ひばだぶきの家。
 ひば 火鉢。 炭火をたこし置く具。 ひをけ。
 ひば 被髪。 かみの毛を束ねやたくこと。
 ひば 怯弱。 この假字、ひわづにの読もあれど、古くはかく用ゐたり。 かよわく。 細くたをすかに。 ①
 ひば 火花。 火の花の如く飛び散るもの。 ②
 ひば 曾祖母。 ひたはは。 ひひはは。
 ひば 琵琶。 ひばをひく人。
 ひば 織弱。 ほそくかよわきこと。 ③
 ひば 琵琶法師。 平家物語を語りつづ、琵琶に合せてひく人。 多くは、盲目法師なり。
 ひば 批判。 非難して判やるといふ。 「批判」
 ひば 非番。 宿直ならぬこと。 はんのやすみ。 ④

ひば 脾腹。 よこはら。 腹の傍。
 ひば 檜原。 檜の林ある野。
 ひば 雲雀。 鳥の名。 形、雀に似て、すこし大きく、頭を背に、黒き斑點あり。 眼の邊白く、胸は、腹は灰白色にして、脚細長く、爪ながし。 春、たかくまひのほりて啼る。 原野の地上につくる。 告天子。 「毛色」
 ひば 雲雀毛。 黄色く、白色をまじりて斑なる馬の毛。
 ひば 雲雀鷹。 ねりひばりは、翼短きゆゑに、飛ぶこと速かならざるを、捕ふるためにあはする鷹。
 ひば 雲雀床。 雲雀の巢。
 ひば 雲雀骨。 ひばりの啼る如く啼る、見供の玩具。
 ひば 雲雀骨。 獲せたること。
 ひば 狒狒。 獸の名。 深山に棲む。 年を経たる様にて、極めて大きく、極めて猛し。 やまわらは。 やまわら。
 ひば 馬の嘶く聲。
 ひば 輝。 寒さのために、手足なきの皮膚の、細かに龜裂してひびくもの。 あかぢりの細きもの。 ひみ。
 ひば 雲。 雨雲なるの雲を生じて、われんをすすす。 ひびき。 雲。 ⑤
 ひば 海苔を煮生せしめために、海中にたて並んたる粗糸。
 ひば 日日。 毎日。 日ごと。 「捕らふこと」
 ひば 粗糸を海中に立て並ん、その中に魚を逐ひ込みてひびかす。 ⑥

あいうえお かきくけこ さしずせす ねのねにな、こつちた、そせすしぎ こけくきか ねえういあ

ひば 琵琶。 ひばをひくこと。 聲の、長く傳播すること。 二世に附する。 ⑦
 ひば 琵琶。 ひばにたなじ。
 ひば 琵琶石。 あうせせきの類。 音を反響する石。
 ひば 琵琶目。 ひばきの目。 われ目。
 ひば 琵琶。 一音のみをたたる。 なりわたる。 二世に附す。 ⑧
 ひば 琵琶。 判す如くたたる。 ひばら。 ⑨ 古事記「かきもの」に植ゑしはしきみ口ひばく
 ひば 琵琶。 珠なご、ひびを生じて、判れたんす。
 ひば 曾孫。 まごの子。 ひひひ。 ひひひ。 ⑩
 ひば 美。 俗に、ひびひ。 うつくし。 うるはし。 はなやかなり。
 ひば 火櫃。 ひをけ。 こたつ。 すびつ。 火鉢の類。 ⑪
 ひば 罪。 小雨のふるまじこと。 ⑫
 ひば 比。 られること。 ⑬
 ひば 媿。 くさへ。 つつげ。 ⑭
 ひば 日。 ひねます。 終日。 朝より、夕まで。
 ひば 日。 ひばにたなじ。
 ひば 遊。 古、ひひに、小さく造れる。 種種の調度を添へて、何時もなく飾り弄びしこと。 今は、専ら上巳の日の遊びにたなじ。 ⑮
 ひば 鳥。 雛の子を哺する時に、啼くこと。
 ひば 雛衣。 ひひにきする小さき衣。 ⑯ 空觀

ひば 草。 草の名。 形、姿に似たり。 見供の、ひなの形に作りて弄ぶもの。
 ひば 雛祭。 ひなまつり。 三月三日に、童女の雛及び種種の調度を飾りて、酒飯などを供ぶること。
 ひば 雛屋。 ひひなを飾る小さき家。 ⑰
 ひば 雛沖。 ひひな。 空に、高く昇る。 ⑱
 ひば 雛評。 あらもの、ついでに、善きは賞め、悪きは貶すこと。
 ひば 雛焼。 細かき雛の有る如き様に焼きたる磁器。
 ひば 雛頭。 ひひらくやうになす。 ⑲
 ひば 杜谷樹。 木の名。 葉の邊に、五つの大なる鉄刺ありて、尖端、甚だ鋭し。 秋冬の交、小さき白色の花を開く。 香氣ある材には、細文ありて、色白く、堅硬し。 蔭、巴天戟。
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ⑳
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉑
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉒
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉓
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉔
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉕
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉖
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉗
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉘
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉙
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉚
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉛
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉜
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉝
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉞
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㉟
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㊱
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㊲
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㊳
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㊴
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㊵
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㊶
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㊷
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㊸
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㊹
 ひば 雛。 ひひらくやうになす。 ㊺

あいうえお かきくけこ さしずせす ねのねにな、こつちた、そせすしぎ こけくきか ねえういあ

ひびく 日賦。借金などを、日割にして返すこと。ひなし。
 ひびく 日歩。日割にて定めたる利息。
 ひびく 火吹。火吹竹の響。
 ひびく 火吹竹。竹の一節を割して切りて、その節に、小孔を穿ち、一方より、氣息を吹き入れ、火を吹き起すに用ゐる具。ひふき。ふきだけ。
 ひびく 火吹達摩。達摩の形の器の中に、水を入れたるもの。火の傍に置けば、水沸きて、自ら、その小孔より、湯氣を吐きて、火を吹き起す。
 ひびく 被服。衣服をきること。きるもの。
 ひびく 被覆。物のたはひなるもの。
 ひびく 微服。やつしたる衣服、また、そを著たる姿。
 ひびく 美服。美しき衣服。
 ひびく 火脹。やけさにて、皮膚の脹れたるもの。
 ひびく 火袋。石燈籠に、火をこぼすために穿ちある。
 ひびく 火防。火災を防ぐ神佛の力。「孔」
 ひびく 火蓋。火繩銃の火口を被ふ蓋。
 ひびく 秘佛。人に見せぬ佛像。
 ひびく 日文。神代にありたりといふ文字の一體。
 ひびく 碑文。石碑に刻りつくる文章。
 ひびく 非分。一分際にあらぬこと。二その事の、理にかなはぬこと。條理に悖たること。
 ひびく 微分。數學の一部。ある無限の小量の比を測るによりて、數學上の問題を講究する法。

ひびく 美文。うるはしき文。
 ひびく 日震。日ごとに發するたこり病。
 ひびく 疲弊。一氣力のたこるること。つかれ弱ること。二貯蓄の乏しくなること。
 ひびく 引倍木。いたびきに木なじ。「の字」
 ひびく 日偏。漢字の時、照、脱などの字の左傍にある日。
 ひびく 火偏。漢字の灼、炊、炬などの字の左傍にある火。
 ひびく 紐。ひもの縛。
 ひびく 綱繩。一時しのぎに、つくりつくろふこと。
 ひびく 日乾。太陽の光に晒せるもの。
 ひびく 火乾。魚を炙り乾したるもの。火乾。うるること。飲食を絶つこと。
 ひびく 紐解。ひもたはしの、ひに木なじ。
 ひびく 秘本。秘藏せる書籍。「た、その人」
 ひびく 非凡。世の常ならぬこと。なみならぬこと。ま。
 ひびく 神籬。ひもろきに木なじ。
 ひびく 神籬。一すき。すきま。すきま。二すき。すきま。三なかあしき。なかあしがひ。四主従の間に、雇、期限の盡くること。
 ひびく 芭麻。草の名。たうまに木なじ。「た、その人」
 ひびく 芭麻入。たそくなる。時間を、水く變す。ひま。
 ひびく 芭麻子油。たうまの實の皮を去り、仁より搾取せる油。

のねにた こてつちた そせすしき こけくきか たえういあ

ひびく 日増。日を逐ひて愈々多く。日毎にまして。
 ひびく 日際。ひまゆくに木なじ。
 ひびく 日隔日。一日つづ、間をたたくこと。一日置き。
 ひびく 日待。陰曆十月五日に、終夜たきかて、日の出を待たふこと。
 ひびく 飛沫。しづき。こぼしる。
 ひびく 火祭。火災のなきやうに、祭典をすこと。
 ひびく 隙取。ひまいるに木なじ。
 ひびく 日眞名子。まなごに木なじ。
 ひびく 火廻。ひまゆくに木なじ。
 ひびく 火廻。火をつけたる線香をもち、前の人のいひたる語の末の音を、頭になきたる語なをいひつぎて、その線香を、次の人に、順次にまはしやる遊戯。その語を考へ出で、ロシチに、線香の盡きたるものを、負出す。
 ひびく 日廻。草の名。高さ六七尺に至る。葉、しその葉に似て大なり。花は、菊花に似て、黄に、徑六七寸あり。その花常に、日脚の移る方に向ふ。ひまわり草。ひぐるま。日向草。日輪草。
 ひびく 日廻草。草の名。ひまはりに木なじ。
 ひびく 肥満。こまごりたること。
 ひびく 月無。げつげい(月無)をいふ。信濃國松本の方言。
 ひびく 隙駒。歳月の、早く経過するに譬へていひたること。
 ひびく 美味。味のよき食物。うまさ食物。
 ひびく 氷見鱈。魚の名。全身鱈に似たるもの。鱈

ひびく 日短。晝の間の短きこと。日の暮るることの早きこと。即ち冬期の日中のみじかきこと。
 ひびく 日不見の義。隠の名。ちねすみに木なじ。
 ひびく 秘密。かくして密かにすること。人に知らせぬこと。
 ひびく 氷水。こほりを入れたる水。「い、か」
 ひびく 火水。火と水と。
 ひびく 火水争。火と水とは、その性相絶して、兩立すべからざるものなれば、物事の甚だしく仲悪しきこと。二争入ること。
 ひびく 秘。かくして示さず。秘密にす。ひ、ひ。
 ひびく 東。ひがし。ひんがし。
 ひびく 氷室。出の名。ひごりむしに木なじ。
 ひびく 氷室。古、氷を貯蓄せること。
 ひびく 氷室草。植物。葉の異名。
 ひびく 氷室殿。ひむろの家。
 ひびく 氷室守。ひむろを守りてゐる人。氷室の番人。
 ひびく 氷室。くらぬ。ほろ。しな。ひんかく。
 ひびく 嬪。古の女官の一。後世の更衣。位、五位以上にしまつしきこと。ひんはら。「て、四人ありき」
 ひびく 便。頭髪の左右の側面の部分。ひんづら。
 ひびく 瓶。たのみ。たより。たつき。ついで。たつち。
 ひびく 瓶。一兩器、織器のかめ。二椅子製の櫃。玻璃櫃。
 ひびく 瓶。[英語 Pin] シメタリ。

をるわ られるりら よゆや もめんむみま ほへふひは

びん 西遊記 Pinta 熱の義 博奕、骨牌などの米の目
 ひんから 口口行。 みもち。 たこなひ。 操行。「一の敷」
 ひんかみ 鬢鏡。 鬢をてらし見るに用ゆる、小きき鏡。
 ひんかき 鬢搔。 鬢の髪を搔ふための小きき櫛。
 ひんかく 鬢客。 きやく。 まらうぢ。
 ひんかく 口口格。 みえ。 しな。 しながら。
 ひんかく 鬢學。 學問の淺きこと。
 ひんかく 東。 ひびがしの音便。 ⑤
 ひんかく 東面。 東に向ひたる方。 ⑥
 ひんかん 鬢寒。 まづしきこと。
 ひんき 鬢便宜。 たよりのよきこと。 たよりのよきをわり。
 ひんき 鬢宿宮。 あらきにたなひ。
 ひんき 鬢窮貧。 まづしきこと。 ひんはふ。 困窮。
 ひんき 鬢苦。 まづしきこと。 苦むこと。
 ひんき 鬢莖。 ひんのあたりの毛すぢ。 ⑦
 ひんき 鬢櫛。 婦人のひんの毛を掻き上げるに用ゆる、
 長く齒ありき櫛。
 ひんき 鬢血。 身體を榮養するに、通せざるはかりに、
 血液不足なること。 さぶやく。
 ひんご 鬢後。 備後表の鬢。
 ひんご 鬢後表。 備後表の内にて、最も上等なるも
 の。 備後國より産す。
 ひんご 鬢貧困。 まづしくして、へんごにさむこと。
 ひんご 鬢拍板。 まづしげに見ゆる人相。 藤福なる相。
 ひんご 鬢拍板。 數十枚の小板をかざれて、皮にて、そ
 の一端を綴り、板と板とを繋ぎ合せて、音を發せしむる樂器。
 古き舞臺に用ゆる。 拍子。
 ひんご 鬢差。 女の鬢を服らせんための具。 細き鐵な
 きを挿めて造る。
 ひんご 鬢詞。 鬢語を、性質により、分類したるもの。
 ひんご 鬢響。 眉にしわをよするること。 眉をしわび
 ること。
 ひんご 鬢便所。 一着物なび着かふる掃屋。 二便宜なる
 ひんご 鬢品性。 うまれつき。 うまれだち。
 ひんご 鬢貧生。 まづしき人。 貧乏なる畜生。
 ひんご 鬢擯斥。 しりぞくること。 たひはらふこと。
 ひんご 鬢敏捷。 しわざのすばやきこと。 仕業のてはや
 なること。
 ひんご 鬢貧賤。 まづしくして、いやしきこと。
 ひんご 鬢便船。 他の船にたよりて乗り行くこと。
 ひんご 鬢愕然。 かはゆきこと。 愕れむこと。
 ひんご 鬢貧削。 かみそぎの類。 鬢のあたりを、等刀に
 て、すこし切りそむこと。
 ひんご 鬢鬢。 鬢道具をのせたく鬢。
 ひんご 鬢貧道。 俗僧自身の諷刺。
 ひんご 鬢鬢道具。 鬢、并なび、凡て、鬢鬢をむすび、又
 は、鬢に用ゆる品物の總稱。

あいうえお かきくけこ させすしは ちてつちた のねにな

びん 鬢鬢。 鬢水を鬢に用ゆる小ききたらひ。
 ひんご 鬢備長。 炭の一種。 紀伊國より産す。 火勢強
 くして、ひんごにさむこと。
 ひんご 鬢附。 鬢付油の鬢。
 ひんご 鬢附油。 鬢、油にて、固くねりた
 る油の一種。 鬢を固むに用ゆる。
 ひんご 鬢。 まづしきこと。 ⑧
 ひんご 鬢頭。 羅漢の一日頭長眉の結伽陀座した
 る像をとりて、寺の本堂の傍に安置せしもの。
 ひんご 鬢長。 鬢の名。 ひんごにたなひ。
 ひんご 鬢無便。 たよりわろし。 つらでわろし。 不都
 合なり。
 ひんご 鬢引並。 「ひんごならぬ鬢」にたなひ
 ひんご 鬢「梵語」のまじりたること。
 ひんご 鬢鬢。 まづしきこと。 ひんご。
 ひんご 鬢鬢神。 一人を貧ならしむる神。(龍の
 神に對して) ⑨ 二田樂の第二段の第一番目の地位。 ⑩
 ひんご 鬢鬢。 一利益の少なきこと。 二類み少
 なき事。 二類み少。
 ひんご 鬢鬢。 結核。 又は竹の皮にて造
 りたる鬢。 鬢鬢にたなひにすべ用ゆる。
 ひんご 鬢鬢。 座しながら、膝を、たえやき
 がすこと。
 ひんご 鬢鬢。 ひんごにひびくこと。
 ひんご 鬢鬢。 馬の嘶く聲。
 ひんご 鬢鬢。 しきりに。 たびたび。
 ひんご 鬢鬢。 鬢鬢に鬢くまにたなひ。 ⑪ 鬢鬢なるこ
 て、鬢鬢の烈しき感にたなひ。 ⑫
 ひんご 鬢鬢。 品の善悪の評。 しなだたぬ。
 ひんご 鬢鬢。 まづしきこと。 ひんご。
 ひんご 鬢鬢。 心よりなぐりくこと。
 ひんご 鬢鬢。 みづらの遺風にして、鬢を、四尺ばかり
 垂らし、太き程に、油にて固めて、鬢鬢の下に廻し、湖方の前へ
 さげたる古の官女の鬢の結び方。
 ひんご 鬢鬢。 鬢をたしてつむぎこと。 勤務。
 ひんご 鬢鬢。 草の名。 さぶからしてたなひ。
 ひんご 鬢鬢。 草の名。 さぶからしてたなひ。
 ひんご 鬢鬢。 鬢鬢をたてつくるに用ゆる水。
 ひんご 鬢鬢。 まづしき民。 貧力をしき人。
 ひんご 鬢鬢。 ほうほうのこと。
 ひんご 鬢鬢。 木の名。 熱帯地方に産す。 高さ六丈。
 直立して枝なく、葉は、楕圓につきて、芭蕉に似たり。 實は、房を
 なし、常に食用し、また藥用す。
 ひんご 鬢鬢。 鬢鬢の鬢。
 ひんご 鬢鬢。 しな。 たひひ。 しながら。 鬢鬢。
 ひんご 鬢鬢。 客あつかひの侍鬢。
 ひんご 鬢鬢。 物事にすまじく。 はたらきのこと。
 ひんご 鬢鬢。 しな。 くら。 しな。 くら。 くら。

あいうえお かきくけこ させすしは ちてつちた のねにな

ひめ

ひめ 姫。女子の美稱。媛。國語。凡て、小さく愛らしき意を示すに用ゐる。「ひめゆり」「ひめ小松」

ひめ 図 鶴。鳥の名。形、いかるがに似て小さく、頭は、すしに黄にして、赤みを帯び、背は灰色にて、翅は、黒白相まじはる。

ひめ 図 ひびり。ひびり。ひびり。ひびり。

ひめ 図 編糶。一、米の煮たるもの。今の飯ならん。ひびり。ひめりの果。

ひめ 図 姫薊。草の名。山あざみに似て、長大なり。かほあざみ。苦菜。

ひめ 図 碑銘。石碑にかまつくる銘。

ひめ 図 非命。天命ならで死ぬること。横死すること。非

ひめ 図 悲鳴。悲みて泣くこと。かなしきなきこと。

ひめ 図 美名。よき名。ほまれ。命名。

ひめ 図 米の煮たるもの。ひめ。編糶。

ひめ 図 微妙。妙にして幽なること。

ひめ 図 姫瓜。草の名。瓜の一種。花、葉、共に白瓜に似て小さく、夏、大きき二十ばかりの實を結ぶ。色、青白く、味、苦くして、食ふべからず。

ひめ 図 秘置。しまひたく。かくしてたく。

ひめ 図 姫鏡。凡て、淑女の模範となるべき婦人。

ひめ 図 姫垣。ちひさき垣。

ひめ 図 貝。貝の名。いがひに木なじ。

ひめ 図 姫枯梗。草の名。ひなまきやうに木なじ。

ひめ 図 姫君。一、貴人の女。二、公卿の長女。大君。

ひめ

一六七九

ひめ 図 蜘蛛。蜘蛛の名。くもの一種。形、極めて小

ひめ 図 姫御前。ひめまに木なじ。

ひめ 図 秘事。ひめて人に、示さざるにあら。かくし。ひめ。な。ひめ。

ひめ 図 姫小松。木の名。一、小さき女松。ひめまつ。二、富士松をいふ。京都の語。三五葉の松の一種。葉きはめて短き。

ひめ 図 姫路草。播磨國姫路より産する紋形ある草。文脈なら張りに用ゐる。つくりがは。

ひめ 図 ひびり。ひびり。ひびり。

ひめ 図 姫躑躅。木たち、花なら総て小さきつじ。

ひめ 図 姫椿。木の名。ねずみもちに木なじ。

ひめ 図 姫刀禰。六位以上の官女。官仕したる女房。

ひめ 図 鶴鳥。鳥の名。ひめに木なじ。

ひめ 図 編糶。蒸かに煮たる飯を、臼にてすりつぶして作る餅。

ひめ 図 姫始。一、糶を食ひそむるに言なる日。二、馬の乗りそめに言なる日。飛馬始。

ひめ 図 姫雛鳥。動物。雲雀の異名。

ひめ 図 姫藤。木の名。いはふちに木なじ。

ひめ 図 内命婦。なみまやうに木なじ。

ひめ 図 姫松。木の名。一、女松の小さきもの。ひめまつ。二、めまつに木なじ。三、まつまわらを見よ。

ひめ 図 姫御子。天皇の御女。くわうじ。姫宮。内親王。

ひめ 図 姫宮。ひめまに木なじ。源氏、ひめみやの、ひめまつくしげにて。

ひめ 図 終日。朝より、夕まで。ひねもす。

ひめ 図 姫桃。木の名。桃の小さきものなり。いふ。

ひめ 図 水日矢。木を割る時なきに、そのわれめにはさむ矢。くさひ。

ひめ 図 姫靱。矢刺の楯にてつくり、表は、錦にてつみ、裏は、練の糸を著け、四處に、繻をつけたるゆき。

ひめ 図 姫百合。草の名。一、根二莖にして、葉は、たにゆりに似て小さく、色、淡く互生す。夏の半、六瓣の深紅、又は黄なる花を開く。

ひめ 図 姫艾。草の名。野生のよもぎ。葉、細くして、節、深く、枝多し。野艾蒿。

ひめ 図 紐。物を束ね、又は結ぶに用ゐる太き糸。ひは。

ひめ 図 紐鏡。一、ひものつきたる鏡。二、水の面は鏡の如く光るよりいふ。水の異名。水面鏡。

ひめ 図 紐刀。紐のつきたる小刀。

ひめ 図 紐革。一、細く革をたちて紐にしたるもの。ひは。二、紐革細腰の略。

ひめ 図 紐革鯁。紐革の如く、平みに細く製したるつじ。

ひめ 図 眉目。一、まゆぐ、まなこ。二、ほまれ。面目。

ひめ 図 比目枕。枕を並ぶ。ひめ。ひめ。

ひめ 図 紐差。一、ひもをむすぶ。二、花の露、未だ開けず。花未だくむ。

ひめ 図 餓。俗に、ひもじい。うまたり。ひたるし。腹へりたり。

ひめ 図 終日。ひすがら。ひねもす。ひめもす。

ひめ 図 動物。鶴の異名。

ひめ 図 火保。火の、久しく、消えずにある間。

ひめ 図 紐付。衣服調度なきの、紐をつく。いさ。ひめ。

ひめ 図 火元。一、ひのもこ。二、火災の起りたるころ。

ひめ 図 紐解。ひもなほしたるに木なじ。

ひめ 図 紐解。一、書明く。花さく。二、紐にて結ひたるものを解き廣ぐ。國語。下紐をこく。

ひめ 図 紐通。器物なきの、紐を通すべき孔。穿袴。ひめ。ひめ。徳川時代に、火事の火元を見さくために、火事場に出張したる使。蓋火馬。

ひめ 図 紐直。小兒七歳になりて、初めて、衣服のつけひもを去ること。この時、袷襦を行ふ。ひもさき。

ひめ 図 干魚。魚に、鹽をひきて、日に乾したるもの。

ひめ 図 檜物。一、檜の薄き板にて造れる曲物の類の細調。二、まげもの。細調。檜捲。

ひめ 図 檜物師。ひものを造る人。

ひめ 図 檜物工。ひものしたるに木なじ。「松」。

ひめ 図 檜物船。檜物に用ゐる木材を積み載せたる

ひめ

ひめ

一六七九

ひらひら 神籬。一機なさをたてて、假に神の御室に
 たること。ひらひら。二やしろ。神社。
 ひらひら 神に奉る供物。①
 ひらひら 神に奉る供物。②
 ひらひら 神に奉る供物。③
 ひらひら 神に奉る供物。④
 ひらひら 神に奉る供物。⑤
 ひらひら 神に奉る供物。⑥
 ひらひら 神に奉る供物。⑦
 ひらひら 神に奉る供物。⑧
 ひらひら 神に奉る供物。⑨
 ひらひら 神に奉る供物。⑩

ひらひら 神に奉る供物。⑪
 ひらひら 神に奉る供物。⑫
 ひらひら 神に奉る供物。⑬
 ひらひら 神に奉る供物。⑭
 ひらひら 神に奉る供物。⑮
 ひらひら 神に奉る供物。⑯
 ひらひら 神に奉る供物。⑰
 ひらひら 神に奉る供物。⑱
 ひらひら 神に奉る供物。⑲
 ひらひら 神に奉る供物。⑳

のねにな せつらた せすしき こけきか 不えういあ

ひらひら 神に奉る供物。①
 ひらひら 神に奉る供物。②
 ひらひら 神に奉る供物。③
 ひらひら 神に奉る供物。④
 ひらひら 神に奉る供物。⑤
 ひらひら 神に奉る供物。⑥
 ひらひら 神に奉る供物。⑦
 ひらひら 神に奉る供物。⑧
 ひらひら 神に奉る供物。⑨
 ひらひら 神に奉る供物。⑩

ひらひら 神に奉る供物。⑪
 ひらひら 神に奉る供物。⑫
 ひらひら 神に奉る供物。⑬
 ひらひら 神に奉る供物。⑭
 ひらひら 神に奉る供物。⑮
 ひらひら 神に奉る供物。⑯
 ひらひら 神に奉る供物。⑰
 ひらひら 神に奉る供物。⑱
 ひらひら 神に奉る供物。⑲
 ひらひら 神に奉る供物。⑳

をまわ るれるり ぶゆや もらんむみま 丘へふひは

ひやんちん 兵衛府。古、兵部を指揮して、宮門の守衛、行幸の行列などのことを司りし役所。左、右の二府あり。

ひやんちん 素見。一、なまのこ、からからこ。二、商品の値ならぬ、購が如くして、購はぬ。三、みたほし。

ひやんちん 國圖冷。一、ひやんちん。つめたくす。水に浸す。二、賣物の値を問ひながら、その物を買はず、蒸見す。三、嘲弄す。なまのこ。嘲弄す。

ひやんちん 非役。役目なくしてあること。その職をはなれ

ひやんちん 飛躍。足にて、飛びあがること。

ひやんちん 國圖冷。俗に、ひやける。十分に漬かりて柔かになる。かへく。

ひやんちん 白衣。一、しろき衣服。二、白小袖に、直衣などの表衣を着せし、指貫、袴などのみにてあること。後には、白小袖のみなるをもいふ。

ひやんちん 白帯。佛の額にある帯。これより、光を發して、無量の國を照らすといふ。今、多くは、佛像の額に、同家左旋のものを以てこれに擬す。

ひやんちん 百箇日。人の死にてより、百日めの日。この日、葬事を修す。

ひやんちん 百鬼。いろいろな妖怪の総稱。

ひやんちん 百官。朝廷の諸のつかまひ。ものつ

ひやんちん 百計。さまざまの役人。

ひやんちん 白狐。毛の白き狐。通常の狐より、多くの年を

ひやんちん 白虎。四神の一。西方に配する星象。

ひやんちん 百工。一、さまざまの器物を作る人。二、ものつかさ。百工。

ひやんちん 百穀。穀物の總稱。

ひやんちん 百草。種種の草の總稱。

ひやんちん 百姓。ひやくしやうの約。

ひやんちん 白散。屠蘇の、袋に包まずに、そのまま、酒にひたすもの。

ひやんちん 拍子。手ほの、腕さの板を、十餘枚重ね、革にて連ね、拍うつ樂器。百子拍板。

ひやんちん 白止。草の名。よろひぐさに似たなまじ。

ひやんちん 百事。凡ての事。凡ての仕業。萬事。

ひやんちん 百日紅。木の名。さるすべりに同じ。

ひやんちん 柏檜。木の名。ひのきの類。幹は、松の如く、葉は、檜の如く、或は杉の如く、或は松の如くにして、一様ならず。

ひやんちん 百姓。一、天下の民。人民の總稱。二、時に、ひやくしやうとみ百姓讀。漢字を、偏、旁などにより、あてよみすること。

ひやんちん 百姓男。みなか育ちの男。みなかひやくしやうとみ百姓。さまざまの形状のあらはるること。

ひやんちん 白前。草の名。すすめのをけに似たなまじ。

ひやんちん 白檀。木の名。あふちの類。熱帯地方に産す。香料、染料などにす。

ひやんちん 白朮。草の名。白色のさつぷつ。薬料にす。

のねにた きてつらた そせすしき こけくきか たえういあ

ひやんちん 百度參。神社の拜殿、鳥居の間、又はその廻廊などを、一日に百度、往還して拜すこと。

ひやんちん 百日咳。見供の多く疾む病。發熱して、久しき間、咳の癒えぬもの。

ひやんちん 百般。これかたさまさま。

ひやんちん 白微。草の名。よなはらに似たなまじ。

ひやんちん 百腸。その長さ百腸ほもありこと。薬「はらわた」に似たなまじ。

ひやんちん 百部。草の名。ほろつに似たなまじ。

ひやんちん 百弊。さまざまのむづかぜ。

ひやんちん 百萬遍。一、山城國の、知恩寺にて行ふ佛事。衆僧、千八限の大数珠をくりて、百萬度の念佛をなすこと。二、男女うち交りて、數珠をつまぐり、百萬度の念佛を唱ふこと。

ひやんちん 百味。數々のよき食物。

ひやんちん 百味箏筒。小ひきたし、多くある箏筒。漢方醫の、藥品を貯ふるに用ゐるもの。

ひやんちん 百脈根。草の名。みやこぐさに似たなまじ。

ひやんちん 百物語。夜なご、數人集まりて、種種のほろめものをなすこと。

ひやんちん 百薬長。酒の器名。「んは」

ひやんちん 百癩。しらばた。なまじはた。なり。なり

ひやんちん 百蟻。蟻。一、しろめに似たなまじ。二、しろなまじに似たなまじ。「の病」

ひやんちん 白痢。痢病のなまじりて、白色のものを排泄す

ひやんちん 百兩金。からたちの異名。

ひやんちん 百慮。ちやに思ふこと。

ひやんちん 百靈。もろもろの民。

ひやんちん 百僚。もろもろの役人。

ひやんちん 百和香。わりかうに似たなまじ。「中央」

ひやんちん 百會。前項の移部、つむじのある部分の頂の

ひやんちん 冷。俗に、ひやこい。ひややかなり。つめた

ひやんちん 冷酒。つめたき酒。温めぬ酒。「し」

ひやんちん 冷。ひややかにす。つめたくなす。二馬を、水にて洗ふ。三刀にて、人を斬る。元禄時代の語。

ひやんちん 百本漬。乾大根百本を、糠一斗、麹四升、鹽三升にてつけたもの。

ひやんちん 洋琴。「英語 Piano」大なる匣の匣に、數十條の鐵線を張置し、指にてたして發する樂器。

ひやんちん 冷。ひややかに。つめたく。二底き場合にのぞきたる時の心の感じに似よ。

ひやんちん 竹。又は鐵を、四五寸ほさに、薄く切り、その端を鐵線にてまき、口に啣みて吹く樂器。

ひやんちん 冷水。ひややかなる水。つめたき水。しみづ。

ひやんちん 冷麩。きりむぎを、水に浸して、冷ややかにしたるもの。

ひやんちん 香椿。木の名。葉は、漆に似て、臭気あり。雌雄の二種あり。雌は、實を結ぶ。形、圓く長く、秋熟し、堅に裂けて、風に飛ぶ。きやんちん。たまつはき。

をるわ るるりり とゆや もめんむみま ほへふひは

ひやめし 図 冷飯。つめたき飯。寒くてより、時を經たる飯。
 ひやめし 図 冷飯食。厄介びじ。寒食の人。ひやめし。
 ひやめし 図 冷。一つめたく。ひえて。二冷漢に。愛敬
 ひやめし 図 草の名。苗は、けいごうの如く、秋、魁をなして、細
 かき黄白の花を開く。撒葉、藍、を食用とす。
 ひやめし 図 俗に、ひえる。ひやめしになる。つめたく
 ひやめし 図 比喩。たごい。
 ひやめし 図 日備。その日限り備はるる。ひやめし。
 ひやめし 図 費用。つひえ。いりめ。ものいり。入費。
 ひやめし 図 氷解。氷のくくま如く、疑の解くること。ぞ
 の意義の、よく了解せらるる。ひやめし。
 ひやめし 図 氷海。南北極なごにある、氷の張りつめた
 ひやめし 図 氷肌。梅の花の異名。
 ひやめし 図 氷塊。氷のかたまり。
 ひやめし 図 氷結。氷のはるること。凍結する。ひやめし。
 ひやめし 図 氷山。北極なごにある、氷の凝集して、山に
 なれるもの。
 ひやめし 図 氷炭。水と火と相違の甚しき、二つの物の
 ひやめし 図 氷柱。たるひ。つらひ。
 ひやめし 図 氷點。寒暖計にて、水の氷なるべき温度。
 ひやめし 図 日備取。ひやめしを以て、活計を立つる人。
 ひやめし 図 比翼。一翼をならぬ。二翼を以て着る。衣服の

緑のみを同じ用にて揃へ、内は、一枚、或は兩枚なるもの。
 ひやめし 図 比翼塚。情死せる男女を、同穴に葬りたる
 墓。めをこつか。
 ひやめし 図 比翼鳥。一支那にて、一身にして雌雄
 の形を備へたりと想像せる鳥。男女のちぎりの際、雌にいよ。
 二鳥の名。おつてうにたなじ。
 ひやめし 図 比翼紋。わが紋所、情人の紋所を組合
 ひやめし 図 日除。ひやめしにたなじ。
 ひやめし 図 火除。火災の時、延焼を避くるために設けた
 るもの。二ひやめにたなじ。
 ひやめし 図 鳥の卵より孵化して、同もなきもの。雛。
 ひやめし 図 不意に、現はれいづるさまに。ひやめし。
 ひやめし 図 一方の目小さく、口尖りて面相のたなけたる
 ひやめし 図 鳥の名。つぐみに似たる小さき鳥。尾長く、
 頭上の毛風にて起り、胸、腹とは、灰青にして、黒き斑あり。
 ひやめし 図 鴨上月。草の名。おつてうにたなじ。
 ひやめし 図 鴨花。草の名。おつてうにたなじ。葉は、
 桃に似て細長く、周りの鋸歯深し。また三尖なるもあり。花は、
 白、淡紫の二種あり。
 ひやめし 図 難の種がなく。ひやめし。
 ひやめし 図 雉栗。栗の實の、固くして、尖らざるもの。
 ひやめし 図 日讀。えんごを合せて、年月日時の名をいふに用
 るもの。即ち、子、丑、寅などの十二支の圖。

のほかにな るれりら とゆや もめんむみ家 庄へふひは

ひやみのせり 図 日讀酉。漢字の酉、醜なきの字の左傍
 にある酉の字。

ひやんかじ 図 香襦。きやらの類の下等なるもの。

ひやんな 図 一いまいし。ゆゆし。ひよんな事に出席
 ふ。「二思ひがけなし。意外なり。ひよんな事から、この場合
 になつた」

ひやめき 図 額門。赤見なごの額蓋骨の、まだ固まらぬ時、
 前頂の中央の動く部分。ひやめきををらり。

ひやめ 図 日和。二さらのけしき。天氣の模様。二よく晴
 れわたりたる空。晴和。

ひやめ 図 草。塵の中の薄き皮。

ひやめ 図 日和風。空の時をへさぐるし風の。

ひやめ 図 日和下駄。下駄の一種。道の低き足駄。た
 もに、晴天の日に穿つ。

ひやめ 図 日和見。一ひよりをうかがふこと。二場合を
 見はからひて、ためらふこと。心を、兩端にかまふこと。

ひやめし 図 踏踏。ひやめしにたなじ。

ひやめし 図 踏踏。ひやめしにたなじ。

ひやめし 図 踏踏。ひやめしにたなじ。

ひやめし 図 踏踏。ひやめしにたなじ。

ひやめし 図 踏踏。ひやめしにたなじ。

ひやめし 図 踏踏。ひやめしにたなじ。

ひやめし 図 踏踏。ひやめしにたなじ。

ひやめし 図 踏踏。ひやめしにたなじ。

ひやめし 図 踏踏。ひやめしにたなじ。

ひやめし 図 踏踏。ひやめしにたなじ。

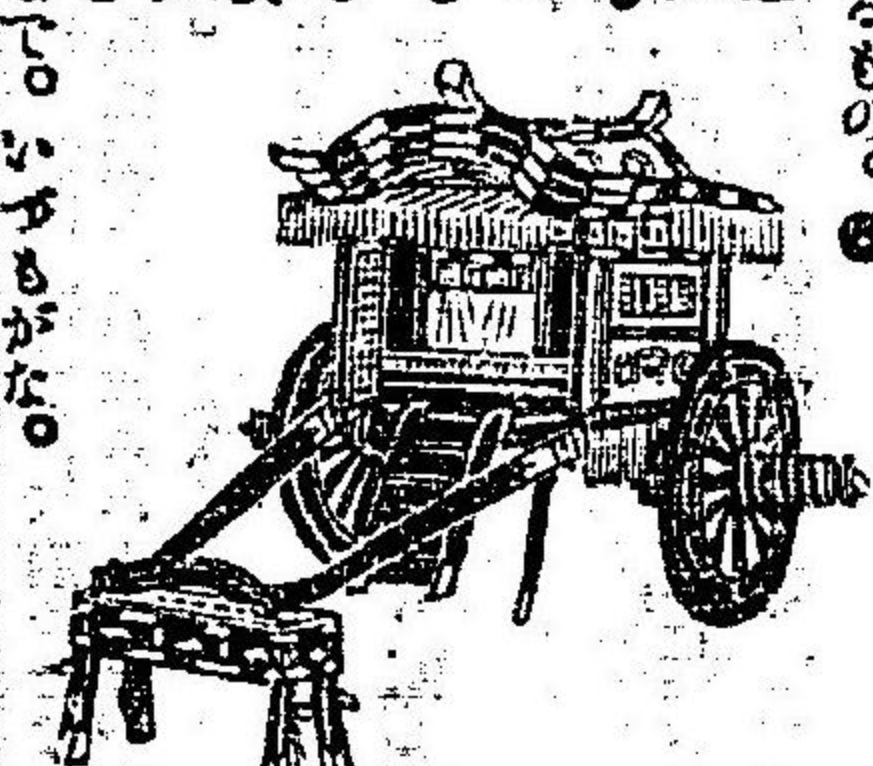
ひやめし 図 踏踏。ひやめしにたなじ。

ひやめし 図 踏踏。ひやめしにたなじ。

ひやめ

ひやめ

ひやめ 図 鱒。魚の名。ひらこのしりの鱒。
 ひやめ 図 杖。薄くして平かなるもの。即ち紙なきの杖。
 ひやめ 図 奥行物の番附。又は店びらきの祝物をなせるしたる
 ひやめ 図 平足駄。面の平かなるあしだ。「張紙」
 ひやめ 図 比來。このころ。このせつ。
 ひやめ 図 布呂敷をいふ。肥前國長崎の方言。
 ひやめ 図 平絲。糸の、よりの少きもの。
 ひやめ 図 疲勞。つかれ。くたばれ。
 ひやめ 図 檳榔。木の名。熱帯地方に産す。しゆるに似て、
 葉、甚だ大きく、しゆるの葉の如く、その本まで分岐せず。あぢ
 まる。びらう。
 ひやめ 図 檳榔毛。檳榔毛車。毛の、
 ひやめ 図 檳榔毛車。牛車、屋上を、あぢ
 まるの葉にて覆ひ飾りたるもの。
 ひやめ 図 平押。一途
 に押し進むこと。すすみに
 すすむこと。「る仕方」
 ひやめ 図 小鳥を捕ふ
 ひやめ 図 平釜。皿の類。
 ひやめ 図 土器。ほごき。
 ひやめ 図 平假名。漢
 字の草體を、一層くづした
 る文字。即ち、いろは四十七
 字の稱。さうがなるをんな。いさむがな。



(まるくのけうらひ)

をるわわ るれりら とゆや もめんむみ家 庄へふひは

ひらたき入図鏡。ひらたきかなし。①
 ひらがね金鼓。樂器の名。たたく。②
 ひらがね平釜。深くひらたき釜。③
 ひらがね平伏。ひらたく伏しし。ひらたき。④
 ひらたき開。一凡て明け開く。二はじまり。た。⑤
 三種に祝宴の席より、人人の退散する。四立ち退く。その場を去ること。五蓋の紐を引く。六蓋の紐。商人の謂。七氣持の、よくなること。八開戸の聲。
 ひらたき開牛蒡。方柱の形に切りて、煮ず。正月の祝に用ゐる牛蒡。
 ひらたき開戸。くま。又は幾番にて開閉する。まひ。⑥
 ひらたき開平絹。ひらたきにて織りたる絹織物。
 ひらたき開柱。橋の欄干の柱の上に、横裏を塗りたるもの。⑦
 ひらたき開封。封をせぬ書状。
 ひらたき開豆。水煮の大豆。正月の祝に用ゐるもの。⑧
 ひらたき開。一ふたをひらき。二はじまり。三はじまり。四はじまり。五はじまり。六はじまり。七はじまり。八はじまり。九はじまり。十はじまり。十一はじまり。十二はじまり。十三はじまり。十四はじまり。十五はじまり。十六はじまり。十七はじまり。十八はじまり。十九はじまり。二十はじまり。二十一はじまり。二十二はじまり。二十三はじまり。二十四はじまり。二十五はじまり。二十六はじまり。二十七はじまり。二十八はじまり。二十九はじまり。三十はじまり。三十一はじまり。三十二はじまり。三十三はじまり。三十四はじまり。三十五はじまり。三十六はじまり。三十七はじまり。三十八はじまり。三十九はじまり。四十はじまり。四十一はじまり。四十二はじまり。四十三はじまり。四十四はじまり。四十五はじまり。四十六はじまり。四十七はじまり。四十八はじまり。四十九はじまり。五十はじまり。五十一はじまり。五十二はじまり。五十三はじまり。五十四はじまり。五十五はじまり。五十六はじまり。五十七はじまり。五十八はじまり。五十九はじまり。六十はじまり。六十一はじまり。六十二はじまり。六十三はじまり。六十四はじまり。六十五はじまり。六十六はじまり。六十七はじまり。六十八はじまり。六十九はじまり。七十はじまり。七十一はじまり。七十二はじまり。七十三はじまり。七十四はじまり。七十五はじまり。七十六はじまり。七十七はじまり。七十八はじまり。七十九はじまり。八十はじまり。八十一はじまり。八十二はじまり。八十三はじまり。八十四はじまり。八十五はじまり。八十六はじまり。八十七はじまり。八十八はじまり。八十九はじまり。九十はじまり。九十一はじまり。九十二はじまり。九十三はじまり。九十四はじまり。九十五はじまり。九十六はじまり。九十七はじまり。九十八はじまり。九十九はじまり。百はじまり。

分。全身黒く、色深黒なり。雌は、常に、腹ならに、産む。①
 ひらたき開。開くこと。②
 ひらたき平桁。ひらたき桁。③
 ひらたき平鞘。短刀の野太刀鞘。普通のより厚し。古。出行に佩入るもの。④
 ひらたき平屋。ひらたきにたな。⑤
 ひらたき平比良須伎。ほん。馬なりの如き。⑥
 ひらたき平菅。草の名。あんならにたな。⑦
 ひらたき平瀬。早瀬のたひらかなる。⑧
 ひらたき平田。平田の。⑨
 ひらたき平蜘蛛。虫の名。ひらたきにたな。⑩
 ひらたき平草。草の名。松茸に似て、傘、うすく、色深黒なり。食ふ。⑪
 ひらたき平。俗に、ひらたき。一たひらかなり。厚みなくして、横の方ひら。二圓滑なり。縁かなり。
 ひらたき平田舟。底ひらたくして、長き小舟。
 ひらたき平地。一たひらかなる土地。二建物のなき土地。
 ひらたき平包。ふく。ふろしきの。包袱。
 ひらたき平面。はひろき。方面。

のねにな じてつちた そせすしき こけくきか 木えういあ

ひらて図平手。たひらかに開きたる手。たな。①
 ひらて図枚手。一柏の葉を、一枚あはせ、竹釘にて、盤のやうにせらるもの。上古、食物を盛るに用ゐたり。二世世、其形に擬へたる瓦器。
 ひらて図平戸。金線、銀線を編みたる細工もの。南蠻の工人の、肥前國平戸にて傳へたるもの。
 ひらて図平鍋。深くしてひらたき鍋。
 ひらて図平。一たひら。ひらたき。三ひらたき。な。②
 ひらて図平場。ひらたきにたな。③
 ひらて図平袴。はんばかまにたな。④
 ひらて図平張。ひらたく張りて、天井とし、日光を透す。日たひ。天幕。
 ひらて図平針。ははりたな。⑤
 ひらて図平額。ひらたきひたひ。女官の装束の時に用ゐるもの。⑥
 ひらて図杖杖。ひらたき、風に動く紙なりの小片。⑦
 ひらて図旗。旗なりの、風に翻るさまにたな。⑧
 ひらて図活。活。⑨
 ひらて図。ひらたきにたな。⑩
 ひらて図。ひらたきにたな。⑪
 ひらて図。ひらたきにたな。⑫
 ひらて図。ひらたきにたな。⑬
 ひらて図。ひらたきにたな。⑭
 ひらて図。ひらたきにたな。⑮
 ひらて図。ひらたきにたな。⑯
 ひらて図。ひらたきにたな。⑰
 ひらて図。ひらたきにたな。⑱
 ひらて図。ひらたきにたな。⑲
 ひらて図。ひらたきにたな。⑳

ひらて図。ひらたきにたな。㉑
 ひらて図。ひらたきにたな。㉒
 ひらて図。ひらたきにたな。㉓
 ひらて図。ひらたきにたな。㉔
 ひらて図。ひらたきにたな。㉕
 ひらて図。ひらたきにたな。㉖
 ひらて図。ひらたきにたな。㉗
 ひらて図。ひらたきにたな。㉘
 ひらて図。ひらたきにたな。㉙
 ひらて図。ひらたきにたな。㉚
 ひらて図。ひらたきにたな。㉛
 ひらて図。ひらたきにたな。㉜
 ひらて図。ひらたきにたな。㉝
 ひらて図。ひらたきにたな。㉞
 ひらて図。ひらたきにたな。㉟
 ひらて図。ひらたきにたな。㊱
 ひらて図。ひらたきにたな。㊲
 ひらて図。ひらたきにたな。㊳
 ひらて図。ひらたきにたな。㊴
 ひらて図。ひらたきにたな。㊵
 ひらて図。ひらたきにたな。㊶
 ひらて図。ひらたきにたな。㊷
 ひらて図。ひらたきにたな。㊸
 ひらて図。ひらたきにたな。㊹
 ひらて図。ひらたきにたな。㊺
 ひらて図。ひらたきにたな。㊻
 ひらて図。ひらたきにたな。㊼
 ひらて図。ひらたきにたな。㊽
 ひらて図。ひらたきにたな。㊾
 ひらて図。ひらたきにたな。㊿

ををわ ろれるりゆ よゆや もめんひみま ぼへふひは

ひらりのり

ひらりのり 園 檳榔車。ひらりのりのくまに同じ。
ひらつ 園 卑劣。心、行なきの、鄙しきこと。
ひれなが 園 鯖長。魚の名。しびの一種。左右の鯖長くして、黒く、紅色を帯ぶ。びんなが。びんなご。

ひらりのり

ひらりのり 園 檳榔車。ひらりのりのくまに同じ。
ひらつ 園 卑劣。心、行なきの、鄙しきこと。
ひれなが 園 鯖長。魚の名。しびの一種。左右の鯖長くして、黒く、紅色を帯ぶ。びんなが。びんなご。

ひらりのり 園 檳榔車。ひらりのりのくまに同じ。

ひらりのり 園 檳榔車。ひらりのりのくまに同じ。
ひらつ 園 卑劣。心、行なきの、鄙しきこと。
ひれなが 園 鯖長。魚の名。しびの一種。左右の鯖長くして、黒く、紅色を帯ぶ。びんなが。びんなご。

ひらりのり 園 檳榔車。ひらりのりのくまに同じ。
ひらつ 園 卑劣。心、行なきの、鄙しきこと。
ひれなが 園 鯖長。魚の名。しびの一種。左右の鯖長くして、黒く、紅色を帯ぶ。びんなが。びんなご。

ひらりのり

ひらりのり

ひらりのり 園 檳榔車。ひらりのりのくまに同じ。

ひそん 図 微温。なまねるまじり。しらしたたかき。ひそり 図 引折。ひそりのひにたなじ。ひそりのひ 図 引折日。まてつぎひの日。

ふ

五十音圖中、波行第三の音。唇音の一。上下唇を僅かに開き、舌の元の方をやや高めて、急に氣息を唇頭に觸れしめて發す。

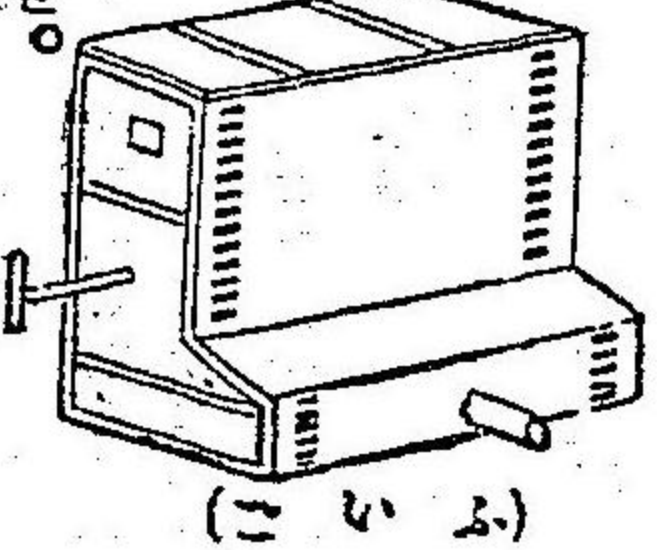
ふの濁音。ふの次清音。

ふ 図 節。ふし。あみめ。ふ 図 蕪。一洗粉に用ゐる。小麦粉のふすま。二ふすま。小麦粉を、水に投して押しもみ、洒したるもの。その生なるを、生懸といひ、焼きたるを焼懸といふ。三特に、焼懸の種。ふ 図 副。すりにたなじ。舞。ふ 図 府。一やくしよ。つかさ。二現今行はるる行政區劃の一。東京府、京都府、大阪府の三つあり。(縣に對して)三物を納め置く所。くら。ふ 図 斑。種種の色の変りて、またらなせるもの。またら。ふ 図 生。草木の並び生じてあること。ふ 図 譜。一けいじにたなじ。二同じ種類の物事を、見易きやうに書きついでたるもの。三音楽の曲節調子を書きたるもの。「琴のふ」笛のふ。ふ 図 符。しるしのれ。わりふた。ふ 図 傳。かしつきにたなじ。

ふ 図 臍。はらわた。ふ 図 賦。漢詩の一體。古詩の遺體にして、對をこり、韻をよむもの。一國國圖。一詩歌を作る。二割り附つ。ふ 図 歩。一格つづ、前へのみ進むことを得る將棋の駒。ふ 図 婦。一そんな。をみな。二夫ある女。つま。妻。ふ 圖 經。俗に、へる。道を行く。わたりゆく。推移す。たつ。ふ 圖 不。一下の語の意義を打ち消すに用ゐる。二苦からむ意を示すに用ゐる。ふ 圖 夫。雜役につかはるる人。にんぶ。にんそく。ふ 圖 部。物の一方のこころ。ふ 圖 武。一ををしき勢を用ゐること。二いくさ。たたかひ。ふ 圖 不。ふにたなじ。ふ 圖 歩。田地の面積を計るに用ゐる。一歩は、一坪にたなじく、曲尺にて、六尺四方なり。ふ 圖 分。一物の全部を等分したる、その一部分。はりまへ。二錢高を數ふるに用ゐる。一分は、一兩の四分の一、一錢の四倍にあたる。三圓物の長さを計るに用ゐる。一分は、一寸の十分の一、一厘の十倍にあたる。ふ 圖 圖。様子らしき意を示すに用ゐる。「ひなち」ふ 圖 無愛敬。愛敬のなきこと。「おきき」ふ 圖 無愛想。ふあいきやうにたなじ。ふ 圖 歩合。幾つかに分ちたる割合。ふ 圖 不安心。安心せられぬこと。「おもたき」

のねにた ことつらた そせしき こけくきか ねえういあ

ふ 圖 不案内。案内を知らぬこと。様子に暗きこと。ふ 圖 不意。思ひよらぬこと。思ひかけぬこと。ふ 圖 布衣。官位なき人。ただびこ。匹夫。ふ 圖 無異。かはりたる事なきこと。平安なること。ふ 圖 富有。かねもち。財産家。ふ 圖 浮游。うかぶこと。ふ 圖 浮游。虫の名。形、極めて小さくて、朝に生れ、夕へに死すこと。かけるふ。ふ 圖 不意討。我が油断につけいりて、敵の打ちかかり、又は攻めかかること。ふ 圖 不意氣。ふきがはの音便。「不釋」。ふ 圖 不意氣。はてにあらぬこと。いままかぬこと。ふ 圖 撫育。はぐくみそだつこと。ふ 圖 撫育。愛し育つこと。ふ 圖 撫育。ふしつみかしつこと。ふ 圖 輔。ふいがりの靴。ふ 圖 輔祭。陰曆十一月八日、樂府の行ふ祭。ふ 圖 吹聴。ひろつにたなじ。ふ 圖 吹聴。そのまに、ちがて。かりそ。ふ 圖 吹聴。人の死したるしらせ。ふ 圖 吹聴。たごつれをせぬこと。無沙汰。疎音。



ふ 圖 斑入。植物の葉、又は花などに、種種の色いまじりたるもの。ふ 圖 斑入。斑入萬年青。葉に、白きまだらあるたなじ。ふ 圖 斑入。思ひがけなく、事をしかけること。不在の人を知らずにする。ふ 圖 風。一すがた。なりふり。装束。二ならはし。しきたり。風俗。三さがひ。狂氣の者。ふ 圖 封。容易に、他人に明かれぬやう、封じ目に、しるしをつくること。一國國圖。俗に、かうじる。二ふうをなす。三神佛の通力にて、出でられぬやうにする。ふ 圖 封印。封じたること。押す印。ふ 圖 封印。封印付。一書状などの、封印せるもの。二徳川時代に、通貨の一包に、その兩替店にて封印したるもの。三世間にしたたりたる、しれもの。ふ 圖 風雨。一あめと、かせと。二風まじりの雨。ふ 圖 風雨計。晴雨その他、氣象を下する機械。ふ 圖 風雲。一風に散らさるる雲。かきくも。二事のたごりたる機勢。ふ 圖 富家。富みたる家。財産家。ふ 圖 風雅。みやび。ふうりう。典雅。ふ 圖 風概。やうす。風采。ふ 圖 風害。風のために生ずる損害。ふ 圖 風變。一普通と變りたるすがた、また、その人。奇人。二姿の、以前と變りたること。

をるわ るるりり よゆ りめんむみ ぼへふひは

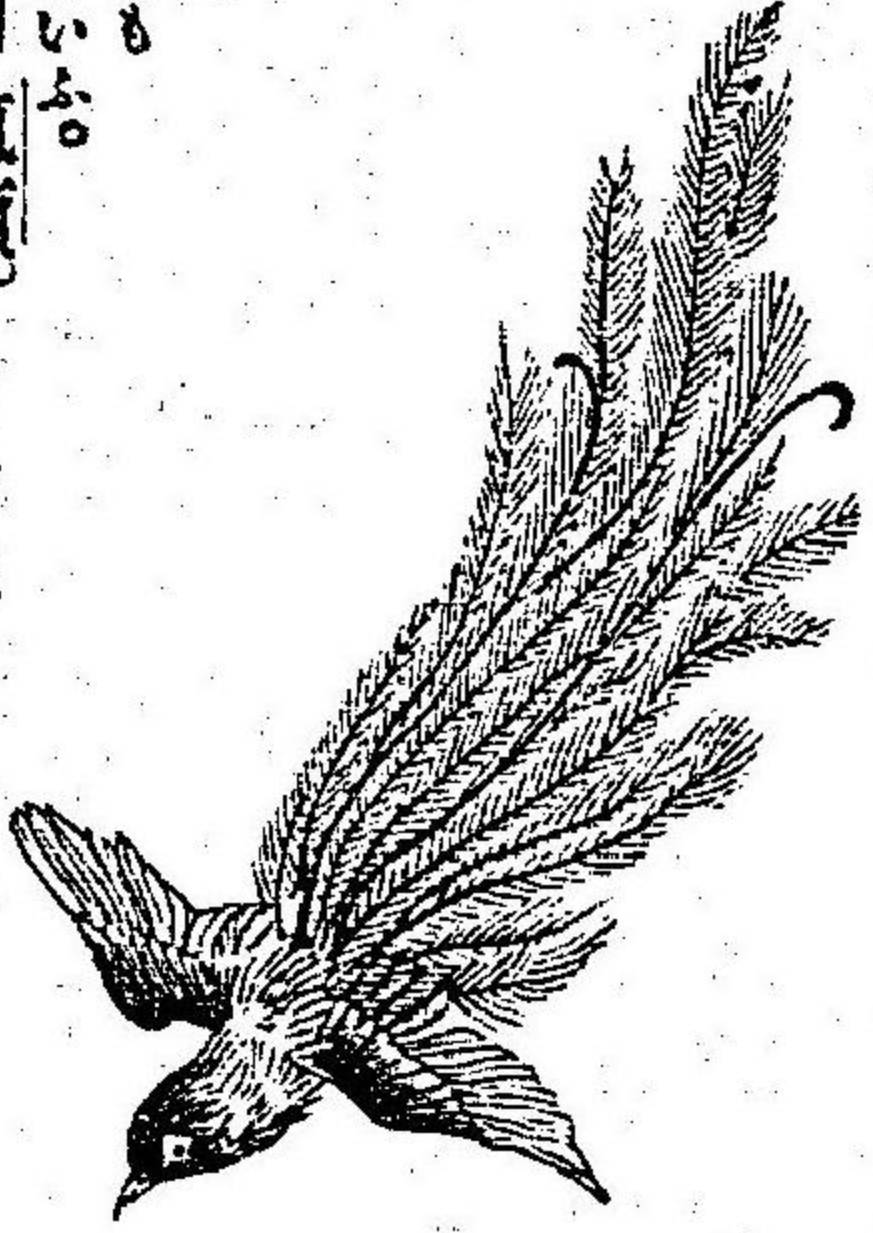
ふかかぶ 風鈴。虫の名。あかへるにたなじ。
 ふかか入 風寒。陰曆十一月の異稱。
 ふかか入 風調。遠まはしに諫めること。それごとく注
 意せしむるなり。
 ふかか入 風鑑。風采、容貌を見て、その人となりを知る
 ふかか入 風眼。眼の熱して痛む病。風熱眼。
 ふかかもの 風雅者。風流なる人。
 ふかかめる 風悪。一むるがしし。狡猾なり。二
 服装みよるし。
 ふかき 富貴。財多く、位高きこと。富みてまきこと。
 ふかき 風氣。一かきひき。風邪。二腹の内。空気の
 濁らぬの。
 ふかき 風儀。たちあふるまひ。ならはし。しつけ。
 ふかき 風草。植物。牡丹の異名。
 ふかき 風豆。蚕豆の皮をむき、砂糖にて、煮く煮
 ふかき 風食。たるがんにたなじ。「たきもの」
 ふかき 風化。人の風儀をよく移すこと。
 ふかき 風光。けしき。
 ふかき 風景。けしき。
 ふかき 風教。世間のしつけ。
 ふかき 風月。一風と月。二風流をたのしむこと。
 ふかき 風候。時候の工合。天氣の模様。かきまみ。

ふせり 風骨。やうす。かたち。
 ふせり 風采。ひごがら。やうす。風姿。風概。
 ふせり 風災。風のため、むきまはひを受くること。
 ふせり 風箏。紙張のうなり。
 ふせり 風姿。ふうさいにたなじ。「の敬稱」
 ふせり 風子。支那にて、丈夫以上、又は長者、賢者など
 ふせり 風刺。こぼまはしに、他人の過をいひあつるこ
 ふせり 風師。風の神。
 ふせり 風疾。骨節のいたむ病。
 ふせり 風習。ならひ。ならはし。しきたり。
 ふせり 封袋。人に送るべき、書状をつつせ袋。書
 封袋。封筒。
 ふせり 封書。封じたる手紙。封書。
 ふせり 封人。まらひ。
 ふせり 封目。封じたるあはせめ。
 ふせり 風車。風の力にて廻る車。
 ふせり 風邪。かぜひき。かぜ。感冒症。
 ふせり 風樹。木の名。かへて。
 ふせり 風色。けしき。
 ふせり 封蠟。書状の封じ目を貼るに用ゐる蠟。
 ふせり 風説。遠まはしにいふ。それごとくいふ。
 うはき。風評。批評。
 ふせり 風雪。風に隨ひて、雪のふること。よき。

のねにた こてつたに そせすしき こけくきか たえういあ

ふせ入 風船。布帛製の袋に、水素瓦斯を詰めて、下に
 人を乗り組ます。籠をつけて、空中を飛行するもの。軽氣球。
 ふせ入 封禪。土地山川をまつこと。
 ふせ入 風前塵。「風の吹くところにある塵」
 ふせ入 風俗。「ならひ。ならはし。二衣服の上をほ
 ひ。身のなりより」
 ふせ入 風俗歌。かぐらうたの類。國風の風俗を
 つたへるもの。
 ふせ入 風俗繪。風俗を畫にかきあらはしたるも
 の。
 ふせ入 風損。風災によりて受けたる損害。
 ふせ入 風帯。「几帳の上に垂るる、細長き布帛。二掛
 軸の上方に垂るる、二條の襷袢き帯。襟帯」
 ふせ入 風袋。帯にて、物をはかるとき、その品物の上
 包、箱、樽などの類。
 ふせ入 風袋倒。「一目方ありげに見えて、思の
 外に軽きもの。二うはへのみ善く見ゆるもの。みかけたふし」
 ふせ入 風致。たもむき。あぢはひ。風趣。風韻。
 ふせ入 風鎖。掛軸の両端にかくるたもむき。軸の、風
 に懸るるを防ぐためのもの。「雜事。俗事」
 ふせ入 風塵。「風に吹き立てらるる塵。二世の中の
 ぶらつき」
 ふせ入 風通。金銀線を用ひて、花文を出したる織物。

ふせり 封筒。ふうじょうにたなじ。
 ふせり 風體。かたち。ありさま。なりより。
 ふせり 風潮。「風に隨ふ潮水。二時勢のなりゆき」
 ふせり 風鳥。鳥の名。形、三光鳥に似て、尾は、扇の
 穂の如
 く、脚
 は、風
 に似
 た
 り。
 常に、
 洞中に
 栖み、風
 に乗りて
 飛び行くも
 のなりこと。
 ふせり 風韻。きまがひ。
 ふせり 風呖。「英辞 See 長さを計るに用ゐる。一ふう
 じは、わが一尺〇五厘八二にあたる」
 ふせり 風土。土地の地味、氣候、
 ふせり 封筒。ふうじょうにたなじ。二書翰を入
 るの箱。状紙。
 ふせり 風藤葛。草の名。海邊に生ず。葉は、
 ちくちくの如くにして、互生し、夏、葉の間に、細き胞出て、
 細小なる白き花を咲く。實は、山椒の粒に似たり。土蒸藤。
 ふせり 風毒。りうまつすにたなじ。「脚」
 ふせり 風足鞠。英語 Foot-ball, 足にて蹴つ遊ぶ



(うてうふ)

ををわ りるりら よゆや もめんむみま ほへよひは

ふか 風波。一波、風。二たまたかならぬこと。あきらむ。いさかひ。

ふか 風砲。空氣の力にて發射する銃。空氣銃。

ふか 風伯。風の神。

ふか 風帆船。西洋形のほまへせん。「つ。」

ふか 風靡。草木の風に靡くが如く、能く服従すること。

ふか 風評。世の語りきた。うはさ。評判。

ふか 夫婦。いもせ。めをら。

ふか 風物。氣ままたに、種種の難題をいひかくること。

ふか 風物。けしき。ありさま。

ふか 風味。うはさ。評判。

ふか 風不運。あぢ。あぢはひ。

ふか 浮運。ふしあはせにたなじ。

ふか 武運。武士の運命。戦にての勝負の運。

ふか 風來者。一浮浪り人。流蕩せる人。二さまぐれなる人。

ふか 風來物。用に立たず、空しく捨てられてある品物。

ふか 風蘭。草の名。深山の樹の枝などに生ず。葉は、やや萬年青に似て細小に、夏の末、葉出でて、小さき白花を開く。また一種、黄花なるもあり。共に香氣あり。

ふか 風流。一みやび。すき。風雅。二いかのほり。

をいふ。西國の方言。

ふか 風鈴。鏡に似て、極めて小さく、内に音あるもの。軒などにつり、その舌に、紙片など添へて風にゆらせ、その音を發玩す。風馬。

ふか 風輪草。草の名。さくらぐさにたなじ。

ふか 風韻。風雅なるあぢはひ。

ふか 風笛。一吹きてならす樂器の總名。竹、又は木にて造り、數箇の孔を穿ちて、その一つを吹き、他の孔を、指にて閉閉して、曲節をなすもの。二特に横笛の器。

ふか 風吹。のさぶえの略。

ふか 風鯉。魚の腹の中にある、皮袋の如きもの。これを縮張して、身體の浮沈を自在にす。みづぶくろ。うきぶくろ。

ふか 無射。一陰曆九月の異稱。二十二律の二。

ふか 不得手。一得意ならぬこと。熟練せぬこと。二暗まらぬこと。

ふか 笛吹。一笛を吹く人。二笛の名。やがらにたなじ。

ふか 笛吹蟲。虫の名。いかにたなじ。

ふか 不縁。一縁、類の縁遠きこと。二縁組の、破談にたなじ。

ふか 敷行。たしひろぐるること。のはすこと。

ふか 無鹽。鹽なきに漬ける生魚。

ふか 富家。ゆたかなる家。

ふか 不可。然あるべからぬこと。善からぬこと。

をえういあ こけきか そせすしき こてつらた のわかにた

ふか 府下。府の内。府の管内。

ふか 浮家。船の異名。

ふか 斧柯。斧の柄。

ふか 煮魚。魚の名。一海に獲せ、形、ややむりに似たり。鹽は五分し、尾は分岐す。全身、厚き灰色の皮に包まれ、大なるは、二三丈に及ぶ、種類たはし。鱧。二さめをいふ。大和國の方言。

ふか 不雅。風雅ならぬこと。みやびならぬこと。

ふか 部下。支配した。てた。てか。

ふか 不開港。さかずにたなじ。

ふか 深入。一敵地に、遙かに入り込むこと。二凡て、物事に窮すること。

ふか 不孝。親によく事へぬこと。孝行せぬこと。

ふか 不幸。一ふしあはせにたなじ。二特に、親しき人の死したること。

ふか 扶行。老幼のものを扶け行くこと。

ふか 富豪。富みたる人。かねもち。

ふか 符號。あひじるし。記號。

ふか 負號。數學の語。減ぜらるべき量の前に、その符號をして、しるすもの。即ち一の稱。(正號に對して)

ふか 不學。ふがくの音便。

ふか 不孝鳥。鳥の名。ふくろふにたなじ。「す。」

ふか 不孝魚。鱧の鱗を乾したるもの。對馬國より産す。

ふか 不深中。男女の間の極めて親密なること。

ふか 不覺。心のたしかならぬこと。油断してだしぬかること。

ふか 不學。學力なきこと。

ふか 不學。古、太宰府にたかれたる學校。(郡の大學、諸國の國學に對して)

ふか 舞樂。舞に屬する音樂。

ふか 武學。へいがくにたなじ。

ふか 深靴。底の深きくつ。

ふか 不覺人。不覺なる人。

ふか 不覺。情せまりて、覺えず涙。たこす涙。

ふか 不覺。一ふかすこと。ふかしたる場合。二蒸暑の覺。

ふか 深。俗に、ふかい。一底の方をほし。奥の方はるかはり。二かりそめならすあり。こまやかなり。睡まし。三ふけてあり。更たけたり。

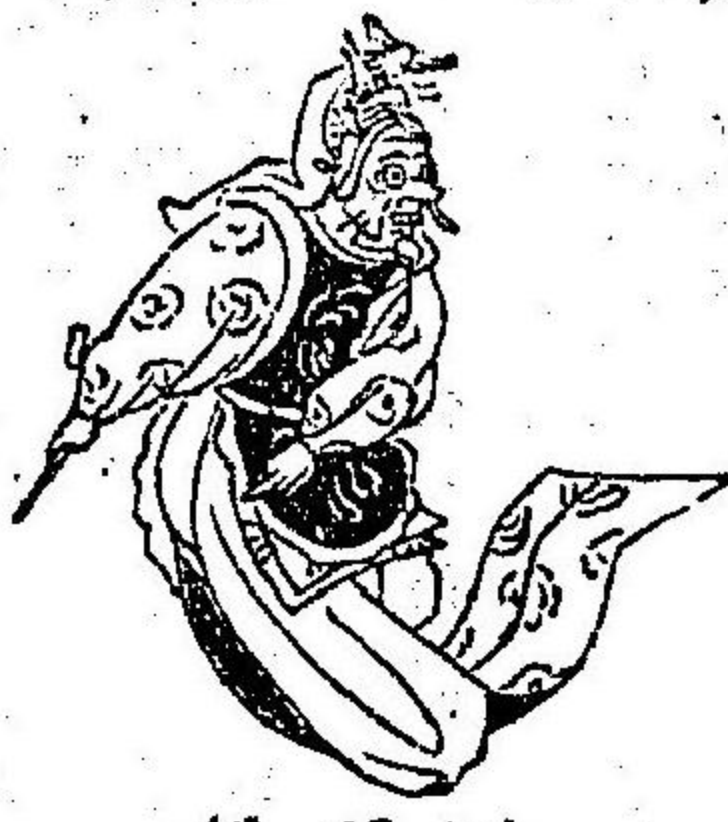
ふか 不覺。ふかしたる陰摩婁。

ふか 不可思議。佛教の語。たもひはかられぬこと。不思議。

ふか 武頭。ものかしらにたなじ。

ふか 蒸。湯氣をこぼして蒸せしむ。むす。

ふか 不深。ふけしむ。更たけしむ。



(くがぶ)

をえわわ るれるりら 1ゆや もめんむみま ほへふひは

ふかせる 附加税。定額の税金の外に、更に臨時に附加して徴収するもの。

ふかせり 深芥。根深き芥。

ふかき 深削。見供五歳になりて、髪を先を揃へて、すこし動む説。

ふかた 深田。荒れかき田。

ふかつ 不恰好。恰好のよからぬこと。形のみにく

ふかつ 石龍芮。草の名。たがらしにたなじ。

ふか 深爪。爪先を深く動み切る。

ふか 深手。深き手負。重きす。たもて。いたて。

ふか 深野。草の深くしげれる野。

ふか のひれ 鱈。鯨の歯をとりて、皮を剥ぎたるもの。形は針の如く、透明にして、光あり。黄なる。白きありて、金す。銀す。支那人は、好みて、食用とする。

ふか 無肺甲斐。俗に、ふかひない。氣性なし。くちなし。つなり。たろかなり。

ふか 符合。一劃符のあふ。二つのもの。

ふか 不恰。家風にあはぬ。

ふか 深處。ふかみの種。

ふか 深處。深きところ。物の底に近きところ。

ふか 深見草。植物。牡丹の異名。

ふか 深線。濃きみどり色。

ふか 深海松。海底にある海松をいふならん。

ふか 深。俗に、ふかめる。ふかくなす。

ふか 不堪。舊に堪能ならんこと。扶の未熟なること。

ふか 不堪田奏。古、九月七日、諸國の損害せる田地を奏問せし公事。それに就きて、租税を軽くたまふなり。

ふか 辛うじて、禍を免れたり。

ふか 不難。衣服の裏を、表にかへして、海の方に、履のこころに縫ひつけたる義。

ふか 不難。つなぎめられたり。

ふか 不軌。罪状を企てること。

ふか 不踏。草の名。葉の形、圓らかに、莖、青し。皮を剥ぎて、食用す。冬の末根に、苞の如きものを生じ、春、花開く。

ふか 不義。一義にそむくこと。二特に、義に於てあるまじき密通。

ふか 武器。戰に用ゐる一切の器。兵器。

ふか 舞妓。まひこ。まひひめ。

ふか 噴上。たまりて、わきあがる。二高く吹き上り。

ふか 吹上。水を吹きあげしむるもの。噴水。

ふか 吹上葉。草の名。菊の一種。葉は、牡丹に似て、やや大なり。花は、白色單瓣にして、十月頃開く。はま。

ふか 吹暴。俗に、ふかあれる。甚しく風吹

のねにな てつらた そせすしき こけくきか たえういあ

ふか 葎板。屋根によく、葎き板。やねいた。

ふか 腐朽。くちる。

ふか 不朽。長く朽ちじびぬこと。長くすたれぬこと。

ふか 吹語。自慢話をすること。

ふか 吹。鍛冶の、火を吹きたすに用ゐる道具。ふいご。

ふか 吹交。風、あなたより吹き、また、こなたから吹く。兜の肩尻の左右に添ひてある、耳の如きもの。耳門。

ふか 葎葎。屋根を葎く料の草。

ふか 葎草。草の名。あやめにたなじ。

ふか 葎草。屋根を葎く料の草。

ふか 吹越。風、高きところを吹きわたる。

ふか 拭掃除。室内、又は調度なまをぬぐひ掃むこと。

ふか 吹類。風、しきりに吹く。

ふか 不規則。規程なきこと。きまりのなきこと。

ふか 吹竹。ひさだけの響。

ふか 吹出。一湧きて出づ。噴出。二たもはす笑ひだす。三種物てきはじむ。

ふか 吹立。俗に、ふかたてる。高く吹きならす。盛んに吹く。二ほらを吹く。詠をいふ。

ふか 吹玉。ひいさるにて造りたる玉。

ふか 不吉。めでたからぬこと。占にて、良らぬこと。

ふか 吹付。俗に、ふきつける。こなたへ吹き来りしむ。ふきよす。

ふか 吹旁。漢字の成、款なきの字の右傍にあつて、ふきよすの取。

ふか 吹出。吹出物の響。

ふか 吹出物。はれもの。てきもの。臍物。

ふか 吹通。風の吹き通すこと。

ふか 吹通。絶えず、風吹くこと。

ふか 吹通。風、此方より、彼方へ吹き貫く。

ふか 吹取。ぬぐひてさる。ふきて掃む。

ふか 吹流。棋の類。長さ、数珠の串を、輪につけて、高く、竿の端へ結びつけたるもの。風にしたがひて長く、後方へ吹き流る。

ふか 吹貫。一ふきよはしたなじ。二精神を著すに、すはたに著物を著たること。

ふか 吹落。露の、露のたたるもの。

ふか 吹落。露より出づる響。

ふか 吹落。ふきのたうの靴。

ふか 吹景天。草の名。いさくさにななじ。

ふか 吹晴。俗に、ふかはれる。風評き響を吹き拂ひて、空晴る。

ふか 吹普及。あまねく行き渡ること。

ふか 吹降。風まじりに、雨ふること。風雨。

ふか 吹乾。風に吹かせて乾かす。

をふわ られるりろ よゆや もわたむみま ほへよひは

吹捲。吹きめぐらす。
吹迷。方向を定めずに吹く。
吹布巾。帛の小さききれ。食器などを拭くに用ゐる。
吹斧斤。をのまさかり。
吹賦金。わりまへの金。配當金。
吹吹物。吹きてならす樂器の總稱。笛などの類。
吹吹矢。串の如く削りて、紙羽をつけたる矢。これを竹の筒に入れて、一方より、息を吹きこみ、物へ射あつ。
吹奉行。一上の命をうけて、その事を司るもの。二言葉にて、種種の職の長。今の局長ほどのもの。「町奉行」「寺社奉行」
吹不行儀。行儀のよからぬこと。品行あつて
吹不行状。身持のあしきこと。
吹不行跡。ふぎやうじやうにたなむ。
吹不興。興味の失するること。面白からぬこと。
吹不器用。巧みならぬこと。うたなきこと。
吹舞曲。まじり、音樂。
吹吹寄。俗に、ふきよせる。風ふきて、一所によせ集む。
吹吹寄。一風の吹きよすること。二種種の物を集め合ふこと。
吹寄簾。一所づつに寄せて巻きたる扇子。
吹不義理。義理の欠けたること。條理にもとること。義理知らず。

吹不器量。器量のなきこと。才能に乏しきこと。二容貌のみにくきこと。
吹吹分。俗に、ふきわけける。一風吹きて、こなたかなたに分ち散らす。二火力を以て、鐵物の中より、混合物を取り去る。
吹吹分。火力を以て、鐵物の中より混合物を除くこと。
吹吹副。一そのもの。鑛物のもの。二正官を助くる佐副官。
吹吹福。ちよはる。
吹吹服。きもの。衣類。一細草などをのせ度敷を示すに用ゐる。二花柄の、紙包にしたるものを敷ふるに用ゐる。三團扇。心からつき従ふ。團扇。一つき従はしむ。二着る。身にづく。三のむ。藥をのむ。
吹吹河豚。魚の名。形はその肥えたる如し。背は、腹の如く膨る。黄ばみたる筋又は斑點あり。腹は、白色にして、終り如く膨る。肥なく、尾細し。味美なれども、また劇毒あり。
吹吹吹。一風、物を動かす。二口より氣息をはき出す。氣息と共に、他の物を吹き出す。三内より、外に出だす。
吹吹吹。五虚言を語る。詐をいふ。
吹吹吹。一風動く。風生ず。二水むきあがる。腹水す。
吹吹吹。ふるにたなむ。
吹吹草。葦、草などにて、屋根をたほひ造る。
吹吹拭。ぬぐふにたなむ。
吹吹深。俗に、ふける。「ふかくなる。たけなはなる。更たく。二年の。齡かたぶく。」

のねにた きてつちた せせすしき こりくきか た大ういあ

吹吹吹。俗に、ふける。「むれて、形かはる。二空舞にさふされ、滑りて勢つたなむ。
吹吹幅。掛物の敷をかきよるに用ゐる。
吹吹不曉。思ひがけぬこと。意外なること。
吹吹不具。一身體、四肢などの、尋常ならぬもの。かたはもの。二凡て、物の調ひそらはぬこと。三書翰の末にしのす。不備。
吹吹河豚。魚の名。よくにたなむ。
吹吹服。一よくにたなむ。二腰服をきて、腰にいたる。
吹吹武具。ぶきにたなむ。「腰の副。
吹吹復健。ほのろ。こころにたなむ。
吹吹復部。かうはしき香にたなむ。
吹吹復役。一役に就つた。二復役を務むること。
吹吹復稿。筆をさらぬ前に、腹の中に、趣向をしるすこと。腹案。
吹吹復除。世の名。ひきかへるの轉。西國の方。
吹吹服忌。おとくにたなむ。「言。
吹吹副議長。議長の補佐をする人。
吹吹服忌令。服忌のしるしに關したる規則。
吹吹履襪。ふくたまたる、襪き。よくたなむ。
吹吹副啓。おひだしたる、おひだしたる。
吹吹復啓。へんじにたなむ。
吹吹復權。法律の調。剽奪せられたる公權を回復すること。

吹吹復古。今の有様を、古の有様にかへすこと。むかしの姿にかへすこと。
吹吹復興。すたれたるをたかすこと。
吹吹復紗。一絹などに作りたる、小さき風呂敷の類。袷包。二茶の湯にて用ゐる、帛製のもの。茶入などの座を拭ひ、また茶碗を、他人より受くる時、その下に敷くに用ゐる。
吹吹復罪。罪に服すること。
吹吹復相。しあはせのよげなる人相。
吹吹復無腹藏。俗に、ふくぢやうなむ。つつみかへすこと。
吹吹復草履。團にて造れる草履の、甚だ太き緒に、白き紙を巻きつけたるもの。
吹吹復紗捌。茶の湯にて、ふくまの取扱ひ方。
吹吹復紗味噌。味噌に味をつけたるものならんこと。
吹吹復副訓。文法上の語。動詞、形容詞、また他の副詞に添ひて、その意義に變化を興へる詞。
吹吹復副使。正使につぎそひて行く使者。そへうかひ。
吹吹復鏡。土を掘るに用ゐる具。鏡の如きものならん。ほくせ。
吹吹復舟。くつがへりたる舟。
吹吹復響。かたきうちになむ。
吹吹復腹心。こころね。心。
吹吹復福人。しあはせよき人。福者。

ををわわ るれるり の よゆや もりなむみま はへふひは

ふんせいの福神漬。大根、茄子などの野菜物を、細く切り、味をつけたる醤油に漬けたるもの。

ふんせいの福着。さかなにたなじ。

ふんせいの福者。しあはせなる人。

ふんせいの福復。一度寫したるものを、また他に寫しかつて復す。

ふんせいの福草。草の名。高さ二三寸、葉は、人參の似たた。春の始め、形、やせ、葉の如き、黄色い花を開く。たは、く、毒殺して、歳首の床の飾に用ひる。元日草。

ふんせいの福職。再び、もとの職に任る。

ふんせいの服飾。なりか

ふんせいの復飾。俗侶の、俗人にかへる。

ふんせいの福白髪。年若くして、白髪を生ゆる。

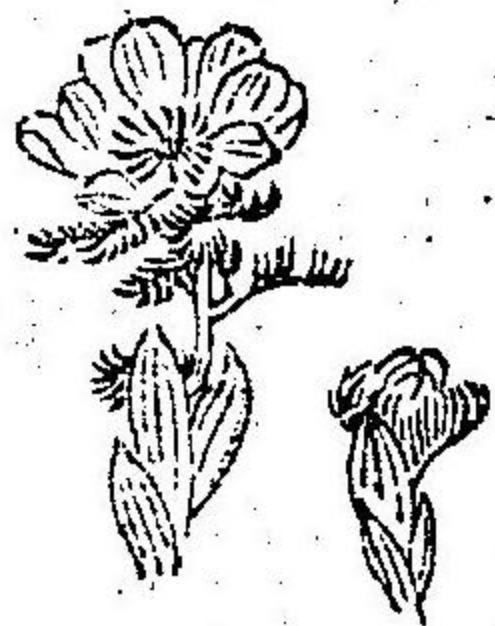
ふんせいの福復。かへる。ももる。

ふんせいの福伏。一負けてしたがふ。

ふんせいの福服。春む。誰を春む。

ふんせいの福復。二つ以上の敷。

ふんせいの福助。丈低く、頭、大なる人、また、その形したる人形。



(うさゆじくふ)

ふんせいの福生果。餅の要名。

ふんせいの福復。養家を去りて、本家に戻る類。

ふんせいの福伏線。その目的にむかひて、ひそかに進みゆへん。

ふんせいの福復。二つならびたる線。

ふんせいの福輻湊。諸方より、一所により集まること。

ふんせいの福復代理人。法律の語。代理人の代理となりて、本人を代表する人。

ふんせいの福復。答ふる。

ふんせいの福復道。上下にかけ渡したる廊下。

ふんせいの福復。ふくげにたなじ。

ふんせいの福多味。腹の肉を、腹を割みて、鹽を、少し加へたるもの。

ふんせいの福蓬起。ほほけたつ。そそけ亂る。けはたつ。

ふんせいの福福地園。さいはひあるところ。

ふんせいの福福茶。煎茶の中へ、黒豆、昆布、梅干など入れて煮たるもの。

ふんせいの福腹中。はらのうち。心のところ。

ふんせいの福不屈。かかまね。

ふんせいの福腹痛。病のために、腹の痛むこと。

ふんせいの福腹食。むさばる心あり。慾ふかし。

ふんせいの福覆轍。一車のかつがへる。

ふんせいの福福田。佛教の語。福田、恩田、悲田の總稱。

ふんせいの福伏弩。弓隊の伏弩。

ふんせいの福河豚。魚の名。ふぐをいふ。

ふんせいの福福徳。しあはせよきこと。

ふんせいの福伏匿。ふしかる。

ふんせいの福復譜。書籍をへりかして讀む。

ふんせいの福福鍋。わか水を煮るに用ひる鍋。

ふんせいの福復日。陰陽家の語。旅立に吉なりといふ日。

ふんせいの福腹背。はらとせなか。

ふんせいの福覆被。たはよ。

ふんせいの福福引。圖をひきて、物を分ち取。

ふんせいの福腹部。一はらの部分。

ふんせいの福福福。富み足りてある。

ふんせいの福福肺。はらにたなじ。

ふんせいの福福福。俗に、ふくふくして。

ふんせいの福福福。水の中へ、氣泡の出る。

ふんせいの福福福。水に分ちて。

ふんせいの福福分。しあはせのよき。

ふんせいの福河豚。魚の名。

ふんせいの福福。草の名。

ふんせいの福伏兵。ふせむ。

ふんせいの福復。はなびらの入重なるもの。

ふんせいの福復没。船などの、へりかして。

ふんせいの福福合。ふくみてあり。

ふんせいの福福服。職務に服せ。

ふんせいの福福合。一は未だ開けず。

ふんせいの福福復命。使者の、返答をもち。

ふんせいの福福復面。一は、面幕をたはひ。

ふんせいの福福覆面。一は、面幕をたはひ。

ふんせいの福福覆面。一は、面幕をたはひ。

ふんせいの福福覆面。一は、面幕をたはひ。

ふんせいの福福覆面。一は、面幕をたはひ。

ふんせいの福福覆面。一は、面幕をたはひ。

ふんせいの福福覆面。一は、面幕をたはひ。

ふんせいの福福覆面。一は、面幕をたはひ。

